

神戸大学 大学院 海事科学研究科

海技教育センター年報 第3号



平成 25・26 年度

神戸大学 大学院 海事科学研究科
海 技 教 育 セ ン タ ー

海技教育センター運営委員

【平成 25 年度】

センター長	矢野 吉治	グローバル輸送科学科 教授・深江丸船長 (平成 24 年 5 月 1 日～10 月 1 日)
	若林 伸和	グローバル輸送科学科 教授 (平成 25 年 10 月 1 日～3 月 31 日)
委 員	内田 誠	マリンエンジニアリング学科 教授 (平成 25 年 10 月 1 日～3 月 31 日)
	矢野 吉治	グローバル輸送科学科 教授・深江丸船長 (平成 25 年 10 月 1 日～3 月 31 日)
	河合 和弥	マリンエンジニアリング学科 講師・深江丸機関長
	古莊 雅生	グローバル輸送科学科 教授
	若林 伸和	グローバル輸送科学科 教授 (平成 25 年 4 月 1 日～10 月 1 日)
	井川 博雅	マリンエンジニアリング学科 准教授
	藤本 昌志	グローバル輸送科学科 准教授
	山下 和雄	グローバル輸送科学科 准教授
	廣野 康平	グローバル輸送科学科 准教授
	世良 亘	グローバル輸送科学科 准教授
	渕 真輝	グローバル輸送科学科 准教授
	長松 隆	グローバル輸送科学科 准教授
	山地 一代	海洋安全システム科学科 講師
	三輪 誠	マリンエンジニアリング学科 講師
	足立 久司	大学院海事科学研究科 事務長

【平成 26 年度】

センター長	若林 伸和	グローバル輸送科学科 教授
	委 員 内田 誠	マリンエンジニアリング学科 教授
委 員	矢野 吉治	グローバル輸送科学科 教授・深江丸船長
	河合 和弥	マリンエンジニアリング学科 講師・深江丸機関長
	古莊 雅生	グローバル輸送科学科 教授
	井川 博雅	マリンエンジニアリング学科 准教授
	藤本 昌志	グローバル輸送科学科 准教授
	山下 和雄	グローバル輸送科学科 准教授
	廣野 康平	グローバル輸送科学科 准教授
	世良 亘	グローバル輸送科学科 准教授
	渕 真輝	グローバル輸送科学科 准教授
	尾下 優子	グローバル輸送科学科 助教
	山地 一代	海洋安全システム科学科 准教授
	三輪 誠	マリンエンジニアリング学科 講師
	足立 久司	大学院海事科学研究科 事務長

巻 頭 言

一昨年（2013 年）の秋、2013 年 10 月より海技教育センター長に就任しました。このセンターは、神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター内規に「センターは、研究科の練習船、実習船及びその他の舟艇並びに海岸設備の管理、これらの教育研究利用に関する運営及び海技に関する教育を行うことを目的とする。」と規定されています。練習船による実習を中心とした海技に関する教育は、神戸商船大学の前身校の時代から続く船舶職員養成の根幹をなすものであり、神戸大学統合後の現在では、商船系の船舶職員養成を担う国内の国立大学法人で 2 つのうちの 1 つの大学である本学として、教育面での一層の充実をはかるための努力を続けています。

現在の練習船深江丸は 2014 年の秋には船齢 27 年を数えるに至り、早期の代替新造が望まれています。これに向けた一つの努力として、この 2 年間には、新造船への一歩である教育関係共同利用拠点の認定に向けた対応をとってきました。共同利用とは文部科学省が進めている政策の一つで、

- ・国公立大学における教育に係る施設については、教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができる。
- ・当該施設が、大学教育の充実に特に資するときは、教育関係共同利用拠点として、文部科学大臣の認定を受けることができる。（学校教育法施行規則第 143 条の 2）
- ・この制度は、大学の機能別分化の促進、大学間ネットワークの構築を進める上で大きな役割を果たすものである。各大学が自らの強みを持つ分野へ取組を集中・強化するとともに、他大学との連携を進めることによって、大学教育全体としてより多様で高度な教育を展開していく上で、本制度の活用が期待される。
- ・例えば、練習船、農場、演習林、留学生関連施設、FD・SD センターなどが教育関係共同利用拠点の対象として想定される。

というものです。深江丸はこのうち練習船の類型で拠点化の申請を行い、平成 26 年 7 月 31 日には教育関係共同利用拠点「グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点」として文部科学大臣より認定を受けました。これにより年間の出動日数も増加しましたが、乗組員をはじめ実施担当者の努力により、共同利用のさらなる充実を図っていきます。教育と並んで重要な使命は研究であることはいまでもありません。海技教育センターでは練習船艇を利用した研究活動も積極的に行うとともに、部局内外の研究者の支援も継続しています。その中で特筆すべきものとして、平成 29 年度に予定されている海事科学研究科の大学院改組においても重点事項の一つである海洋および海洋底関係の観測、調査、開発に関わるテーマを軸とした本学理学研究科との連携があります。平成 26 年 9 月には、これに向けた試行として理学研究科との共同による海底の地磁気計測の航海を実施しました。この他、練習船深江丸では、企業との協力研究も積極的に受け入れて、研究活動の活性化を図っています。

海事科学研究科が神戸大学の中で置かれている位置づけの変化と共に、練習船とそれを取りまく教育研究環境も大きく変化しています。2017 年には創基 100 周年を迎える海技教育と練習船の歴史の中でも大きな変化の時期を経験しています。いましばらくの間、センター長として、この変化に対応すべく海技教育センターの舵取りに努力していく所存ですので、一層のご理解とご支援をお願いします。

平成 27 年 4 月

海技教育センター長
若林 伸和

目 次

巻頭言

第 1 章	附属練習船「深江丸」	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 1 節	主要目	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 節	甲板部関係	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 3 節	機関部関係	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 4 節	教育関係共同利用拠点関係	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 章	実習船「白鷗」	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 1 節	概要	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 節	主要目及び主要装備	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 3 節	整備内容	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 4 節	活動状況	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 3 章	実習船「むこ丸」	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 1 節	概要	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 節	主要目及び主要装備	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 3 節	実験及び整備内容	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 4 節	活動状況	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 4 章	実習船「クライナーベルク」	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 1 節	概要	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 節	主要目及び主要装備	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 3 節	運航	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 4 節	整備	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 5 節	課題	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 5 章	繋船池（ポンド）・実習関係	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 1 節	繋船池（ポンド）関係施設・設備	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 節	実習概要	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 3 節	舟艇	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 4 節	課題	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 6 章	実技業実習室	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 1 節	概要	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 節	実習概要	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 7 章	通信実習室	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 1 節	概要	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 2 節	年間活動状況	・・・・・・・・・・・・・・・・
第 3 節	主な設備	・・・・・・・・・・・・・・・・

第4節	今後の課題	・・・・・・・・・・・・・・・・
第8章	海洋系課外活動	・・・・・・・・・・・・・・・・
第1節	男子端艇（カッター）部	・・・・・・・・・・・・・・・・
第2節	女子端艇（カッター）部	・・・・・・・・・・・・・・・・
第3節	カヌー部	
第3節	オフショアセーリングクラブ	・・・・・・・・・・・・・・・・
第4節	櫓権伝馬船競漕会（海事科学部同好会）	・・・・・・・・・・・・・・・・
第9章	研究航海関係研究一覧	・・・・・・・・・・・・・・・・

巻末

H25 年度	海技教育センター運営委員会議事要旨（第1回～11回）	・
H26 年度	海技教育センター運営委員会議事要旨（第1回～8回）	・・
	附属練習船深江丸共同利用運営協議会議事要旨	・・・・・・・・
	神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規	・・・・・・・・
	附属練習船等使用申請書	・・・・・・・・

＜表紙の写真は防波堤から深江丸を臨んだ風景＞

第 1 章

附属練習船「深江丸」

第1節 主要目



明石海峡航路を東航中の深江丸

【深江丸 主要目】

船舶所有者：神戸大学 使用者：神戸大学大学院海事科学研究科
竣工：昭和 62（1987）年 10 月 造船所：三井造船株式会社 玉野事業所
全長：49.96m 全幅：10.00m 喫水：3.21m
総トン数：449 トン 国際総トン数：674 トン
航行区域：近海区域（非国際）GMDSS A2 水域（陸岸から 150 海里以内の海域）
最大搭載人員：64 名（船長、機関長、士官 4、部員 6、教員 4、学生 48）
主機関：4 サイクル ディーゼル機関
 1,100kW（1,500 馬力；常用約 1,200 馬力）× 1 基
推進器：4 翼可変ピッチ・スキュー プロペラ（直径 2.100m）× 1 基
横移動装置：バウ・スラスト 及び スタン・スラスト 各 1 基
航海速力：12.5 ノット（時速 23km） 航続距離：3,000 海里（5,500km）

第2節 甲板部関係

1. はじめに

平成 26（2014）年 10 月で深江丸は就航 27 年を迎えた。国土交通大臣の指定する登録船舶職員養成施設である神戸大学の海事科学研究科附属練習船として、その本務である学部学生の実習、教育、訓練に加えて、調査研究施設として研究科内外の教員や学生、その他の研究者による調査、研究、実験、観測活動などを年間運航計画に基づいて計画的に、あるいは随時活用される。さらに、学内外の様々な機関や団体などと連携して、小中学生や高校生、他学部や他大学の学生、一般社会人、海事関連企業や団体などを対象にした港や海と船、海運と物流などに関連した様々な体験学習、海事体験プログラム、公開講座の他、企業研修などを受け入れ、目的に応じて特色のあるプログラムを提供しながら人間・社会教育の場としての新たな活用法を模索する。平成 26 年度には文部科学省への教育共同利用拠点化申請が認められて他大学等の教育共同利用が始まり、深江丸の学外利用の頻度が格段に増加しつつある。

深江丸の主たる行動海域は内外の大小多数の船舶や小型漁船等が昼夜を問わず輻輳する瀬戸内海であり、さらにこの海域は海上衝突予防法や海上交通安全法等の海上交通法規の様々な条項や規定が重複しながら密に集約される海域でもある。深江丸を各種の目的で安全に運航するにあたり片時も気を抜くことのできない水域ではあるが、このような環境の中で場面ごとに様々な体験をしながら実習に取り組む個々の学生にとっては座学で身につけた知識やこれまでに培った経験と技術を実証し検分するには格好の場であり、さらに、実習以外の目的で乗船した様々な分野の一般者にとっては普段の常識を覆すような新たな発見の場でもある。深江丸を活用した各種の航海を効果的に展開する上で、港湾都市を間近にする大阪湾や瀬戸内海は比類無き最適の場といえる。

海事教育や実習訓練の他、調査、研究活動を主たる使命とする深江丸にとって、それなりの成果を得るために、また、学生を含む個々の乗船者に数々の貴重な体験の場を提供し、海や船、港を媒体として更なる見聞を深めていただくためには複数日にわたる航海は必須であり、学外泊を伴う短期間の航海を実施する。

同時に、深江丸では SMS（Safety Management System：安全管理システム）に則って、船の安全と乗船者の安全を確保しながら、個々の航海の成就と運航内容の充実を図る。

次に平成 25 年度及び 26 年度における深江丸運航の概要と関連事項を示す。

2. 運航の概要

2. 1 学内船舶実習、学内船実習、実験

学内船舶実習と学内船実習及び実験は次の通り。

【25 年度】

- ・ 4N 学内船舶実習、4E 学内船舶実習、3L 学内船舶実習、3M 学内船舶実習：3 泊 4 日
- ・ 3N 学内船舶実習（前期・後期）：2 泊 3 日
- ・ 3P 学内船実習（三級水先人養成コース）：通算 30 日
- ・ 3N 航海学実験 2、3N 航海学実験 3、3L 海上輸送システム学実験：半日
- ・ 海事科学船上セミナー

【26 年度】

平成 26 年度に新カリキュラム 2 年生の学内船舶実習がスタートし、新旧カリキュラムの混在で学内船舶実習の機会が増えた。逆に、大学院博士前期課程 3 級水先人養成コースの学内船実習が水先教育制度の変更に伴い廃止された。

- ・ 4N 学内船舶実習、4E 学内船舶実習、3L 学内船舶実習、3M 学内船舶実習：3泊4日
- ・ 3N 学内船舶実習（前期・後期）：2泊3日
- ・ 学内船舶実習 1 (2M)：1泊2日
- ・ 学内船舶実習 1 (2N)：2泊3日
- ・ 3N 航海学実験 2、3N 航海学実験 3、3L 海上輸送システム学実験：半日

行動海域や実習、実験の内容は、学年、学科、分野等により特色あるものとする。船橋当直関連では乗組員による厳格、適切な監督指導の下、責任ある立場を個々に体験させることにより、座学やシミュレーションでは充足できない、場面ごとに必要とされる船舶運航の実務と知識を体得させる。機関当直関連では主機関や補機関の保守運転管理技術とともに各種機器類の発停と計測等を通じて搭載機器の機能と役割を理解させることにより、実際に稼動している機関プラントの総合的な運用及び管理に関する知識と技術の習得を図る。あわせて航海と停泊、団体生活や上陸など、乗船期間を通じてリーダーシップやチームワークの重要性を理解させ、慣海性や協調性などの資質を涵養する。

平成 26 年度からの新カリキュラムでは、学内船舶実習 1 (2M)を 1 泊 2 日で、学内船舶実習 1 (2N)を 2 泊 3 日で従来の学内船舶実習に加えて展開した。

学生の略号は次の通り。

- 〈旧カリ〉 4N：海事技術マネジメント学科 航海分野 4 年
 4E：海事技術マネジメント学科 機関分野 4 年
 3N：海事技術マネジメント学科 航海分野 3 年
 3L：海洋ロジスティクス科学科 3 年
 3M：マリンエンジニアリング学科 3 年
 3P：大学院博士前期課程 3 級水先人養成コース
- 〈新カリ〉 2M：マリンエンジニアリング学科 2 年
 2N：グローバル輸送科学科 航海マネジメントコース 2 年

（1）3N 学内船舶実習 〈前期・後期〉（2泊3日）

3N の学生を対象に 1 組と 2 組に分けて前後期に各 1 回の実習を行う。3N 前期では船内設備調査を実習のメインテーマとし、船内オリエンテーリングプログラムに従い船体、機関、船内諸設備や属具などを調査させ、また、海事法規や海上交通法規についての理解を深めさせる。3N 後期の実習は浮標離達着操船実習をメインテーマとする。なお、この実習では船橋当直と機関当直双方の実習を並行して実施する。1 泊目を大阪湾または瀬戸内海東部海域に錨泊、2 泊目を高松入港とする。

（2）4N 学内船舶実習 〈前期〉（3泊4日）

4N の学生を対象に 1 組と 2 組に分けて実習を行う。実習第 1 日に小豆島池田湾において揚投錨操船実習を行うことにより、深江丸の速力逓減法や増速法、錨の使用に関連する錨の準備や格納等の技術の習得と船舶運航の基本として要求されるリーダーシップやチームワークの重要性を再認識させる。また、班ごとに研究課題として提示した航海区間の航海計画について立案と発表を行わせ、その後の航海を通じて明石海峡や備讃瀬戸さらには来島海峡等の船舶交通の輻輳とともに自然環境の厳しい瀬戸内海における船舶の総合的な運用実務知識と技術の習得を図る。機関運転管理に係る実習を展開する。

（3）4E 学内船舶実習 〈前期〉（3泊4日）

4E の学生を対象に 1 組と 2 組に分けて実習を行う。研究科ポンド係留中の深江丸におい

て、事前に主機関や補機関の発停や取り扱い等の機関運転管理に係る一連の実習を修了した後、実習の総まとめとして4日間の航海実習を実施する。機関プラントの総合管理や運転技術習得の他、当直実習を通じて責任ある立場を個々に経験させることにより総合的な運航実務知識を習得させる。船橋当直実習をあわせて行う。

（4）3L 学内船舶実習〈後期〉（3泊4日）

3Lの学生を対象に1組と2組に分けて実習を行う。実習・実験担当教員の指導の下、予め用意した各種の実験テーマに基づき実習期間を通じて実験と計測や調査を行い、実船の現場でなければならない実習や実験を展開する。平成26年度をもって廃止となる。

（5）3M 学内船舶実習〈後期〉（3泊4日）

3Mの学生を対象に1組と2組に分けて実習を行う。船舶運航の概要を理解させ、船内共同生活等を通じて協調性やチームワーク、慣海性等を涵養する。実習の進展状況や学生の理解度等を勘案しながら実習内容に柔軟性をもたせる。平成26年度をもって廃止となる。

（6）3P 学内船実習（通算30日）

大学院博士前期課程3級水先人養成カリキュラムの一環で学内船実習を実施する。大阪湾全域とその周辺海域及び後期の学内船舶実習の機会に瀬戸内海において同時展開する。平成25年度をもって廃止となる。

（7）海事科学船上セミナー〈前期〉（4日）

航海訓練所の大型練習船による船舶実習1を履修できない学生を対象に開講する。25年度は学生の個人的な事情によりポンド停泊中に4日間、授業形式で実施した。26年度は該当学生がなく実施せず。

（8）学内船舶実習1（2M）〈前期〉（1泊2日）

新カリキュラム2Mの学生を対象に3組に分けて実習を行う。学内練習船による初めての实習であり、初期導入として安全教育を徹底しながら船舶運航の概要や船内設備、機関プラント等を理解させるとともに船内共同生活等を通じて協調性やチームワーク、慣海性等を涵養する。平成26年度から当該実習を開始した。

（9）学内船舶実習1（2N）〈後期〉（2泊3日）

新カリキュラム2Nの学生を対象に1組と2組に分けて実習を行う。学内練習船による初めての实習であり、初期導入として安全教育を徹底しながら船舶運航の概要や船内設備、機関プラント等を理解させるとともに船内共同生活等を通じて協調性やチームワーク、慣海性等を涵養する。平成26年度から当該実習を開始した。

（10）3N 航海学実験2及び3N 航海学実験3

3Nの学生を対象に実験2では海事科学研究科ポンド専用岸壁係留中の深江丸船内において、船に搭載する各種の航海計器を用いた実験を実施し、また、実験3では大阪湾北部の海域において船舶の操縦性能評価試験のひとつであるZ操縦試験を実施する。

（11）3L 海上輸送システム学実験

3Lの学生を対象に大阪湾北部の海域において各種の航海計器を用いた実験を実施し、あわせて船舶運航実務の理解を図る。

次に学内船舶実習に係る学級指導教員の感想を記す。

《学内船舶実習に係る学級指導教員の感想》

① 学級指導教員 世良 亘（3N）

海事技術マネジメント学科（航海分野）3年生の学内船舶実習は、前期は1組が平成26年

5月13日から15日、2組が20日から22日に、後期は1組が平成27年2月26日から28日、2組が3月3日から5日に実施されました。

前期は船内設備調査を中心に航海当直、機関当直、操練、心肺蘇生法等多くの課題をこなし、学生たちは非常に忙しいながらも充実した日程を過ごしました。学生にとって既に航海訓練所での実習や各種講義で学んでいるはずでのことも、いざ自分で実物を調べそれを説明するという作業はかなりの困難であり、理解を深めるのにとっても役に立ったと思います。航海は、一日目が深江発坂出沖錨泊、二日目が高松着岸、三日目が深江帰港でした。

後期は浮標離達着操船実習において船長役等を務め、実際の操船の難しさや英語でのコミュニケーションの不備を痛感しているようでした。前の学生と同じ間違いを繰り返すような場面も散見されましたが、自分が責任者として判断し指示を出して実物の船を動かす経験は、学生にとって自信を深めることができたのではないかと思います。航海は、一日目が深江発で大阪湾北部において離達着実習の後に錨泊、二日目が高松着岸、三日目が深江帰港でした。

前後期ともに明石海峡及び備讃瀬戸という国内有数の船舶輻輳海域を航行し、緊張感や恐怖感も味わいながら、教室やシミュレータでは体験できない生きた教育が行われており、非常に恵まれた環境でありました。学生はこれらの経験を普段の授業や次の4年生での実習に繋げ、自身の研鑽と発展に努めてほしいと思います。また、忙しいプログラムの中に学生との個人面談の時間も取っていただき、指導教員として進路・生活指導も行うことができましたこと、本当にありがとうございました。最後に、船長・機関長をはじめ、今回の実習を安全に行うためにご協力いただいた深江丸の乗組員および教員ならびに関係者の皆様に心から感謝いたします。

② 実習担当教員 矢野 吉治 (4N)

学級指導教員が所用で2航海とも乗船できなかったことから単位認定教員として平成26年度についての感想を述べる。平成26年6月10日(火)から13日(金)に1組を、また、6月17日(火)から20日(金)に2組の4N学内船舶実習を実施した。いずれの航海も実習初日に小豆島の池田湾において揚投錨操船実習を14時～18時の間展開し、第2日目からは瀬戸内海の航路を東西に航行し、主要通過地点では航路見学・説明を交えながら予定通り松山と高松に寄港、第4日目に帰学した。

4年航海分野学生の深江丸による実習はこれが最後であり、班ごとに提示した航海計画の課題は、錨泊後あるいは松山または高松入港後に発表会を開催して行動計画を全学生に周知する等、実習全般を通じて個々、あるいはチームとして真摯に取り組む様子が場面ごとにうかがえた。また、「さすが4年生」といった情景が多々見受けられ、少しのサポートで、あとは不安なく様々な事柄を任せることができた。3N前・後期の各3日間の計6日と、この4日の計10日間に及ぶ必須2単位の学内船舶実習であったが、傷病や怪我その他のトラブルで中途下船する学生も皆無で、所期の目標を達成し全員無事修了できたことは幸いであり、同時に大きな喜びであった。

③ 学級指導教員 岡村 秀雄 (4E)

2014年5月27日から30日(1組)、6月3日から6日(2組)、学内船舶実習が実施された。機関分野の学生たちは航海訓練所の練習船で既に3ヶ月にわたる船舶実習を経験しているが、深江丸での学内船舶実習は初めてのことであり、機関長によって学生の学びに適切な実習プログラムが事前学習を含めて綿密に組み立てられていた。

実習内容はかなり盛りたくさんで、課題をこなすのに苦労している学生も見受けられたが、

学年を超えて協力して解決しようとする姿は明日の船員の姿と映った。担任は自習の間に学生と個別の面談を行い、修学および進路状況について確認し、必要な指導を行った。すでに就職の内々定を得た学生、返事待ちの学生、まだ行動を起こしていない学生などそれぞれであった。2015年度からは、内々定が8月1日以降となるので、この時期の船舶実習には良い効果をもたらすかも知れない。短い間であっても、船内で寝食を共にした上で面談することは、深江キャンパス内で行う場合よりも学生との距離が近く、効果が高かったと感じた。船内での実習はもとより、松山三津浜港入港、高松港入港後の散歩上陸では、学生達は日頃のキャンパス内とは違った雰囲気でも過ごし、互いの個性を良く理解することができた有意義な4日間であった。機関分野担任として5年ぶりに乗船したが、改組によって乗船実習のない新学科に異動となったため、機関分野担任としての乗船はこれが最後となった。最後に、全員が無事に所期の効果をあげて本実習を終えることができたのは矢野船長、河合機関長、小原司厨長はじめ、すべての乗組員の皆様のご指導のおかげと、厚く御礼申し上げます。

④ 実習担当教員 秋田 直也 (3L)

3L学内船舶実習は、3泊4日で、1組が10月14日～17日、2組が10月21日～24日に実施され、履修者は、1組25名、2組24名の計49名であった。

1組では、台風19号の影響が心配されたが、台風一過、4日間ずっと天候に恵まれた穏やかな航海となった。前日の13日夕に、JR西日本が京阪神地区の在来線全線を運休したため、集合時刻に遅れる学生を心配したが徒労に終わり、予定通りスケジュールが実施された。私が乗船した2組では、2日目に雨が降り、来島海峡航路の見学がブリッジからとなったことが残念であったが、あとの3日間は天候に恵まれた航海であった。航海中は、主として、航海当直、機関当直のほかに、学科教員による課題に取り組んだ。また、担任による学生面談も実施した。このような多忙な実習スケジュールであったが、学生は、決められた時間を守ることを意識し、自分で考えて行動していた。これにより、実習が円滑に実施できたことを、本当にうれしく思う。さらに、学生は、限られた時間を有効に活用していたと思う。とりわけ、昼間の休憩時間のみならず、夜遅くまで、熱心に課題に取り組む学生が多数いたことは驚きであった。また、学生同士が互いにサポートし合う姿や、船長、機関長、司厨長、深江丸乗組員、学科教員と、歓談している姿も多くみられた。この学内船舶実習を通じて、学生は多くのことを感じ、学んだのではないだろうか。有意義な4日間であったと思う。

3L学内船舶実習の実施は、カリキュラム改正により今回で最後となる。担当した9年の間、1年生の時に1カ月間の乗船経験があるとはいえ、ここでは紹介しきれない色々な出来事(?)があった。最後まで、何かあるのではとずっと心配していたが、寂しく感じられる程、何事もなく最後を締めくくることができた。振り返ってみると、乗船実習を通じて、非乗船系の学生のモチベーションを高められるプログラムや指導方法などをずっと模索し続けた9年間だった。その答えが出ないまま終了することは残念だが、内心、これまで大過なく無事に終了することができてほっとしている。「なぜ、3L学内船舶実習をなくすのか。」という実習経験者からの声を、心からうれしく思う。最後になりますが、これまで3L学内船舶実習を支えてくださった、船長、機関長、深江丸乗組員をはじめ、課題をご担当いただいた学科教員の皆様に、深く御礼申し上げます。

⑤ 学級指導教員 梅田 民樹 (3M)

マリンエンジニアリング学科3年生の学内船舶実習は、平成26年11月4日～11月7日

と 11 月 11 日～11 月 14 日までの 2 組に分けて実施された。このうち、後者の組（学生 34 名）に学級指導教員として同行した。

幸い天候にも恵まれ、2 日目、3 日目の寄港地での散策を含め、快適な実習を過ごさせてもらいました。また、実習の合間を縫って行われた学生個別面談では、普段話すことの少ない学生と進路のことなどゆっくり話をすることができた。高松での上陸中に行われた株式会社マキタの工場見学も学生にとって良い体験になったと思う。学級指導教員は、学生個別面談以外には特に担当する課題が無かったため、甲板等で学生の実習を一部見学させていただいたが、朝の総員起こしから始まり、実習、食事、上陸後の帰船まで、時間前にきちんと集合し、チームを組んでてきぱきと行動する姿に感心した。普段の私の授業では見られない光景である。学生にとってこの実習は、単に船舶について知るだけでない、貴重な体験を行い互いの結束を強める良い機会になっていると思う。このような素晴らしい実習を指導して下さった矢野船長、河合機関長はじめ、深江丸乗組員の皆様、担当教員の皆様、TA の皆様に深く御礼申し上げます。

⑥ 学級指導教員 山本 茂広 (2M)

マリンエンジニアリング学科 2 年生 80 名に対して学内船舶実習 1 の前半が平成 26 年 9 月下旬に実施された（後半は 3 年生で実施される）。実習は学生を 3 組に分けて行われ、1 組には福岡先生が、2 組と 3 組には山本が同行した。

本年度の学生は学科改組に伴うカリキュラム改正後の最初の学生であり、旧カリキュラムのように 1 年次に船舶実習を受けていないため、船に長時間乗るのが初めてという学生が大多数であった。行程は小豆島沖で錨泊の一泊二日、天候には非常に恵まれほぼ快晴で、明石海峡大橋も青空に映えていた。学生にとってもいい思い出になったと思う。実習内容に関しては、乗船関係の初めての实習ということもあり、船に慣れることと、船舶運航や船用機関の基礎的な知識の習得を目的としていると認識しているが、学生は概ねはじめに実習に取り組んでいたと思う。空いた時間では学生との面談時間もってもらい、進路の希望等をきくことができ有意義であった。海が穏やかであったこともあり、軽い船酔いを訴える学生もあったものの、特に大きく体調を崩す学生もなく無事に実習を終えられ、学生にとって最初の船舶実習として成功だったと思う。ただ、本年度は 9 月の実施であったので、他の授業に影響がないのでよかったが、次年度以降は授業期間中の実施となり、3 組の実習が同じ曜日に行われるなら、3 週にわたって他の授業科目に影響が出る。この点は課題であると思う。最後に、実習に当たり深江丸の関係の皆様には大変お世話になりました。御礼申し上げます。

⑦ 学級指導教員 渕 真輝 (2N)

グローバル輸送科学科航海マネジメントコースとなり初めての学内船舶実習 1 が、平成 27 年 2 月 17 日（火）～ 2 月 19 日（木）[1 組] および平成 27 年 2 月 21 日（土）～ 2 月 23 日（月）[2 組] に行われました。1 組については学生 22 名（内女子学生 5）、2 組については学生 21 名（内女子学生 0）が深江丸に乗船しました。（独）航海訓練所に委託して実施される 1 ヶ月間の船舶実習 1 が本来 2 年生の夏休み期間を利用して行われるものの、先方の都合により本年度に限り 3 月に行われることになったため、学生にとっては初めての船舶に乗船しての実習となりました。

これまで深江丸による学内船舶実習 I は、1 ヶ月の船舶実習の経験をベースに行われていましたが、初めての学生を対象としたプログラムを少し修正し実施されました。指導にあられた乗組員のみなさまも少し手間取ったのではないかと推察します。一方、学生は初めて

のことに積極的に取り組んでいました。両組ともに初日は少し時化に会いましたが、それも良い経験になり、日本丸での船舶実習の臨む態度も変わったかと思量します。学級指導教員として乗船しましたが、一方で次席一等航海士としての仕事もあり、学生面談は予め策定されたスケジュール通りに進めることはできませんでした。学生の皆さんには船上での臨機応変を感じてくれていると思います。

最後に、実習環境を準備、遂行していただいた深江丸の乗組員の皆様のご尽力に心より感謝の意を表します。

2. 2 研究航海

夏季と春季に8～9日間程度、研究専用の航海を実施する。学内外の研究者や学生の研究目的により行動海域を設定し、個々の研究テーマに沿った実験や計測、観測活動等を展開する。他大学や研究機関、共同研究企業などからも乗船者を受け入れる。

平成25年度及び26年度の実施状況は次のとおり。

【25年度】

- ① 夏期（8泊9日）：寄港地；高松港・宮崎港〈乗船者43人〉

（台風16号の接近により周防大島小松港を抜港）

往路：神戸～高松～小部湾錨泊～周防灘錨泊～宮崎港外錨泊～宮崎

復路：宮崎～日向灘～豊後水道～速吸瀬戸～伊予灘～瀬戸内海～大阪湾～神戸

《復路：台風17号の接近により四国南岸～紀伊水道を瀬戸内海に変更》

- ② 春季（7泊8日）：寄港地；関門港門司区・高松港〈乗船者40人〉

神戸～大阪湾・関西空港沖～四国南岸～豊後水道～速吸瀬戸～周防灘

～関門港門司区

関門港門司区～周防灘～瀬戸内海～高松～播磨灘～明石海峡～大阪湾～神戸

【26年度】

- ① 夏期（7泊8日）：寄港地；鹿児島港〈乗船者37人〉

神戸～大阪湾～紀伊水道～四国南岸～日向灘～九州南岸～鹿児島港

鹿児島港～九州南岸～日向灘～豊後水道～速吸瀬戸～瀬戸内海～大阪湾

- ② 春季（8泊9日）：寄港地；博多港〈乗船者29人〉

神戸～明石海峡～播磨灘～備讃瀬戸～備後灘～燧（ひうち）灘～来島海峡

～安芸灘～伊予灘～周防灘～関門海峡～玄界灘～博多

博多～玄界灘～関門海峡～周防灘～速吸瀬戸～豊後水道～四国南岸～紀伊水道

～大阪湾～神戸

2. 3 公開講座

夏休みの期間中、高校生以上の一般を対象に開講する。講座のテーマと内容、寄港地については毎回変化をもたせる。船橋及び機関当直の体験と船内講義、付随して実践的な操練（退船時や火災発生時の訓練）や心肺蘇生法とAED（自動体外式除細動器）の取り扱い実習などを行う。また、通航する海域ごとに航路見学を行い、船や海運、港の機能などについての総合理解を図る。深江丸という移動教室ならではの特色ある、参加者の印象に残る航海を目指す。平成22年度から2年に1回の開講となった。

【25年度】 開講せず

【26年度】 「船で巡る瀬戸内海スケッチ旅行ー美術と食を通じて物流を考えるー」

2. 4 体験型海洋セミナー、体験学習、海事体験プログラム

（1）体験型海洋セミナー

海事科学研究科の教員で構成する「海洋セミナー実行委員会」の企画により、夏休みの期間中、近隣の小学5・6年生を対象にセミナーを実施する。テーマは「船の科学」を題材とし、船内での講話や実験などを通じて、物理と科学、海洋と海運、自然現象や天文現象などに関して、比較的早い時期の青少年に科学的興味を喚起し、海や船に親しむ純粋な心を育むとともに環境保全意識の向上を図る。さらに、船内での集団行動や共同生活を通じて、チームワークやリーダーシップ、自己完結性、他への思いやりの心や人に迷惑をかけない気持ちなどを、船という規律の厳しい環境下で徹底する。なお、この企画は毎年厳しい財政事情にあり、本研究科の有志教員と学生による手作りのセミナーとすることで経費の節約を図る。また、研究科に支援を仰ぐとともに、日本船舶海洋工学会関西支部と海事科学振興財団から財政支援をいただく。

平成25年度及び26年度の実施状況は次のとおり。

【25年度】「海と船に親しむ」 8月24日（土）～25日（日）〈1泊2日〉46人

【26年度】「海と船に親しむ」 8月23日（土）～24日（日）〈1泊2日〉44人

（2）体験学習、海事体験イベント

海と船、海運と物流、さらには港湾の重要性などについて一般者へのさらなる啓発を図るために様々な依頼と企画に参画して船上体験プログラムを展開する。

平成25年度及び26年度の実施状況は次のとおり。

【25年度】

- | | |
|------------------------|-----------------|
| ① 深江祭 体験航海（3航海） | 〈1日：5月〉乗船者：638人 |
| ② 神戸大学部局長会議運航視察 | 〈1日：7月〉乗船者：48人 |
| ③ 関西小型船安全協会 「海と船の体験教室」 | 〈1日：7月〉乗船者：52人 |
| ④ 近畿内航船員対策協議会中学生セミナー | 〈1日：8月〉乗船者：38人 |
| ⑤ オープンキャンパス | 〈1日：8月〉乗船者：91人 |
| ⑥ 関西小型船安全協会 「海と船の体験教室」 | 〈1日：3月〉乗船者：33人 |

【26年度】

- | | |
|------------------------|-----------------|
| ① 深江祭 体験航海（3航海） | 〈1日：5月〉乗船者：669人 |
| ② 関西小型船安全協会 「海と船の体験教室」 | 〈1日：7月〉乗船者：66人 |
| ③ 近畿内航船員対策協議会高校生セミナー | 〈1日：8月〉乗船者：33人 |
| ④ オープンキャンパス | 〈1日：8月〉乗船者：105人 |
| ⑤ 関西地区工学部長会議・運航視察 | 〈1日：9月〉乗船者：22人 |
| ⑥ 工学部長理事会理事会・運航視察 | 〈1日：12月〉乗船者：22人 |

2. 5 各種実験、調査及び研究

平成25年度及び26年度の実施状況は次のとおり。

【25年度】

- ① 低摩擦型船底防汚塗料の評価試験（播磨灘における速力試験）〈通年〉

【26年度】

- ① 低摩擦型船底防汚塗料の評価試験（播磨灘における速力試験）〈通年〉
- ② DPS（Dynamic Positioning System）開発実験〈5日；7月・1月・2月〉

③ 海底観測ロボット SOTAB-I ・水中グライダーTonai60 実用化実験 <3日：7月>

2. 6 神戸大学の授業、他大学の船舶研修、教育共同利用（平成 26 年度～）

船舶や海洋などの海事に関連する講義や実験、ゼミ等を開講して教育と研究を行うが、船舶を持ち合わせない他の研究科や学部、他大学にとっては深江丸の存在価値が高く、普段の学生生活では体験することのできない様々な洋上研修・教育プログラムや練習船施設を活用した各種のプログラムを提供する。平成 26 年度から教育共同利用拠点化に伴う共用を開始した。

平成 25 年度及び 26 年度の実施状況は次のとおり。

【25 年度】

- ① 全学共通科目「瀬戸内海学入門」海洋調査 <1日：6月> 乗船者：48人
- ② 中京大学心理学部 船舶研修 <2日：7月> 乗船者：41人
- ③ 全学共通科目 教養原論 「海への誘い」 <2日×2航海：9月> 乗船者：88人
- ④ 大阪府立大学工学部海洋システム工学科 船舶研修 <2日：11月> 乗船者：36人

【26 年度】

- ① 神戸大学自然科学系洋上ワークショップ <4月期・1泊2日> 乗船者：21人
- ② 川崎医療福祉大学（便乗） <5月期・1泊2日> 便乗者：2人
- ③ 兵庫県立大学 <5月期・1日：運航日数2日> 乗船者：13人
- ④ 大阪大学 <5月期・1日> 乗船者：13人
- ⑤ 大阪国際大学 <5月期・1日> 乗船者：9人
- ⑥ 中京大学 <6月期・1泊2日> 乗船者：43人
- ⑦ 全学共通科目「瀬戸内海学入門」海洋観測 <7月期・1日> 乗船者：43人
- ⑧ 大阪大学 <7月期・1日> 乗船者：24人
- ⑨ 京都工芸繊維大学 <8月期・1日> 乗船者：21人
- ⑩ 帝塚山大学 <8月期・1泊2日> 乗船者：29人
- ⑪ 全学共通科目「海への誘い」 <9月期・1泊2日×2航海> 乗船者：77人
- ⑫ 理学研究科海洋調査・人材育成プログラム <9月期・1泊2日> 乗船者：10人
- ⑬ 甲南大学 <9月期・1泊2日> 乗船者：15人
- ⑭ 神戸学院大学 <9月期・1泊2日> 乗船者：20人
- ⑮ 内海域環境教育センター・海洋観測 <9月期・1日> 乗船者：8人
- ⑯ 和歌山大学 <10月期・1泊2日：運航日数4日> 乗船者：19人
- ⑰ 神戸女学院大学 <11月期・1日> 乗船者：18人
- ⑱ 神戸女学院大学 <11月期・1日> 乗船者：18人
- ⑲ 関西大学 <11月期・1日> 乗船者：8人
- ⑳ 関西大学 <12月期・1日> 乗船者：10人
- ㉑ 大阪府立大学 <12月期・1泊2日> 乗船者：35人
- ㉒ 明石工業高等専門学校 <2015年3月期・1日> 乗船者：8人

2. 7 社会人研修（船舶・物流研修）

海事関連企業や団体等からの依頼による船舶・物流研修を実施する。

平成 25 年度及び 26 年度の実施状況は次のとおり。

【25 年度】：2 社・2 団体

- ① 外航海運企業 <2日：4月> 乗船者：27人

- ② 港務通信企業 <8日：6月> (4N 学内船舶実習×2 航海に便乗) 乗船者：16 人
- ③ 船用機器製造団体 <2日：6月> 乗船者：34 人
- ④ 船用機器製造団体 <2日：10月> 乗船者：34 人

【26 年度】：3 社・2 団体

- ① 外航海運企業 <2日：4月> 乗船者：32 人
- ② 港務通信企業 <8日：6月> (4N 学内船舶実習×1 航海に便乗) 乗船者：8 人
- ③ 船用機器製造団体 <2日：6月> 乗船者：34 人
- ④ 船用機器製造団体 <2日：10月> 乗船者：34 人
- ⑤ 船用機器製造企業 <2日：11月> 乗船者：17 人

3. 共同研究、受託研究

平成 25 年度及び 26 年度に深江丸を活用した共同研究、受託研究は次のとおり。

【25 年度】

- ① 低摩擦型船底防汚塗料の性能評価試験（受託研究）

【26 年度】

- ① 重金属フリー新型船底防汚塗料の性能評価試験（受託研究）
- ② DP（ダイナミック・ポジショニング）システム開発実験（共同研究）
- ③ 波浪観測レーダー開発実験（共同研究）

4. 海事の啓発活動

海事に関する社会一般の関心を高めるため、各種の実習や研究航海、依頼航海等の入港時において希望あるごとに船内を公開し見学者を受け入れる。また、研究科専用岸壁係留中に海事博物館などと連携して各種団体や個人を対象に随時船内を公開し、船や海への関心を高め理解を深めていただく。専用岸壁において年間 7～800 人程度の見学者がある。

5. 航行資格の変更と旅客定員の確保

国土交通省令「船舶安全法」では日本船舶の航行区域を「遠洋区域」、「近海区域」、「沿海区域」、「平水区域」の 4 区域と定める。深江丸は上記のうちの「近海区域」であり、東経 94 度～東経 175 度、南緯 11 度～北緯 63 度の線で囲まれた海域がこれに該当する。

平成 11（1999）年 2 月 1 日、GMDSS [Global Maritime Distress and Safety System] と呼ばれる、従来の SOS に代表されるモールス信号を主体とした海上遭難通信システムから、海事衛星と衛星 EPIRB、双方向無線電話やレーダートランスポンダ等を活用した遭難安全通信システムが国際的に完備され、深江丸の物的設備では上記の「近海区域」の航行は不可能になった。これにより、陸岸に沿って連続する離岸距離 150 海里（約 278 km）以内の水域：「A2 水域」に航行が限定された。※ 1 海里＝1.852 km（緯度 1 分の長さ）

各種依頼等で本学の学生や教職員以外の一般者が乗船する場合は臨時的に旅客定員を確保する。また、依頼の状況により最大搭載人員 64 名を超える乗船者がある場合には航行資格を変更すると同時に臨時旅客定員（増員）を確保する。航行資格の変更は神戸運輸監理部の船舶検査官（JG：Japanese Government）による臨時航行検査をその都度受検して“臨時変更証”を取得する。臨時定員の内、旅客以外では通常、船員を 12 人、その他の乗船者を 4～8 人に設定する。「その他」とは、法的に、船舶の直接の運航には従事しないが、船舶の運航目的により人的組織上必要な人員（教員・学生等）を指す。

小学児童を含む青少年や一般者の乗船にあたり船内行動には細心の注意を必要とし、暴露

甲板のハンドレールに転落防止用ネットを常設し、立ち入り禁止区画や脱出経路、通路や階段等をわかりやすく表示する。さらに、膨張式救命胴衣 107 着を別途、最上層のコンパス甲板に常設し、臨時変更の内容によっては浮器を船橋甲板に設置するなど、不測の事態に備えて万全を期す。乗組員は船の安全運航に徹する必要があることから、様々な海事イベントにおいては海事科学研究科及び学部の学生が運航補助と船内案内、警備スタッフとして必要数乗船する。なお、臨時変更日数の上限は年間 30 日であり、これを超えた日数の臨時航行資格は取得できない。臨時変更日数が 30 日を超える場合は、定期検査あるいは中間検査に準じた JG の検査を要す。

次に平成 25 年度及び 26 年度における臨時旅客定員の確保及び最大搭載人員変更のための臨時航行検査について、該当する航海と変更の内容を示す。

【25 年度】臨時変更：9 件 臨時変更日数：13 日

5 月 6 日 メリケンフェスタ・神戸港見学特別セミナー：最大搭載人員の変更

- ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1 日）
- ・航行時間：6 時間未満（旅客定員 80 人・その他 0 人・船員 12 人）

5 月 26 日 深江祭：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更

- ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1 日）
- ・航行時間：1.5 時間未満（旅客定員 210 人・その他 10 人・船員 12 人）

7 月 1 日 中京大学心理学部船舶研修：旅客定員の確保

- ～2 日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：2 日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）

7 月 29 日 海と船の安全教室：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更

- ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1 日）
- ・航行時間：3 時間未満（旅客定員 120 人・その他 4 人・船員 12 人）

8 月 1 日 近畿内航船員対策協議会「中学生体験航海」：旅客定員の確保

- ～2 日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：2 日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）

8 月 8 日 オープンキャンパス：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更

- ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1 日）
- ・航行時間：3 時間未満（旅客定員 120 人・その他 4 人・船員 12 人）

8 月 24 日 小学生体験型海洋セミナー：旅客定員の確保

- ～25 日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：2 日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）

11 月 28 日 大阪府立大学工学部海洋システム工学科船舶研修：旅客定員の確保

- ～29 日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：2 日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）

3 月 27 日 海と船の体験教室：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更

- ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1 日）
- ・航行時間：3 時間未満（旅客定員 120 人・その他 4 人・船員 12 人）

【26 年度】臨時変更：12 件 臨時変更日数：18 日

4 月 12 日 神戸大学自然科学系洋上セミナー：旅客定員の確保

- ～13 日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：2 日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）

5 月 8 日 兵庫県立大学（共同利用）：旅客定員の確保

- ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：1日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 5月16日 大阪大学（共同利用）：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更
 - ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1日）
 - ・航行時間：3時間未満（旅客定員 80 人・その他 0 人・船員 12 人）
- 5月25日 深江祭：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更
 - ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1日）
 - ・航行時間：1.5時間未満（旅客定員 210 人・その他 10 人・船員 12 人）
- 7月29日 海と船の安全教室：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更
 - ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1日）
 - ・航行時間：3時間未満（旅客定員 120 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 7月31日 公開講座：旅客定員の確保
 - ～8月3日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：4日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 8月6日 近畿運輸局内航船員対策協議会・工業高校生航海体験：旅客定員の確保
 - ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：1日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 8月8日 オープンキャンパス：旅客定員の確保と最大搭載人員の変更
 - ・航行区域：近海区域 → 平水区域（変更日数：1日）
 - ・航行時間：3時間未満（旅客定員 120 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 8月23日 小学生体験型海洋セミナー：旅客定員の確保
 - ～24日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：2日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 9月5日 関西地区工学部長会議・運航視察：旅客定員の確保
 - ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：1日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 11月18日 ベニックソリューション研修航海：旅客定員の確保
 - ～19日 ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：2日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）
- 12月2日 工学部長理事会会議・運航視察：旅客定員の確保
 - ・航行区域：近海区域 → 沿海区域（変更日数：1日）
（旅客定員 48 人・その他 4 人・船員 12 人）

6. 運航集計

6. 1 運航集計（抜粋）

平成 25 年度及び 26 年度における深江丸運航集計の抜粋を表 1 に示す。

この表において、運航日数は半日の航海も 1 日として示した。また、乗船者延べ人数とは、日帰りの場合は乗組員以外の乗船者数に 1 を乗じたものとし、また、航海が複数日にわたる場合は、乗船者数に延べ航海日数を乗じたものとした。

表 1 平成 25 年度及び 26 年度における深江丸運航集計抜粋

	平成25年度	平成26年度

運航回数（入渠回航を含む）	40回	64回
運航日数（入渠回航を含む）	97日	143日
航海時間	621時間20分	939時間05分
航程	6,568海里	9,235海里
学外停泊時間（入渠を除く）	607時間55分	710時間45分
錨泊時間	323時間20分	545時間35分
本研究科の乗船学生数	734人	843人
本研究科の乗船教職員数	91人	86人
本研究科以外からの乗船者数	1,228人	1,559人
乗船総数	2,053人	2,488人
乗船者延べ人数	3,650人	4,522人

※ 平成25年度からの学科改組に伴い、平成26年度に新カリキュラムの2年生（グローバル輸送科学科航海マネジメントコース及びマリンエンジニアリング学科）の学内船舶実習が始まり、新旧両カリキュラムの実習が混在した。また、平成26年度から教育共同利用拠点化に伴う他大学等の教育共同利用が始まり、平成26年度は運航日数、航海時間、総航程、停泊・錨泊時間や乗船者数等が格段に増加した。※1海里：1.852km

6. 2 平成25年度及び26年度の運航集計

両年度の深江丸運航集計を表2及び表3に示す。

表2 平成25年度深江丸運航集計

表3 平成26年度深江丸運航集計

7. 安全管理システム（SMS）の運用

深江丸では安全管理システム：SMS（Safety Management System）に準じて、

- a) 海上における人命の安全 b) 船舶の安全運航
- c) 環境の保護 d) 実習に関する事項、教育、研究の円滑な遂行

を目指した運航を徹底する。

なお、SMSの運用に関連した各種のドキュメント類は船橋に備え置く。

8. 災害時医療支援船構想

海事科学研究科では瀬戸内海を含む近隣都市災害発生時等において、兵庫県透析医会の災害対策合同委員会との連携による海上ルート及び船舶を活用した医療支援船構想を推進する。この中で深江丸の役割は緊急時において医療スタッフの収容とともに医療設備や機材等を深江丸に搭載して災害現地に赴き、船を仮設の災害医療提供施設として活用しながら、慢

性疾患の患者や救急患者、負傷者の手当と移送並びに救援物資の搬送を行うことを目的とする。また、被災地において船から電力の陸揚げを担う。

9. 附属練習船等使用内規

平成 16 年 10 月 1 日、海事科学部における実習と研究活動以外の目的で深江丸の他、海技教育センターに所属する舟艇類を使用する場合の「神戸大学海事科学部附属練習船等使用内規」が定められ運用が始まった。その後、平成 18 年 4 月 1 日及び平成 20 年 10 月 1 日の改訂を経て現在に至る。

10. 入渠工事

10. 1 合入渠工事、第一種中間検査入渠工事、定期検査入渠工事

深江丸は昭和 62 (1987) 年 10 月 14 日の就航以来、平成 26 (2014) 年 10 月で船齢 27 年を迎えた。この間、年 1 回の入渠（にゅうきょ）工事により、入渠中でなければできない船体、機関、属具等の整備、各種設備の修理や換装などを実施してきた。深江丸の法定検査としては、5 年ごとの定期検査とこの中間で実施される第 1 種中間検査がある。深江丸の船級が JG (Japanese Government) であることから船舶検査は日本国政府（国土交通省の船舶検査官）により、船体、機関の保守、整備などと並行して行われる。また、検査を伴わない船体整備のための入渠として合（あい）入渠工事がある。平成 16 年 9 月の定期検査までは毎年 9 月期に入渠工事を実施してきたが、この時期における深江丸の有効活用を図るため、平成 17 年度以後は入渠の時期を毎年 1 月下旬から 2 月上旬の閑散期（気象海象条件が悪く、運航の少ない時期）に変更した。工事期間は、入渠の目的、船体と機関の整備や特殊工事の内容等により一様ではない。

平成 18 年度以後、国内塗料メーカーからの受託研究で水船下船底部全面に従来型、改良従来型、低摩擦型、重金属フリー低摩擦型、重金属フリー従来型等の自己研磨型船底防汚塗料を順次試験塗装して播磨灘西部の直線航路：航程 16 海里<29.6km>の浮標間において速力試験を実施し評価試験を展開する。受託研究費は燃料費と船体整備に充当する。

平成 25 年度及び 26 年度に実施した入渠工事における船体部の仕様を次に示す。

10. 2 平成 25 年度 定期検査入渠工事

工 期：平成 26 年 1 月 22 日～2 月 6 日

入 渠 地：サノヤス造船株式会社・大阪製造所

工事内容：検査工事

〔船体部〕

1. 検査工事

101 定期検査受検（受検手続きおよび準備一切）

101-1 船体一般

101-1-1 船体内外部 船体の上下架、外舷及び船底清掃後受検（シーチェストも含む）

101-1-2 舵 取り外し後受検復旧

101-1-3 錨および錨鎖（965 k g × 3、φ 32mm × 14 節及びスイベル付き短鎖 × 2）

101-1-3-1 錨および錨鎖を渠底に繰出し、J シャックル及びスイベル付き短鎖新替の上受検

101-1-3-2 錆落とし実施（サンドブラスト施工（予備錨含む））

101-1-3-3 径測定（報告書提出）

- 101-1-3-4 受検後ソリューション2回塗装、テーパーピン（SUS）新替えの上、一節送りにて復旧（節数マーク部はソリューション塗装を施さない）
節数マーク更新(事前打ち合わせ)
- 101-1-3-5 予備錨と左舷錨入れ替え
- 101-1-4 ノンリタンバルブ受検復旧（7カ所 13個）
ノンリタンバルブ開放の上整備、受検（污水处理装置排水用のみ取り外し整備）受検後、内部塗装（CCP ブルー）、復旧（復旧後弁体及び付近パイプ塗装）
- 101-1-5 乾舷表示受検
- 101-1-6 索具受検
- 101-1-7 閉鎖装置受検
- 101-2 タンク検査（圧力検査含む）
- 101-2-1-1 清水タンク及び FPT、APT 清掃後受検
FPT 11.07 m³
No1 FWT(S) 28.13 m³
No1 FWT(P) 28.13 m³
APT 15.67 m³
- 101-2-1-2 発錆部錆打ちの上、タッチアップ2回（塗料ーオルガ 1000-NOA または同等品）
- 101-2-1-3 アク抜き2回施工、アク抜きの後、全タンク満水
- 101-2-1-4 マンホールパッキン新替
- 101-2-2 コファダム内部清掃後受検復旧
- 101-2-3 燃料タンク清掃後受検復旧（マンホールパッキン新替）
No.1FOT(P) 18.22 m³
No.1FOT(S) 22.48 m³
No.2FOT(P) 8.30 m³
No.2FOT(S) 13.20 m³
No.3FOT(S) 8.63 m³
No.3FOT(P) 8.63 m³
- 101-2-4 ラダートランク 内部清掃後受検復旧
受検後塗装（ビチュミナスソリューション2回塗装）
- 101-2-5 チェーンロッカー 内部清掃後受検復旧
- 101-3 板厚計測（0.4L間・3断面）
- 101-4 効力試験
- 101-4-1 甲板消火放水（準備及びノズル、ホースの清水洗い、乾燥格納）
- 101-4-2 ビルジ吸引試験（エデクター用逆止弁整備、受検後ビルジハット清掃）
- 101-4-3 航海灯、予備灯、非常警報、ボートライト受検
- 101-4-4 汽笛吹鳴試験（伊吹工業製 Q100 シャッターパッキン新替、パッキン本船支給）
- 101-4-5 操舵装置作動試験（通信装置含む）
- 101-4-6 ジャイロコンパス故障信号確認（転輪球新替）
- 101-4-7 火災探知装置作動試験
- 101-5 救命、航海、消防設備
- 101-5-1 救命、航海、消防設備備品確認
- 101-5-2 救命筏整備及び積み付け 膨脹式救命筏6基（藤倉ゴム製 FRN-SV-25R 25名用）
艀装品等新替（次回検査までに期限切れとなるも

の別紙参照)

101-5-3 膨脹式救命胴衣 172 個 (東洋ゴム製 TJ-7、TJ-10)

ボンベ検量の結果不良品は取り替え

101-5-4 泡消火器消火剤新替の後受検

泡消火器 9ℓ × 9 本 45ℓ × 1 本 (陸揚げ消火剤新替後積み込み、45ℓ 消火器については機関室からの引き上げ、設置 予備剤支給)

101-5-5 無線設備整備、受検 (総合通信局の検査も併せて受検)

① ARPAA レーダ (2 台)

FAR-2827-20AF、FAE-2837S-36AF

② SSB 無線電話装置 FS-12

③ 全波受信機 RV-108S

④ 無線電話警急自動受信機 AA-822

⑤ 無線方位測定機 FD-120K

⑥ 国際 V H F 無線電話 FM-80

⑦ レーダトランスポンダ TBR-600 (電池交換含む)

⑧ 衛星イーパブ REB-23-01 (電池・離脱器交換含む)

⑨ 双方向無線装置 FM-8 2 台 (電池交換含む)

⑩ AIS FA-100

⑪ 船上通信装置

⑫ ナブテックス受信機 (2 台) NX-500、NX-600

101-6 その他検査項目もれ (検査にともなう付帯工事一切を含む)

2. 一般工事

201 保護亜鉛取り替え (亜鉛板計測記録 2 部提出)

ZAP B-9 21 枚

B-3 8 枚

B-2 1 枚

90φ × 50φ × 8 t 1 枚

202 清水タンク清掃後、水質検査を実施 (地方公共団体等が行うもの)

検査結果証明書提出

203 汚水処理装置 (タイコー SBT-65) 汚水・汚泥陸揚げ (陸揚げ証明書提出)

204 排水管新替 (右舷乗組員室ベーンシン排水管) 40A × 4m + 32A × 3m

205 EM LOG 用船底弁 新替 (本船支給)

3. 塗装工事

301 船底部全面サンドブラスト施工 (約 550 m²)

302 船底塗装 Z/P (セラモタッチアップ用) 1 回、NOA10M バフ 175 及び NOA A/C II 各 1 回、A/F 2 回総塗装 (塗料は本船支給)

303 外舷塗装 発錆部はサンダー掛けの後、錆止め (NOA10M バフ 175) 1 回、上塗りタッチアップ 2 回の後、1 回総塗装。水線付近の発錆部はタッチアップ各 3 回施工 (船名等記入)

304 暴露甲板全面ノンスリップ塗装 1 回 (深緑 505)

船橋甲板後部 (約 65 m²) 及びコンパス甲板 (110 m²) は太陽熱高反射 (遮熱) 塗料 (深緑 505)

※塗料は一部を除き、日本ペイント製アクリル系塗料、造船所支給とする。

船底部に試験塗装部分を有する、事前打ち合わせのこと。

4. 特別（経年化）工事

4.1 船内 LAN

411 ネットワーク機器 スイッチング HUB 交換 (1000BASE-SX) 3 台
8ポート HUB 交換 5 台

412 ワークステーション交換 2 台

413 データ収集装置バックアップバッテリー交換 5 台

414 データ表示装置 予備機 2 台 データ入出力装置 予備機 3 台

415 船速計センサー交換 (横河ナビテック EML201-HS1) 1 台

上記 1-1~4 については工事はメーカー（三井造船）において実施すること。

4.2 ウインドラス オーバーホール (北川工業製 HWD-6-GHW-0-TT-S)

421 ベアリング開放、軸陸揚げ、整備、軸摩耗計測

422 油圧モーター整備

423 油圧配管用防食テープ取外し、パイプ点検、テープ巻替え不良パイプは取替

424 コントロールバルブ換装 配管模様替え、不要配管撤去含む

425 ホイール摺動面錆打ち後、ライニング SUS 巻き エッジ部分補修含む

426 台板錆打ち後、補強

427 ウインドラス本体、錆止め及び上塗り各 2 回塗装 付近甲板塗装

4.3 ECDIS

431-1 表示部 19 インチカラー LCD SXGA (1280×1024 ビットセル)

431-2 コーニング表示部 19 インチカラー LCD SXGA (1280×1024 ビットセル)

432 使用可能な電子海図 ENC IHO/IMO S-57 Edition3 ベクトルチャート
(IHO S-63 方式暗号化) BA ARCS ラスターチャート, C-MAP ENC

433 AIS 400 隻以上

434-1 インターフェイス (シリアル) GPS、AIS、GYRO、深度、風向風速の入力

434-2 インターフェイス (LAN) 既設レーダーとは LAN 接続

435 装備方法 コンソール (自立型)

436 リアルタイムインターフェイス

GPS、ジャイロコンパス、ログ、AIS、レーダー (ARPA)

437 規格 IMO MSC.232(82), IMO A.694(17), IMO MSC.197(79) IEC 61174 Ed.3,
IEC 61162-1 Ed.4, IEC 61162-2 Ed.1, IEC 62288, IEC 60945 Ed.4

438 電源 AC100V

439 ENC つぎに掲げる ENC を準備する (契約者名は深江丸とする)

4. 救助艇兼救命筏支援艇付帯工事

401 艇入れ替えに係る旧艇の廃船処理

402 架台の改造及び固定金具取り付け

5. 超音波式ドップラー流向流速計 (ADCP)

(Teledyne RD Instruments 社製、WH-ADCP300kHz マリナー)

501 周波数 300kHz

502 流速測定層数 128 (最大)

503 最大測定深度 165m

504 流速精度 ±0.5cm/sec

- 505 パワーコミュニケーションケーブル 1 本
- 506 船上データ変換装置 1 台
- 507 船上データ処理表示装置 1 台（モニター、ソフトウェア含む）
- 508 無停電電源装置 1 台
- 509 トランス 1 台
- 510 新規船底タンク及び取付座製作の上取付 1 か所、新規送受波器取付 1 か所
- 511 電線貫通金物、注水管、エア抜き管取付
- 512 配線工事（送受波器～信号処理装置間、追加配線工事
（サテライトコンパス～信号処理装置））
- 513 附帯工事（天井内張り取外し、復旧、工事箇所塗装）
- 514 船底検査受検立会い
- 515 完成図書
- 6. 風向風速計（VAISALA 製、ウェザートランスミッター WXT520）
- 601 あじろ外装 10 芯ケーブル（信号用）
- 602 RS422 Converter （B&B エレクトロニクス モデル 422PP9R）
- 603 データ記録用 PC （Dell Latitude E6330(SSD 256GB)）
- 604 RS232C Interface （Dell E-Legacy Extender）
- 605 風向風速計増設工事
- 605-1 風向風速計マストトップへ増設
- 605-2 新規風向風速計用架台製作取付
- 605-3 信号線配線工事
- 605-4 各機器取付、端末結線
- 605-5 附帯工事
- 605-5-1 居室、通路天井内張り取外し復旧
- 605-5-2 工事箇所塗装
- 605-5-3 工事箇所足場架設
- 606 完成図書
- 7. 表層海水モニタリングシステム
- 701 ワイパー式水温塩分センサー（ACTW-CAR JFE アドバンテック）
- 702 ワイパー式クロロフィル濁度センサー（ACLW-CAR JFE アドバンテック）
- 703 インターフェイスユニット（JFE アドバンテック）
- 704 データ処理用 PC（Dell Latitude E6330(SSD 256GB)）
- 705 データ記録用 PC（Dell Latitude E6330(SSD 256GB)）
- 706 無停電電源装置 1 台
- 707 データ処理及び記録用ソフトウェア
- 708 計測タンク（JFE アドバンテック）
- 709 センサーケーブル（JFE アドバンテック）
- 710 計測タンク取付
- 711 配線工事（ACTW センサーケーブル、ACLW センサーケーブル）
- 712 システム現地調整
- 713 完成図書

10. 3 平成 26 年度 合入渠工事

工 期：平成 27 年 1 月 23 日～2 月 4 日

入 渠 地：内海造船株式会社・瀬戸田工場

工事内容：一般整備工事

〔船体部〕

1. 一般工事

1. 船体の上下架、外舷及び船底清掃(シーチェスト・スラスタートンネルを含む) 含
- 2-1 錨(予備錨含む)及び錨鎖は渠底に繰り出し、J シャックル解放の上錆落とし後(サンドブラスト施工)、ソリューション 2 回塗装、テーパーピン(SUS)新替の上、右舷錨と予備錨を入れ替え、一節送りにて復旧
節数マークについては別途指示する。
錨 965kg×3 錨鎖 32φ×14 節+スイベル付短鎖×2
注節数マーク部はソリューション塗装を施さない。
- 2-2 ノンリタンバルブ解放手入れ後、塗装復旧(7カ所 13 個)
汚水用ノンリタンバルブは陸揚げの上、解放手入れ後、内部塗装、復旧
- 2-3 汚水処理装置(タイコー SBT- 65)
- 2-3-1 汚水・汚泥陸揚げ(陸揚げ証明書提出)
- 2-3-2 汚水処理室・機関室内の污水管及び男子トイレの污水管、スカッパパイプ
陸揚げ、内部清掃後塗装復旧
- 2-4 保護亜鉛新替(亜鉛板計測記録 2 部提出)
ZAP B-9 21 枚
ZAP B-3 8 枚
ZAP B-2 1 枚
φ90 mm×φ50 mm×8 t 1 枚
- 2-5 チェーンロッカー清掃後、ソリューション 1 回塗装(約 70 m²)
- 2-6 清水管
- 2-6-1 清水管薬品洗浄
- 2-6-2 清水管洗浄後、水質検査を行い(地方公共団体等が行うもの)
検査結果証明書及び清水管洗浄証明書提出
- 2-7 オーニングスパー(40A)・スタンション整備スパー受部及びボルト新替、塗装
- 2-8 電動ワイパー分解整備(布谷計器 EWP-O 47-L 1)
- 2-9 男女シャワールーム仕切り板(化粧合板) 新替
1800 mm×905 mm×20 mm×5 枚
- 2-10 船首スピーカー収納箱(扉付き) 新替 320 mm×430 mm×310 mm
- 2-11 油圧ムアリングウインチ(北川工業 HMW-3-HW-O-T-T-S)
コントロールバルブ新替(別紙参照)
- 2-12 船橋窓、防災遮光カーテン新替 1050 mm×1000 mm×11 枚
3. 塗装工事
- 3-1 船底(シーチェスト、スラスタートンネル、ホーズパイプ内部含む)及び
外板の発錆部錆打ち、サンダー掛けの後、A/C (NOA 10M バフ 175) 1 回
タッチアップ、A/F 2 回タッチアップの後、1 回総塗装
・外板白上塗り 1 回総塗装(船名、ドラフトマーク、フリーボードマーク等記入)
※A/F(船底)総塗装については試験塗装のため本学支給とし、事前に本学と

打ち合わせすること。

3-2 甲板上構造物清水洗いの上現色にあわせて総塗装（舷梯を含む）

3-3 暴露甲板全面ノンスリップ塗装 1 回（深緑 505）

船橋甲板後部（約 65 m²）及びコンパス甲板（110 m²）は太陽熱高反射（遮熱）塗料（深緑 505）

※塗料は一部を除き、日本ペイント製アクリル系塗料とし造船所支給とする。

船内塗装については、油性塗料を使用すること。

3-2、3-3 については発錆部錆打ち、錆止め 2 回塗装の後、上塗りとする。

塗料の名称・仕様・数量の報告書を 1 部提出すること。

4. その他

4-1 泡消火器消火剤新替

泡消火器（90×9 本、450×1 本）を陸揚げし消火剤新替後積み込み、

450 消火器については機関室からの引き上げ、設置を含む。

10. 4 これまでの入渠と今後の入渠工事予定

過去に実施した入渠工事と今後の入渠予定を以下に示す。

《過去の入渠工事》

入渠年月	入渠工事の名称	就航年数
.....		
平成 11（1999）年 9 月	：定期検査入渠工事	<12 年>
平成 12（2000）年 9 月	：合入渠工事	<13 年>
平成 13（2001）年 9 月	：第一種中間検査入渠工事	<14 年>
平成 14（2002）年 9 月	：合入渠工事	<15 年>
平成 15（2003）年 9 月	：合入渠工事	<16 年>
平成 16（2004）年 9 月	：定期検査入渠工事	<17 年>
平成 18（2006）年 1 月	：合入渠工事	<19 年>
平成 19（2007）年 1 月	：第一種中間検査入渠工事	<20 年>
平成 20（2008）年 1 月	：合入渠工事	<21 年>
平成 21（2009）年 1 月	：定期検査入渠工事	<22 年>
平成 22（2010）年 1 月	：合入渠工事	<23 年>
平成 23（2011）年 1 月	：合入渠工事	<24 年>
平成 24（2012）年 1 月	：第一種中間検査入渠工事	<25 年>
平成 25（2013）年 1 月	：合入渠工事	<26 年>
平成 26（2014）年 1 月	：定期検査入渠工事	<27 年>
平成 27（2015）年 1 月	：合入渠工事	<28 年>

《今後の入渠予定》

平成 27（2015）年 11 月	：1 中検工事または合入渠工事	<28 年>
平成 28（2016）年 11 月	：合入渠工事または 1 中検工事	<29 年>
平成 29（2017）年 11 月	：合入渠工事	<30 年>
平成 30（2018）年 11 月	：定期検査入渠工事	<31 年>

11. 深江丸乗船アンケート

深江丸では安全管理システム：SMS（Safety Management System）の運用を徹底するため、

宿泊を伴う航海の乗船者を対象に、

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 海上における人命の安全 | 2. 船舶の安全運航 |
| 3. 海洋環境の保護 | 4. 実習・教育・研究の円滑な遂行 |

に係る乗船アンケートへの回答を依頼する。乗船者の評価や意見を踏まえ、対応可能なものについては鋭意改善を図る。なお、乗船アンケートの各設問において、回答は

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満 6. その他

の中から1つを選択するものとし、航海の目的や内容により“該当しない”または“わからない”ときは「6. その他」の選択とする。

平成25年度及び26年度におけるアンケートへの回答者総数は946人で、全乗船者を次のA、B及びCのグループに分類して集計した。

A：海事科学部の乗船系学生（海技ライセンスを取得）：235人

B：海事科学部の非乗船系学生：231人

C：学内船舶実習以外の乗船者（複数日の航海に乗船）：480人

計 946人

11.1 乗船アンケートの回答要請

深江丸乗船アンケートへの回答要請文は次の通り。

深江丸乗船アンケート 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸では、船舶の運航管理と乗船者の安全並びにサービスの向上を図るため、安全管理システム；SMS（Safety Management System）を運用しています。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 海上における人命の安全 | 2. 船舶の安全運航 |
| 3. 海洋環境の保護 | 4. 実習・教育・研究の円滑な遂行 |

に関して、乗船者の意見をSMSの運用や今後の運航等に反映させることを目的とします。

記入にあたりましては、回答項目の＜番号＞に「○」印を付して下さい。

なお、航海の目的などにより該当しない場合は“6. その他”にチェックをお願いします。また、提案や要望などがございましたら具体的に記入してください。ご協力をお願いします。

深江丸 船長

11.2 乗船アンケートの集計

平成25年度及び26年度の回答者946人の各設問ごとの満足～不満の程度をその比率とともに示す。

12. 深江丸の現状

12.1 深江丸の活動と展望

深江丸は海事科学研究科附属練習船として、学生の実習、教育、訓練、船舶や海洋に関連した研究と調査を主たる目的とすることから、研究科と学部に関連した運航を中心に、各航海においてさらなる運航内容の充実を目指し最大限の展開を図っている。また、平成26年度に始まった教育共同利用の拠点化に伴う他大学等の教育共同利用について状況の許す範囲で意欲的に対応しながら、神戸大学としての地域、社会貢献や社会交流活動の一翼を担う態勢を整える。各種の依頼は深江丸の運航のみにとどまらず、研究科専用岸壁停泊中においても、研究会や講演会、海事体験や見学会などがある。参考までに、これまで掲げている深江丸の展望を次に示す。

《深江丸の展望》

- (1) 人材育成
 - ・ 航海と機関に関する高品質な専門的人材教育
 - ・ 海事に精通し、人間性と創造性並びに専門性豊かで幅広い教養を備え、国際海事社会で活躍できる総合的人材の育成
- (2) 調査研究
 - 海事に関する様々な事象を対象にした調査と研究
- (3) 海事振興
 - 一般社会との連携による幅広い年齢層を対象にした人間教育、社会・道徳教育、若年層への科学的興味の喚起と海事社会の啓発
- (4) 災害支援
 - 大規模災害時を想定した海上ルートを活用する人的・物的支援と災害医療への支援

12. 2 深江丸の乗組員

平成 16 年 4 月の国立大学法人化により乗組員には船員法が適用され、船員の就業規則や休日等の諸事項が国土交通省神戸運輸監理部の監督下に入った。海事職乗組員にはこの法律に則って労働時間が設定され休日等が付与されている。

国土交通省令「船舶職員法及び小型船舶操縦者法」では、深江丸（航行区域：近海区域、総トン数 449 トン、主機関出力 1,100kW <1,500 馬力>）の法定職員（法律で定める最低限度の乗組員）は、船長、機関長、一等航海士及び一等機関士の 4 名である。この 4 名が最低限度乗り組まない場合は深江丸を運航の用に供することはできない。しかしながら出入港や投錨その他、運航の場面ごとに必要な作業を安全かつ迅速に展開するためには法定職員のみでの運航は不可能であり、さらに甲板部 2 名、機関部 2 名及び事務部（司厨長）1 名が配置されている。また、安全運航や教育・研究の充実等を目的に研究科内で有効な海技免状を所有し、乗船実歴を有する教員 4 名が次席一等航海士の職名で登録され認可を受けている。昨今、船員の労働時間等の観点から予備船員の確保に向けた検討が早急の課題として挙げられており、年間運航計画に基づく通常の勤務時間や時間外労働、振替休日等を予測・集計し調整しながら、交代要員不在の海事職乗組員 6 名と教育職 2 名（船長・機関長）の現体制に対応した運航計画を策定する。乗組員に関連した問題点を次に挙げる。

〔正規乗組員の増員〕

附属練習船の本務である学生の実習、教育、訓練及び研究以外に社会貢献・連携活動や外部からの依頼が増加する中、現状の乗組員 9 名（船長を含む甲板部 4 名、機関長を含む機関部 4 名）、事務部（非常勤）1 名体制には限界がある。実験や体験航海等の日帰り航海以外の運航については有効なライセンスを受有する教員 1～2 名が次席一等航海士として臨時的に乗り組み、練習船の運航をサポートする。船員法の航海当直基準では船橋当直 2 名体制が最低ルールであり、深江丸では通常、当直者を 2 名体制×2 当直で配置する。船長は船の総責任者として運航全般を指揮監督する必要がある、さらに当直以外の学生の実習や船内講義、航路説明や課題等を担当することから臨時航海士の乗船は必須である。しかし、臨時航海士として乗船する教員には個々の教育研究活動などがあることから配乗が困難になりつつある。また、練習船の教育共同利用の拠点化に伴う他大学等の教育利用が推進され、その運用が始まっている昨今、船員法上の休暇付与の観点からも甲板部及び機関部乗組員としてそれぞれ 1～2 名の増員が強く望まれる。

13. おわりに

深江丸は世界でも有数の船舶交通が輻輳する大阪湾と瀬戸内海を主たる行動海域とする。この海域は明石海峡、備讃瀬戸、来島海峡など日本屈指の狭水道が連なり、常時、内外多数の大型船や中・小型船、漁船や定置その他の漁具で混雑し、四季折々の変化に富んだ気象や海象、潮汐や潮流変化の激しい環境下にある。外洋や沿岸域とは異なるこのような海域において、学生は座学知識や技術を検証・検分し、運航技術の更なる習得に励むと同時に、船舶交通や漁業の実態等を把握しながら安全運航に徹しようとする意識と姿勢を培い、当直実習後の開放感、充実感や達成感などを自覚する。

深江丸は就航後 27 年を過ぎ、船体属具や機関関連機器に突発的なトラブルがいつ発生してもおかしくない状況にあるが、平成 24 年と 25 年度に高経年化対策として船体及び機関の整備が行われた。関係各位には深江丸の現状をご理解いただき感謝申し上げます。

深江丸は神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船としての使命に鑑み、新旧の計装機器を駆使しながら実習・教育に効果をあげ、動く教育施設、移動実験室として、船舶と海洋に関する実験や調査、研究等で活躍する。瀬戸内海という地理的に恵まれた環境を大いに活用して、行動形態や運航内容に一層の充実を図りながら、社会と連携し、社会に貢献できる運航態勢を整備し維持することがより一層求められている。さらに、他研究科・学部や他大学、教育機関や研究機関とのさらなる連携を深め、練習船本来のすがたを維持、拡充しながら新たな形態の運航サービスを提供してゆくことが肝要であろう。

第3節 機関部関係

1. はじめに

平成25年度、26年度の年間運航計画及び追加出動要請では、重度な機関事故・故障、学生・乗組員の疾病などの発生は無く滞りなく運航することができた。本船が船齢25年超であり出動依頼が年々増加している中、機関部は主機関及び推進装置をはじめとし発電機、空調機器などの補機類の保守整備を計画的かつ効率的に実施している。昨今の世界経済は大きな変動の渦中であり費用対効果が謳われている現状において、安全・安定運航を確保できていることは、乗組員の弛まぬ努力の成果であり、陸上支援体制や関係各位のご尽力の賜である。しかしながら就航後25年の歳月を経過した本船の重要機器及び電気部品は、経年的な劣化が進む一方である。平成26年度に高経年化対策の一環として、懸念材料として挙げられていた学生・乗組員用の糧食用大型冷蔵庫の新替えを実施した。この作業により、糧食用大型冷蔵庫の冷却のために設置されていた清水ポンプ、海水ポンプを撤去でき、管理も簡素にすることができた。安全・信頼性を確保は当然ながら、本船の利用残存年数も考慮に含めた適切な保全費用の策定はしっかりと行っていきたい。

今後も安全運航の上に成り立つ本船の使命である航海訓練、船舶実習教育、調査・研究活動を維持し、さらに他大学生、小中高校生、地域住民に対する海事普及活動や一般企業の船舶研修を推し進めるためにも、不測の事態に耐える整備計画の効果的な立案及び施行が、より一層必要になると考える。

2. 機関部年間船内作業

2. 1 概要

事故や故障による緊急対応を除いて、平素の船内作業は機器の使用時間に基づく計画的な保守整備が主である。

概要については次に示すとおり。

①ディーゼル機関、推進装置関係ー主機関1基、発電機関3基(非常用を含む)

- ・各作動流体(燃料、潤滑油等)ストレーナ掃除
- ・燃料噴射弁交換、整備等の開放整備
- ・燃焼解析等の計測、調整
- ・非常用発電機起動テスト等の安全装置の作動確認
- ・潤滑油成分分析等の劣化の把握、正常状態の維持
- ・推進装置の汚損防止、作動不良防止を目的とした運転等の保守運転

②補機関係ーディーゼル機関補助機器、甲板機械、生活関連機器等

- ・油清浄機回転体整備等の開放整備
- ・空調ファン軸受グリスアップ等の保守整備
- ・空調機フィルタ洗浄等の生活環境維持

その他所掌している繋留池付近の諸設備に関する整備にも積極的に取り組んでおり、また異常の早期発見につながる深江丸の美観維持作業を継続的に実施している。

2. 2 作業内容

平成 25 年度、26 年度の機関部における計画的な保守整備作業は次に示すとおりである。

作業実施日	作 業 内 容
【平成 25 年 度】	
平成 25 年	月例作業、1 日～4 日 E/R 床プレート補修
4 月 1 日	係留運転
3 日	EMERG'GEN 配電盤内タイマーリレー新替
4 日	FO ドレンタンク内ドレン移送
5 日	陸上重油タンク錆打ペン塗り
8 日	データログ修理(テラテック)、各海水ストレーナ掃除
9 日	出港前点検作業、
10 日	11 日～12 日 出動 (株商船三井研修)
11 日	ME ロードリミッタポテンション新替
15 日	4 E 岸壁実習
17 日	搭載艇 OIL フィルタ新替
18 日	岸壁溝用ストレーナ作製
19 日	シャワールームパイプ撤去
23 日	4 E 岸壁実習
24 日	ファンネルダンパー整備
30 日	4 E 岸壁実習、月例作業
5 月 1 日	終日 出動 (神戸振興協会)
6 日	7 日～9 日 出動 (3 N 学内船舶実習—1)
7 日	出港前点検作業
13 日	14 日～16 日 出動 (3 N 学内船舶実習—2)
14 日	NO.2 発電機燃料噴射弁交換、整備
17 日	操舵機用海水パイプ修理
20 日	FO 補給
22 日	煙突排水用ストーム弁整備
23 日	出港前点検作業
24 日	終日 出動 (深江祭)
26 日	ME ロッカーアーム LO 新替
27 日	28 日～31 日 出動 (4 E 学内船舶実習—1)
28 日	出港前点検作業、月例作業、サニタリーPP'入口パイプ作製、交換
6 月 3 日	4 日～7 日 出動 (4 E 学内船舶実習—2)
4 日	終日 出動 (瀬戸内海学入門)
8 日	出港前点検作業、各 FO ストレーナ掃除

	10 日	11 日～14 日 出動（4 N 学内船舶実習－1）
	11 日	18 日～21 日 出動（4 N 学内船舶実習－2）
	18 日	空気圧縮機 LO 新替
	24 日	甲板機クーラ入口弁交換（船首、船尾）
	25 日	出港前点検作業、各 FO ストレーナ掃除、LO サンプル採取
	26 日	27 日～30 日 出動（（社）日本船用工業会研修）
	27 日	出港前点検作業
	30 日	1 日～2 日 出動（中京大学研修）
7 月	1 日	FO 補給
	3 日	月例作業
	5 日	スープボイラサーモスタット新替
	8 日	データログ修理(テラテック)
	9 日	M/E LO 補給
	10 日	PM 出動（部局長会議）
	11 日	出港前点検作業、空気圧縮機 LO 新替
	12 日	13 日～15 日 出動（リーダーシップ）
	13 日	No.1、No.2 発電機 FO 噴射弁交換、タペットクリアランス調整
	16 日	デフレクション計測、クランク室内点検 主機関 FO 噴射弁交換、タペットクリアランス調整、
	17 日	デフレクション計測、クランク室内点検 係留運転、No.1、2 発電機最高圧力計測、NO.2 発電機 LO 新替
	18 日	FO 清浄機開放整備、LO 清浄機開放整備、FO 噴射弁整備
	19 日	空気圧縮機 LO 新替
	22 日	舷梯踏み板作製
	23 日	搭載艇試運転
	26 日	PM 出動（関西小型船安全協会）、M/E 最高圧力計測
	29 日	出港前点検作業、月例作業
8 月	1 日	終日 出動（中学生体験航海）
	2 日	各 LO ストレーナ掃除
	5 日	M/E T/C、ガバナ、中間軸受 LO 新替、空気圧縮機 LO 新替
	6 日	終日 出動（オープンキャンパス）
	8 日	FW SERV PP'カバー作製
	19 日	データログ修理(テラテック)
	22 日	出港前点検作業、空気圧縮機 LO 新替
	23 日	24 日～25 日 出動（海洋セミナー）
	24 日	FO 補給、空気圧縮機 LO 新替
	26 日	出港前点検作業

	27 日	28 日～9 月 5 日 出動（夏季研究航海）
	28 日	FO 補給、配電盤内 S/G 力率計新替、空気圧縮機 LO 新替
9 月	6 日	出港前点検作業、ME ロッカーアーム LO 新替
	8 日	9 日～10 日 出動（海への誘い）
	9 日	12 日～13 日 出動（海への誘い）
	12 日	月例作業
	17 日	発電機 SW PP'入口予備パイプ作製
	18 日	糧食用 SW PP'出口パイプ作製、交換
	19 日	発電機軸受 LO 新替
	25 日	各海水ストレーナ掃除
	26 日	出港前点検作業
10 月	1 日	2 日～3 日 出動（（社）日本船用工業会研修）
	2 日	月例作業
	4 日	FO 補給
	10 日	出港前点検作業、PM 出動（3 L）
	11 日	出港前点検作業、空気圧縮機 LO 新替
	14 日	15 日～18 日 出動（3 L 学内船舶実習—1）
	15 日	出港前点検作業
	21 日	22 日～25 日 出動（3 L 学内船舶実習—2）
	22 日	FO 清浄機開放整備、LO 清浄機開放整備
	28 日	FO 補給
	29 日	各 FO ストレーナ掃除
	30 日	出港前点検作業、PM 出動（3 N 航海学実験）
11 月	1 日	5 日～8 日 出動（3 M 学内船舶実習—1）
	5 日	出港前点検作業
	11 日	12 日～15 日 出動（3 M 学内船舶実習—2）
	12 日	ストレージタンク掃除、新油(タービン 32)補充
	18 日	月例作業
	19 日	出港前点検作業、データログ修理(テラテック)
	27 日	28 日～29 日 出動（大阪府立大学研修）
	28 日	月例作業
12 月	2 日	主機 LO 差圧ゲージ(ピストン)新替
	4 日	ストレージタンク新油補充(タービン 32 200L)
	9 日	糧食冷蔵庫用清水タンク洗浄
	10 日	清浄機作動水タンク洗浄、液面計掃除
	11 日	PM 出動（3 N 航海学実験）
	13 日	PM 出動（3 N 航海学実験）

平成 26 年	20 日	月例作業
1 月	8 日	入渠準備
	9 日	22 日～2 月 7 日 入渠工事（回航含む）
	22 日	NO.2 発電機周波数異常調査（サノヤス造船、テラテック）
2 月	10 日	データログ修理(テラテック)
		FO 補給
	13 日	M/E クランクデフレクション計測 係留運転
	14 日	NO.2 発電機周波数異常調査（サノヤス造船）
	18 日	NO.1、2 発電機 LO ストレーナ掃除 NO.1、2 発電機 FO ストレーナ蒸気洗浄 FO 噴射弁整備、各 LO ストレーナ掃除
	19 日	M/E ガバナ、中間軸受 LO 新替
	20 日	出港前点検作業、月例作業
	21 日	22 日～24 日 出動（3 N 学内船舶実習—1）
	22 日	出港前点検作業
	25 日	26 日～28 日 出動（3 N 学内船舶実習—2）
	26 日	予備 FO TRANS PP'軸受新替
3 月	3 日	NO.1、2 発電機 FO ストレーナ新替
	4 日	出港前点検作業、空気圧縮機 LO 新替
	5 日	6 日～7 日 出動（速力試験）
	6 日	M/E ターニングギアオイル新替
	10 日	FO 補給、出港前点検作業
	11 日	月例作業
	12 日	13 日～20 日 出動（春季研究航海）
	13 日	各 FO ストレーナ掃除
	24 日	FO 補給
	25 日	出港前点検作業、PM 出動（関西小型船安全協会）
	27 日	カロリファイヤプレヒートライン撤去
	28 日	SANITARY PP'開放整備、
	31 日	SANITARY PP'入口、出口パイプ作製、新替
【平成 26 年度】		
平成 26 年		月例作業、各海水ストレーナ掃除
4 月	1 日	ギャレー配線新替、
	7 日	ギャレーレンジガイシ新替

	8 日	4 E 岸壁実習説明会
	9 日	出港前点検作業
	11 日	12 日～13 日 出動（洋上セミナー&共同利用）
	12 日	4 E 岸壁実習
	16 日	救命艇架台作製（～ 5/12）
	21 日	出港前点検作業、4 E 岸壁実習
	23 日	24 日～25 日 出動（㈱商船三井研修）
	24 日	4 E 岸壁実習
5 月	7 日	8 日～9 日 出動（共同利用）
	8 日	出港前点検作業
	12 日	13 日～15 日 出動（3 N 学内船舶実習－1）
	13 日	シャワールーム SW パイプ撤去
	16 日	出港前点検作業、月例作業
	19 日	20 日～22 日 出動（3 N 学内船舶実習－2）
	20 日	FO 補給
	23 日	出港前点検作業
	24 日	終日 出動（深江祭）
	25 日	出港前点検作業
	26 日	27 日～30 日 出動（4 E 学内船舶実習－1）
	27 日	出港前点検作業、空気圧縮機 LO 新替
6 月	2 日	3 日～6 日 出動（4 E 学内船舶実習－2）
	3 日	出港前点検作業、ME ロッカーアーム LO 新替
	9 日	10 日～13 日 出動（4 N 学内船舶実習－1）
	10 日	出港前点検作業
	16 日	17 日～20 日 出動（4 N 学内船舶実習－2）
	17 日	FO 補給
	23 日	月例作業
	24 日	出港前点検作業、各 FO ストレーナ掃除
	25 日	26 日～27 日 出動（（社）日本船用工業会研修）
	26 日	出港前点検作業
	29 日	30 日～7 月 1 日 出動（共同利用）
	30 日	糧食用冷凍冷蔵庫用配管撤去
7 月	2 日	出港前点検作業
	3 日	終日 出動（DP 実験）
	4 日	終日 出動（瀬戸内海学入門）
	5 日	No.1、No.2 発電機 FO 噴射弁交換、タペットクリアランス調整
	7 日	デフレクション計測、クランク室内点検

		主機関 FO 噴射弁交換、タペットクリアランス調整、
	8 日	デフレクション計測、クランク室内点検
		係留運転、No.1、2 発電機最高圧力計測
	9 日	FO 清浄機開放整備、LO 清浄機開放整備、FO 噴射弁整備
	10 日	月例作業
	11 日	終日 出動（共同利用）
	14 日	15 日～16 日 出動（DP 実験）
	15 日	M/E LO 補給、空気圧縮機 LO 新替
	17 日	出港前点検作業
	18 日	19 日～21 日 出動（リーダーシップ）
	19 日	22 日～24 日 出動（水中ロボット実験）
	22 日	FO 補給、LO サンプル採取
	25 日	各 FO ストレーナ掃除、各海水ストレーナ掃除
	28 日	PM 出動（関西小型船安全協会研修）
	29 日	31 日～8 月 3 日 出動（公開講座）
	31 日	出港前点検作業
8 月	4 日	PM 出動（共同利用）
	5 日	終日 出動（近畿運輸局内航船員対策）
	6 日	入渠現場説明会
	7 日	AM 出動（オープンキャンパス）
	8 日	月例作業、空気圧縮機 LO 新替
	19 日	出港前点検作業
	20 日	21 日～22 日 出動（共同利用）
	21 日	23 日～24 日 出動（海洋セミナー）
	23 日	FO 補給
	25 日	出港前点検作業、26 日～9 月 2 日 出動（夏季研究航海）
	26 日	FO 補給
9 月	4 日	月例作業、PM 出動（部局長会議）
	5 日	出港前点検作業、空気圧縮機 LO 新替
	7 日	8 日～9 日 出動（海への誘い―1）
	8 日	11 日～12 日 出動（海への誘い―2）
	11 日	出港前点検作業、各 LO ストレーナ掃除
	15 日	16 日～17 日 出動（海と船入門）
	16 日	18 日～19 日 出動（共同利用）
	18 日	終日 出動（内海域共同利用）
	22 日	23 日～24 日 出動（2M 学内船舶実習―1）
	23 日	出港前点検作業

	25 日	26 日～27 日 出動（2 M 学内船舶実習－2）
	26 日	29 日～30 日 出動（2 M 学内船舶実習－3）
	29 日	FO 補給
10 月	1 日	各海水ストレーナ掃除
	2 日	出港前点検作業、月例作業
	6 日	7 日～8 日 出動（（社）日本船用工業会研修）
	7 日	出港前点検作業
	13 日	14 日～17 日 出動（3 L 学内船舶実習－1）
	14 日	出港前点検作業、各 FO ストレーナ掃除
	20 日	21 日～24 日 出動（3 L 学内船舶実習－2）
	21 日	FO 補給
	27 日	出港前点検作業
	28 日	29 日～11 月 1 日 出動（共同利用）
	29 日	4 日～7 日 出動（3 M 学内船舶実習－1）
11 月	4 日	出港前点検作業、月例作業、PM 出動（共同利用）
	10 日	11 日～14 日 出動（3 M 学内船舶実習－2）
	11 日	出港前点検作業、、PM 出動（共同利用）
	17 日	18 日～19 日 出動（ベニックソリューション研修）
	18 日	出港前点検作業、、PM 出動（共同利用）
	20 日	FO 補給
	21 日	No.1、No.2 発電機 FO 噴射弁交換、タペットクリアランス調整
	25 日	デフレクション計測、クランク室内点検 主機関 FO 噴射弁交換、タペットクリアランス調整、
	26 日	デフレクション計測、クランク室内点検 係留運転、No.1、2 発電機最高圧力計測
	27 日	FO 清浄機開放整備、LO 清浄機開放整備、FO 噴射弁整備
	28 日	出港前点検作業、月例作業、PM 出動（共同利用）
12 月	1 日	PM 出動（工学部長会議）
	2 日	出港前点検作業
	3 日	4 日～5 日 出動（共同利用）
	4 日	海水流量計整備
	8 日	PM 出動（3 N 航海学実験）
	12 日	船尾管軸封装置修理（日本ピラー）
	18 日	PM 出動（3 N 航海学実験）
	19 日	
平成 27 年		月例作業
1 月	6 日	各海水ストレーナ掃除

	8 日	入渠準備
	9 日	出港前点検作業
	14 日	終日 出動 (DP 実験)
	15 日	FO 補給
	19 日	出港前点検作業
	21 日	22 日～2 月 5 日 入渠工事 (回航含む)
	22 日	FO 補給
2 月	6 日	月例作業
	10 日	出港前点検作業
	11 日	終日 出動 (DP 実験)
	12 日	出港前点検作業
	16 日	17 日～19 日 出動 (2 N 学内船舶実習—1)
	17 日	各 FO ストレーナ掃除、各 LO ストレーナ掃除
	20 日	21 日～23 日 出動 (2 N 学内船舶実習—2)
	21 日	FO 補給
	25 日	26 日～28 日 出動 (3 N 学内船舶実習—1)
	26 日	出港前点検作業
3 月	2 日	3 日～5 日 出動 (3 N 学内船舶実習—2)
	3 日	FO 補給
	5 日	月例作業
	6 日	PM 出動 (共同利用)
	9 日	出港前点検作業、温水配管洗浄 (内海造船)
	10 日	11 日～19 日 出動 (春季研究航海)
	11 日	20 日～30 日 温水配管取り替え工事 (内海造船)
	20 日	船尾管軸封装置開放、点検
	21 日	FO 補給
	30 日	

3. 入渠工事

平成 25 年度、26 年度の入渠工事は、両年度とも工期の延長も無く仕様とおり工事が完了することができた。予算削減努力が掲げられている中、今後は本船作業と労務管理の両面から工事内容の精査検討が今以上に必要となってくると考える。下記に入渠工事の仕様を示す。

3.1 平成25年度 定期検査工事

工 期 : 平成 26 年 1 月 22 日～2 月 6 日

入 渠 地 : サノヤス造船株式会社 大阪製造所

【機関部工事内容】

＜検査工事＞

101. 定期検査・MO 受検・効力試験施行

[主機関]

201. シリンダカバ分解、開放、清掃後復旧

202. 各弁摺合せ：吸気弁、排気弁、起動弁、安全弁、インジケータ弁
(全バルブローテータ開放、点検、排気弁箱 3K で水圧テスト施行)

203. ピストン抜き出し分解、清掃、計測後復旧。リング取替、ピストンピン計測、
連接棒清掃、計測、トルクマーク修正

204. ライナ抜き出し分解、清掃、計測後復旧

205. 主軸受(上下) 開放、清掃、計測後復旧

206. 過給機分解、清掃、計測 (肉厚計測含む)後復旧。軸受取替

207. 下記主機直結ポンプ分解、清掃後復旧、軸受取替

- ①潤滑油ポンプ (歯車)
- ②燃料油供給ポンプ (歯車)
- ③清水ポンプ (渦巻)
- ④弁腕潤滑油ポンプ (トロコイド)

208. クランクデフレクション計測

209. 減速機分解、清掃後復旧。

軸受及びクラッチ開放、油圧リング、主要ボルト取替

210. 減速機直結ポンプ分解、清掃後復旧。軸受取替

211. 弾性継手開放 (歪み計測)

212. スラスト軸受開放、清掃、計測後復旧

213. 主要部カラーチェック施行、連接棒セレーション部及びR 部磁気探傷施行
ピストンリング溝 (リングランド) カラーチェック施行

[軸系]

301. 中間軸受開放、清掃後復旧。間隙計測

302. 推進軸抜き出し、翼分解、研磨、清掃後復旧

303. サーボシリンダ及び給油軸開放、点検後復旧。

パイロットチェックバルブ、リングミゾコマ、ラインフィルタ新替

304. 船尾管軸封装置開放、清掃、点検後復旧。 非常シール、
シールリング及びドライブバンド取替、摺動面は削正

305. 船尾管軸受間隙計測

306. 船尾管ガードリング取り外し、保護亜鉛取替

307. 主要部カラーチェック施行

[主発電機関]

401. シリンダカバ開放、分解、清掃後復旧

402. 各弁摺合せ：吸気弁、排気弁、起動弁、指圧器弁

403. ノズルホルダー新替 (NO.1 GEN NO.3,5 CYL 以外)

404. ピストン抜き出し分解、清掃、計測後復旧。リング取替、ピストンピン計測、
連接棒清掃、計測、トルクマーク修正

405. ライナ抜き出し分解、清掃、計測後復旧

406. 主軸受(上下) 開放、清掃、計測後復旧

407. 過給機分解、清掃、計測後復旧。軸受取替、フィルタ取替
408. 燃料ポンプ、ガバナ、ガバナモータ、総分解調整、油量調整。
デリベリバルブ、プランジャ、軸受取替
409. 下記直結ポンプ分解、清掃後復旧。軸受取替
- ①潤滑油ポンプ (歯車)
 - ②燃料油供給ポンプ (歯車)
 - ③清水ポンプ (渦巻)
 - ④海水ポンプ (渦巻)
 - ⑤発電機 L.O プライミングポンプ (歯車)
410. クランクデフレクション計測
411. 主要部カラーチェック施行。連接棒セレーション部及びR部磁気探傷施行。
ピストンリング溝(リングランド) カラーチェック施行
- [補機器]
501. 主空気圧縮機分解、清掃、調整、点検後復旧
- ①ピストン抜き出し分解、計測、リング取替
 - ②主要部カラーチェック施行
502. 下記ポンプ類分解、清掃、点検後復旧
- ①主機冷却海水ポンプ(渦巻) メカニカルシール取替
 - ②主機予備冷却清水ポンプ(渦巻) メカニカルシール取替
 - ③主機予備潤滑油ポンプ(歯車)
 - ④減速機予備潤滑油ポンプ(歯車)
 - ⑤C. P. P. 油圧ポンプ(歯車)
 - ⑥G. S & BILGE ポンプ 真空ポンプ付(渦巻)
ポンプ側カップリング及びキー取替、メカニカルシール取替
 - ⑦燃料移送ポンプ(歯車)
 - ⑧ビルジポンプ(ピストン)
 - ⑨スラッジポンプ(スクリー)
503. 下記冷却器分解、清掃、点検後復旧。陸揚げ後水圧テスト施行、保護亜鉛取替
- ①主機潤滑油冷却器
 - ②主機清水冷却器
 - ③主機空気冷却器
 - ④減速機潤滑油冷却器
 - ⑤発電機潤滑油冷却器
 - ⑥発電機清水冷却器
 - ⑦C. P. P. 潤滑油冷却器
 - ⑧甲板機械潤滑油冷却器(船首冷却器海水入り口側蓋本学支給にて新替)
 - ⑨操舵機潤滑油冷却器
504. スラスト翼研磨及び翼端間隙計測
- [電気部]
601. 電気機器及び電気回路絶縁抵抗測定
602. 自動化設備及び効力試験施行
- [その他]
701. 船底弁開放、清掃、摺合せ後復旧。弁部回り止め取替

702. 空気槽開放、清掃後復旧。各弁は摺合せ、安全弁は圧力調整
703. 下記タンク開放、清掃後復旧
- ①潤滑油サンプタンク
 - ②燃料セッティングタンク
 - ③燃料サービスタンク
 - ④ウエストオイルタンク
 - ⑤燃料油スラッジタンク
 - ⑥潤滑油スラッジタンク
704. ビルジセパレータ開放、清掃後復旧。電磁弁作動確認
705. 配管取替。付帯工事含む
- ①スタンチューブ冷却水入口
 - ②サニタリーポンプ出口～舵機冷却器～船外
 - ③両舷低位キングストン弁共通海水管
706. ビルジウエル及びタンクトップは現状維持
707. 廃油及び給油。廃油証明書提出 潤滑油は本学支給
708. 記録書は3部提出
709. 入渠中、エンジンルームのプレートは撤去し、足場を敷設するものとする。
機関室は現状復旧。
710. 分解箇所のシール、“O”リング、パッキン類、割ピン等はすべて新替

3. 2 平成26年度 合入渠工事

工 期 : 平成27年1月23日～2月4日

入 渠 地 : 内海造船株式会社 瀬戸田工場 (広島県尾道生口島)

【機関部工事内容】

<一般工事>

[主機関]

201. 排気管ラギング新替 (主機カバー出口から過給機出口まで)
202. 排気管ブリキカバー新替 (過給機出口排気管伸縮継手カバー)

[軸系]

301. 推進翼研磨、カラーチェック施行
302. プロペラ軸受間隙計測
303. 船尾管ガードリング取り外し、保護亜鉛取替

[主発電機関]

401. 潤滑油温調弁新替 (本学支給)

[補機器]

501. 下記冷却器分解、清掃、点検後復旧。陸揚げ後水圧テスト施行、保護亜鉛取替
- ①主機潤滑油冷却器
 - ②主機清水冷却器
 - ③主機空気冷却器
 - ④減速機潤滑油冷却器
 - ⑤発電機潤滑油冷却器
 - ⑥発電機清水冷却器

- ⑦C. P. P. 潤滑油冷却器
- ⑧甲板機械潤滑油冷却器
- ⑨操舵機潤滑油冷却器
- 502. 下記ポンプ類分解、清掃、点検後復旧
 - ①主機冷却海水ポンプ（渦巻） メカニカルシール新替
 - ②G. S&BILGE ポンプ 真空ポンプ付（渦巻） メカシール新替
真空ポンプ分解、清掃、点検後復旧も含む
- 503. スラスト翼研磨及び翼端間隙計測
[その他]
- 601. 船底弁開放、清掃、摺合せ後復旧。弁部回り止め新替
- 602. 下記タンク開放、清掃後復旧
 - ①燃料セットリングタンク
 - ②燃料サービスタンク
 - ③非常発電機用燃料サービスタンク
 - ④ウエストオイルタンク
 - ⑤燃料油スラッジタンク
 - ⑥潤滑油スラッジタンク
 - ⑦カロリファイヤタンク
- 603. 配管新替。付帯工事含む
 - ① スタンチューブ冷却水入口
 - ② GS ポンプ出口弁より主甲板貫通フランジ海水パイプ
 - ③ 温水配管（カロリファイヤー） 一部改造、保温材施工
 - ④ 中間軸受冷却海水パイプ
 - ⑤ サニタリーポンプ入り口出口パイプ（現場合わせとする）
 - ⑥ 両舷低位キングストン弁共通海水管
- 604. 海洋生物附着防止装置電極棒新替（本学支給）
- 605. 機関室通風機フィルタ枠新替
- 606. 酸素、アセチレンボンベ新替 （圧力容器証明書付）
- 607. 空気槽肌付き弁摺合せ （40k-20A 発電機用）
- 608. 機関室のプレートアングル及びプレートはシンナー拭きによる、現状維持
- 609. 分解箇所シールの、” O ” リング、パッキン類、割ピン等はすべて新替

3. 3 その他の工事

入渠工事以外にメーカーによる修理工事が13件発生した。大半が新替えしたデータログ及び造船所にて施工した工事の不具合によるものであり、経年劣化に起因する不具合は少なかった。工事内容は次のとおり。

【平成25年度】

- ・ 4月 9日 データログ保障工事（テラテック（株））
- ・ 4月24日 ログプリンター修理工事（テラテック（株））
- ・ 7月 9日 データログ保障工事（テラテック（株））
- ・ 8月22日 データログ保障工事（テラテック（株））
- ・ 8月28日 データログ保障工事（テラテック（株））
- ・ 11月27日 データログ保障工事（テラテック（株））

平成 26 年

- ・ 2 月 10 日 NO.2 GEN 周波数異常調査 (サノヤス造船、テラテック (株))
- ・ 2 月 14 日～18 日 NO.2 GEN 周波数異常調査 (サノヤス造船、テラテック (株))

【平成 26 年度】

- ・ 7 月 7 日～18 日 冷凍、冷蔵庫換装工事 (藤野設備工業 (有))
- ・ 7 月 7 日～18 日 空調機凝縮器掃除、保護亜鉛新替 (藤野設備工業 (有))
- ・ 12 月 18 日 船尾管軸封装置修理工事 (日本ピラー (株))

平成 27 年

- ・ 3 月 10 日 温水配管洗浄 (内海造船)
- ・ 3 月 20 日～29 日 温水配管取り替え工事 (内海造船)

第 4 節 教育関係共同利用拠点関係

1. はじめに

神戸大学大学院海事科学研究科では、第 2 期中期計画「7. 施設・設備・環境分野」の平成 25 年度重点事項として、「練習船深江丸の代船設計、共同利用増加、学内管理制度の検討など、拠点化申請のための準備を行う。」と明記した。その目標に向かって、平成 25 年度実績としては、

- ・平成 25 年 12 月に練習船深江丸教育関係共同利用準備委員会を開催し、深江丸の教育関係共同利用について検討を行った。

- ・平成 26 年 5 月の練習船教育関係共同利用拠点化申請のために、11 大学より参加申請を取り付け、運航予定表を作成した。また、学内関係規則等の新設、改正に向けて一定の目途が立った。

という経緯がある。

平成 25 年 10 月より深江丸教育関係共同利用拠点の申請に向けての活動を開始し、平成 25 年度末には平成 26 年度の申請に向けての申請書案がほぼ出来上がった。今後は申請に向けての事前相談を経て、平成 26 年 6 月に申請書を提出した。

その審査の結果、平成 26 年 7 月 31 日には、文部科学大臣から、練習船深江丸が教育関係共同利用拠点の認定を受けた。認定拠点名は「グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点」である。認定についての通知書(写)を次頁に示す。

これを受けて、平成 26 年 9 月 20 日には、神戸大学本部で開催されている学長定例記者会見(第 9 回)において、同時に認定をうけた学内の他の共同利用拠点 2 施設とともにマスコミ各社に対して周知広報を行った。その際の資料を次々頁以降に示す。

また、平成 26 年 4 月より本格的に開始した練習船深江丸における教育関係共同利用は、認定にともない、より充実を図るべく努力を継続している。



26文科高第378号

平成26年7月31日

神戸大学

学 長 福田 秀樹 殿

文部科学大臣 下村 博文



教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第143条の2の規定に基づき、貴学の「大学院海事科学研究科附属練習船深江丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において、下記3のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点（大学院海事科学研究科附属練習船深江丸）」

2. 認定の有効期間

平成26年7月31日 ～ 平成31年3月31日

3. 特記事項

グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点としての今後の計画を着実に履行すること。

以上



第9回学長会見資料

海事科学研究科附属練習船深江丸の 「教育関係共同利用拠点」の認定について

海事科学研究科長 林 祐司（はやし ゆうじ）

gm_katyo@maritime.kobe-u.ac.jp TEL 078-431-6201

このたび、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船「深江丸」は、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点（拠点名：グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点）の認定を受けました。

練習船深江丸は、総トン数449トン、全長：50m、幅：10m、航行資格：近海区域・A2水域の商船系大型練習船であり、おもに海事科学部グローバル輸送科学科航海マネジメントコース、マリンエンジニアリング学科機関マネジメントコースの学生を対象とした学内船舶実習や、毎年度2回の研究航海など、教育・研究に利用しているほか、海事思想の普及にかかる公開講座その他の地域連携等のイベントも積極的に実施してきました。

教育関係共同利用拠点のうち練習船の類型には、深江丸を含めて全国で商船系2隻、水産系6隻の計8隻が認定されており（平成26年7月31日現在）、今回の拠点認定により、深江丸は、教育関係の利用を広く他大学へも開放し、施設としての練習船のより効率的な利用を実現してまいります。深江丸は、大阪湾および瀬戸内海を主な活動海域とする練習船として、また近畿圏において唯一の「世界につながる海の上の教室」として利用可能な共同利用拠点練習船であり、近畿圏を中心に、瀬戸内海に面する中国、四国、さらには全国の大学等に対して共同利用受け入れの門戸を広げています。また、共同利用航海では、他大学からの利用に備えて、神戸大学大学院保健学研究科の協力を得て、新たに看護師（看護師を意味する船舶運航における職名）を配乗するという体制の整備も行っています。

すでに、深江丸では過去10年以上にわたり、他大学からの教育利用を受け入れてきた実績があり（毎年2大学）、平成26年4月からは、拠点認定にむけて大幅な利用の増加を目指して共同利用を開始しました。平成26年度は、近畿圏を中心に16の大学学部、大学院研究科からの利用受け入れを予定しており、日帰りや1泊2日の航海で、計25日の共同利用の航海を計画しています。9月までに、10の学部・研究科からの利用をすでに実施しました。共同利用以外にも、神戸大学大学院理学研究科との連携による海洋開発に関わる新たな人材育成プログラムなどを予定し、練習船深江丸は今後も学内外ともに連携して教育・研究等への多角的な有効利用を目指しています。

なお、深江丸は、平成27年10月で船齢27年となり、老朽化は否めないため、共同利用の環境整備のためにも、速やかな代替船の新造に向けた活動を開始します。

■本件担当：

大学院海事科学研究科 教授・海技教育センター長 若林伸和（わかばやし のぶかず）

tsf@cs.maritime.kobe-u.ac.jp TEL 078-431-6240

■事務担当：

大学院海事科学研究科企画係 gmsc_kikaku@office.kobe-u.ac.jp TEL 078-431-6211

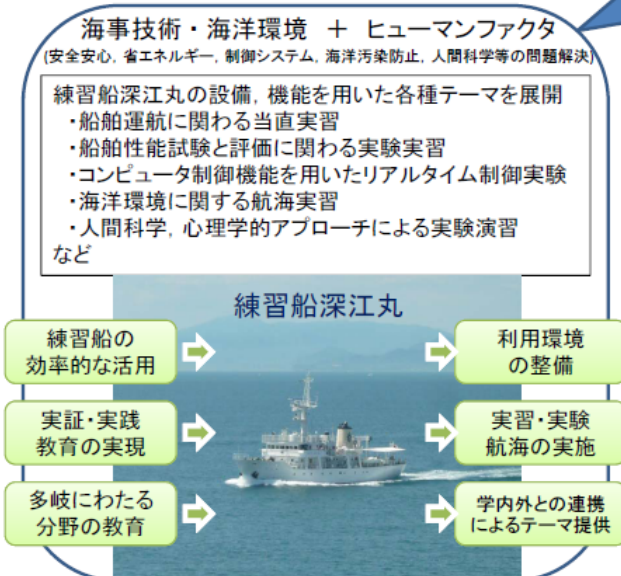
練習船深江丸教育関係共同利用拠点の概要

神戸大学

(グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育共同利用拠点)

目指す教育効果

- ・人間科学・応用心理学のアプローチで問題解決できる人材育成
- ・海洋汚染防止等の技術開発ができる人材育成
- ・大規模制御システム等の研究開発ができる人材育成
- ・安全性・省エネルギー環境技術等の研究開発ができる人材育成
- ・計画立案能力・判断能力・問題解決能力をもった人材育成



練習船 深江丸

449総トン, 全長:49.95m
全幅:10m, 実習定員:48名
航行区域:近海・A2水域

専任乗組員8(教員2, 職員6)
応援乗組員4(教員)
司厨員2

利用大学(予定を含む)

大阪府立大学 中京大学

大阪大学 京都工芸繊維大学 和歌山大学

甲南大学 帝塚山大学 川崎医療福祉大学

兵庫県立大学 大阪国際大学 神戸学院大学

外国の交流協定大学 など



2. 利用実績

平成 26 年度の利用実績の一覧を次表に示す。

利用の大学等は 17 の大学の学部・研究科等にのぼり、航海日数は 22 日、利用日数は 25 日であった。なお、1 航海において複数の大学等により利用した場合も含まれており、機関別ののべでは航海日数 25 日、利用日数は 29 日となる。利用者数は航海ののべで 461 人、利用ののべで 577 人であった。

3. 運営協議会

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸教育関係共同利用運営協議会の概要

平成 26 年度中には、2 回の運営協議会を開催し、さらに 3 度のメールによる持ち回り審議を実施した。

共同利用運営協議会：

第 1 回 平成 26 年 6 月 18 日（水）

第 2 回 平成 27 年 1 月 16 日（金）

持ち回り審議：

平成 26 年 9 月 8 日付議 9 月 17 日審議結果通知

平成 26 年 10 月 16 日付議 10 月 29 日審議結果通知

平成 27 年 3 月 3 日付議 3 月 6 日審議結果通知

以下、巻末に議事要旨を示す。

第 2 章

実習船「白鷗」

第1節 概要

実習船白鷗は、ヤマハ発動機（株）八代工場において建造され震災復興の最中平成7年3月に本学へ引き渡され、実習実験等に活躍している。

第2節 主要目及び主要装備

1. 主要目

全 長	14.96m
全 幅	4.16m
登録長	13.20m
深 さ	2.02m
総トン数	13.0トン
主機関（定格）	285PS／2900RPM
速 力	
（試運転最大）	19.0kt
（巡 航）	13.0kt
燃料タンク容量	1,000×2
定 員	乗組員 3名 その他 21名
資 格	JCI限定沿海

2. 主要装備

- | | |
|-----------|---|
| 1) 主機関 | 水冷4サイクル直列6気筒ディーゼル機関
最大出力 350ps／3000rpm |
| 2) 発電機 | 4サイクルディーゼル 15KVA |
| 1) 航法システム | ① 磁気コンパス ② ジャイロコンパス
③ 電磁ログ ④ レーダー（簡易ARPA）
⑤ GPS ⑥ ロランC ⑦ カラービデオプロッター
⑧ 無線方位測定機 ⑨ 音響測深機 ⑩ 船内指令装置
⑪ 風向風速計 ⑫ サテライトコンパス ⑬ AIS |

第3節 整備内容

【平成25年度】

平成25年	6月 3日	無線局定期検査受検（日産電気）VHF双方向廃局
平成25年	9月30日	プロペラカキ落とし及び磨き（水域株式会社）
平成26年	2月13日	入渠（ヤマハ サービスセンター西宮 担当 花野）
	～ 2月20日	出渠

【平成26年度】

平成27年	2月13日	入渠（ヤマハ サービスセンター西宮 担当 花野）
	～ 2月25日	出渠

第4節 活動状況

1. 平成25年度活動状況

月	運航目的	回数	乗船者（乗組員を除く）
4	実験試運転	1	
	新入生担任アクティビティ	1	学生 10 実習補助 3
	国際交流委員会	1	教員 1 見学者 3
5	神戸港カッターレース	1	教員 1 学生 20
	新入生担任アクティビティ	2	学生 16 実習補助 7
	総合科目2（ゼミ）	1	学生 5 実習補助 2
6	実験試運転	1	
7	リーダーシップ	1	
	東灘子供いろいろ体験	1	警備学生 2 体験者 31
8	実験試運転	1	
	ジャイカ研修	1	研修者 5
9	ボーイスカウト研修	1	研修者 15
	海への誘い	2	学生 78 TA 12
	実験試運転	1	
10	実験試運転	2	
11	3級水先実習補講	1	学生 1
	実験試運転	1	
12	3級水先実習補講	1	学生 1
	実験試運転	1	
1	実験試運転	2	
2	整備入渠回航	1	
	整備出渠回航	1	
3	実験試運転	1	
	海技実習打合せ	1	教員 2

2. 平成26年度活動状況

月	運航目的	回数	乗船者（乗組員を除く）
4	実験試運転	2	
5	神戸港カッターレース	1	教員 1 学生 20
	基礎ゼミ	1	学生 7
	マリン海技実習	1	教員 1 学生 17 TA 1
	ジャイカ研修	1	随行 2 研修者 3
	全日本カッターレース	1	
6	マリン海技実習	3	教員 3 学生 49 TA 3
	基礎ゼミ	1	学生 7
7	マリン海技実習	1	教員 1 学生 17 TA 1
	リーダーシップ	1	学生 18 研修者 10
	東灘子供いろいろ体験	1	職員 3 体験者 36
9	海への誘い	2	学生 77
10	実験試運転	2	
11	基礎ゼミⅢ	1	学生 12 TA 2
12	実験試運転	2	
1	実験試運転	2	
2	整備入渠回航	1	
	整備出渠回航	1	
3	実験試運転	1	
	港湾見学	1	教員 1 学生 2 見学者 3

第 3 章

実習船「むこ丸」

第1節 概要

実習船むこ丸は、平成16年3月に大分県のヤンマー造船（株）にて建造、姫路市の兵庫支店において艀装の後、海上輸送で本学に引き渡され、カッター訓練の警戒や操艇実習、共同研究の実験などに活躍している。

第2節 主要目及び主要装備

1. 主要目

全 長	9.70m	総トン数	3.4トン	全 幅	2.75m
登 録 長	9.33m	定 員	10名	全 深	1.61m
資 格	限定沿海	吃 水	0.89m	最大速力	32kt

2. 主要装備

主 機 関	立形水冷4サイクル 6気筒ディーゼル機関
	最大出力 320PS/3200rpm
逆転減速機	YX-50S 入出力軸異芯形油圧多板式
過 給 機	RHC7W (IHI) 水冷タービンハウジング/油冷式ベアリング
始動電動機	24V 4kw
航海計器	液晶カラーGPSプロッタ

第3節 実験及び整備内容

平成25年

7月 3日	船体・機関整備（新西宮ヨットハーバー）
～ 7月12日	船底・プロペラ塗装
	船底・シャフト保護亜鉛交換
	エンジンオイル・ギアオイル交換
	燃料油フィルター交換
	冷却清水交換
	防食亜鉛交換 マリンギアオイルクーラ側・インタークーラ側
10月21日	航海情報収集実験
12月 9日	航海情報収集実験

平成26年

1月21日	出入港操船の実態調査
7月 9日	船体・機関整備（新西宮ヨットハーバー）
～ 7月18日	船底・プロペラ塗装
	船底・シャフト保護亜鉛交換
	エンジンオイル、ギアオイル、オイルフィルタ2カ所
	クラッチオイルクーラ・インタークーラ防食亜鉛交換
	冷却水ポンプ交換
	冷却清水（クーラント）交換
	サーモスタット交換
	インタークーラ海水漏れ修理
	排気管不具合部修理

第4節 活動状況

平成25年度

月	運航目的	出動回数	乗船者(乗組員除く)
4	新入生向け担任 アクティビティ	1	教員1名 学生9名
	総合科目2	1	教員1名 学生7名
5	新入生向け担任 アクティビティ	1	教員1名 学生9名
	リーダーシップ	1	教員1名
6	リーダーシップ	4	教員4名
7	リーダーシップ	4	教員4名 学生9名
	船体・船底整備回航	2	
8	試運転	2	
9	海事科学船上セミナー	1	学生2名
	技術職員研修カッター 警戒	1	教員1名
10	航海情報の収集解析	1	教員1名 学生5名
	取材撮影	1	教職員3名 学生1名 学外者2名
11	試運転	1	
12	航海情報の収集解析	1	教員1名 学生5名
	試運転	1	
1	出入港操船の実態調査	1	教員1名
2	試運転	1	
3	試運転	2	

年間出動回数	27回	教員、職員	19名
授業	13回	院生、学生	47名
実験、調査、研修等	4回		
その他	10回		

平成 2 6 年度

月	運航目的	出動回数	乗船者(乗組員除く)
4	試運転	2	
5	一年生体験航海 リーダーシップ 全日本カッター レース	1 3 1	教員 1 名 学生 5 名
6	リーダーシップ	5	
7	リーダーシップ 船体・船底整備回航	4 2	教員 3 名
8	係留運転		
9	試運転	1	
1 0	試運転	1	
1 1	試運転	1	
1 2	係留運転		
1	係留運転		
2	係留運転		
3	係留運転		

年間出動回数	2 1 回	教官、職員	4 名
授業	1 2 回	院生、学生	5 名
実験、調査、研修等	1 回		
カッターレース支援	1 回		
その他	7 回		

第4章

実習船「クライナーベルク」

第1節 概要

新しく個性的な授業を目的として平成13年3月に進水し13年が経過する。海外の海事教育機関のヨット授業を参考に、授業という観点から艇種の選定を進め、荒天の海を安全に走れる堅牢性があり、さらに高速な帆走性能を有するという条件があげられた。結果としてこの条件を満たす適切な艇が選定されクライナーベルクは誕生した。「風を動力として揚力を使い走る」という説明と先進的な新素材によるハイテクな装備や艀装品を備え高速で走る帆走体験は、学生たちの知的な好奇心をかき立てている。船内には「海を愛し、船を愛す、たくましく若人よ、育て。荒海に乗り出す勇気を称え、この船を贈る。」と寄贈者小山健一氏の若者へのメッセージプレートが貼られている。

平成25年度の新カリキュラムにより、海事科学部のマリンエンジニアリング学科2年生対象の専門科目「海技実習」のみの授業に運航が縮小されることになった。とは言え受講学生たちが海に乗り出し、セーリングを楽しみ、海や船への夢を膨らませる、その人気に変わりはないようである。

全学共通教育科目「海への誘い」は従来通り実施されおり、全学部の学生たちにも、海やヨットを身近な存在と感じさせている。他に一般市民を対象とした公開講座（平成25年実施）では、夜間航海を含む長距離、長期間の運行も行われている。またこの艇の進水を機にスタートした課外活動のオフショアセーリング部も大学公認団体となり、近隣のレースに参加し、全日本学生帆走選主権に参加する団体として成長し、世界学生外洋帆走選手権（SYWoC、フランス）にも出場している。夏期のクルージング活動では、クライナーベルクは伴走艇として活躍している。

学外団体の使用では、セーリングNPOの活動にも協力し、一般社会人のセーリングの普及や視覚障害者のセーリング体験など、多くの人を海へ誘い、マスコミにも登場して海の楽しさや神戸大学のイメージアップに貢献している。

平成25年には、初の外洋ヨットレース（神戸・横浜間ヨットレース340マイル）に挑戦し、クライナーベルクの持つ性能を充分に発揮する機会を得ている。

第2節 主要目および主要装備

艇名	Kleiner Berg (クライナーベルク)	SAIL No.	5 9 3 8
タイプ	X442	メインセール	47 . 2 m ²
全長	13.5m	ジェノア No1	73 . 2 m ²
水線長	11.2m	ジェノア No2	63 . 7 m ²
最大幅	4.15m	ジェノア No3	48 . 8 m ²
喫水	2.3m	ジェノア No4	39 . 0 m ²
排水量	9,700 kg	スピナーカー	163 . 6 m ²
設計者	NIELS JEPPESEN	(1.5, 0.75, 0.5 oz)	
建造	X-Yacht (デンマーク)	ジェネカーNo1	163 . 6 m ²
バラスト	4,300 kg	ジェネカーNo2	114 . 1 m ²
エンジン	51 Hp (ヤンマー)	最大乗員 限定沿海	23 名
船体材質	FRP	巡航機走速度	7 ノット
リグ	スループ	セーリング速度	1～15 ノット

(1) 平成25年度運航実績（表1）

全学共通教育科目：「海への誘い」 全学部 全学年集中授業 2日（9/10, 9/13）

学校行事：深江祭 試乗会 1日（5/26）

公開講座：6/30, 7/7, 7/13～7/15

課外活動：オフショアセーリング部 27日

全日本学生外洋帆走選手権大会運営艇 5日（3/15～19）

レース参加：神戸・横浜間ヨットレース 4/29スタート、5/1フィニッシュ 6位／11艇中
他、オフショアセーリング部活動を参照

学外依頼：NP0セーリング神戸 8日

技術職員研修会 1日

関西流体力学研究会 1日

取材：eo光学園ハンター 1日

表1 平成25年度クライナーベルク運航実績

月	月出動日数	月乗員数
4	16	195
5	11	267
6	1	37
7	6	129
8	9	201
9	20	195
10	6	6
11	4	49
12	1	20
H26.1	1	15
2	2	15
3	11	80
計	88	1209

表2 平成26年度クライナーベルク運航実績

月	月出動日数	月乗員数
4	5	80
5	12	242
6	8	135
7	3	63
8	5	78
9	3	120
10	2	30
11	2	36
12	1	16
H27.1	0	0
2	2	24
3	3	16
計	46	840

(2) 平成26年運航実績（表2）

専門科目：「海技実習」 マリンエンジニアリング学科 2学年 前期月曜1.2時限 10日

全学共通教育科目：「海への誘い」 全学部 全学年集中授業 2日（9/09, 9/12）

学校行事：深江祭 試乗会 1日（5/25）

学内試乗会 6日（5/30, 6/13, 6/27, 7/18, 10/24, 11/14）

課外活動：オフショアセーリング部 14日

学外依頼：NP0セーリング神戸 11日

取材：広報室（動画de神大「海への誘い」）2日

第4節 整備

(1) 平成25年度整備項目

船舶検査（定期）6/27

定期整備 6日（3/4～9）

船体関係

船底塗装、船体クリーニング、セイルドライブジンク交換、プロペラ塗装
トイレバルブ交換、ステアリングシステム修理

エンジン関係

エンジンオイル交換、フュエルエレメント交換、オイルエレメント交換、

デッキ関係

ヘルムコクピットソール目地修理、デッキクリーニング、ウインチオーバー
ホール、ライフラインゲート調整修理、右舷プライマリーウインチドラム交換
バウパルピット交換、バウローラー修理

リギン関係

マスト・リギン点検、メインハリヤード交換、右舷スピンハリヤード交換、
キッキングストラッププーリ交換

電気関係

航海灯点検、機走灯点検

安全備品関係

パーソナルライト 12個購入、ライフハーネステザー補充 2

ライフジャケット補充（ハーネスタイプ XL 12）

セール関係

メインセール交換、ジェネカー（OR）修理、ジェネカー（B/Y）修理、
スピンネーカー修理（0.75）

その他

シャワーポンプ修理、ジャックスター設置、
ラダー修理

（シャフト電蝕修理、ブレードFRP修理、ベアリング交換、舵角制御溶接修理）

船底洗浄 8月（自主作業）

(2) 平成26年度整備項目

定期整備 6日（3/2～7）

船体関係

船底塗装、船体クリーニング、セイルドライブジンク交換、プロペラ塗装

エンジン関係

エンジンオイル交換、フュエルエレメント交換、オイルエレメント交換

デッキ関係

コクピットチークデッキ交換、プライマリーウインチオーバーホール、
ステアリングホイール革巻交換

リギン関係

マスト、リギン点検、左舷スピンネーカーハリヤード交換

マストトップメインハリシープ交換

電気関係

エンジンバッテリースイッチ（右）交換

安全備品関係

ライフジャケット補充（ハーネスタイプ XL 3）、
セール関係

ジェネカーネーカー購入（A3 B/R、スナッファー）

その他

ライフリング購入2、左右シートバッグ交換、スリングベルトバッグ交換
ステアリングシステム修理（インプットアセンブリー交換）

船底洗浄 8月（自主作業）

第5節 課題

船齢を重ね14年目が始まる。経年劣化による修理や部品の交換が増えて来ているが、メンテナンスを充分に行ない艇の維持に務めることが安全上、教育上必要である。近年の緊縮財政から、このようなヨットを購入することは困難である。近代的な大型ヨットであるクライナーベルクを所有することは大きな財産である。クライナーベルクでの海洋体験は、他の大学ではできない先進的で個性的教育であり、その優雅で勇壮なセーリング姿は本学のイメージ戦略に大きく関わり、本学の掲げる教育目標の一つである「国際海洋人の育成」「グローバル人材育成」に大きく貢献している。

海洋基本法（2007年）が制定され、以下の記載が見られる（28条）。

「国は、国民が海洋についての理解と関心を深めることができるよう、学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進、海洋法に関する国際連合条約その他の国際約束並びに海洋の持続可能な開発及び利用を実現するための国際的な取組に関する普及啓発、海洋に関するレクリエーションの普及等のために必要な措置を講じるものとする。」

「国は、海洋に関する政策課題に的確に対応するために必要な知識及び能力を有する人材の育成を図るため、大学等において学際的な教育及び研究が推進されるよう必要な措置を講ずるよう努めるものとする。」

さらにスポーツ基本法（2012年）も制定され、生涯学習、生涯スポーツ、障害者スポーツ、ライフワークバランス、セカンドライフ、生活の質の向上、地域振興など、海洋教育、海洋レクリエーション・海洋スポーツの普及を通して、一般市民の健康や生活の向上が政策指針として示されている。今後さらに海洋利用にクライナーベルクの活躍の場はさらに広がり、よりいっそうの活躍が期待される。



レース風景



公開講座



クルーズホールド



授業風景



整備前の船底



試乗会（学内）

第5章

繫船池（ポンド）・実習関係

第1節 繫船池（ポンド）関係施設・設備

1-1 設備概要

繫船池（ポンド）には深江丸、実習船「白鷗」および実習船「むこ丸」ならびにクルーザー「クライナーベルグ」のほか、その他の舟艇として、カッター、その他の和船「ろっこう」、「ほくら」が配置されている。繫船池（ポンド）には、これら舟艇を安全に繫船し、また安全な乗下艇ができるように大型専用浮棧橋（ポンツーン）2台、小型専用浮棧橋（ポンツーン）1台および南側防波堤沿いに主にクライナーベルグを繫船する専用浮棧橋（ポンツーン）が配置されている。また、艇庫に床上操作式クレーン（吊り上げ能力2.8トン）およびスロープが配置され、カッター、和船および小型モーターボートの上下架用として用いられている。モーターボート「青雲丸」は、その利用頻度と整備労力の軽減のために平成26年度末をもってその用途は廃止され、海技教育センターの所管外となった。しかし、課外活動での利用と安全確保を目的として平成27年度以降も利用される予定である。

1-2 保守整備

平成22年（2010年）6月、ポンド北側の大型専用棧橋東側に設置されている小型専用棧橋（むこ丸係留用）の異常が発見され、係留用チェーンの調整により復旧したが、同年7月の強風とそれに伴ううねりのために再び移動した。以降、小型専用棧橋は基本的に使用せず、短期間の小艇の係留利用程度とする状況が継続している。ポンドの水深を確保するため、そして数年後に建造が期待される新深江丸（名称未定）の係留に備えて、平成27年2月からポンドの浚渫工事が行われている。

第2節 実習概要

2-1 海への誘い

➤ 授業のテーマと目的

世界の貿易港湾都市・神戸市に位置する神戸大学。海に拓かれた総合大学である神戸大学の学生は、海に親しみ、海を知り、海に学び、自然との触れ愛から科学の基本を学ぶことは、社会人として不可欠な素養と言える。この科目は、体験的な学習を通じて、海・船を体感しながら自然に触れることにより、知的探求心や協調性を育み、自然（海・船）と人間との絆を知る基礎を育むことが目的である。

➤ 授業概要

神戸大学に学ぶ全学部・全学生を対象とした総合教養科目である。海事科学研究科附属練習船深江丸の定員（64名）と乗船できる学生数の都合により、食費・テキスト等の費用支出は必要であるが、例年300名を越える履修希望者から抽選で選ばれた84名の学生は、以下のような授業内容を4班編成で受講する。

1. 練習船「深江丸」による船舶の概要と運航体験（中型船の1泊2日の体験航海）
2. エンジンボート：実習船「白鷗」を用いて、小型船舶の操縦を体験し、機関推進要領を体得し、風浪等の影響から自然を実感する。（機関による推進体験）
3. 大型クルーザーヨット「クライナーベルク」による帆走体験（風・帆による航海）
4. 海と船に関する海事講義及び海事博物館見学

➤ 授業評価アンケート

2014 海への誘い アンケート結果

77名回答（回答率 100%） 2014 年 09 月 12 日
調査

No.	学部	性別	学年		評価 1	コメント 1		評価 2	コメント 2		評価 3	コメント 3	評価 4	コメント 4
1	工	男	2	問 1	4	なし	問 2	5	特に、セーリング。動力なしで風だけで進むのがとてもたのしかった	問 3	5	なし	問 4	なし
2	農	男	1	問 1	5	ヨットへの興味が深まった	問 2	5	ボート、クライナー、深江丸すべてたのしかった	問 3	5	普段は経験しないことなのでよかった	問 4	クライナーが特に楽しかった。エンジンボート、深江丸では船の思い出に動かすことの難しさを知ることができてよかった
3	海	男	1	問 1	4	仕事の内容	問 2	4	セーリングの風を受けるといいう気持ちよさがよかった	問 3	5	海の競技の楽しさを知った	問 4	セーリングの時間を長くしてほしかった
4	経営	女	1	問 1	4	普段入れない場に入れたりして興味が湧いた	問 2	3	高松の上陸や、機関室での経験はたのしかった、ほかはたいくつだった	問 3	4	深江丸で海を眺めていた時間は有意義だった	問 4	クライナーは乗員が多く暇なときがあった。専門的な話をちゃんと解りやすく説明していただいて文系の自分もついていけた
5	海	女	2	問 1	5	実際に船を運航している乗組員の方達から興味深い話を聞いたため	問 2	5	海技実習ではおこなわれなかった、エンジンボートでの球（ひとに見立てた）を救出するゲームでは、自分で考えてどのようにすれば早くできるかを操作で	問 3	5	なし	問 4	ありがとうございます

								きたことがたのしかった						
6	発達	男	3	問1	5	もともと海は好きでなかったが、この講義を通して好きになった。特にクライナーベルクは楽しかった。新感覚！！	問2	5	どの船もそれぞれに特徴をもっており充実していた	問3	5	深江丸で出会えた仲間最高でした	問4	高松の滞在時間がもう少しほしかった
7	工	男	3	問1	5	船の機械、レーダーやエンジンを目の当たりにして、技術のかたまりという印象をうけた	問2	5	授業時間と休み時間の比率が良かったと思います	問3	5	船の規律を感じ、日常生活にフィードバックできると感じられた	問4	なし
8	理	男	1	問1	5	今までみたことのない、機械などにふれて興味がわいた	問2	5	新しい友人などもつくれてとてもたのしかった	問3	5	4日間という短い期間でしたが、今までにない経験がたくさんできてとても有意義でした	問4	船でのご飯がとてもおいしかった
9	医	女	1	問1	5	船員さんたちの自分の仕事に誇りを持っている姿がかっこよかったです	問2	5	班毎に役割分担してしごととして、すこしでもなかよくなれてうれしかったです	問3	5	貴重な経験ばかりで、忘れられないじゅぎょうでした	問4	なし
10	工	男	1	問1	4	乗船楽しかったです	問2	5	ヨットがたのしかったです	問3	5	いろいろな発見が出来ました	問4	レポートが多すぎます。少しへらしてほしいです
11	海	男	1	問1	5	今回の海への誘いにおいて、航海科へと進む決心がしっかりとできたのでよかった	問2	5	普段できないことができた。これが一番楽しかったことだと思う	問3	5	より深く、船や海について知ることが出来た	問4	不満はとくにありません

12	法	男	2	問 1	5	船に対する興味が深まったし、海のすばらしさと恐ろしさも存分に味わうことが出来た	問 2	5	ほかの学部、ほかの学年の人たちと交流するのはとても楽しかった。共に高松を観光したり、一緒に食事をしたりクライナーやエンジンポートの実習で協力し、友情を深めることができた	問 3	5	他学部の友人を作ったり海や舟について知識を身につける中で自分の視野が大きく広がった。	問 4	非常に充実した4日間でした
13	海	男	2	問 1	5	実際に船舶を操船できたのはとても良い経験になった	問 2	4	アクティブな活動ができた非常に刺激的だった	問 3	5	友好も深められてとても有意義な4日間でした。	問 4	深江丸の実習では少し休憩時間が短く当直や船長機関長の講義で集中が掛かってしまうことがあった
14	医	男	1	問 1	5	この授業を受けるまで海や船の知識がほとんどなかったので、ロープの結び方からクライナーの進む仕組みなどいろいろ学びました	問 2	5	特に、クライナーが楽しかった	問 3	5	普段では経験することのできない貴重な体験をこの講義で出来たとおもいます	問 4	改善点は特になし。ロープ結びはいくつか日常生活でもつかえそうなものがあったためになったなと思いました
15	医	女	1	問 1	5	船は漁船のイメージがなかったけど、スポーツ等も含めいろんな種類をしり、実際乗ってみて興味がわいた	問 2	5	エンジンポート・クライナーベルクは操縦に参加している感があり、海にも近く、とくに楽しかった	問 3	5	講義内容も体験の内容もはじめてのことばかりで、たくさん新しいことが学べた	問 4	参加する前と後で海への興味や知識の量がだいぶ違います。参加してよかったです。丁寧に教えてくださってありがとうございました
16	海	男	1	問 1	5	陸上とはちがひ、様々な要因で海や航海に強く心を打たれました。	問 2	5	教員の方々の話は面白く、新しい友達も出来たので、とても楽しかったです	問 3	5	なかなか体験できないようなことをさせていただけのため経験としてとても有意義でした	問 4	もうすこし船の上での厳しさというものも教えていただければもっと有意義な

														講義になると 思います
17	発 達	男	1	問 1	4	船が動いたり、 方向を変える仕 組みあの大きな 船体が水に浮く 仕組みなど船に 関する興味深い 知識を多く得る ことができた。	問 2	3	楽しむためのプ ログラムや時間 も多くあった が、班分けも細 かく自己紹介等 もなかったため あまり多くの 人と交流を深め られずそれが少 し残念だった。	問 3	4	普段関わること の少ない船に関 する仕事につい て多くしること ができた	問 4	自分は偶然もと から親しい人が 船に乗り合わせ たため自由時間 等を有意義に過 ごせたが人によ ってはそうした ところで苦労し たのでは
18	工	女	1	問 1	5	航海士や機関士 の方々がすごく 格好良かった	問 2	4	講義は正直しん どかったけど、 実習はとてまた のしかった	問 3	5	エンジンポー ト、クライナー ベルク、深江丸 に乗れてよかつ た。楽しかった	問 4	クライナーベル クがすごく気持 ちよくて楽しか った。また乗っ てみたいと思っ た
19	経 営	男	1	問 1	5	船から見る景色 や船で旅するこ とに多くの魅力 を感じた。	問 2	5	海への誘いで知 り合った仲間と 高松や船内で楽 しく過ごすこと ができた	問 3	5	船で旅行に行っ てみたくなった し、船に関する 仕事も興味を持 つことができた	問 4	初日のプログラ ムに実際に海に 触れられるもの がほしい。（座 学＋ロープワー ク）話を聞くだ けでロープに触 れるだけではお もしろくない。 2日目以降は満 足です。ご飯、 おいしかったで す
20	工	男	1	問 1	4	正直なところ 海・船には全く 興味がなく、単 位が目的であつ たが、いろい ろな経験をして、 少し興味が出た	問 2	4	クライナーベル クが一番楽しか った	問 3	4	一生に一度しか できないような 経験ができて有 意義であった	問 4	学生との話が楽 しく、先輩にい ろいろ情報をも らうことができ よかった
21	海	男	2	問 1	4	実際に船で働い ている人を見 て、船は大人数 が集まって初め	問 2	4	船で四国まで行 くことができ よかった	問 3	5	船での生活は皆 との協調性がと ても大切で、こ れから社会に出	問 4	

						で動くと言うこ とを感じた						るとき必要だと 感じた		
22	工	男	2	問 1	5	海上に出たとき に集中力のメリ ハリが必要だ なと思った。し かしそれ以上 に楽しかった のもあった。 船への興味 がとても出た	問 2	5	エンジンボ ートの舵取り やヨットの乗 船が初めての 経験でとても 楽しかった	問 3	5	こういう機会 じゃないと海や 船について学 べない。しか も、理解でき て興味がわい てきたので、 非常に有意義 だった	問 4	
23	工	男	2	問 1	5	今まで船に乗 ったことがな かったので、 構造や機関を 初めて知って 、興味を持て た	問 2	5	船の中で生活 するというも ちろんですが 、ヨットに乗 ったりエンジン ボートを操縦 するのは、減 多にできない あるいは一生 できない経験 なのでとても 楽しかった	問 3	5	船に関する知 識だけでなく 、海で生活す るうえでの注 意や海運業の 実態なども知 れたので、と ても有意義に 過ごせた	問 4	深江丸の乗船 中について、 時間が詰まっ ていたの分か りましたが、 停泊以外にも もう少し自由 時間がほしか ったです
24	法	女	1	問 1	4	船に乗って風 に当たったり 、景色を見る のは楽しかつ たし、また乗 りたいと思 う	問 2	5	友達もでき たし、減多に ない乗船を経 験できて楽し かった	問 3	4	講義に興味 を持てなかつ たことをのぞ いてはとても よかった	問 4	食事の量が多 くて、残す人 が多かったか ら、もったい ないと思う
25	工	女	2	問 1	4	こんなに船が 大変と思わな かった。奥が 深い	問 2	4	実習楽しか った。深江丸 はずっと立ち っぱなしなの がしんどい	問 3	4	船酔いした	問 4	用言われると 難しかった。 船の冷房寒い 。ヨット楽し かった。エン ジンボート 楽しかった
26	工	男	1	問 1	4	エンジンボ ートが楽しか った	問 2	5	エンジンボ ートが楽しか った	問 3	5	体験はすべて 楽しかったし 教養にもな った	問 4	レポートが少 し大変過ぎる 気がする
27	経 済	男	1	問 1	3	船の設備や操 縦など普段の 生活では経験 し得ないこと を学べたので よかった	問 2	5	マリンスポ ーツも初めて の経験だった けどとても 楽しめて、深 江丸の乗船学 習	問 3	4	普段では体験 できない貴重 な経験ができた	問 4	改善点は特に ありません。 満足しています

									で友達の輪も広がった					
28	海	男	2	問1	4	普段の授業で行われない内容だったので知識の幅が広がってよかった	問2	4	全体を通して授業を楽しく受けることができよかったです	問3	5	クライナーブルクや乗船などで普段から経験できないことを体験できて有意義でありました	問4	特にありません。4日間ありがとうございました
29	工	男	2	問1	5	乗員がかっこよかったし、ほんの少しではあるが船の知識もついてまた乗ってみたいと感じた	問2	5	様々な学部の友達ができたとし、景色はきれいだったし、知識もついて楽しめた	問3	5	普通なら一生ないような貴重な経験となり、得たものが多かった	問4	レポートの提出期限が早い。夏季休暇が終わってから出せたり、メールでの提出もできるようにしてほしい。全員が下宿しているわけではなく、キャンパスから遠いところにすんでいたりすると、とても不便である
30	理	男	1	問1	4	船は私たちの生活を支えているということが理解できた	問2	4	ヨットでエンジンを使わず風の力だけで走っていくのが楽しかった	問3	4	普通に生活していたら、関わらないようなことが体験できた	問4	
31	農	女	2	問1	5		問2	4	”ふかえまる”が一番楽しかった	問3	4		問4	講義がけっこう適当だったと思う
32	医	女	1	問1	5	船の操縦の仕方などまったく分からなかったが、少しは分かった。特にヨットが風をうまくうけてゆくことで、風下でも風下でもどちらでも動けることに驚いた	問2	5	深江丸からみた景色はとてもきれいだった。クライナーブルクでうけた風はとても気持ちよかった。なかなか普段できない経験だったので	問3	5	海への誘いの通り、普段なかなか接することのない海と触れ合えて自然のすごさが分かった		

33	工	女	1	問 1	5	私はあまり泳げないので海は怖いというイメージしかありませんでしたが、海を少し好きになりました	問 2	5	今までセーリングなどしたことがなかったので、クライナーベルクが一番楽しかった	問 3	5	海や航海についての知識が増え興味が持てるようになった	問 4	タイタニック号をもとにした授業をもっと聞きたかった
34	経営	男	2	問 1	4	新鮮だった	問 2	5	友人が出来ました	問 3	4	ご飯がおいしかった	問 4	自由時間を固めてほしいスケジュールの改訂版を配っていないのに当たり前のようにそのスケジュールで進むのはどうかと思った
35	理	男	2	問 1	4	船についてさまざまなことを知ることが出来た	問 2	2	貴重な体験だったがつまらなかった	問 3	4	船について知ることが出来た	問 4	料理がおいしかった
36	経営	男	1	問 1	5	単に知らないことが数多くあったので理解が深まった	問 2	5	大型ボートなどこれまで乗る機会がなかったので体験してみても楽しいものだと実感でき非常に興味を持った	問 3	3	有意義な体験であったが、ロープワーク以外の授業にやりがいを感じる事が出来なかった	問 4	せっかく船に乗ったのに座学が長いのがつらかった
37	工	男	2	問 1	5	白鷗の操縦、ヨットの操作、船橋、機室の当直を経て深まらないわけがない	問 2	5	うどんも食べられてよかった	問 3	5	一生に一度のくらいのとて有意味な経験でした	問 4	エンジンボートが早く終わりすぎて暇だったので長くってよかった
38	工	男	2	問 1	4	最初は海にも船にもなんの知識もなかったが、今日の海へ誘いを通して多くを学ぶことができた	問 2	5	普通ではできない体験をたくさんさせてもらった	問 3	4	海に対する興味がわいた	問 4	たのしかった

39	経済	女	5	問1	5	操舵の体験や機関室の見学を通し、船がどういう仕組みで動いているのかがよく分かったと同時に座学を通し海や船が我々の生活にいかに関係しているのかを知ることができ、とても興味がわきました	問2	5	日常では味わえない経験をすることができました。他学部、他学年の友人ができて本当に貴重な経験になりました。船内での生活のマナーなどはこれからの生活にも役立てていきたいと思っています	問3	5	大変有意義だった	問4	ありがとうございました
40	工	男	3	問1	5	いろんなことが学べてよかった	問2	5	友達が出来ました	問3	5	高松で飲めてよかった	問4	自由時間をもっと長くしたらいいと思った
41	法	男	2	問1	5	船といっても漁船のイメージしかなかったが経済や人の運搬や流通に大きな役割を商船や客船がもっていることを学んだ	問2	5	化学部の人と知り合いになれてよかった	問3	5	この授業以外では4年間乗ることのできなかったであろう、深江丸やエンジンボート、クライナーベルクに乗船できてよい体験になった	問4	打ち解けてきた後半が楽しかった
42	工	男	1	問1	3	もともと少しは興味があった	問2	3	友人がそもそもいたから大丈夫だった	問3	3	有意義かどうかは自分自身で決まるので、有意義になるようにします	問4	同じ解説を4回くらい聞いた
43	工	男	1	問1	4	風をどう利用すれば効率よく進めるかななどを物理的に考えるとところが面白かった	問2	5	新しい友達ができ、内容も充実していた	問3	5	普段は体験しないことを体験できた	問4	抽選時に配布されたプリントに所持品をもう少し詳しく書いてもらいたいのと、テキスト代を抑えてほしかった。
44	発達	男	2	問1	5	具体的な感覚はなかったが、どのように船が進むかを知れてよかった	問2	5	高松に上陸するという目的もあったよかった	問3	5	これから船でどこかに行ってみたいという気持ちがあった	問4	ごはんもおいしく、船などの体験も面白かった。ロープワークはあまり楽し

														くなかった。それならカッターなど、ほかの事を経験したかった
45	経営	男	2	問1	3	体験としては、楽しく、新しい世界をしれたのでよかった	問2	4	体験し難いことがたくさんあり、また指導もよく行き届いていた	問3	3	有意義よりも、楽しいという気持ちが大きいため	問4	良く練られてよいスケジュールでした
46	理	男	2	問1	5	海事科学部に憧れた	問2	5	海事科学部に入ればよかった	問3	5	海事科学部は職業に直接つながる学部だと思いい、憧れる	問4	ナシ
47	工	男	1	問1	4	船が進む仕組みに興味を持った	問2	5	クライナーベルグが楽しかった	問3	4	船に対する知識が深まった	問4	楽しかったです
48	工	男		問1	5	船の機関部が、自分の専門科目と重なり、興味がわいた	問2	5	クライナーベルグが楽しかった	問3	5	初めて船の機関を体験でき、貴重であった。	問4	普段体験できないマリンスポーツを通じて、自然と触れ合うことができ、非常に有意義でした
49	海	男	1	問1	5	今まで船の仕事という航海士しか思い浮かばなかった。しかし、機関士の姿をみて、船の奥深さを知った	問2	5	全ての授業に興味を持った	問3	5	暇な時間がなく、一日を通して、海や船を身近に感じる事ができ、有意義だった	問4	どれをとっても有意義で、また船に乗りたと思った。そして、前より海や船について詳しくなれたと思います
50	農	女	2	問1	5	船での生活は生まれて初めての経験だったので、多くの驚きがあり、また、このような機会があれば参加したいと思う	問2	5	普通ではなかなか経験できないことをたくさん体験できた	問3	5	緊急時の対策や普通に船に乗る時の注意点等今まで気に留めることがなかったことを知ることができ、有意義だった	問4	前半が講義だった班は抜ける人が結構いたと聞いていたので、先に一度集まるといいと思う
51	経営	男	1	問1	5	講義だけでなく、実際に体験	問2	4	エンジンボートの救出レースが	問3	5	普段できないことがたくさんあり、楽しかった	問4	3日間にしてほしい

						も出来たので理解しやすかった			盛り上がって楽しかったです					
52	経営	男	2	問1	5	運転、景色	問2	5	普段できない事が経験できた	問3	5	知識が深まった	問4	開始予定時刻よりも前から始めるのはやめてほしい
53	工	男	1	問1	5	また船に乗りたくなった	問2	5	船に乗るのは13年振りですが、とても楽しかったです	問3	5	船橋の中を見るなどとても有意義な事ができた	問4	また受けたい
54	経済	女	1	問1	4	あまり、海などに行ったこともなかったですが、深江丸に乗り、船のことを学び、セーリングによって海の風の快さを知ることができ、海が大好きになりました	問2	5	海から見る景色が最高でした。また、班のメンバーも面白く、楽しく過ごせた。普段出来ない経験ができ、充実した4日間でした！	問3	5	とても有意義でした！4日目のセーリングと救助訓練が個人的に1番充実した日に感じました！	問4	TAさんとも何人か仲良くなれましたし、学部が違う同期や先輩ともたくさん話せて、人の輪を広げることが出来ました！
55	経営	男	1	問1	4	海や船について学ぶ機会が今までなかったのので、色々と知識を学ぶ事ができてよかった	問2	4	普段乗れない船、ボート、ヨットに乗れてよかった	問3	4	普段は味わえない体験が色々出来てよかった	問4	レポートの採点、甘めをお願いします！
56	農	男	1	問1	5	実際船にのってみて、初めて分かったことがたくさんありました	問2	4	クライナーベルグとエンジンボートが一番楽しかったです	問3	5	普段はできない貴重な体験がたくさんでき、とても有意義でした。	問4	良い経験になりました

57	発達	女	2	問 1	4	海は好きだし、船も機会があれば乗ってみたいと思っていた。今後、この経験が活きるかは分からないが、貴重な経験だった	問 2	5	深江丸の乗船実習も、学校での講義も、楽しい雰囲気だった。指導して下さる方々が優しかったので、やりやすかった	問 3	4	我々は、今後船に乗ってエンジンに触ったり、舵を取ることはあまりないと思うので、専門的な部分よりは、船や海、あるいはそれを取り巻く環境についての知識をもう少し得たかった	問 4	遅刻者や、時間を守らないものに対して、厳しいのか甘いのか、よく分からなかったのですが、はっきりしてほしい
58	医	女	1	問 1	4	今まで興味はなかったのですが、深江丸の乗船や船の構造のしくみなどを知り、今ままで知らなかった世界とふれ合うことで理解や興味が深まりました	問 2	4	海や船への興味が深まり、ごはんがおいしく、友達もでき、とても楽しかったです。ただ、少しつかれました	問 3	5	1、2の同じ理由からとても有意義でした	問 4	この二日間とても有意義な時間をすごすことができました。ありがとうございます
59	農	男	2	問 1	5	実際に海で走る船で風に当たることにより、海への親近感が深まった	問 2	5	非日常な生活が送れただけでも半分楽しかった。不満に思うところもほとんどなかった。特にクライナーベルクと、深江丸での船の操作は楽しかった	問 3	5	普通には生活しては絶対できないような特別な経験ができた。今後の生活にいきるかどうかは別としても、経験できただけで有意義だと感じた	問 4	深江丸の食事があった以上においしく、とても快適に生活できた高松での自由時間がもうすこしあればより楽しくなると思う
60	海	男	2	問 1	5	とても興味深かった	問 2	5	友達もふえたし楽しかった	問 3	5	仲間も増え海が船に関心をもつことができ、それについて知ることができた	問 4	とても楽しかったです
61	発達	女	2	問 1	5	「セーリング」の講義にて「ア	問 2	5	他の学部の人との交流ができ、	問 3	5	「4日間集中して」というのは	問 4	服装や持ち物の指示が事前に知

						メリカスカップ」の紹介があったが、100 数年間の歴史的事実と絡んでいて単に海だけを学ぶのではなく知識が深まった。深江丸に搭載されている走錨レーダを知った			特にグループワークにて限られたメンバーで競ったりしたので楽しめた			夏休みのような時間がある時にしかできないので講義を通して海事を学べるのはよかった		らされたもののみでは分かりにくかった。初日に配布された「海への誘いテキスト」を事前に渡してもらえよう改善してほしい
62	工	男	1	問 1	5	風が気持ちよかった	問 2	4	香川でうどん巡りできたのがよかった	問 3	5	一生できない体験をできてよかった	問 4	空調が寒かった（深江丸以外）
63	工	男	2	問 1	4	海洋工学について多くの知識と経験が得られた	問 2	4	未経験のことがたくさんあって楽しかった	問 3	5	この経験は将来どこかで生かせると思う	問 4	集合場所や実施内容で TA と教授の間で確認できていないところが複数見られた。導入部で説明不十分なところがあった。
64	経済	男	4	問 1	5	船と機械がどのように動かされているのか知ることができた	問 2	4	興味深い体験が多くできた	問 3	5	単位という意味で当然有意義だけでも、それ以上に自分知らなかった世界を知ることができて楽しめたと思う	問 4	陸上 2 日目の体験は時間がやや長かった感がありました。後 4 日が自分ひとりだけだったのでどこか消極的になってしまった。受講条件に年齢をつけてもいいのでは
65	海	男	2	問 1	5	船乗りになる	問 2	5	ご飯がおいしかった	問 3	5	足りない単位がもらえた	問 4	なし
66	海	男	1	問 1	5	実際に舵を取ることができたのでよかった	問 2	5	実習が多く体験を通して学ぶことができたのでとても楽しかった	問 3	5	ロープワークは今後活用していきたい	問 4	船橋や機関室など実際に見学して改めて船への興味が強くなった。将来は航海士を目指す

67	経営	男	2	問 1	5	今後機会があればヨットに乗ってみたいと思う	問 2	5	すべての実習において船・ヨットの楽しさを感じることができた。高松よかった。	問 3	5	なし	問 4	三日目の朝、雷がなっていたので悪天候の場合のアプローチが十分なのか不安だった
68	工	男	1	問 1	5	船の操作や仕組みがわかってよかった	問 2	5	当直実習や授業も面白かったが船での生活をできたことがとても楽しかった	問 3	5	航海の知識も増え興味を持てたことはよかった	問 4	なし
69	法	男	2	問 1	4	深江丸実習中すれ違う船の種類が異なった	問 2	2	エンジンボートは楽しかったが、深江丸の講義、当直はそそられるものがなかった	問 3	3	普段、大学の講義では学ばないような知識を吸収できた	問 4	深江丸での講義の間の休憩が短い
70	海	男	2	問 1	5	授業で学んだことを実際に体験することで船の操船についての理解がかなり深まった	問 2	5	思いがけず高松上陸があり楽しめた	問 3	5	実習の前に深江丸の航海を体験することができた	問 4	実習に無関心な生徒が多かったように感じた。海事博物館の説明が知識不足に感じた。
71	海	男	1	問 1	5	深江丸よりもしくはそれ以上に大きな船を自分の手で運転したいと思いました	問 2	5	友人もでき船旅を楽しむことができとても楽しかったです	問 3	5	夏休みのいい思い出ができました	問 4	最初にアイスブレイクがあるといいと思います
72	農	男	2	問 1	4	セーリングが気持ちよかった	問 2	4	同上	問 3	4	船内食がおいしかった	問 4	先にモーターボードやセーリングをしたほうが中が深まるので深江丸があとがよかった
73	経済	男	2	問 1	4	エンジンなどの仕組みはややこしかったが船の上での生活にためらうことはなくなったともう	問 2	5	香川に上陸できたこと知らない人に出会えたこと、20歳になりあまり体験できなかったことができてよかった	問 3	5	実習の機会が多かったので身をもって体験できてよかった	問 4	ロープワークよりもカッターとかカヌーをやってみたかった

74	経営	男	2	問1	5	TAさんの教えに従って深江丸のレーダーを個人的触らせていただきました。普段触れないもの上とても高性能で面白い器具だったので楽しくためになりました	問2	5	エンジンボート、暗いなーベルク、深江丸とたくさんの船に乗せていただきました	問3	5	1日を有意義に過ごせた。とても健康的でかつ楽しく充実した4日間でした	問4	なし
75	農	男	1	問1	5	船が動くときには外からのさまざまな影響に動いてなくてももっと知りたいと思った	問2	5	クライナーベルクなど今まで体験したことのないことが多くできました	問3	5	さまざまな講義、見学体験などで4日間という短い時間であったが充実した4日間だった。	問4	まったく知らない世界に入ってしまったわけだが新しい友達もでき、海や船のことなども新しく知ることができ楽しく4日間過ごすことができました
76	海	男	5	問1	5	海上での生活に対するイメージが深まる授業であった	問2	5	ヨットという乗り物に人生で始めて乗った。よい体験だった	問3	5	なし	問4	海事科学部としてはもっと深くいろいろなことを知りたかった
77	経営	男	1	問1	5	普段入ることのできない場所に入れて知識が深まった	問2	5	深江丸のご飯がおいしかった	問3	5	この授業でないと体験できないことがたくさん会ったともいます	問4	高松に行くこと事前に言うておいてほしかったです。（あまりお金を持っていっていませんでした。）

5	49 (64%)	5	54 (70%)	5	58 (75%)
4	25 (32%)	4	18 (23%)	4	15 (20%)
3	3 (4%)	3	3 (4%)	3	4 (5%)
2	0 (0%)	2	2 (3%)	2	0 (0%)
1	0 (0%)	1	0 (0%)	1	0 (0%)

計	77 (100%)	計	77 (100%)	計	77 (100%)	
	<u>5</u> - 5 - 5 41		<u>4</u> - 5 - 5 6		<u>3</u> - 5 - 4	1
	<u>5</u> - 5 - 4 0		<u>4</u> - 5 - 4 5		<u>3</u> - 4 - 3	1
	<u>5</u> - 5 - 3 1		<u>4</u> - 4 - 5 5		<u>3</u> - 3 - 3	1
	<u>5</u> - 4 - 5 6		<u>4</u> - 4 - 4 5			
	<u>5</u> - 4 - 4 1		<u>4</u> - 3 - 4 2			
			<u>4</u> - 2 - 4 1			
			<u>4</u> - 2 - 3 1	計	77 (100%)	

「海への誘い」授業アンケート

このアンケートは『海への誘い』の授業について、皆さんの感じたことや思ったことなど、率直な意見を聞き授業の改善に役立たせる目的で行うものです。該当する番号に○印を付け、できるだけたくさんコメントを付記してください。

◎あなたの学部と性別、学年を教えてください。

学部 (男 女) 年生

1. 海や船への理解や興味は深まりましたか？

1. まったく ない	2. あまり ない	3. ふつうである わからない	4. 少し ある	5. とても ある
---------------	--------------	--------------------	-------------	--------------

具体的に一言

2. 楽しかったですか？

1. まったく 楽しくなかった	2. あまり 楽しくなかった	3. ふつうである わからない	4. 少し 楽しかった	5. とても 楽しかった
--------------------	-------------------	--------------------	----------------	-----------------

具体的に一言

3. 有意義でしたか？

1. まったく有意 義でなかった	2. あまり有意義 でなかった	3. ふつうである わからない	4. 少し有意義で あった	5. とても有意義 であった
---------------------	--------------------	--------------------	------------------	-------------------

具体的に一言

4. 各種目やその他の感想や要望、改善点などを自由に記述してください。

2-2 リーダーシップ

➤ 授業のテーマと目的

海上における実習とリーダーによる講義を通じて、海事社会における将来のリーダーとしての素養が身につくことを狙っている。この授業は、船内における明瞭な意思伝達、効果的なリーダーシップの発揮等、ヒューマンエラー事故防止対策として、コミュニケーション能力等が資格要件として追加された STCW 条約の 2010 年マニラ改正以前から導入している科目である。特に、カッター等の帆走を通じて、自然界への対応能力や自己保全能力を身につけるとともに、倫理観を備えたリーダーとしての素養を身につけ、海事社会におけるリーダー像の理解を目的としている。

➤ 授業概要

本教科は、海事科学への導入基礎とした選択科目であり、特に、グローバル輸送科学科航海マネジメントコースを習得する学生には必修に等しい科目である。グループでの行動を行うことにより、団体生活に不可欠なチームワークの重要性と協調性を理解し、リーダーとしての指導力を涵養する。授業の総まとめと位置付けられるカッター（5 艇）を用いた 2 泊 3 日にわたる巡航は、各艇の計画密度が航海の成果に直接反映される極めて実践的な授業である。学生は、深江（海事科学部ポンド）←→泉佐野（旧南海フェリー埠頭付近）間の総航程約 40 海里、過酷な条件での艇上団体生活を通じて、チームワークの要諦を理解しながら、協調性を育み、少しずつリーダーとしての素養が修得される。本教科は、講義と海上での実習とで構成され、体験型の講義・演習であるので、全出席が評価基準である。

<リーダーシップ>



写真 1：帆走・とう漕中のカッター



写真 2：他艇の到着待機中



写真3：サバイバルトレーニング



写真4：泉佐野港出港（田尻港へ）



写真5：快調 帆走中



写真6：泉佐野港出港（深江へ）

2-3 海技実習（マリンエンジニアリング学科対象）

（ Maritime Sport & Boat Handling ）

平成25年度より学科改組に伴う新カリキュラムとなった。平成26年度マリンエンジニアリング学科2年生の専門科目として、前期に月曜1,2時限で開講されている。クルーザーヨット、カッター、小型船操縦（白鷗）、結索（ロープワーク）の初歩技術を実習し、専門分野概論、安全講習などの講義が実施されている。「海」や「船」に親しみ、海事科学専門分野への興味を深めることや安全への意識を高め、国際海洋人の教養としての基礎体験をしている。

海上での実習のため、雨天、強風、猛暑など自然条件に左右され危険度も高く、実習学生数に比べて、多数の教員が指導や救助担当に携わり、コストの高い授業ともいえる。学生のアンケートからは、「海」や「船」への興味向上や憧憬を表現した回答が見られる。学生にとっても、教員にとっても大きな意義のある授業となっている。実習風景と授業アンケートを以下に紹介する。

(平成26年) 海技実習 授業アンケート結果

授業対象学科：マリンエンジニアリング学科 2年 前期月曜日1.2時限
質問項目

問1. 海や船への興味は深まりましたか？ 五段階評定得点

問2. 授業は楽しかったですか？ 5段階評定得点

問3. 有意義な授業でしたか？ 5段階評定得点

問1～問3 各問の 自由記述

集計結果（問1、問2、問3）

	1 海や船への興味は深まりましたか？	回答数	パーセント
1	全くなかった	0	0.0%
2	すこしなくなった	1	1.3%
3	普通である	12	16.0%
4	少し深まった	40	53.3%
5	とても深まった	22	29.3%
	計	75	

	2 授業は楽しかったですか？	回答数	パーセント
1	全く楽しくなかった	0	0.0%
2	あまり楽しくなかった	4	5.3%
3	普通である	8	10.7%
4	少し楽しかった	32	42.7%
5	とても楽しかった	31	41.3%
	計	75	

	3 有意義な授業でしたか？	回答数	パーセント
1	全く有意義ではない	0	0.0%
2	あまり有意義ではない	0	0.0%
3	普通である	9	12.0%
4	少し有意義であった	31	41.3%
5	とても有意義であった	35	46.7%
	計	75	

1海や船への興味は深まりましたか？	1その理由は？	2授業は楽しかったですか？	2その理由は？	3有意義な授業でしたか？	3その理由は？	4カッター、エンジンポート、ヨット、結索、各講義の感想や実施方法(内容、時間数、課題)・施設などへの要望、改善点、新しく取り上げてほしい種目など記述してください。
3	元々期待もなかったため	3	特に関心もなかったため。	4	知識がついたため	結索が楽しかった。工夫した色々な結び方を学べて非常に良かったが、室内でやりたかった。
4	海や船に関していろいろなことを教わったから	4	初めて経験することだらけだった	5	初めて経験することや初めて知ることがあったから	特になし
4	船舶で実際に海へ出ること、また船について知識を得ること、船、海に親しむことができたから	5	普段の授業で体験できないことは非常に楽しかった。講義も現在の船舶技術と関連することを聞けたり、研究室についても知ることができて興味深かったから	5	実際に船に乗ったり、実用的な内容を知ったりすることで、船舶実習がより楽しみになった。これからのことを考えるきっかけになった	寮生にロッカーの貸し出しが行われていないので、荷物の置き場に困っていた。班ごとにロープワークの内容が違うようで、疑問に思った。
5	初めてエンジンポート・ヨットに乗って色々知ることができたから。	5	授業の中で一番楽しかったです。	5	乗船実習の前に少しだけ色々なことを知ることができました。半年間ありがとうございました。	もっとカッターを漕ぐ回数を増やしてほしいです。
3	もともと普通で、授業後も特に興味はわかなかった。	2	船酔いなどでしんどかった	3	特に必要を感じなかったから	結索を外でやる意味を感じられなかった。中でやってほしかった。授業時間内で終わらないことが多々あったのできちんと守ってほしい。レポート提出時間ぎりぎりになって困ったことがあった。
3		3		3		もっとカッターを漕ぎたかった。
5	1年の時は全然実習がなく、海を船を知る機会がなかった。この授業を通して様々な知識を得ることができたため。	5	講義や実習でたくさんのことを広く浅く学んで、もっと深く学びたいと思ったから。	5	エンジンや流体力学の講義でとても知識が深まったし、様々な実習により、実際にカッターなどに乗って作業を行い、経験を少しだけだが積むことができたから。	海技実習における講義はとてものためになつてよかったのだが、講義の回数を少し減らして、実習の回数をもっと増やしてほしいです。理由としては、実習を通した経験の方がとても印象深く、新鮮味があった。より海や船に関する知識を深めることができたからです。
4	様々な船を見て興味がわいた。	5	船に乗れて楽しかった。	4	船に乗る貴重な機会を得ることができてよかった。	カヌーに乗ってみたいです。
4	授業が楽しかったがもっと知りたいと思いました。	5	特にカッター、ヨット、EBの授業において、船の揺れを感じながら陸地を見ると、陸上で見る景色とは違うもののように感じたことが楽しいと思いました。	4	経験として得た知識はいずれ役に立つからです。	流体の講義で、流体力学の授業だけではなく、実際の船の話などをからめて授業するとおもしろいのではないかと思います。EB、雨が降って波が荒くても、ある程度であれば、班員の要望を考慮にいれつつ大丈夫であれば外回りにも行くという選択肢を増やしてほしいです。
5	ヨットやエンジンポート、カッターの実物をみて、実際にそれらが動いているところを見てどのようなくみで動き、方向を変え、なぜ転覆しないのか等様々なことに興味を持つことができたから。	5	ヨットやエンジンポート、カッターに実際に乗ってみて、海を船で走る楽しさを体感することができたから。	5	普段の生活では体験することのないヨット、カッター、エンジンポートへの乗船及び操船という経験が得られたから。	カッター、エンジンポート、ヨット、結索については座学では体験できないことを授業で行うためとても新鮮で楽しく、有意義に授業を受けることが出来ました。講義では船についての概要や海事科学部で研究されていることについて知り、知識を広げることができた。しかし、講義の中で流体力学だけは流体力学という授業科目が海技実習とは別に必修科目として用意されているため、わざわざ海技実習の授業で講義する必要はなくその時間をカッター、エンジンポート、ヨットのいずれかの実習の時間にしたい方がよいのではないかと思います。
4	海へ出るのが初めてだったので楽しかったが、期待通りだった。	4	ヨットやエンジンポートなど実際に船を動かすのに携われたから。船酔いに弱すぎたのが少し悔しかった。	5	海への感性がとても深まった。	とても怖かったです。
4	実習ではカッターやエンジンポートなど今まで関わりがなかったものを経験でき、新たに興味が湧きました	5	実習が楽しかった。先輩たちから授業の話を聞いていたのでとても楽しみにしていた	5	乗船実習を経験していないので、コース選択のための目安になった	ヨットの授業を増やしてほしい。班の人数を減らして少数でしたい
4	ヨットが楽しかったから。	4	実際に体を動かすのが楽しかったから。	4	将来について考えられたから。	エンジンポートの運転が思ったよりも簡単で楽しかった。
4	実際に船に乗るという体験ができたから。	4	座学だけでなく、体験しながら学べたのが良かった。	4	普段できないような体験ができたため	結索や一部の講義がほとんど形式みたくに感じられたのが少しつまらなかった。
4	ヨットが気持ちよく思ったより居心地が好きでした。	4	実習が多かったのでもっと楽しかったです。	4	自分の知らないことを知ることには自分に有意義でしかない。	正直朝早かったのがきつかったです。他はすべて満足いくものでした。
5	今までカッターやエンジンポート、ヨットなどが乗ったことがなく、海に出る機会が少なかったが、とても楽しく海を学べたから。	5	知識を学んだ上で、ヨットやカッターに乗り、友達と海に出れたから。	4	講義は少し難しかったが、わかりやすく説明してくれ、海の上でも自由であったから。	
5	カッターなどをしてとても楽しかったです。実際海へ出ると風が気持ちよかったです。	5	普段できない事ができ、海事ならではの授業でもあり楽しかったです。	5	座学では足りない部分を実習としてできてよかった。ヨットとかはとても良いものだった。	カッターが1回なのは残念だった。もっと遠い所へ、エンジンポートで行ってみたい。
4	色々な海での経験ができたから	5	今までしなかったようなことをしたから	3	色々なことを学べた。	ロープワークをもう少し長い時間してほしかった。

4	海や船に関することをたくさん経験させてもらえて、楽しかったしそのおかげで興味も湧きました。	5	カッター、ヨット、エンジンポート、深江丸などいろいろなことができたので楽しかったです。	5	今までしたことなかったカッターができて有意義でした。ちょっとの距離でしたが楽しかったです。	今までで十分楽しめたと思います。改善点も特にないかと思います。
4	ヨットで海に出るのが気持ちよかったですから	4	実際に海に出て、周りを見れたのがよかった	4	勉強ばかりで疲れていたのが癒された	講義で研究室紹介をしてほしかった
5	実習と座学を通して海、船について学べたから。	5	普段できない経験ができたから。	5	座学では学べないことを実習を通して学べたから。	カッター、エンジンポート、ヨットは新鮮だったし、普段経験できないことだから授業数を増やしてほしい。結果では知らなかったことが学べたのでおもしろかった。講義では、今まで身に着けた知識が船でどのように応用されているのか知れて興味深かった。
4	海や船について自分が知らなかったことを多く知れたから。	4	新しい体験が多かったから。	5	幅広い体験が出来、幅広い知識が増えたから。	実習着、安全靴は暑くて、動きづらいのもう少し服装を考えた方がいいと思いました。
3	エンジンポートの操縦は楽しかったがRWが少なかった	4	それとなくマリンスポーツにふれたため	3	それとなく海の競技に触れたため	もう少しエンジンポートに乗る時間や結果の時間を増やしてほしい。
4	今まであまり知らなかった海や船の知識を得ることができた。	5	普段の座学とは基本的に異なる形態での授業で新鮮さが強かった。	5	今まで知らなかった知識をたくさん知ることができた。	もう少し詳しい資料等が欲しかった。
5	普通の生活では乗ることのできないものにすることができたから	5	座学だけでなく、ロープワークやカッターなどいろいろな体験できた	5	楽しいだけでなく安全講習などためになる授業もあったから	ヨットの授業を増やしてほしい。J-24やディンギーにも乗りたいと思いました。
3	船にはもともと関心はない	4	船に乗ることで潮風を楽しめる	4	船のことを知ることでこれからの実習に役立つと思ったから	レジュメを配ってほしい。授業で聞いただけだと点数を取れない。
4	実習楽しかったです。	5	実際に体を動かして船に乗れてのが良かった。	5	今までかかわりのなかった分野と触れ合えて新しい視点が得られたと思う	ヨットのテストを行うならば授業中にメモを取る時間があればありがたかったです。
5	海にはいろいろな面があり、実際にヨットなどに乗って楽しかったから。	5	実習が大好きで、学ぶこともたくさんあるから。	5	普通では体験できないことができ、海関係の仕事につきたいと思うようになったから。	もっと実習したいです
5	様々な種類の船(ヨット、カッター、エンジンポート)に乗れたから。	5	初めて乗る船や、初めて知った内容があって、新たな知識・体験ができたから。	5	クラブでヨットに乗っているため、特にRW(ロープワーク)では自分の知らなかった結果があって楽しかったから。	今の授業で十分面白かったですが、救助訓練などのこれから必ず役に立つであろうことをやってもらえると、なお良い授業になると思います。新しく学べたことがたくさんあって全体的にとってもよかったです。
4	船に乗って海とのキヨリが近くなった気がした	5	船に乗る授業はこの学部特有で、思い出にもなった	5	左記のとおり	カヌー、カヤック
4	実際に海へ出て船の仕組みなどがすごいと感じたから。	4	特にヨットのエンジンでなく風に乗っている感じが新鮮でよかった。	4	他では体験できないとこだから。	結果はもっと多くの種類をしたかった。
4	興味のある内容がいくつかあった	4	左に同じ	4	左に同じ	もっと海上にいる時間を長くしてほしいかった
4	実習が楽しかった	4		4		ヨットではもう少し早めに切り上げて欲しい。午後の実験に響く。
3	もともと興味があったため	4	時に疲れを感じたため	5	知らないことを学べた	ロープワークをもっと長くやってほしいかったです。
4	ヨットやポート、カッターを通じて海への興味が湧いた	4	ヨットは貴重な体験で楽しかった	4	授業内容が他とは異なっていたので有意義であった	ヨットは天候によってかなり大変であった
4	普段は乗れないヨットやエンジンポートに乗れたから	2	ほとんどみているだけだったから	4	乗船実習の予備知識として授業を受けれたから	特になし
5	乗船実習や船舶、海に対する講義を聞いてもともとあった知識がさらに深まるとともに、興味も深まり、また独自でも海洋交通や海洋生物などの授業以外での内容も詳しく調べる意欲にもつながる素晴らしい授業でした。	5	先生方が優しく丁寧に教えて下さり、また生徒個人の力に任せるところは任せて下さり、カッター、ヨットなど普段生活していれば絶対に体験することのできない競技を体験できたのはとても良かったです。	5	毎回の授業で集合時間が厳守であり、当たり前であるが社会にでて一番大事なことを毎週の月曜1限という、厳しい時間帯に行い続けることができたという点で、すごく有意義であった。	もう少し、カッター、エンジンポート、ヨットの授業が多くてもよかったかなと感じた。2回の授業はとても有意義で、あっという間であった。もっと深く学ぶためには、2回では足りないと感じた。
4	自分の知らない知識がたくさんできて、単純だと思っていた海の世界がとても奥が深いものだと感じたから。	5	カッターやエンジンポート、ヨットなど乗ったことのない船にたくさん乗ることができたから。	4	初めて触れる知識がとても多く、有意義に感じました。	それぞれの船にはもう少し乗りたかったというのが正直な感想です。ロープワークを外でやるのは少ししんどかったです。直射日光の中だったのでせめて日陰で行いたかったです。
5	学んでいることがどういところで使われているのかを実際に船に触れたり講義を聞いたことで知ることができたから	5	エンジンポートの舵を取ったり、ヨットの操船をしたりと自分で動かすことができたから	5	普段はできないような経験をすることができたから	漕ぐのに慣れて楽しくなってきたところで授業が終わってしまったので、カッターの授業回数を増やしてほしい。掛け声が後半になると大半の人が面倒がって出でなかったで、掛け声指導を授業後半もしてほしい。
4	クライナーベルク乗船が楽しかったから。	4	数少ない実習で体を動かすことができたから	4	ロープワークは役に立ったと思う。	ロープワークをあー時間ほど増やしてほしい。
4	流体力学を実際に船、海に應用しているところを知れたから	2	実習において、もう少し学生主体にしてほしい	5	実際に実習を行うことで知識が増え、興味もわいた	エンジンポートは操船の時間以外は暇だったので、もう少し時間を有効活用したい
4	知識を得たことで、海でのニュースがわかるようになったから。	4	実際にやっている時間が少なかったため、すべて中途だったから。	5	他学部では得られないことを経験できたため。	エンジンポートは説明不足ぎみだったと感じました。もう少し丁寧に教えて下さると助かります。

4	エンジンボート、ヨットに海に出たとき、カラムーチョが流れてきてびっくりした。海の汚染への興味が出来た。	5	ヨットに乗るなど他学部にはない体験ができた。	5	バイトの仲間に自慢できる。	7月に海に出る時は暑かった。船に乗る時期をもう少し早くしてほしかった。
4	海技実習を通して様々な船（エンジンボート、カッター、ヨットetc）を体験することができ、関心しました。	4	様々な体験ができ、海を直接感じる事ができ、楽しかった。しかし、講義の内容が少し難しく雑学が多くて難しかったから。	5	普段の講義では絶対に体験できない講義だったし海事科学部ならではの授業だったから。	各講義の内容が難しかったので、まとめたプリントが欲しかった。
3	楽しかった	4	ロープワークが楽しかった	4	楽しかった	風のないときのヨットはおもしろくなかった
4	船にもさまざまな種類があり、それぞれの役割を理解できたから	4	実際に乗船したり、いろいろなことを実践できた	4	知らなかった知識が深まっていたから	結索が時間がたつとあやふやになったりした。自分で復習しなおすのも難しく感じた
5	海で楽しむことに興味をもつようになった	5	クライナーベルクに乗ってみたかったのでよかった	5		熱中症対策をもっとするべきだと思う
5	実際に船に乗って体験したから。	4		4		実習ではメモを取れないので、プリントが欲しかった。
3	ヨットを楽しみにしていたが風が無かった	4	海事に来てはじめてのカッターやヨットを用いて実習なので楽しかった。	3	座学では興味のない分野の話が多かった。	選択式にして、もっと1つのことに集中してやらせてほしい。
4	海、船に興味をもてるような実習ばかりであったから特にヨットが良かった。	4	実技は楽しいものばかりであったが、やはり座学は少し退屈であった。	3	座学は少し退屈であったし、よく理解できなかった。	座学を減らし実技メインにしたほうがもっと積極的に授業に参加できると思った。
4	初めて授業で海に触れることができた	4	体を動かすことができた	4	ロープワークで便利な結び方を学ぶことができた	J-24にも乗れたらいいと思います
4	潮風がきもちよかった。	3	楽しい時もあったが船酔いの時が最悪だった。	4	特別な体験ができてよかった	エンジンボートが眠です。
4	実際に船に乗ることができたから	4	乗船、そこでの活動が体験できたから。	5	将来についてよく考えることができた。仕事についても理解することができた。	カッターに1回しか乗れなかったので残念だった。他の学部にはない楽しい経験なので、増やしてほしい。
5	実習が楽しかった	5		5	海事生らしいことを体験できたから。	実習の時間がもっとほしかった。
4	カッター、ヨットなど初めて経験し、そのおもしろさを感じたから	4	授業は良いものであり楽しく感じたが学生側で授業態度が悪い者がいたため	4	新しいことを経験でき海への興味がわいたため	ロープワークが一度では覚えられないため復習の機会がほしい。人数が多く感じた
3		2		2		船酔いで体調を崩すのを積極性が無い判断するのをやめてほしい。
2	カッターやヨットの実習が楽しかったから	4	カッターやヨットで海を感じる「ことが出来たから。	3	もっと実習を増やしてほしいかった。	特になし。
4	カッターやセーリングが楽しかったから	4	今までしたことのない経験をすることができたから	4	海への知識が付き、興味がわいたから。	カッターとヨットはとても楽しかったので、授業数を増やしてほしい。
4	今まで生活してきて海に接する機会自体かなり少なかった。海や船に興味はなかったが、ヨット、カッターなど直接自分が体験することができたので興味を持つようになった。	4	特に、カッターとヨットは苦しい反面、楽しさが強かった。セーリングの時、自分の仕事の番がくると全力でやらねば皆に迷惑がかかるため、大変だった。しかし、風のおかげで速度が出ることに驚いたし興味を引かれた。	5	自分の知らない分野の内容はやはり、興味を持ちやすいし、実際に体を動かすことで学べることでよかったため。	カッターは2回くらい体験してみたかった。ようやく慣れてきたと思ったころには授業の終盤だったため。
5	実際に船に乗ることによって人の力、風の力、エンジンの力によって船が進むことが実感できたので船や海への興味は深まりました。	5	座学では体験することのできないさまざまな海や船に関する体験ができたのでとても楽しかったです。	5	これまでの日常生活では海や船について触れることが少なかった。これからの進路や海や船について詳しく知る上でとても有意義な授業でした。	カッターは暑くなるまえに行われるのがよかったと思います。自分の手で船を進ませる感覚を十分に味わうことが出来ました。エンジンボートはまさか自分が操縦するとは思っていませんが有意義な体験をすることができました。ヨットについては風を感じる事ができたのですが①のポジションだったのでロープを巻く動作が自分でできなかったのが残念でした。結索の授業はこれからの日常生活でも使える知識なのでとても有意義でした。新しく取り上げてほしい授業としては、旗旗信号などの信号の読み方についても学びたいと思いました。
4	実習メインで楽しく学べた。	4	船に乗っている間が楽しかった。	4	よく体を動かしたから。	特にないです。
3		3		3		海技実習のテストなので実技テストもしてほしかったです。
4	海や船とたくさん触れ合えたから	3	楽しいものもあれば、楽しくないものもあったから。	3	有意義なものもあればそうでないものもあったから	ヨットは授業一回だけでよかったかと思いました。
4	新しく知ることが多かったから	4	船など新しい経験だったから。	4	新しいことを経験できた	ロッカーを2回生の時に使わせてほしい。（安全靴を学校においていくため。）
5	YAMAHAの水冷6気筒4ストディーゼルエンジンを見てとてもよかった。また、よつとがとてもエキサイティングだった。	4	アクティブな講義は有意義に感じた。	4	活動的であったから。	特にありません
5	船の中のエンジンなどを見て興味深かった。ヨットのセールなどの動き。	5	実習全て楽しかった。特にヨットの実習は良い経験になった。	5	楽しくいろいろなことを学べた	船酔いに対する処置をもう少し増やしてほしいです。自分は船酔いが大きく出てしまい、それがつらかったです。

5	本当に海に出てみると数多くの船が行き来して貿易を行っているのを、まじかに見て海上輸送の重要性が分かったから。	5	実際に船に乗ったりロープを使ったり、体を動かしてやるが多かったので海の良さを体感できたから。	5	海と親しむうえで良い機会であったのと同時に楽しく学べることが出来たから。	ないです。
4	船に乗ってるのが楽しかったから	5	クライナーベルクがよかった。	4	海への職業への関心が高まった。	
4	海に出ることで海上の環境を知ることが出来た。	3	1.2限での実習は朝が早くてしんどかった	4	座学よりも海や船を体験できたから	ヨットは天気が悪いと気が滅入ってしまった。
5	船に関する仕事をしようと思った	5	海と船に関する勉強ができた。活動が多かったからよかった	5	将来の就活の勉強になった	
3	いろいろな新しい知識に触れやすくて勉強になりましたが最後のいくつかの授業でちょっと船酔いになりました。	3	最初の講義が座学ですので、深い印象は残りませんでした。安全講義のように実場で説明する方が楽しかったです。また海でもとても楽しかったです。体はちょっと慣れていません。	4	船舶、航海に関する知識を幅広く紹介されて、将来の職業に対するイメージも主体的になりました。興味を深めて、足りないところも明確に認識できました。	カッターは疲れたけどとても楽しかったです。エンジンボートは専門用語が多すぎて、先生のスピードに間に合えませんでした。ヨットもそこそこ楽しかったけど、時間が長すぎて、ちょっと船酔いになりました。慣れるように頑張ります。安全講習の授業がとても有意義だと思います。
5	海と波のスポーツを初めて試してみたことから、楽しかったです。海関係のスポーツをすごく楽しんだからです。	5	I haven't had any chance to try maritime sports such as sailboat until now , so for the chance that I have been given to experience them , I enjoy it !	4	I have experienced new things and learnt a lot of things from this lesson . Although I probably won't remember special details to write on paper , I do appreciate those experiences.	I think maybe the period used for this lesson should be increased especially for experinece the maritime sport periods.
5	Going out to sea and learn about sailing and boat is not something that I have chace to do .	4	The contain is very interesting . However , some of the class was conducted during fasting mouth .	5	It give a lot of information to me and give me a good experience .	I think that this class is good enough . Maybe the time for cutter class can be extended .
5	実際に船に乗って海に出ることで、海を感じる事ができた。	5	海に関することが包括的に取り扱われており、非常に楽しかった。	5	海、船というものを知ることができた。	
5	海が好きだから	5	ヨットが楽しかったです。	5	海・船について知ることができた。	ヨットをもっとしたいです。
3	受け身の授業であったので参加型にすればより興味が深まると思う。	3	全体的に講義内容が浅かったのもっと深いところまでやってみたいと思う。	4	授業の目的である「海」や「船」にしたしむことができたのではないかと思います。	深江丸を使って実習すればよりよくなると思います。
4.12		4.21		4.32		

2-4 海技実習（グローバル輸送科学科 航海マネジメントコース対象）

➤ 授業のテーマと目的

海技実習はグローバル輸送学科航海マネジメントコース2年生を対象としている。ロープワークとカッターによる航海を上級生とともに行うことにより、チームワークの重要性和強調性を理解し、リーダーシップの指導力を涵養している。

➤ 授業概要

海技実習は平成25年度からの入学生を対象としており、グローバル輸送学科航海マネジメントコースを習得する学生には不可欠な科目である。これらの授業では上級生と下級生がカッターに同乗してとう漕並びに帆走等を行うことにより、団体生活に不可欠なチームワークの重要性和協調性を理解し、リーダーとしての指導力を涵養する。授業の総まとめと位置付けられるカッター（3艇）を用いた2泊3日にわたる巡航は、各艇の計画密度が航海の成果に直接反映される極めて実践的な授業である。学生は、深江（海事科学部ポンド）←→泉佐野（旧南海フェリー埠頭付近）間の総航程約40海里、過酷な条件での艇上団体生活を通じて、チームワークの要諦を理解しながら、協調性を育み、少しずつリーダーとしての素養が修得される。本教科は、講義と海上での実習とで構成され、体験型の講義・演習であるので、全出席が評価基準である。

第3節 舟艇

海技教育センターでは、実習船以外に授業、実習、実験および課外活動に用いる舟艇を管理している。繫船池（ポンド）に配備されている各舟艇を以下に示す。

3-1 カッター

FRP製9mカッターが10隻有り、授業に応じて必要隻数を進水させ海上実習等に使用している。カッターは、最新の技術を駆使した艇ではない。それゆえに自然条件の影響を大きく受け効率的運航は非常に難しい。さらに12人の漕ぎ手を指揮する必要がある。一方で安全性は高く、学生のみによる航海が可能である。このことは、慣海性や海に関わる者の資質の涵養は当然のこと、リーダーシップおよびフォロワーシップといった現代的若者の課題について実践を通して体得できるものである。平成19年度からは授業「リーダーシップ」が開始され、帆走ぎ装を使用するようになった。平成26年度からは2年生に授業「海技実習」が開講され、3年生と2年生が共にカッターに乗組み海上実習を行っている。

神戸大学男子端艇部は、通常クラブが所有する艇を用いて活動しているが、巡航には帆走を要することから海技教育センターで管理している艇を使用している。

3-2 青雲丸

青雲丸は、海上での授業、授業の支援、教員の研究、課外活動の支援等幅広く活用されている。青雲丸の推進方式はアウトドライブと呼ばれる方式であり、操船性能が非常に優れているため、特に研究支援で牽引力を必要とする作業には有用な舟艇である。また、艇庫クレーンで上下架することが可能であるので、頻繁に船底整備ができる。このことから、青雲丸は常に艇速を維持することが可能で、シーズンを通して約20ノット近くで運航が可能である。しかしながら研究支援需要の低下と授業での使用頻度が低下したため平成26年度末で用途廃止とすることになった。今後は海洋系課外活動救助艇として使用の予定である。

3-3 ろっこう

“ろっこう”は全長 5.73m の船外機付き和船であり非常にシンプルな構造である。また、広い甲板と浅い船型は作業が行いやすく、授業支援、教員の研究支援などに活用されている。平成 17 年度からは、船外機をヤマハ製 2 サイクル 8 馬力からホンダ製 4 サイクル 15 馬力に変更し、燃料消費量が大幅に削減されたほか、排気ガスによる海水汚染も軽減された。さらに 8 馬力から 15 馬力に上がったことにより速力が上昇し、益々活躍している。

3-4 ほくら

“ほくら”は櫓をもつて航行する FRP 製の和船であったが、平成 20 年 3 月にヤマハ製船外機を取り付け、櫓のみならず船外機で航行できる小艇とした。船外機は、ろっこう同様 4 ストローク 15 馬力の船外機（ヤマハ製）である。櫓については、海上実習において学生に伝統の技を体験させ活躍し、櫓伝馬船部の活動にも用いられている。また船外機については、授業や実験ならびに社会貢献においてろっこう同様に警戒運営補助業務が行なっている。

3-5 木造和船“隼”“海松丸”

平成 20 年 3 月に瀬戸内和船工場の松下氏より木造和船を 2 隻購入した。長さ 4.5m の木造和船を“海松丸”、長さ 5.4m の木造和船を“隼”と命名した。“海松丸”は全長が短く幅が狭いため経験が無い者が乗船するには危険であるため、木造和船の構造の理解と櫓伝馬船部の活動に用いられている。また海事博物館にて 2012 年 7 月 13 日から 10 月 27 日に開催された企画展「船の推進力発展史 - 人力・風力から未来へ -」において人力船の一つとして出展された。“隼”は全長が長く幅が広いために安定しており、平成 23 年度、24 年度は授業「総合ゼミ 2」および深江祭における櫓船体験に用いられ、学生ならびに多くの一般の方が櫓の推進原理を理解するとともに木造和船を親しんでいる。例年深江祭では 100 名を超える市民が木造和船によるポンド周遊を楽しんでいる。

第 4 節 課題

4-1 照明

艇庫シャッター横外壁に照明が設置されているが、設置場所の問題と照明数の問題から、クレーン作業対象となる海上に十分な照明がなされない。また岸壁近傍の海面は岸壁によって生じる影のため暗く、夜間のクレーン作業が非常に危険である。危険解消のためには、クレーンレールを保持している海側柱へ十分な照明を設置する必要がある。

また、岸壁端に設置されている車止めには照明が無く、夜間にあつては岸壁端を把握し辛い状況である。特に艇庫南側から南側防波堤にかけては十分な照明が無いので、繫船池（ポンド）全体の照明を検討し夜間の安全を確保する必要がある。

4-2 雨天時の説明場所

雨天時の授業において、雨を避けて説明を行うスペースが少ないので、現在はカッターを艇庫外に押し出して艇庫内を用いている。艇庫クレーンの支柱および梁を利用した鋼製天井が設置されれば不便が解消される。

4－3 栈橋

南側防波堤沿いに栈橋が設置されているが、当初計画を完了できていない。南側防波堤に設置されている水道は、現状栈橋の東側端となっており使い勝手が悪く、また、H 鋼 1 本が未使用のままとなっている。クライナーベルグやその他の艇の安全な着栈と効率的な栈橋の使用のため、当初計画どおり東側に栈橋一基の早期設置が望まれる。

南側防波堤沿い栈橋への出入りは、垂直はしごを経由しなければならない。潮高が高い場合はそれ程落差は無いが、潮高が低い場合は 2 m 以上の落差となり危険である。また、バリアフリーの観点からも、繫船池（ポンド）スロープから南側防波堤沿い栈橋へ出入りできるように栈橋の西側への延長が望まれる。

第 6 章

実技業実習室

第1節 概要

技業室は海技実習センターの二階にあり、実習室（広さ 91 m²）および倉庫ならびに準備室より成る。実習室には結索練習用のバーがコの字型に配置され、一度に 32 名の学生が実習できるようになっている。この技業室では、ロープの構成、撚り方の判別から始まり、さまざまな用途に適した結び方（作業用、装飾用など）、継ぎ方を実習しロープ技術を獲得できる環境となっている。

第2節 実習概要

授業時間割に基づく技業室を利用する実習は次のとおりである。

2-1 「海技実習」および「海への誘い」

グローバル輸送学科航海マネジメントコース 2 年生を対象とする授業「海技実習」および全学学生を対象とする総合教養科目Ⅲ「海への誘い」では、練習用ロープを貸し出し、室内や屋外で次の実習を行っている。実習の主な内容は次のとおりである。

（1）ロープの基礎知識

- ①ロープの構成 ②ロープの撚り

（2）基本的な結び

- ① 8 字結び ② 巻き結び ③ 本結び ④ もやい結び
- ⑤ 大錨結び ⑥ クリート結び ⑦ 二重つなぎ
- ⑧ ファイヤーマンズコイル ⑨ フィッシャーマンズコイル
- ⑩ シーガスケットコイル

加えて「海技実習」では 3 つ撚りロープのアイスプライスとショートスプライスを行い、ロープの加工方法を理解させている。

2-2 「航海学実験 3」

「航海学実験 3」は海事技術マネジメント学課程（航海群）の 3 年生を対象としている。「航海学実験 3」はそれぞれの研究室がテーマを設定しているが、船舶安全管理学研究室では、授業「海船に親しむ」を基に編みロープおよびワイヤーロープに関する実習を行っている。船舶安全管理学では次の 3 つのテーマを設定している。

- | | |
|------|-------------------------------|
| テーマⅠ | ワイヤー・ロープのアイ・スプライス |
| テーマⅡ | 三撚りロープのアイ・スプライスおよびショート・スプライス |
| テーマⅢ | エイト・ロープのアイ・スプライスおよびショート・スプライス |

「航海学実験 3」実習では、ロープ加工技能を養成することを目的とせず、管理者として一部の加工の実体験を通じて、作業の本質ならびに安全に対する着眼点を理解することを目的としている。そのために実習は基礎的な説明以外は一切無く、学生には自身の努力で完成させレポートを作成させている。

第 7 章

通信実習室

第 1 節 概要

通信実習室は、海技教育センター 3 階にあり、その広さは 9 1 平方メートルで、教官卓マスターブース 1 台と学生用ブース 3 3 台を備え、VHF 模擬装置による実習が可能である。また、GMDSS の要となる装置として、DSC 無線電話（デジタル選択呼出無線電話）及びインマルサットシステムの模擬装置を 1 セットずつ備えている。

第 2 節 年間活動状況

通信実習室は、主としてグローバル輸送科学科航海マネジメントコース、海事技術マネジメント学科航海分野選択の学生を対象にした「船舶通信管理」の講義・実習に使用されている。また、総合ゼミⅡ、航海学実験Ⅱの講義演習室としても使用されている。

第 3 節 主な設備

- ① DSC 無線電話（デジタル選択呼出無線電話）
- ② インマルサットシステム
- ③ VHF 訓練装置
- ④ 発光信号練習装置
- ⑤ 旗りゅう信号
- ⑥ 信号マスタープログラム
- ⑦ GMDSS 模擬訓練用ソフト

第 4 節 今後の課題

通信実習室に関する経費は、特別に予算化されておらず、当該実習室の維持管理のためには、海技教育センター予算及び担当教員の研究費等から支出されている。従って、大規模な設備充実・更新は困難な状況である。現在、モニターテレビの作動状況が芳しくなく、モニターテレビの撤去とプロジェクターとスクリーンの設置が望まれる。

第 8 章

海洋系課外活動

第1節 男子端艇(カッター)部

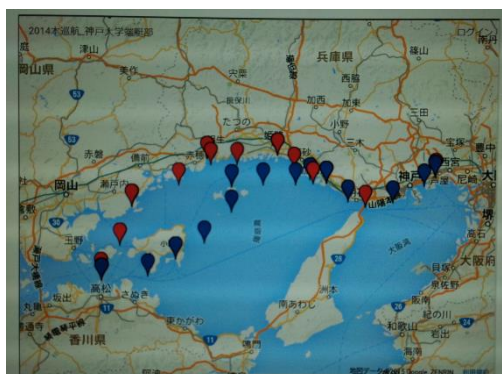
顧問 大学院海事科学研究科教授 古荘 雅生

【平成 25 年度】

- 6 月 1 日 第 57 回全日本カッター競技大会 (会場：防衛大学校) 結果 5 位
6 月 29～30 日 水無月巡航 (須磨ヨットハーバー)
7 月 20 日 部内紅白戦
8 月 9 日～13 日 本巡航 (深江-林崎-妻鹿-坂越-妻鹿-深江)
10 月 5 日 練習試合 (会場：神戸大学 参加校：神戸大学、三重大学)
11 月 2 日 第 59 回西日本新人カッター競技大会(会場：水産大学校) 結果 4 位
3 月 21～23 日 商船対抗 (会場：神戸大学)

【平成 26 年度】

- 5 月 31 日 第 58 回全日本カッター競技大会
(会場：芦屋浜) 結果 6 位
6 月 28～29 日 水無月巡航 (須磨ヨットハーバー)
7 月 26 日 部内紅白戦
8 月 12 日～20 日 本巡航
(深江-妻鹿-坂越-牛窓-女木島-坂手-家島-二見-深江)
11 月 2 日 第 60 回西日本新人カッター競技大会(会場：海上保安大学校) 結果 1 位
(中国新聞 2014 年 11 月 3 日 朝刊記事)



新人カッター
白熱のレース
呉で西日本大会
海上保安大学校(呉市若葉町)が主催する西日本新人カッター競技大会が2日、同校近くの海域であった。大学校や大学、高校の計15チームが出場した。

一般の部は、男子8チームがエントリー。同校桟橋の沖に設けたブイを折り返す2千メートルのコースでタイムを競った。女子の部は直線千メートルのコースで、7チームが争った。家族も応援に駆け付け、オールをこぐ選手たちに声援を送っていた。

一般、女子の部とも神戸大が優勝した。



第2節 女子端艇(カッター)部

女子端艇部は六甲台における授業等の関係から早朝練習を中心に活動する。平成26年度は新人5名が入部し練習にも熱が入っている。男子端艇部同様に、カッター競技は単に体力勝負だけではなく、漕ぎの技術とチームワーク、一糸乱れぬ統制のとれた動き、競技海域の気象海象に応じた戦略や操艇技術など、艇員にはバランスのとれた総合力が強く求められる。女子の部では艇長、艇指揮の下、6名の漕ぎ手により1,000メートルの直線でタイムを競う。全日本大会と西日本新人戦では優勝あるいは連覇を目指して奮闘してもらいたい。

平成25年及び26年度におけるカッター競技大会の「女子の部」大会成績を以下に示す。

【全日本カッター競技大会】

○第57回:平成25(2013)年6月1日(土)当番校:防衛大学校

競技会場:走水・伊勢町海岸沖 女子の部:1,000m直線

優勝:海上保安大学校 (タイム:6分44秒02)

準優勝:神戸大学 (タイム:6分57秒03)

第3位:長崎大学 (タイム:7分07秒09)

○第58回:平成26(2014)年5月31日(土) 当番校:神戸大学

競技会場:芦屋浜南方水域 女子の部:1,000m直線

優勝:海上保安大学校 (タイム:6分28秒56)

準優勝:長崎大学 (タイム:6分32秒60)

第3位:神戸大学 (タイム:6分44秒56)

【西日本新人カッター競技大会】

○第59回:平成25(2013)年11月2日(土) 当番校:水産大学校

競技会場:水産大学校吉見沖 女子の部:1,000m直線

優勝:長崎大学 (タイム:7分06秒34)

準優勝:鹿児島大学 (タイム:7分08秒88)

第3位:神戸大学 (タイム:7分18秒78)

○第60回:平成26(2014)年11月2日(日) 担当校:海上保安大学校

競技会場:海上保安大学校前面海域 女子の部:1,000m直線

優勝:神戸大学 (タイム:7分42秒92)

準優勝:東京海洋大学 (タイム:8分07秒03)

第3位:長崎大学 (タイム:7分41秒32)



第60回 西日本新人カッター競技大会 女子の部『優勝』
(神戸大学男女ペア優勝)
《平成26年11月2日(日) 於 海上保安大学校》

第3節 カヌー部

監督 葛西 直樹（くずにし なおき）

神戸大学体育会カヌー部が海事技術センターの艇庫を拠点に活動をさせて頂くようになってから10年目を迎えようとしています。この間、大きなトラブルも無く来られましたのは、当センターを拠点とした活動環境の充実によるところが大きいと思っています。なお、部員達もこのような恵まれた環境の下、文武に励み、その成果もあって2014年度の関西ならびに全日本でのフラットウォーターレーシングカヌー競技会での成績も良好で、その主なものを掲げると下記の通りとなりましたので報告させていただきます。また、本年3月には2名が学生表彰を頂戴する事ができました。今後とも、カヌー部の活動へのご理解とご指導を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

2014 年度競技成績

＜第50回関西学生カヌー選手権大会＞

男子カヤック部門	500m フォア	吉峰・近藤・畑野・菅	3位
男子カナディアン部門	500m フォア	橋・楞野・花内・多田羅	6位



関学選表彰式



男子カヤック 500m フォアメンバー

＜第50回全日本学生カヌー選手権大会＞

男子カヤック部門	5000m シングル	畑野将吾	9位
男子カナディアン部門	200m シングル	多田羅光樹	5位
男子ジュニアカナディアン部門	500m ペア	蹴揚・喜多村	準優勝



インカレ表彰式



学生表彰

第4節 オフショアセーリングクラブ

顧問 大学院海事科学研究科准教授 山下 和雄

クライナーベルクの進水に伴いセーリングを楽しむ学生が集まり同好会として活動を開始していたが、徐々に部員数も増え、学連への加盟、全日本選手権や海外レース参加など、活動を広げてきた。平成25年度からは神戸大学の課外活動公認団体として体育会「オフショアセーリング部」として活動することになった。平成27年3月現在の部員数は、68名（内訳、海事科学部59、工学部1、経済学部1、経営学部1、発達科学部1、理学部1、農学部4、女子部員数13）である。レース派、クルージング派、時々セーリングを楽しむ派と多様な活動を認め活動している。活動の概要は、週2回程度J24クラスヨット3艇を使用して芦屋、西宮周辺海域で練習し、学外協力艇にも同乗している。また30ftの学外艇を借用し学生だけでセーリングやクライナーベルクでも練習を行っている。

年間の主な活動は、4月新入生勧誘セーリング、5月関西空港ヨットレース（淡輪YH）、神戸祭りヨットレース（須磨YH）、6月、7月ミニクルージング、8月夏クルージング、阿波踊りヨットレース（徳島YC）、ディンギー合宿、9～10月KYCホワイットセール、10月世界学生外洋帆走選手権（フランス）、12月納会、1～2月KYCホワイットセール、整備、3月全日本学生外帆走洋選手権（アニオルズカップ）である。

平成25年4月には神戸・横浜間ヨットレース（340マイル）に参加した。帰りの回航を含め初めての外洋帆走となり、参加学生7名も逞しく成長した。

平成25年9月にフランスで開催された世界学生外洋帆走選手権（SYWoC）にも別のチームが参加した。近年グローバル人材の育成が注目をされるが、神戸大学における教育目標の1つでもある。世界の大学生と10日間に渡る熱戦を繰り広げる若き日の海外体験は世界に触れる貴重な青春の思い出になっている。

平成27年3月に神奈川県葉山マリーナ、葉山新港で開催された全日本学生外帆走洋選手権（アニオルズカップ2015）では全レース1位の完全優勝を達成し、平成27年9月または10月に世界大会（フランス）に遠征する予定である。

主な活動記録は次の通りである。

（1）平成25年度活動

新歓セーリング（4月土日）

神戸・横浜間ヨットレース（340マイル 4/28スタート～4/30フィニッシュ） 6 /11位

帰路回航（5/3横浜発、5/5 那智勝浦入港、5/6深江）

第43回神戸祭りヨットレース（5 /18～19 須磨ヨットハーバー）

クライナーベルク（KB） クルーザークラス II 1位 / 6 参加、

リンクワークス（LW学外艇）4/6位、オーシャンベル（J24, OB）21 /21位

イースタンカーライナー（J24, ECL）8/21位

深江祭試乗会（5/23） OD, ECL（5/24） KB, OD, ECL

ディンギー合宿（8/21～23 淡路海洋実習施設）

全日本学生外洋帆走選手権（6 / 21 神奈川県葉山マリーナ）1/7位

大阪湾クルージング（7/13, 14 泉大津マリーナ LW, OB, ECL, OD）

夏クルージング（8/9 神戸 → 沼島 → 8 /10 和歌山マリーナシティ 8/11 紀伊水道レース（KB3/6位、LW2/6位） → 8 /12, 13 徳島市、8/14 第41回阿波踊りレース

（KB58/64, LW46/64位） → 8 / 15 沼島 → 8 /16 神戸）

世界学生外洋帆走選手権 SYWoC2013（10/11～23フランス La Trinite ）15 /15位

全日本学生外洋帆走選手権（ANIOR' S CUP）（3/13～3/20 深江沖 2 /4 位）

(2) 平成26年度活動

新歓セーリング (4月 土日)

関西空港一周レース (5/3回航, 5/4レース) KB, ECL, LW

第1R KB12/35 LW8/29 ECL11/24 第2R KB25/32 LW9/28 ECL DNF

総合KB19/33 LW6/30 ECL18/25

関空一周クルージング (5 /5, 6 二色ヨットハーバー寄港) KB, ECL, LW

第44回 神戸祭りヨットレース (5 /15~16 神戸市須磨ヨットハーバー)

クライナーベルク (KB) クルーザークラス II 18 / 20 位

オーシャンベル (OB) クルーザークラス I 8 / 14 位

イースタンカーライナー (ECL) クルーザークラス I 7 / 14 位

リンクワークス (LW) クルーザークラス I DNS

深江祭試乗会 (5/23) OD, ECL (5/24) KB, OD, ECL

大阪湾縦断クルージング (7/ 5~6 二色ヨットハーバー) OD, OB, ECL, LW

夏クルージング

(8/12神戸→8/12 沼島→8/13徳島市 , 8/14阿波踊りヨットレース→8/15神戸)

第42回 阿波踊りヨットレース (8/13 徳島沖 徳島YC) KB 35 /54位 LW38/54位

全日本学生外洋帆走選手権 (3/4~3/8神奈川県葉山MR、葉山沖) 優勝/ 5



阿波踊りヨットレース



全日本外洋学生選手権 艇整備



全日本外洋学生選手権 スタート



全日本外洋学生選手権 第一レグ

第5節 櫓権伝馬船競漕会（海事科学部同好会）

顧問 大学院海事科学研究科准教授 湊 真輝

1. 課外活動の目的

櫓権伝馬船競漕会（以後、伝馬船部という）は、平成14年（2002年）11月に設立された海事科学部の課外活動部（同好会）である。伝馬船は古来より身近な作業船として使用されていた。船の構造は簡単で、1人で操船することが可能であり、海に親しむことが容易である。本同好会は、このような長所を活かし、海に興味のある学生が容易に海に親しむことができる課外活動である。活動の目的を以下に示す。

- ① 伝統的な伝馬船の漕艇技術を体得する。
- ② 小型舟艇の運航を通して、操船特性の知識及び安全運航の技術を身につける。
- ③ 対外試合に赴くことで、同じ伝馬船漕手や、港湾、島において海事関連業務に携わる方々との交流を図る。

2. 活動概要

平成25年度および平成26年度には、深江祭において市民向けの試乗会を行い、福井県大飯郡おおい町で行われた「手こぎ舟の通し合い」に参加した。

深江祭では多くの市民が試乗し、毎回100名以上の市民が試乗している。特に深江丸の運航がない初日には多くの市民が伝馬船の試乗を楽しみ、櫓に挑戦した。「手こぎ舟の通し合い」ではレースに参加するとともに運営補助を行い、開催地において交流を行った。

3. 設備

海技実習センター（当時）が、平成20年3月に瀬戸内和船工場の松下氏より木造和船を2隻購入した。長さ4.5mの木造和船を“海松丸”、長さ5.4mの木造和船を“隼”と命名された。“海松丸”は全長が短く幅が狭いために経験が無い者が乗船するには危険である。現在、海事博物館内にて気軽に触れることのできる和船として展示されている。

“隼”は全長が長く幅が広いために安定している。両木造和船ならびに従前から使用しているFRP船“ほくら”の3艇を活動に使用させて頂いている。

第 9 章

研究航海關係 研究一覽

1. 平成25年度 夏季研究航海

A 深江丸船長研究室

- (1) 低摩擦型船底防汚塗料の低摩擦性評価（速力試験）
- (2) 高経年化に伴う機関出力ー速力曲線の変動調査

B 深江丸機関長研究室

- (1) 深江丸の機関性能・機関運転管理の評価に関するデータ収集

C 船舶安全管理学研究室

- (1) 航海視環境に関する調査
- (2) 航海当直における学生のヒューマンファクター
- (3) 船舶実習のための映像教材の作成

D 海洋微生物科学研究室

- (1) 商船の停泊・荷役海域を対象としたフジツボ付着期幼生の個体数分布調査

E 画像処理研究室

- (1) レーダ映像からの小物標抽出に関する研究

F 岡山理科大学

- (1) 水環境中の多環芳香族炭化水素（PAH）の動態調査
- (2) 瀬戸内海・四国南岸における CO2 とその関連物資の観測

2. 平成25年度 春季研究航海

A 深江丸船長研究室

- (1) 低摩擦発展型船底防汚塗料の低摩擦性評価（機関出力ー速力データの収集）
- (2) 低摩擦発展型船底防汚塗料の性能評価（速力試験）

B 深江丸機関長研究室

- (1) 深江丸の機関性能・機関運転管理の評価に関するデータ収集

C 海洋気象研究室

- (1) 深江丸搭載気象・海象観測機器によるデータ収集と測定精度評価

D 画像処理研究室

- (1) レーダ映像認識に関する研究

E 電子航法研究室・水産工学研究所・渦潮電機

- (1) DPシステムの技術開発
- (2) CPU制御による操舵システムの開発
- (3) 海洋データ収集記録システムの開発

F 岡山理科大学

- (1) 水環境中の多環芳香族炭化水素（PAH）の動態調査
- (2) CO2 とその関連物質の観測

3. 平成26年度 夏季研究航海

A 深江丸船長研究室

- (1) 環境対応型重金属フリーの低摩擦型船底防汚塗料の評価試験
(速力試験、軸馬力・速力計測)
- (2) 深江丸の実海域航海中の船体運動の計測実験
- (3) 深江丸の遠隔操船システムの検証実験

B 深江丸機関長研究室

(1) 深江丸の機関性能・機関運転管理の評価に関するデータ収集

C 海洋微生物科学研究室

(1) 商船のドリフティング・錨泊・荷役等海域を対象としたフジツボ付着期幼生の種及び個体数分布の調査

D 海洋気象研究室

(1) 温室効果ガス及の濃度測定と関連データの収集

E 海事環境管理研究室

(1) 天然海水中の重金属の動態解析

F 電子航法研究室・渦潮電機

(1) D P システムの技術開発

(2) C P U 制御による操舵システムの開発

G 遺伝子実験センター乾研究室

(1) 有機フッ素化合物分解菌の探索

H 岡山理科大学

(1) 水環境中の多環芳香族炭化水素 (PAH) の動態調査

I 横浜国立大学海空制御システム研究室・古野電気

(1) 波浪レーダ及び小型ブイを用いた波浪計測

4. 平成26年度 春季研究航海

A 深江丸船長研究室

(1) 重金属フリーの新型船底防汚塗料の評価試験

(機関出力ー速力データの収集及び速力試験)

(2) 船舶における業務従事視環境の調査

(3) 瀬戸内海における船舶の航行調査に関する研究

B 深江丸機関長研究室

(1) 深江丸の機関性能・機関運転管理の評価に関するデータ収集

C 海洋気象研究室

(1) 大気中温室効果ガス (CO₂, N₂O) 及び水質の連続観測

D 海事安全システム学研究室

(1) Ship Safety Speed Investigatin

E 電子航法研究室・水産工学研究所・J R C

(1) ルートトラッキングシステムの開発と評価

(2) オートパイロットアルゴリズムの開発と評価

(3) 船舶自動識別装置 (AIS) のトラフィック調査

F 岡山理科大学

(1) 水環境中の多環芳香族炭化水素 (PAH) の動態調査

G 横浜国立大学海空制御システム研究室・古野電気

(1) 波浪レーダ及び小型ブイを用いた波浪計測

卷末

平成 25 年度 海技教育センター運営委員会議事要旨（第 1 回～11 回）

平成 26 年度 海技教育センター運営委員会議事要旨（第 1 回～8 回）

附属練習船深江丸共同利用運営協議会議事要旨

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規

附属練習船等使用申請書

平成 25 年度 第 1 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 4 月 4 日（木） 16 時 00 分～17 時 15 分

場 所 第四会議室

出席者 矢野委員長、河合機関長、若林(伸)教授、藤本(昌)准教授、
廣野准教授、井川准教授、世良准教授、湊助教
長松准教授、山地講師、三輪講師、坂本企画係長（足立事務長代理）
以上 12 名（定足数を確認）

欠席者 山下准教授、古莊教授

陪席者 企画係 杉本 深江丸：西山一航士 和巻一機士

【資料】

- 資料 25-1-1 海技教育センター運営委員会名簿・関係内規
- 資料 25-1-2 平成 24 年度第 7 回海技教育センター運営委員会議事要旨
- 資料 25-1-3 平成 25 年度深江丸等運航予定表
- 資料 25-1-4 附属練習船「深江丸」便乗願い
- 資料 25-1-5 ポートラジオオペレーター乗船研修依頼書
- 資料 25-1-6 平成 25 年度深江丸等予算当初配分
- 資料 25-1-7 ECDIS 訓練関係資料
- 資料 25-1-8 平成 24 年度春季研究航海活動報告（案）
- 資料 25-1-9 「ブライトリック・ジェットチーム」によるアクロバット飛行概要
- 資料 25-1-10 平成 24 年度深江丸運航集計
- 資料 25-1-11 小型船舶操縦士国家試験について

議事に先立ち、本年度から新たに委員となった教員から挨拶があった。

また、資料 25-1-1 及び資料 25-1-2 を確認した。

【審議事項】

1. 平成 25 年度深江丸等運航予定表について
委員長から、資料 25-1-3 に基づき説明があり、次の項目を追加して承認した。

・5 月 21 日 富士貿易株式会社 深江丸見学

2. 深江丸の使用について（客員教授・長谷部正道）
委員長から、資料 25-1-4 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
3. 深江丸の使用について（株式会社東洋信号通信社）
委員長から、資料 25-1-5 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
4. 平成 25 年度深江丸等予算当初配分について
委員長から、資料 25-1-6 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

なお、電気料金の値上げ等が予定されており、本センターでは、さらに経費を

節約する必要があることから、4月4日夜より、深江丸乗組員の夜間の在船がある場合を除き、通常の夜間は深江丸の陸電を遮断してブラックアウトを実施する旨の報告があった。

5. ECDIS訓練の環境整備に伴う深江丸の運航データ収集と船舶運航シミュレータの利用について
廣野委員から、資料25-1-7に基づき説明があり、海技教育センターとして、引き続き検討することとなった。

6. 平成24年度深江丸春季研究航海報告書（案）について
委員長から、資料25-1-8に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
また、海事科学研究科ウェブサイトへアップロードすることを承認した。

7. 海事科学部1年生を対象とした体験航海について
刈委員から、毎週金曜日に海事科学部1年生を対象に、小型船の乗船体験を行う旨の説明があり、原案のとおり承認した。

【報告事項】

1. 平成24年度深江丸運航集計について
委員長から、資料25-1-10に基づき報告があった。
2. 小型船舶操縦士国家試験について
委員長から、資料25-1-11に基づき報告があった。
3. 「ブライトリンク・ジェットチーム」によるアクロバット飛行見学運航について
委員長から、資料25-1-9に基づき報告があった。
4. 平成26年度公開講座について
世良委員から、広報・社会交流推進委員会では、平成26年度公開講座は深江丸を用いて開講する方針である旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成25年6月25日（火）16時00分から開催することとなった。

以上

平成 25 年度 第 2 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 6 月 25 日（火） 16 時～17 時

場 所 第二会議室

出席者 矢野委員長、河合機関長、古莊教授、若林(伸)教授、藤本(昌)准教授、
山下准教授、廣野准教授、井川准教授、湊助教
長松准教授、山地講師、三輪講師、足立事務長
以上 13 名（定足数を確認）

欠席者 世良准教授

陪席者 企画係長 坂本 企画係 杉本 深江丸：西山一航士 和巻一機士

【資料】

資料 25-2-1 第 1 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）

資料 25-2-2 平成 25 年度深江丸等運航予定

資料 25-2-3 むこ丸の臨時船長継続依頼

資料 25-2-4 深江丸観測機器増設依頼

資料 25-2-5 STCW 外部監査通知

資料 25-2-6 平成 25 年度夏季研究航海の募集要項（案）

資料 25-2-7 深江丸使用届出書

資料 25-2-8 ECDIS 訓練環境の整備と船舶運航シミュレータの活用について

【審議事項】

1. 第 1 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）について
委員長から、資料 25-2-1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
2. 深江丸等運航予定について
委員長から、資料 25-2-2 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
3. 海事科学船上セミナー（9/17～20 実施予定）の講義分担について
委員長から、海事科学船上セミナーについて、本年度は各系で講義分担を行いたい旨の説明があり、原案のとおり承認した。
講義分担については、委員長から系主任に依頼することとなった。
4. 深江丸使用申請について
委員長から、資料 25-2-7 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
5. むこ丸の臨時船長継続依頼について
委員長から、資料 25-2-3 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
6. 深江丸観測機器増設依頼について
委員長から、資料 25-2-4 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
なお、増設に関わる工事は入渠中に行う旨の説明があった。

7. STCW 外部監査について

廣野委員から、資料 25-2-5 に基づき、8 月から 12 月の間に監査がある旨の説明があった。

監査については、廣野委員を中心に対応することとなったが、今後の体制については、検討することとした。

8. ECDIS 訓練環境の整備と船舶運航シミュレータの活用について

廣野委員から、資料 25-2-8 に基づき、ECDIS 訓練環境の整備については、本年度 2 年生の学生から条約改正に合わせた訓練を行わなくてはならないため、早急な対応が必要であり、海事科学研究科運営委員会に要望していく旨の説明があった。

9. 夏季研究航海の募集要項について

委員長から、資料 25-2-6 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

なお、今回の寄港地については、乗船者の研究内容を考慮し、決定することとし、運営委員会に附議のうえ、募集をすることとなった。

10. 海洋実習施設の管理について

古荘委員から、海洋実習施設の管理について、現在は国際海事研究センターが管理しているが、施設の目的等から、海技教育センターが管理する方がよい旨の説明があり、海洋実習施設の管理について今後も、検討することとなった。

なお、海洋実習施設は平成 25 年度中に改修を開始する予定である。

11. 海への誘いについて

古荘委員から、全学共通科目「海への誘い」について、現在担当は古荘委員であるが、担当 4 年目となるため、後任を選びたい旨の説明があり、今後、検討することとなった。

【報告事項】

1. 深江丸の運航について

委員長から、回覧資料に基づき下のとおり報告があった。

2013 年 3 月 27 日 社団法人関西小型船安全協会

2013 年 4 月 11 日～12 日 株式会社商船三井

2013 年 6 月 8 日 神戸大学 大学教育推進機構

2013 年 6 月 11 日～14 日 非常勤講師 長谷部正道（実習便乗）

2013 年 6 月 11 日～14 日 株式会社東洋信号通信社（実習便乗）

2013 年 6 月 18 日～21 日 株式会社東洋信号通信社（実習便乗）

2. 白鷗・むこ丸・青雲丸の運航について

委員長から、回覧資料に基づき下のとおり報告があった。

2013 年 4 月 13 日・14 日・20 日・21 日、5 月 10 日・12 日

一般社団法人神戸港振興協会

2013 年 4 月 26 日 国際交流委員長 教授 若林伸和（白鷗のみ）

3. クライナーベルクの運航について

委員長から、回覧資料に基づき下のとおり報告があった。

2013 年 3 月 10 日 NPO セーリング神戸

2013 年 4 月 14 日 NPO セーリング神戸

2013 年 4 月 15 日～16 日 海洋ロジスティクス講座 准教授 山下和雄

2013 年 4 月 28 日～5 月 5 日 海洋ロジスティクス講座 准教授 山下和雄

2013 年 5 月 12 日 NPO セーリング神戸

4. 4E・4N 学内船舶実習の終了について

委員長から、4E・4N 学内船舶実習について、事故等なく、無事に終了した旨の報告があった。

5. 6/11・12 の台風 3 号の対応について

委員長から、6 月 11 日～14 日の 4N 学内船舶実習において、台風接近のため、一部航路を変更して実習を行った旨の報告があった。

6. 株式会社東洋信号通信社の便乗研修の終了について

委員長から、6 月 11 日～14 日、6 月 18 日～21 日の学内船舶実習において、株式会社東洋信号通信社の便乗研修を受け入れ、無事に終了した旨の報告があった。

7. リーダーシップカッター巡航の実施について

委員長から、今年度も予定通りリーダーシップカッター巡航を実施する旨の報告があった。

8. 公開講座＜ヨットクルージング＞について

山下委員から、公開講座＜ヨットクルージング＞の申込が終了し、6 月 30 日から講座が開始する旨の報告があった。

9. 海技教育センター年報について

河合委員から、23 年度・24 年度海技教育センター年報を発刊旨の報告があった。

教員にはすでに配布済みであり、学内外の関係者に向けて発送することとなった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成 25 年 7 月 23 日（火）16 時から開催することとなった。

以上

平成 25 年度 第 3 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 7 月 23 日（火） 16 時～16 時 35 分

場 所 第二会議室

出席者 矢野委員長，河合機関長，古莊教授，藤本(昌)准教授，山下准教授，
廣野准教授，

井川准教授，世良准教授，湊助教，長松准教授，山地講師，三輪講師

欠席者 若林(伸)教授，足立事務長

陪席者 企画係長 坂本 企画係 杉本 深江丸：西山一航士 和巻一機士

【資料】

資料 25-3-1 平成 25 年度第 2 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）

資料 25-3-2 平成 25 年度クライナーベルク運航予定

資料 25-3-3 船舶使用申請書

資料 25-3-4 東灘区子どもいろいろ体験スクール

資料 25-3-5 ECDIS（電子海図）訓練環境の緊急整備について（要求）

資料 25-3-6 平成 25 年度夏季研究航海 乗船者名簿及び研究テーマ一覧

【審議事項】

1. 平成 25 年度第 2 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）について
委員長から，資料 25-3-1 に基づき説明があり，原案のとおり承認した。
2. 平成 25 年度深江丸等運航予定について
委員長及び山下委員から，資料 25-3-2 に基づき説明があり，原案のとおり承認した。
3. 白鷗の使用について
藤本委員から，資料 25-3-3 に基づき説明があり，原案のとおり承認した。
4. 東灘区子どもいろいろ体験スクールの実施について
委員長から，本件については本研究科と東灘区間において協定を締結しており，共催で企画・実施するものであるが，本年度は期日も迫っていることから資料 25-3-4 のとおり実施する旨説明があり，承認した。
なお，本件については，その性格上，依頼状等の提出がないので，来年度からは東灘区の担当部署と早めに協議の上，センター運営委員会において実施時期や実施内容について措置することにした。
5. ECDIS（電子海図）訓練環境の整備に向けた海技教育センター運営委員への委嘱について
委員長から，資料 25-3-5 に基づき説明があり，センターとして対応を行うことを確認の上，海技教育センター運営委員会の中で ECDIS 専門部会を立ち上げる準備を含み，その第一歩として，情報収集や対外折衝等に係る活動を廣野委員委嘱することを承認した。

【報告事項】

1. 深江丸の運航について

委員長から、回覧資料に基づき以下のとおり報告があった。

- ・平成 25 年 6 月 26 日 一般社団法人日本舶用工業会
- ・平成 25 年 7 月 1 日～7 月 2 日 中京大学心理学部
- ・平成 25 年 7 月 1 日～7 月 2 日 国際海事研究センター 古莊教授（研修便乗）
- ・平成 25 年 7 月 12 日～7 月 15 日 日本郵船株式会社（実習便乗）
- ・平成 25 年 7 月 12 日～7 月 15 日 海事マネジメント科学講座 ルックス准教授（実習便乗）
- ・平成 25 年 7 月 12 日～7 月 13 日 海事科学研究科事務部 杉本企画係員（実習便乗）

2. クライナーベルクの運航について

委員長から、回覧資料に基づき以下のとおり報告があった。

- ・平成 25 年 6 月 23 日 NPO セーリング神戸
- ・平成 25 年 7 月 20 日 NPO セーリング神戸

3. リーダーシップカッター巡航実施報告

委員長から、7 月 13 日から 15 日までの間、リーダーシップカッター巡航を実施した旨報告があった。

4. 平成 25 年度深江丸夏季研究航海の実施について

委員長から、資料 25-3-6 に基づき平成 25 年度深江丸夏季研究航海を実施する旨報告があった。

5. ECDIS（電子海図）訓練環境の緊急整備について（要求）

審議事項 5 に関連して、研究科長宛にセンター長名で、条約改正に伴う ECDIS 訓練の喫緊の必要性和設備要求等に係る要求書を提出した旨報告があった。

6. 8 月期の深江丸のブラックアウトについて

委員長から、8 月 8 日に実施のオープンキャンパス終了後から 8 月 18 日までブラックアウトする旨報告があった。

7. 海事科学船上セミナーについて

委員長から、学部学生の対応について検討の結果、各学科等の協力を得て実施する旨報告があった。

8. 公開講座ヨットクルージングについて

山下委員から、当初の予定どおり公開講座を実施した旨報告があった。

【その他】

次回の運営委員会は、平成 25 年 9 月 30 日（月）15 時から開催することとなった。
以上

平成 25 年度 第 4 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 8 月 27 日（火） 17 時 00 分～17 時 15 分

場 所 第二会議室

出席者 矢野委員長、河合機関長、若林(伸)教授、藤本(昌)准教授、廣野准教授
井川准教授、世良准教授、湊助教、長松准教授、山地講師、三輪講師
以上 11 名（定足数を確認）

欠席者 古莊教授、山下准教授、足立事務長

陪席者 企画係長 坂本 企画係 杉本 深江丸：西山一航士

【資料】

25-4-1 平成 25 年度第 3 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)

25-4-2 海技教育センター運営委員会内規新旧対照表（案）

25-4-3 深江丸見学及び船舶使用依頼

【審議事項】

1. 平成 25 年度第 3 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)について
委員長から、資料 25-4-1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
2. 海技教育センター長の交代について
委員長から、9 月 30 日をもって辞任する旨申し出があり、審議の結果、これを承認した。
また、次期センター長には、若林教授を推薦する旨の提案があり、審議の結果、これを承認した。なお、次期センター長の任期は、平成 25 年 10 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの現センター長の残任期間である旨の説明があった。
3. 海技教育センター運営委員会規則の改正について
委員長から、資料 25-4-2 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
4. 深江丸の見学及びクライナーベルク使用申請について
委員長から、資料 25-4-3 に基づき説明があり、審議の結果、附属練習船等使用申請書の代表者氏名に役職名を追加することとして、承認した。
5. ECDIS 対応について
廣野委員から、8 月 9 日に第 1 回 STCW 条約（マニラ改正）制度化検討会に参加した旨の報告があり、引き続き研究科運営委員会及び当委員会で検討することとなった。

【報告事項】

1. 平成 25 年度深江丸夏季研究航海について
委員長から、8 月 28 日～9 月 5 日まで研究航海を実施する旨の報告があった。
2. 教養原論「海への誘い」について
委員長から、9 月 9 日～13 日まで教養原論「海への誘い」を実施する予定であり、テレビ取材を受ける可能性がある旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成 25 年 9 月 30 日（月）15 時から開催する。

以上

平成 25 年度 第 5 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 9 月 30 日 (月) 15 時 00 分～16 時 30 分

場 所 第二会議室

出席者 矢野委員長、河合機関長、古莊教授、若林(伸)教授、廣野准教授、井川准教授、世良准教授、瀧准教授、長松准教授、山地講師、足立事務長
以上 11 名 (定足数を確認)

欠席者 藤本(昌)准教授、山下准教授、三輪講師

陪席者 企画係長 坂本 企画係 杉本 深江丸：西山一航士

【資料】

- 25-5-1 平成 25 年度第 4 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)
- 25-5-2 平成 25 年度クライナーベルク運航予定表
- 25-5-3 平成 25 年度夏季研究航海報告書(案)
- 25-5-4 全日本学生外洋帆走選手権大会等の開催について
- 25-5-5 カタマランコンペティションへの協力について
- 25-5-6 ポンド使用申請書

【審議事項】

1. 平成 25 年度第 4 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)について
委員長から、資料 25-5-1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
2. 平成 25 年度深江丸等運航予定について
委員長から、資料 25-5-2 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
3. 平成 25 年度夏季研究航海報告書(案)について
委員長から、資料 25-5-3 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。
なお、船舶安全管理学研究室からの報告を追記のうえ、ウェブサイトアップロードすることとなった。
4. 全日本学生外洋帆走選手権大会等の開催について
委員長から、資料 25-5-4 に基づき説明があり、審議の結果、より具体的な実施計画書を再提出のうえ、次回の委員会で審議をすることとなった。
5. カタマランコンペティションへの協力について
委員長から、資料 25-5-5 に基づき説明があり、海技教育センターとして協力することを承認した。
6. ポンドの使用について
委員長から、資料 25-5-6 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

【報告事項】

1. 深江丸の運航について

委員長から、回覧資料に基づき、次のとおり報告があった。

2013年7月29日(月) 一般社団法人関西小型船安全協会

2013年8月1日(木)～2日(金) 近畿内航船員対策協議会

2013年8月28日(水) 株式会社サクセス・プロジェクト・マネジメント・オフィス(研究航海便乗)

2013年9月9日(月)～10日(火)・12日(木)～13日(金) 大学教育推進機構

2. 白鷗の運航について

委員長から、回覧資料に基づき、次のとおり報告があった。

2013年9月7日(土) ボーイスカウト大阪第85団

3. むこ丸の運航について

委員長から、回覧資料に基づき、次のとおり報告があった。

2013年9月24日(火)・27日(金) 海事科学研究科 技術部長 橋本正孝

4. カッターの運航について

委員長から、回覧資料に基づき、次のとおり報告があった。

2013年9月9日(月)～10日(火)・12日(木)～13日(金) 大学教育推進機構

2013年9月24日(火)・27日(金) 海事科学研究科 技術部長 橋本正孝

5. クライナーベルクの運航について

委員長から、回覧資料に基づき、次のとおり報告があった。

2013年8月25日(日) NPOセーリング神戸

2013年9月9日(月)～10日(火)・12日(木)～13日(金) 大学教育推進機構

2013年9月21日(土) NPOセーリング神戸

2013年9月24日(火)・27日(金) 海事科学研究科 技術部長 橋本正孝

2013年9月26日(木) 関西流体力学研究会

6. 練習船の教育共同利用拠点化の動きについて

委員長から、練習船の教育共同利用拠点化について、来年の申請に向けて準備を進める旨の報告があった。

7. 広報誌「風」の写真撮影について

足立委員から、広報室から、広報誌「風」の表紙に、船舶の写真を使用したい旨の連絡があった旨の報告があった。

写真の撮影については、今後スケジュールを調整することとなった。

8. 正服・作業服について

委員長から、航海訓練所から正服・作業服について連絡があった旨の報告があり、今後、服装の規定を検討することとなった。

各系教員は、学内船舶実習以外の実験・実習で作業服が必要かどうか確認することとなった。

9. 筏の撤去について

廣野委員から、ポンドから筏を撤去した旨の報告があった。

なお、来年度以降も三村教授と研究計画を立てる予定である旨の報告があった。

10. 公開講座について

世良委員から、来年の公開講座のテーマについて、12月に本部へ報告する必要がある旨の報告があった。

11. テレビ取材について

委員長から、9月に受けたテレビ取材について、10月以降にケーブルテレビで公開され、その後、ウェブサイトで一定期間公開される旨の報告があった。

12. 週刊ダイヤモンド取材について

井川委員から、週刊ダイヤモンドから取材を受けた際に、深江丸内部で写真撮影を行った旨の報告があった。

13. 日本航海学会への写真提供について

廣野委員から、次回開催当番校となっている日本航海学会の大会プログラムにおいて、深江丸シップサイトの写真を使用したい旨の報告があった。

14. 艇庫クレーン使用時の安全対策について

洲委員から、オフショアセーリングクラブの学生がクレーンを使用する際、ヘルメットを着用しない等、安全対策が十分でない旨の報告があり、委員長から当該クラブの顧問へ指導を行うこととした。

15. STCW 条約制度化検討会委員について

委員長から、メール審議のうえ、STCW 条約制度化検討会委員について廣野委員の選任を承認した旨の報告があった。

【その他】

会議終了後、委員長から、センター長交代に際しての謝辞が述べられた。

次回、運営委員会は、平成 25 年 10 月 8 日（火）15 時 10 分から開催することとなった。

以上

神戸大学 大学院海事科学研究科

平成 25 年度 第 6 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 10 月 8 日（火） 15 時 10 分～16 時 50 分

場 所 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，井川准教授，
廣野准教授，藤本(昌)准教授，湊准教授（航海マネジメント）
矢野教授（船長），河合講師（機関長），長松准教授（ロジスティクス），
山地講師（海洋安全システム科学），野村准教授（マリンエンジニアリング，
三輪講師代理）

足立事務長

欠席者： 古莊教授，世良准教授

陪席者： 企画係 坂本係長，杉本係員，深江丸 西山一航士，和巻一機士，
青山二航士

【資料】

平成 25 年度第 5 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）

- (資料 1－1) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸規則
- (資料 1－2) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織規則
- (資料 1－3) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規
- (資料 1－4) 附属練習船深江丸に勤務する教員の選考に関する申合せ
- (資料 1－5) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター内規
- (資料 1－6) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会内規
- (資料 2－1) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター職員名簿
- (資料 2－2) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会名簿
- (資料 2－3) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織名簿
- (資料 3) 海技教育センター所掌今後の検討事項（H25 年度下期～

H26 年度）

- (資料 4－1) 教育関係共同利用拠点制度について
- (資料 4－2) 教育関係共同利用認定拠点一覧（H25.8.2 現在）
- (資料 5－1) 新カリキュラムにおける学内船舶実習の概要
- (資料 5－2) 学内船舶実習のカリキュラム内容・2 年生向け（案） 2013/09/25
- (資料 6－1) 第 40 回 近畿地方交通審議会 神戸船員部会議事録]
（平成 24 年 1 月 27 日）（抜粋）
- (資料 6－2) EMS A 指摘事項に関する対応について（案）
- (資料 7－1) Pre ANIORU' s Cup の開催についてお願い
- (資料 7－2) 海事科学部ポンド使用許可願
- (資料 7－3) 港内行事許可申請書
- (資料 8) 運航実績・予定
- (資料 9) 練習船等使用申請等（一覧）
- (資料 10) 阪大チームとの打合せメモ

(資料 11) クライナーベルク必要経費について (追加資料)

(資料 12) STCW 現地調査について (追加資料)

議事に先立ち、平成 25 年度第 5 回海技教育センター運営委員会議事要旨 (案) を確認し、原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 海技教育センター関係規則の確認 (資料 1)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
2. 海技教育センター職員、同センター運営委員会委員、SMS 関係担当者の確認 (資料 2)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
3. 海技教育センター所掌の検討事項 (資料 3)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
4. 附属練習船等使用申請等について (回覧資料) (資料 9)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
5. SMS 組織の実効化について
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
6. 練習船共同利用の拠点化申請に向けたタスクフォースの立ち上げについて (資料 4)
委員長から、資料 4 に基づき、練習船共同利用の拠点化申請に向けて、研究科長・両副研究科長・研究科長補佐・深江丸船長・事務長をタスクフォースメンバーとすることについて説明があり、原案のとおり承認した。
7. 研究航海の運営について
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
8. 新カリキュラムにおける深江丸実習の実施計画について (資料 5)
委員長から、資料 5 に基づき説明があり、学内船舶実習について確認を行った。
航海マネジメント系では 2 年次対象の学内船舶実習の内容についてすでに系会議で検討を行っており、マリンエンジニアリング学科に対しても、学内船舶実習についての検討依頼を行うこととなった。
なお、河合委員から、マリンエンジニアリング学科の学内船舶実習 1 は両コース合同で行うため、3 組編成になる可能性がある旨の補足説明があった。また、4 年次の学内船舶実習 2 は人数によっては 1 組で行う可能性もあるとの説明があった。
9. EMS A (欧州海洋安全庁) 査察の指摘事項への対応について (資料 6)
廣野委員から、資料 6 に基づき説明があり、回答案について原案のとおり承認した。
研究科長及び研究科運営委員会へ報告のうえ、国土交通省に回答することとなった。
10. 司厨業務の安定化について

委員長から説明があり，次回委員会で検討することとなった。

11. メール審議の議決について

委員長から説明があり，次回委員会で検討することとなった。

12. 全日本学生外洋帆走選手権大会等の開催について

(資料 7)

山下委員から，資料 7 に基づき説明があり，その他ポンド利用者との調整を行うこととして，原案のとおり承認した。

13. ポンドにおける安全の徹底について

委員長から説明があり，次回委員会で検討することとなった。

14. 予算について

山下委員から，資料 1 1 に基づき説明があり，クライナーベルクの運航に係る必要予算について，事務部で検討することとなった。

なお，今後，運航に支障がある当初予算の不足については，必要額を見積もったうえ，センター長へ連絡をすることとなった。

【報告事項】

1. 運航実績（H25 年度前期）及び予定（25 年 11 月）

(資料 8)

矢野船長、西山一航士、青山二航士及び山下委員から，資料 8－1～8－4 に基づき深江丸、白鷗、むこ丸、クライナーベルクの運航実績および予定について報告があった。

なお，今後の委員会では，前月の運航実績及び次月の運航予定の報告を行うこととなった。

2. 保船関係報告・予定

西山一航士及び和巻一機士から，次のとおり報告があった。

(甲板部)

・バウスラストが起動せず 10/4 の 3L 実験は出動を中止した。10/9 ダイバーを入れる予定である。

・台風対策のため船固めを行っている。

(機関部)

・10/1 学生ホールエアコンのヒューズが飛んだ。乗組員で原因を調査し修理を行った結果、正常に運転できるようになった。

・13 年 3 月のデータロガー換装以降，不具合の修正が続いているが，10/10 にもテラテックが修正の作業を行う。

・FO、LO のピューリファイアの分解清掃。

・燃料搭載（10/10，10/29）。

3. 深江丸等動静のメール報告について

委員長から，深江丸等動静報告について，出港・入港・仮泊・抜錨時には，動静・日時・

場所（港）・次の予定の内容を、センター運営委員会委員すべて・事務長・企画係・総務係・教務係・研究科長・副研究科長・研究科長補佐宛てに送ることとする旨の報告があった。次の深江丸運航から試行的に行い、不都合等があれば再度検討する旨の説明があった。

4. 委員会審議についての全教員への周知について

委員長から、議事要旨（案）を作成、各委員の確認後、案の段階ではあるが全教員へ周知することとする旨の報告があった。正式な議事要旨の承認は従前のおり、次の委員会で行う。

5. 今後の委員会の開催について

委員長から、今後の委員会の開催について、お盆等で開催の難しい 8 月を除き、基本的に毎月開催する予定である旨の報告があった。

6. 大阪大学 Maritime RobotX Challenge への協力について (資料 10)

委員長から、資料 10 に基づき、大阪大学の担当者との打ち合わせ内容の報告があった。

なお、山下委員から、ボートの置き場所については、大阪大学の担当者と、実際に現場をみながら相談したい旨の意見があった。

7. 広報誌「風」の写真撮影について

委員長から、広報誌「風」の写真撮影は、10 月 18 日もしくは 10 月 21 日に行う旨の報告があった。

8. STCW 現地調査について

委員長から、資料 12 に基づき報告があり、意見交換の結果、次のとおり対応することとなった。

①最新の資質基準システム（QSS）のマニュアル

過去にマニュアルに沿って作成したことはあるが、現在従うべきものはない。

ただし、過去に作成したものは、大学教育という場にはそぐわないものであり、現状のシステムとの対応を説明するしかない。

②直近のマネジメントレビューの議事録

ライセンス教育に特化したものは特になし。

もしどうしてもということなら、教授会、研究科運営委員会、教学委員会等の議事録その他の資料を全部送付する。

③被監査施設代表者（校長等）の氏名

登録上は学長であるが、施設代表者は研究科長（林祐司）として回答する。

【その他】

次回、運営委員会は、平成 25 年 11 月 19 日（火）15 時 10 分から開催することとなった。

以上

神戸大学大学院海事科学研究科

平成 25 年度 第 7 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 11 月 19 日（火） 15 時 10 分～17 時 00 分
場 所 第二会議室
出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，村井准教授（世良准教授代理），
浏览准教授，矢野船長，河合機関長，長松准教授，山地講師，三輪講師
以上 10 名（定足数を確認）
欠席者： 古莊教授，井川准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，足立事務長
陪席者： 企画係 坂本係長 杉本係員
深江丸 西山一航士 和巻一機士 青山二航士 黒木二機士

【資料】

- 平成 25 年度第 6 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H25.10.08
- (資料 1-1) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸規則
 - (資料 1-2) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織規則
 - (資料 1-3) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規
 - (資料 1-4) 附属練習船深江丸に勤務する教員の選考に関する申合せ
 - (資料 1-5) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター内規
 - (資料 1-6) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会内規
 - (資料 2-1) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター職員名簿
 - (資料 2-2) 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会名簿
 - (資料 2-3) 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織名簿
 - (資料 3) 海技教育センター所掌今後の検討事項（H25 年度下期～H26 年度）
 - (資料 4) 附属練習船等使用申請等（一覧）
 - (資料 5) 平成 26 年度公開講座計画書
 - (資料 6) 練習船深江丸研究航海の運営について（検討事項）
 - (資料 7) 平成 25 年度春季 練習船深江丸研究航海（平成 26 年 3 月）実施の予告
と研究参加相談の受け付けについて（ご案内）
 - (資料 8) 深江丸を利用した実験計画（塩谷教授）
 - (資料 9) 大阪大学との共同研究にかかる協力の依頼の件（小林教授）
 - (資料 10-1) 深江丸冷凍冷蔵庫換装要望書
 - (資料 10-2) 見積書（深江丸糧食冷蔵庫入替工事・藤野設備工業）
 - (資料 10-3) 見積書（深江丸冷凍機入替工事・サノヤス造船）
 - (資料 11) 見積書（エイトロープ・コースレコーダ）
 - (資料 12) 運航記録・予定
 - (資料 13) 練習船深江丸 教育関係共同利用拠点 申請にむけた取り組みについて
 - (資料 14) 学長裁量枠定員【部局等発戦略分】プロジェクト提案調書
 - (資料 15) ECDIS 訓練時間分担表(案)
 - (資料 16) 2013 年 11 月 19 日午前 カタマラン搬入風景

【審議事項】

1. 海技教育センター関係規則の確認 (資料 1)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

2. 海技教育センター職員、同センター運営委員会委員、SMS 関係担当者の確認 (資料 2)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

3. 海技教育センター所掌の検討事項 (資料 3)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

4. 附属練習船等使用申請等について (回覧資料) (資料 4)
委員長から、資料 4 に基づき附属練習船等の使用申請・使用届について説明があった。
原案のとおり深江丸使用申請について下記の 2 件 (2 はメールによる持ち回り審議) を承認した。その他小艇等の使用について、問題がないことを確認した。

	申請日	使用日	使用者	目的
(深江丸)				
1	11/15	11/28～11/29	大阪府立大学	船舶研修
2	10/22	11/28～11/29	タマヤ計測システム(株)	計測・演習 (1 に便乗)

5. SMS 組織の確認について
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

6. 公開講座における深江丸の使用について
(資料 5)

委員長から、資料 5 に基づき、平成 26 年度 (8 月上旬頃実施予定) の公開講座において深江丸を使用することについて広報・社会交流推進委員会から依頼があった旨、説明がなされた。審議の結果、当該公開講座における深江丸の使用を承認した。

なお、公開講座の実施にあたって、深江丸および海技教育センターは運航の担当を基本とし、プログラムの構成、寄港地の選定、航海日数の決定 (技術的に可能かどうかはセンターで判断する)、講師の選定および依頼等は広報・社会交流推進委員会が主体的に行うべきではないか、との意見があった。

7. 追加予算について

委員長から、要求のあった経費 (クライナーベルク 30 万円および白鷗 70 万円) については、運航上必要であれば支出せざるを得ない旨の説明があった。

なお、今年度中に必要な経費については、引き続き前びろに要求を提出するよう依頼があった。

8. 研究航海の運営について (資料 6)

委員長から、資料 6 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。その要点は次のとおり。

- ・夏季および春季に実施する研究航海はこれまでどおり 1 週間程度の航海を実施する。

- ・加えて短期の研究航海の回数を増やす.
- ・運航と研究を分けて運営体制を組織化する.
- ・募集については、早めの時期から予告する.
- ・学内他部局からの参加促進を努力する. また企業等からの参加も積極的に受け入れる.

9. 平成 25 年度 (26.3) 春季研究航海の実施について

(資料 7)

委員長から、実施予告の案内文書の原案 (資料 7) について説明があり、実施期間と寄港地を修正して、承認した.

実施期間：平成 26 年 3 月 13 日 (木) ~ 20 日 (木) (7 泊 8 日)

寄港地 (予定)：九州 (関門港門司などを検討中)

なお、案内文書は、研究科運営委員会で承認の後、学内外へ周知を行う.

10. 塩谷研究室の深江丸を用いた研究構想について (資料 8)

委員長から、資料 8 に基づき説明があり、下のとおり条件を付して承認した.

- ・期間のうち終期が未定となっているが、今回の申請に対しては平成 26 年 3 月末までとして承認し、平成 26 年 4 月以降も実験を続けるのであれば新たに申請を行うこと.
- ・機器類との接続には運航に支障のないように行うこと.
- ・カメラ撮影時はプライバシーに配慮をすること.

11. 「流出重油・ガス自動追跡システムの開発」の受け入れについて (資料 9)

委員長から、資料 9 に基づき説明があり、深江丸での研究実施を承認した. 概要は次のとおり.

- ・加藤直三教授 (大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻船舶海洋工学部門) から依頼があった水中ロボットを用いた実験. 深度 1,000~1,500m 程度の海域において実施予定.
- ・小林英一教授が共同研究として受け入れ.
- ・平成 25 年 11 月 27 日、深江丸係留岸壁でロボットの降下、揚収の検証を行う.
- ・平成 26 年 4 月頃、紀伊水道沖で実験、平成 26 年 8 月~9 月頃 (夏季研究航海を想定) で新潟県佐渡沖での実験を予定.

12. 深江丸の冷凍・冷蔵庫の換装について (資料 10)

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった.

13. 深江丸のコースレコーダの換装・係留策の新替について (資料 11)

委員長から、資料 11 (見積書) に基づき説明があり、故障している深江丸コースレコーダの新替と、係留策交換のためのエイトロープの購入について原案のとおり承認した.

14. 司厨業務の安定化について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった.

15. ポンドにおける安全の徹底について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった.

16. メール審議の議決について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

【報告事項】

1. 運航実績（H25 年度前期）および予定（25 年 11 月）（資料 12）

矢野委員から深江丸，青山二航士から白鷗，西山一航士からむこ丸及び山下委員からクライナーベルクについて，資料 12-1～12-4 に基づきそれぞれ前月からの運航実績および次月までの運航予定の報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

西山一航士及び和巻一機士から，次のとおり報告があった。

（甲板部）

- ・10 月 9 日，ダイバーを入れてスラストの整備を終了し，不具合のあったバウスラストは正常に動作するようになった。

（機関部）

- ・データロガーの不具合は，未だ解消されていない。
- ・予定通り，燃料の搭載を行った。今後，入渠までは燃料搭載は行わない予定である。
- ・バウスラストを制御するリレーの接点固着による不具合があり，交換により修理した。
- ・操舵機の冷却系統の配管にピンホールがあき，水漏れが発生したため，処置した。

3. 深江丸等動静のメール報告について

委員長から，前回の会議以降，深江丸等の動静についてメール報告を行っている旨の報告があった。なお，今後は，出動目的も記載することとなった。

4. 新カリキュラムにおける深江丸実習の実施計画について

委員長から，マリンエンジニアリング学科の新カリキュラムにおける深江丸実習の実施計画については，次年度及び次々年度は，新旧カリキュラムが混在するため，過渡的な状況への対応が必要である旨の報告があった。

なお，来年度からのマリンエンジニアリング学科 2 年次の学内船舶実習について，同学科長宛，意向を確認中であるが，資料 12-5 に基づき，前期に実施の 2M-1～3（1 泊 2 日×3 組）実習を 9 月に予定として入れた草案が示された。

5. 新カリキュラムにおける作業服・制服等について

委員長から，新カリキュラムにおける作業服の対応について各系に照会したところ，以下のとおり回答があった旨の報告があった。

グローバル輸送科学科ロジスティクスコース	：船舶実習を履修する学生のみ購入
海洋安全システム科学科	：全員不要
マリンエンジニアリング学科	：全員購入

なお，航海訓練所の乗船実習に参加する学生については，2 着の作業服を持参することになる見込みであるとの説明があった。また制服については，11 月 25 日開催の三者協議会（航海訓練所，東京海洋大学海洋工学部，神戸大学海事科学部）において検討される予定である旨の説明があった。

6. EMSA（欧州海洋安全庁）査察の指摘事項への対応について

委員長から、前回審議を行った標記について、10月10日に急遽回答を行い、運営委員会での審議が事後となった旨の報告があった。

7. STCW 現地調査について

委員長から、11月18日に予定していた STCW 現地調査（NK）が平成 26 年 2 月上旬に延期になり、現在日程調整中である旨の報告があった。（第 1 希望 2 月 4 日午後、第 2 希望 2 月 3 日午後で NK に照会中）

8. 練習船の教育関係共同利用拠点化申請 WG について（資料 13）

委員長から、資料 13 に基づき、練習船の第 1 回教育関係共同利用拠点化申請 WG が開催された旨の報告があった。今後は、共同利用準備委員会で内容を検討し、申請 WG で申請書および添付資料の準備を進めていく予定である、また、学則をはじめとする規則等の改正や制定が必要であるとの説明があった。

9. 学長裁量枠プロジェクトの申請について

（資料 14）

委員長から、資料 14 に基づき、深江丸を利用する研究・教育・研修等に関するプロジェクトを海事科学研究科から申請予定である旨の報告があった。

10. ECDIS 訓練検討会について（資料 15）

内田委員から、11月15日に東京海洋大学海洋工学部内で開催された第 1 回 ECDIS 訓練検討会について報告があった。資料 15 は航海訓練所から示された、同所が練習船において行う ECDIS 訓練と、各養成施設における訓練の時間配分の案として示されたものである旨、説明があった。

11. 入渠・定期検査工事の業者決定について

委員長から、入渠・定期検査工事についてサノヤス造船株式会社に決定した旨の報告があった。なお入渠期間は、平成 26 年 1 月 22 日から 2 月 6 日の予定である。

12. 深江丸見学の受け入れについて

委員長から、神戸大学本部から文部科学省研修生による深江丸見学依頼があり、11月20日午後の見学を受け入れる旨の報告があった。

13. 大阪大学 Maritime RobotX Challenge への協力について

委員長から、資料 16 に基づき、11月19日午前、カタマランボートが搬入された旨の報告があった。平成 26 年 10 月まで艇庫において保管し、大阪大学を中心とする参加チームが作業や実験等を行う予定である。

14. 停泊中深江丸での液体水素実験について

委員長から、武田教授からの依頼による停泊中深江丸での液体水素実験（10月28日～10月31日）が終了した旨の報告があった。

15. 広報誌「風」の写真撮影について

委員長から、10月28日午後、クライナーベルクを被写体としてむこ丸から、神戸大学広報誌「風」の表紙写真撮影を行う取材協力を本部広報からの依頼に基づき実施した旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成25年12月10日（火）15時10分から開催することとなった。

以上。

神戸大学大学院海事科学研究科

平成 25 年度 第 8 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 25 年 12 月 10 日（火） 15:10～17:40

場 所： 事務棟 第二会議室

委 員： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，井川准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，渕准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），長松准教授（ロジスティクス），山地講師（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者：古荘教授，世良准教授

陪席者：企画係 坂本係長，杉本係員，深江丸 西山一航士，和巻一機士，青山二航士

【資料】 平成 25 年度第 7 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H25.11.19

（資料 1-1） 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸規則

（資料 1-2） 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織規則

（資料 1-3） 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規

（資料 1-4） 附属練習船深江丸に勤務する教員の選考に関する申合せ

（資料 1-5） 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター内規

（資料 1-6） 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会内規

（資料 2-1） 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター職員名簿

（資料 2-2） 神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会名簿

（資料 2-3） 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織名簿

（資料 3） 海技教育センター所掌今後の検討事項（H25 年度下期～H26 年度）

（資料 4） 附属練習船等使用申請等（一覧）

（資料 5） 津波対策を必要とする給油取扱所予防内規（案）

（資料 6） 新カリキュラム「海技実習」実施体制等について

（資料 7） 平成 26 年度 海技教育センター関係予算（支出項目） 検討資料

（資料 8-1） 深江丸冷凍冷蔵庫換装要望書

（資料 8-2） 見積書（深江丸糧食冷蔵庫入替工事・藤野設備工業）

（資料 8-3） 見積書（深江丸冷凍機入替工事・サノヤス造船）

（資料 9-1～5） 運航記録・予定

（資料 10） H26 年度深江丸運航予定（草案）

（資料 11） 監事監査・内部監査実施計画書／H25 年度監査内容・教育（監事）

（資料 12） 平成 25 年度 海事系大学・航海訓練所三者協議会

（資料 13） ECDIS 訓練時間分担表（案）20131129

（資料 14） カタマランコンペティションに関する協力依頼書

（資料 15-1） （メール）FW: （全学教務委員会）大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換事業における提供課目について

（資料 15-2） 【平成 26 年度】大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換事業における提供科目について

（資料 16） 大学における東日本大震災にかかわる記録活動調査票

（資料 17） 係留施設 概略平面図

議事に先立ち，平成 25 年度第 7 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）を確認し，原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 海技教育センター関係規則の確認 (資料1)
委員長から、資料1に基づき、海技教育センター関係規則の確認を行った。関係規則はつぎのとおり。

- ・神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸規則
- ・神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織規則
- ・神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規
- ・附属練習船深江丸に勤務する教員の選考に関する申合せ
- ・神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター内規
- ・神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会内規

とくに海技教育センター内規に、センターの目的として、「研究科の練習船、実習船及びその他の舟艇並びに海岸設備の管理、これらの教育研究利用に関する運営及び海技に関する教育を行うこと」と規定されており、この点を考慮して今後、センターの活動を検討していく必要がある旨の説明があった。

2. 海技教育センター職員、同センター運営委員会委員、SMS 関係担当者の確認 (資料2)

委員長から、資料2に基づき、海技教育センター職員、同センター運営委員会委員の確認を行った。

なお、SMS 関係担当者については今後検討することとなった。

3. 海技教育センター所掌の検討事項 (資料3)

委員長から、資料3に基づき海技教育センター所掌の事業として実施が必要な検討事項について確認を行った。

なお、これ以外にも検討事項の提案があれば、委員長へ申出ることとなった。

4. 附属練習船等使用申請等について (回覧資料) (資料4)

委員長から、資料4及び回覧資料に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

申請日	使用日	使用者	目的	備考
(深江丸)				
12/2	12/13	リチャード・ハリソン他計3名	共同利用下見	航海学実験
3に便乗				
12/5	12/20	佐野 正他計4名		研究活用下見 航海学実験
3に便乗				
12/5	12/13	重富 公正	研究活用下見	航海学実験
3に便乗				
(クライナーベルク)				
12/3	12/14	NPO セーリング神戸	NPO 活動	

5. SMS 組織の確認について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

6. 津波対策を必要とする給油取扱所予防内規の制定について (資料5)
委員長から、資料5に基づき説明があり、原案のとおり承認した。本年9月東灘消防署の査察の際に指摘された事項への対応である。本委員会で審議の後、研究科運営委員会へ附議し、本部での手続きが終わった後、対応した旨、消防署へ報告する予定である。
7. マリンエンジニアリング学科 新カリキュラム「海技実習」について (資料6)
委員長から、資料6に基づき説明があり、マリンエンジニアリング学科長依頼事項と授業担当者間での意見に差異があるため、マリンエンジニアリング学科においてセンターへの依頼内容を明確にするよう再検討を依頼することとなった。
8. 平成26年度海技教育センター予算の編成方針について (資料7)
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
9. 海技教育センター内部監査について
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
10. 平成26年度事業計画書・ECDIS 訓練シミュレータ等の作成について
委員長から、平成26年度事業計画書及び概算要求申請について説明があり、ECDIS 訓練シミュレータについて事業計画書を、深江丸教育関係共同利用拠点に関連して概算要求を作成することについて承認した。
なお、作成にあたり委員の意見を聞くことがある旨、協力依頼があった。
11. 深江丸の冷凍・冷蔵庫の換装について (資料8)
河合機関長から、資料8に基づき冷凍・冷蔵庫の換装が必要である旨の説明があり、原案のとおり承認した。
なお、可能であれば今年度予算で実施するが状況は厳しく、来年度予算で対応する方向で検討を行うこととなった。
12. カタマランコンペディションに関わる対応について
廣野委員から、カタマランコンペディションに関わる対応について、実験はクレーンの操作等を伴うため学生のみで行うことはできないので、休日にポンドの利用要請があった場合は、対応可能な者が職務として実験の補助を行いたい旨の提案があり、意見交換の結果、職務として認められるかどうか総務係へ確認することとなった。
13. 司厨業務の安定化について
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
14. ポンドにおける安全の徹底について
委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。
15. メール審議の議決方法について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（25 年 11 月～26 年 1 月）（資料 9）
（資料 10）

矢野委員，西山一航士，青山二航士及び山下委員から，資料 9 に基づき報告があった。

また，委員長から，資料 10 に基づき，平成 26 年度深江丸等運航予定について，共同利用拠点化に向けて，例年に比べ多くの他大学の利用を予定している旨の報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

西山一航士及び和巻一機士から，次のとおり報告があった。

- ・コースレコーダーの換装予定日が決定した（12 月 25 日）。
- ・年末年始対応として 12 月 24 日に船がためを行い，12 月 27 日から 2014 年 1 月 6 日朝の間，深江丸はブラックアウトする予定である。12 月 25 日にブラックアウトに備え，ビルジ警報テストを行う予定である。

3. 監事監査について

（資料 11）

委員長から，資料 11 に基づき，12 月 16 日に深江丸に関しての監事監査が予定されている旨の報告があった。

4. 「流出重油・ガス自動追跡システムの開発」の研究受け入れについて

委員長から，「流出重油・ガス自動追跡システムの開発」の研究受け入れについて，11 月 27 日に実験を行い，平成 26 年に再度実験及び夏季研究航海に乗船予定である旨の報告があった。

5. 三者協議会について（資料 12）

内田委員から，資料 12 に基づき，三者協議会（航海訓練所，東京海洋大学および本学）について報告があった。

6. 深江丸入渠関連工事について

委員長から，深江丸入渠関連工事について，業者と打合せを行い，また一部沖工事をすでに実施している旨の報告があった。

11 月 21 日：ADCP 新設（ハイドロシステム開発），11 月 26 日：水質モニタリングシステム新設（JFE アドバンテック），12 月 3 日：ウェザートランスミッター新設（サノヤス造船）について，それぞれ入渠中の工事について打合せを行った。

12 月 2 日～3 日：ECDIS 換装の沖工事（JRC）を実施した。12 月 9～11 日：船内 LAN の一部機器新替の沖工事（三井造船）を実施している。

7. STCW 現地調査について

内田委員から，STCW 現地調査について，平成 26 年 2 月 3 日（月）午後に実施され

ることが決まり、それに伴い QSS マニュアルについて、廣野委員、内田委員を中心に現在作成中である旨の報告があった。

8. ECDIS 訓練検討会について (資料 13)

内田委員から、第 2 回 ECDIS 訓練検討会が 12 月 11 日 (水) に開催予定であるが、神戸大学からは参加不可能である旨の報告があった。資料 13 は、この第 2 回検討会で航海訓練所から示される予定の分担案であるとの説明があった。

9. 深江丸見学の実施について

委員長から、11 月 20 日 (水)、神戸大学本部からの依頼により、文部科学省の研修生の深江丸見学を受け入れた旨の報告があった。

10. 大阪大学 Maritime RobotX Challenge への協力について

(資料 14)

委員長から、資料 14 に基づき、研究科長宛に依頼状が届いた旨の報告があった。

11. 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換事業による共同利用について

(資料 15)

委員長から、資料 15 に基づき、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換事業による共同利用について、教学委員会の方で検討が進められている旨の報告があった。

12. ポンドの浚渫等について

事務長から、今年度予定していたポンドの浚渫作業について、来年度に繰り越された旨、説明があった。具体的な時期は、来年度の深江丸の入渠時期にあわせることになる。関連して、委員長から、資料 17 に基づき、ポンドの係留施設 (ドルフィン) の新設について検討中である旨の報告があった。

13. 平成 25 年度春季研究航海について

委員長から、平成 25 年度春季研究航海について、研究科運営委員会 (12 月 4 日) で報告の後、事前案内を神戸大学内外に向けて送付した旨の報告があった。

14. 大阪大学工学部からの教育関係共同利用について

委員長から、実施予定日が延期になった旨の報告があった。

15. マリンエンジニアリング学科の学内船舶実習の時期について

三輪委員から、マリンエンジニアリング学科の学内船舶実習の時期について、2 年生は 6~7 月、3 年生は 9 月、4 年生は 5~6 月を希望している旨の報告があった。

16. 学外の乗船者における深江丸の利用態度について

矢野船長から、共同利用拠点化申請に向けて他大学の学生の乗船が増えることが予想されるが、他大学の学生においても、深江丸の利用態度については神戸大学の学生

と同じく扱いたい旨の意見があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成 25 年 1 月 14 日（火）15 時 10 分から開催することとなった。

以上

神戸大学大学院海事科学研究科

平成 25 年度 第 9 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 1 月 14 日（火） 15：10～17：15

場 所： 総合学術交流棟 5 階 会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，古荘教授，山下准教授，井川准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，湊准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），長松准教授（ロジスティクス），山地講師（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング）

欠席者： 世良准教授，足立事務長

陪席者： 企画係 坂本係長，杉本係員
深江丸 西山一航士，黒木二機士

【資料】

資料 平成 25 年度第 8 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）

H25.12.10

資料 1 平成 26 年度深江丸等運航予定（草案）

資料 2 防災リネン見積書

資料 3-1 新旧対照表・附属練習船深江丸規則

資料 3-2 新旧対照表・海技教育センター運営委員会内規

資料 3-3 附属練習船深江丸教育関係共同利用規則（案）

資料 3-4 附属練習船深江丸教育関係共同利用運営協議会規則（案）

資料 3-5 附属練習船深江丸教育関係共同利用実施要項（案）

資料 3-6 附属練習船深江丸教育関係共同利用申請書

資料 4 春季研究航海 参加チーム・乗船者の募集について

資料 5-1 海技教育センター関係支出実績・旧分類

資料 5-2 海技教育センター関係予算（支出項目） 検討資料

資料 5-3 H25 年度クライナーベルク整備予定（H26.3 実施予定）

資料 6-1 航海マネジメントコース月曜日の授業について

資料 6-2 2014 年度 航海マネジメントコース 月曜日午後実習スケジュール（素案）

資料 7-1 新カリキュラム「海技実習」日程および実施体制等について

資料 7-2 マリン海技実習案

資料 8 平成 26 年度 練習船深江丸 配乗予定表

資料 9 業務依頼書

資料 10-1 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織規則

資料 10-2 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸 SMS 組織名簿

資料 11 運航記録予定（11-1 ～ 11-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク

資料 12 神戸大学海事科学部 QSS Manual(2013_12_26 版)

資料 13-1 大学コンソーシアムひょうご 単位互換事業にかかる 科目について

資料 13-2 2014 年度 前期/春学期単位互換事業履修要項作成用資料

資料 14-1 平成 26 年度事業計画書

資料 14-2 事業計画_説明資料_ECDIS

資料 14-3 平成 27 年度 特別経費（教育関係共同実施分【新規事業】）所要額調

議事に先立ち、平成 25 年度第 8 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)を確認し、原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について

委員長から、前回委員会以降新規の申請はない旨の説明があった。

2. 平成 26 年度練習船深江丸等運航予定について

(資料 1)

委員長から、資料 1 に基づき説明があった。来年度は教育関係共同利用のため、未だ確定していない航海もあり、最終的には 3 月の委員会で運航予定を決定する予定である。

3. 深江丸の実習生用寝具の新規購入について

(資料 2)

委員長から、資料 2 に基づき航海が連続する機関があり現状では来年度の航海において寝具（シーツ、包布、枕カバー）が不足するとの説明があり、新規購入について原案のとおり承認した。

購入時期については事務部へ確認した上で、来年度早々を予定している。

4. 練習船深江丸の教育関係共同利用に関する規則改正および制定について

(資料 3)

委員長から、資料 3 に基づき説明があり、主に教育関係共同利用に対応するため現行規則等の改正および新たな規則等の制定が必要である旨の説明があった。深江丸規則については、次のように修正することを条件に承認した。これ以外については、原案のとおり承認した。

(資料 3-1 第 2 条の 2)

「練習船は、教育上支障がないと認められるときは、他の大学等の利用に供するものとする。」

→「練習船は、本学の教育研究上支障がないと認められるときは、他の大学等の教育に係る共同利用に供することができるものとする。」

5. 海技教育センター内部監査について

委員長から、海技教育センター内部監査について、系選出の委員（海技教育センター教員を兼ねる者は除く）に依頼したい旨の説明があり、原案のとおり承認した。

6. 春季研究航海の参加者募集について

(資料 4)

委員長から、資料 4 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

7. 平成 26 年度海技教育センター予算の編成方針について

(資料 5)

委員長から、資料 5 に基づき説明があり、予算区分は内容を反映したものに変更することを承認した。なお、具体的な平成 26 年度予算については、次回以降の委員会で検討する。

8. 新カリキュラム「海技実習」について

(1) 航海マネジメントコース

(資料 6)

委員長から、資料 6 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

(2) マリンエンジニアリング学科

(資料 7)

委員長から、資料 7 に基づき説明があり、審議の結果、マリンエンジニアリング学科長の依頼について、次のとおり回答することを承認した。

1. 日程について

- ・日程案は承認した。
- ・ただしカッター実習のセンターから支援可能な教員は 2 名のみである。カッターの上げ下ろし等、準備については要員の手当は不可能であり、また TA 等についても、マリンエンジニアリング学科で実施に向けて詳細の準備をするべきという意見があった。

2. エンジンボート（白鷗）について

- ・白鷗の運航はセンターが対応可能である。
- ・学生への説明等、教育面はマリンエンジニアリング学科教員が同乗のうえ、実施を行うよう依頼する。

3. ロープワークについて

- ・初年度の講義についてはセンターが支援可能である。
- ・ただし、段階的にマリンエンジニアリング学科のみで実施できるように、数年で準備するよう依頼する。
- ・初年度については TA を 1 名の手配を依頼する。

9. 26 年度深江丸応援航海士等配乗方針について

(資料 8)

委員長から、資料 8 に基づき説明があり、次回委員会で配乗方針及び各航海における応援航海士の配乗人数を審議することとなった。

10. 寄港地における綱取りの手配について

(資料 9)

委員長から、資料 9 に基づき、深江丸の深江キャンパス帰港時の綱取りについては、技術部へ業務依頼を行う旨の説明があり、審議の結果、「平日」を「土日を含む」に修

正し、業務依頼を行うことを承認した。

11. SMS 組織の確認について

(資料 10)

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

12. 司厨業務の安定化について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

13. ポンドにおける安全の徹底について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

14. メール審議の議決方法について

委員長から説明があり、次回委員会で検討することとなった。

【報告事項】

1. 運航実績および予定 (25 年 12 月～26 年 2 月)

(資料 11)

矢野委員、西山一航士及び山下委員から、資料 11 に基づき深江丸、白鷗、むこ丸、クライナーベルクの運航実績および予定について報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

西山一航士及び黒木二機士から、次のとおり報告があった。

- ・年末年始のブラックアウトは、予定どおり平成 25 年 12 月 27 日から平成 26 年 1 月 6 日まで行った。
- ・コースレコーダーの換装が完了した。
- ・高経年化対策として、ECDIS 及び船内無線 LAN の工事が完了した。
- ・船内 LAN 用の気圧センサーの発注を行った。工事は年度内に完了する予定である。
- ・通常業務に加えて、入渠に向けて準備を行っている。

3. 深江丸の冷凍・冷蔵庫の換装について

委員長から、前回委員会において承認された深江丸の冷凍庫・冷蔵庫の換装について、具体的な調達のための予算状況について事務長が確認を行っている旨の報告があった。

4. 監事監査について

委員長から、平成 25 年 12 月 16 日に、深江丸及び乗船実習科の監事監査が行われた旨の報告があった。

5. STCW 現地調査について

(資料 12)

内田委員から、資料 12 に基づき、平成 26 年 2 月 3 日に、日本海事協会による現地

調査が行われる予定であり，当日提出する QSS マニュアルを廣野委員が中心に作成している旨の報告があった。

6. ECDIS 訓練検討会について

内田委員から，平成 25 年 12 月 11 日に，ECDIS 訓練検討会が開催された旨の報告があった。なお，神戸大学からは欠席であったが，その後情報収集を行った旨の報告があった。

7. 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換事業による共同利用について
(資料 13)

委員長から，資料 13 に基づき，大学コンソーシアムひょうごによる単位互換事業について，教育関係共同利用の一環として，平成 26 年 9 月の集中授業（深江丸の航海実習を含む）「海と船入門」を実施することとなった旨，報告があった。

8. カタマランコンペへの協力に関わる教員の休日出勤に関する対応について

委員長から，カタマランコンペへの協力に関わる教員の休日出勤について，振替で対応している旨の報告があった。

9. 平成 26 年度事業計画書（ECDIS 訓練シミュレータ）等の提出について
(資料 14)

委員長から，資料 14-1 に基づき，平成 26 年度事業計画書を提出した旨の報告があった。また，資料 14-2 に基づき，共同利用に関連して平成 27 年度概算要求を提出した旨の報告があった。

10. 改正 S T C W 条約に対応するための船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則等の一部改正について

委員長から，改正 S T C W 条約に対応するための船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則等の一部改正について，1 月 8 日付けメールで神戸運輸監理部から連絡のあった旨の報告があった。これにより ECDIS 訓練（登録講習）への対応時期が早まることが明らかとなった。

11. 大学における東日本大震災にかかわる記録活動の調査への協力について

委員長から，大学における東日本大震災にかかわる記録活動の調査について，メール審議の結果に基づき海事科学研究科総務係から情報管理課企画係宛回答票を提出した旨の報告があった。

12. 大阪大学工学部からの教育関係共同利用について

委員長から，大阪大学工学部からの教育関係共同利用について，平成 26 年 1 月 6 日に，船舶海洋工学コースの授業の一環として 2 年生および 3 年生約 80 名の学生及び教員による見学を受け入れた旨の報告があった。

13. 古野電気からの実験に関する打診について

委員長から，古野電気より開発中のレーダー関係の実験に深江丸を利用できないか

打診があった旨の報告があった。

14. ポンドの使用について

委員長から、全日本学生外洋帆走選手権開催のためポンド使用願いがあり、本件についてはメール審議とする旨の報告があった。

15. 全日本カッター選手権について

古荘委員から、平成 26 年 5 月 31 日に全日本カッター選手権が神戸大学の担当で近隣海域において開催される見通しである旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成 26 年 2 月 18 日（火）15 時 10 分から開催することとなった。

以上

神戸大学 海事科学研究科

平成 25 年度 第 10 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 2 月 13 日（木） 11:00～12:30

場 所： 事務棟 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，井川准教授，世良准教授，淵准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），長松准教授（ロジスティクス），山地講師（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），

欠席者： 古荘教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，足立事務長

陪席者： 企画係 坂本係長，杉本係員，
深江丸 西山一航士，和巻一機士，青山二航士，黒木二機士

【資料】

資料 平成 25 年度第 9 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）

H26. 1. 14

- 資料 1 附属練習船等使用申請等（一覧）
- 資料 2 平成 26 年度深江丸等運航予定（草案）
- 資料 3 大阪大学との共同研究に関わる協力依頼について
- 資料 4 ECDIS 訓練の登録申請について（4-1～4-17）
- 資料 5-1 海技教育センター関係予算（支出項目） 検討資料
- 資料 5-2 H25 年度クライナーベルク整備予定（H26. 3 実施予定）
- 資料 6 平成 26 年度 練習船深江丸 配乗予定表
- 資料 7 運航記録・予定（7-1～7-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 資料 8 監事監査報告書
- 資料 9 共同利用一覧（26. 2. 13 現在）
- 資料 10 2014 年度大学コンソーシアムひょうご神戸 シラバス
- 資料 11 内閣府 SIP 提供情報

議事に先立ち，平成 25 年度第 9 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)を確認し，原案のとおり承認した．

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について（資料 1）

委員長から，資料 1 及び回覧資料に基づき説明があり，原案のとおり承認した．

ただし，大学教育推進機構の申請については，教職員も含めて，乗船者は 40 名までとする旨を大学教育推進機構へ伝えることとなった．

2. 平成 26 年度練習船深江丸等運航予定について

（資料 2）

委員長から，資料 2 に基づき説明があり，資料 2-1 については次のとおり修正して，承認した．

- ・7月16日～17日，7月23日～24日，11月18日～19日の「他大学混乗」は削除
- ・11月21日の「3N実験3」は削除

3. 「流出重油・ガス自動追跡システムの開発」にかかる夏季研究航海の佐渡航海について (資料3)

委員長から，資料3に基づき説明があり，審議の結果，次の事項を盛り込み再度回答することを承認した。

- ・予定より出発を1日早めて8月26日神戸発，9月4日神戸着で，新潟沖海域までは航海することが可能であり，現地では約2日間程度の実験期間を確保できる。ただし，台風等の影響を受けた場合，予定どおりの航海はできかねる。そのような条件でも，実験が可能か検討すること。
- ・また深江丸は，人員の確保，予算の確保に問題を抱えているので，その点が解消されるよう検討すること。
- ・通常の航海よりかなり長距離となり，他の研究テーマの実施も難しいことから，燃料代の負担を検討すること。
- ・深江丸および乗組員（教員を含む）も研究に貢献したとして評価してもらえる形にできるよう検討すること。

4. 深江丸におけるレーダー関係の実験に関する打診について

委員長から，古野電気から深江丸における波浪レーダー関係の実験に関して具体的な説明があった旨の説明があり，深江丸で検討した結果も考慮し，共同研究として受け入れる方向で回答することを承認した。

5. ECDIS 講習の登録申請について (資料4)

委員長から，資料4に基づき説明があり，これまでの経緯について確認した。準備検討が必要な事項は以下のとおりである。

- (1) ECDIS 講習のカリキュラムとシラバス
- (2) 講習担当教員
- (3) ECDIS シミュレータ
- (4) インストラクタ：年度内の講習参加予定教員は4人（矢野，廣野，村井，淵の各先生）
- (5) 講習用教科書

今後の対応については，これら事項について作業を行うワーキンググループを立ち上げることを承認した。

また，資料4-16（現4年生への通知文）に関しては，次のとおり教務係へ意見を伝えることとなった。

- ・全学生が，受講が必要のように読み取れるので誤解を招くのではないか。
- ・内定先企業と関係のある問題なので，内定先企業と密に連絡をとる必要があることを明記する必要があるのではないか。

- ・以上をふまえて、再度内容について検討後、副研究科長（教育担当）及び教学委員長、海技教育センター長に確認のうえ、周知をお願いしたい。

6. 平成 26 年度海技教育センター予算の編成方針について
（資料 5）

委員長から、資料 5 に基づき説明があり、新たな予算編成で次年度の予算を作成することを承認した。

クライナーベルクから要求の出ている、今年度の整備作業について、費用の捻出は難しい状況であるが、山下委員と会計係等とで交渉してもらいたい旨の説明があった。

7. 平成 26 年度深江丸応援航海士等配乗方針について
（資料 6）
委員長から、資料 6 に基づき説明があり、引き続き検討することとなった。

8. 寄港地における綱取りの手配について

委員長から、寄港地における綱取りの手配について確認があり、引き続き検討することとなった。

【報告事項】

1. 運航実績及び予定（平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月）
（資料 7）

矢野委員、西山一航士及び山下委員から、資料 7 に基づき深江丸、白鷗、むこ丸、クライナーベルクの運航実績及び予定について報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

西山一航士及び和巻一機士から、次のとおり報告があった。

（入渠関連）

- ・入渠中、ウィンチ及び舷梯に不具合が見つかり、修理を行った。
- ・発電機の部品交換等を行った。
- ・予備の部品を使用したため、新たに予備部品の購入が必要である。

（入渠以外）

- ・データロガーの換装工事を行った。
- ・本日（2 月 13 日）燃料を 20 キロリットル積み込み予定である。

3. 入渠・定期検査報告

西山一航士及び和巻一機士から、1 月 22 日～2 月 7 日の深江丸入渠工事及び試運転は無事終了した旨の報告があった。

4. 海技教育センター内部会計監査について

委員長から、2 月 18 日に長松委員、山地委員、三輪委員が海技教育センター内部会計監査を行う旨の報告があった。

5. STCW 現地調査について

内田委員から、日本海事協会の現地調査は延期となり、4 月下旬を予定している旨

の報告があった。なお、QSS マニュアルは、2 月中に完成し、運用を行う予定である旨の報告があった。

6. 春季研究航海の参加者募集について

委員長から、前回審議した春季研究航海の参加者募集案について、研究科運営委員会に報告した後、通知した旨の報告があった。

7. 練習船深江丸の教育関係共同利用に関する規則改正及び制定について

委員長から、前回承認した練習船深江丸の教育関係共同利用に関する規則改正及び制定について、改めて本部企画法規グループでチェックを行っている旨の報告があった。

8. 監事監査について

(資料 8)

委員長から、資料 8 に基づき練習船深江丸についての監事監査・内部監査の報告書が送付された旨の説明があった。

9. 深江丸の実習生用寝具の新規購入について

委員長から、深江丸の実習生用寝具の新規購入について、会計係長へ打診した結果、購入は次年度になる旨の報告があった。

10. 教育関係共同利用の受入予定について

(資料 9)

委員長から、資料 9 に基づき、現時点での教育関係共同利用の受入予定の報告があった。

11. 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換事業による共同利用について

(資料 10)

委員長から、資料 10 に基づき、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学間単位互換事業による共同利用の科目「海と船について作成したシラバスが教学委員会で承認された旨の報告があった。

12. 平成 26 年度内閣府 SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) への情報提供について

(資料 11)

委員長から、資料 11 に基づき、深江丸の海洋資源調査拠点構想について連携創造本部を通じて平成 26 年度内閣府 SIP へ情報提供を行った旨の報告があった。

13. ECDIS 訓練検討会について (内田副研究科長)

内田委員から、1 月 23 日、ECDIS 訓練検討会に出席した旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会開催日は 3 月の深江丸研究航海の前、または後とする。日程はおって調整する。

以上

平成 25 年度 第 11 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 3 月 26 日（水）10:40～12:40

場 所： 事務棟 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，古莊教授，井川准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，(以上センター教員)，矢野教授（船長），河合講師（機関長），長松准教授（ロジスティクス），山地講師（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 山下准教授，世良准教授，荏准教授

陪席者： 企画係 坂本係長，杉本係員，深江丸 西山一航士，和巻一機士，青山二航士，黒木二機士

【資料】

平成 25 年度第 10 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26.2.13

- 1 附属練習船等使用申請等（一覧）
- 2-1 平成 26 年度深江丸等運航予定（案）
- 2-2 平成 26 年度クライナーベルク運航予定（案）
- 3 平成 26 年度練習船深江丸利用一覧・配乗予定表
- 4 練習船深江丸教育関係共同利用予定一覧
- 5 平成 26 年度海技教育センター関係予算（案）
- 6 むこ丸船長（臨時）の発令について（依頼）
- 7 深江丸を利用した実験計画書
- 8 深江丸を利用した実証実験について
- 9-1 ECDIS 教育研究体制の整備と講習要件の充足について
- 9-2 第 4 回 ECDIS 訓練検討会議事次第
- 9-3 ECDIS 訓練時間分担表（船舶職員養成施設 31h:9h 練習船）
- 9-4 登録電子海図情報表示装置講習訓練記録表
- 10-1 資質基準システム運用マニュアル
- 10-2 （メール）【連絡】資質基準運用マニュアルについて（海技課：川路）
- 11 監査報告書
- 12-1 海洋底実習と研究
- 12-2 海洋底実習と研究 2（ppt 資料）
- 13 運航記録・予定（13-1 ～ 13-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 14 仕様書案（大学院海事科学研究科附属練習船深江丸糧食業務用冷凍冷蔵庫取替作業 一式）
- 15 運輸監理部による深江丸査察の概要（H26.3.5）
- 16-1 システムによる航海記録（25 年度春季研究航海）
- 16-2 航跡図（25 年度春季研究航海）
- 16-3 深江丸春季研究航海実施概要（船長作成）
- 17 教育関係共同利用拠点 申請書
- 18 自己点検報告 3 編 7 章 2 節・海技教育センター
- 19 監事監査結果及び監事意見に係る改善対応等一覧表

- 20 認証評価資料（海事科学研究科附属練習船深江丸）
- 21 共同型協力研究申込書（古野電気）
- 22 （手紙）神大東京六甲クラブ
- 23 寄港地における綱取りについて
- 24 「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について

議事に先立ち、平成 25 年度第 10 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）を確認し、原案のとおり承認した。なお、運営委員会外の教員から、議事要旨（案）審議事項 5 について、教員からメールで企画係宛質問があった旨の説明があった。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について（資料 1）

委員長から、資料 1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議済み（報告）：26 年 7 月 5 日深江丸，大学教育推進機構，全学共通授業「瀬戸内海学入門」，総員 49 名．

本日審議分：26 年 6 月深江丸，東洋信号通信社，研修便乗（4N 学内船舶実習に便乗），8 名×2 航海．
2. 平成 26 年度練習船等運航予定について（資料 2）

委員長から、資料 2-1 及び資料 2-2 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

なお、年度中に変更のある場合は、その都度委員会にて審議することを確認した。
3. 平成 26 年度練習船深江丸応援航海士等配乗予定（案）について（資料 3）

委員長から、資料 3 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

なお、配乗基準を新たに定め、前年度までとは大きく異なる状況となることから、本件は海事科学研究科運営委員会にて、報告することとした。
4. 平成 26 年度練習船深江丸教育関係共同利用について（資料 4）

委員長から、資料 4 に基づき説明があり、資料 4-2 の川崎医療福祉大学の共同利用申請について、原案のとおり承認した。

なお、その他の申請は、4 月以降に共同利用運営協議会にて審議予定である旨の説明があった。
5. 練習船深江丸の女性乗組員の雇用について

委員長から、共同利用拠点申請に向けて女性乗組員の雇用を行いたい旨の説明があり、その費用は研究科予算として配算予定の共同利用経費から支出することで承認した。雇用に向けて乗組員の具体的な職名については、本船乗組員及び研究科執行部，研究科事務部等と検討して手続きを進めることを承認した。
6. 平成 26 年度海技教育センター関係予算（案）について（資料 5）

委員長から、資料 5 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。後の議題 1 2 における内部監査時の意見にも対応する形で、26 年度から海技教育センター関係の予算については、内容に即した所管に分類することとなったので、適切な所管からの支出手続きを取るよう委員長から説明があった。

7. むこ丸船長（臨時）の発令について (資料 6)

委員長から、資料 6 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

8. 深江丸を利用した実験計画について (資料 7)

委員長から、資料 7 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

9. 深江丸を利用した実証実験について (資料 8)

委員長から、資料 8 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

10. ECDIS 講習の登録申請について (資料 9)

内田委員及び廣野委員から、資料 9 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

なお、本件は海事科学研究科運営委員会にて附議することとした。

11. QSS マニュアルの改訂と STCW 現地調査について (資料 10)

委員長から、資料 10 に基づき説明があり、NK による現地調査は 5 月上旬に行われる予定であるが、提出したマニュアルについて、若干の意見が国土交通省の担当係からあったため、その対応が必要であるので、内田委員、廣野委員、若林センター長を中心に対処策を検討することを承認した。

12. 海技教育センター内部会計監査について

(資料 11)

委員長から、資料 11 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

13. 理学研究科との共同研究・教育について

(資料 12)

委員長から、資料 12 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。26 年 9 月 16 日～17 日の「海と船入門」（単位互換授業）との混乗で、理学部の海洋調査に関する授業の一部を行う予定である。

【報 告】

1. 運航実績及び予定（26 年 2 月～26 年 3 月） (資料 13)

矢野委員及び西山一航士、青山二航士から、資料 13 に基づき深江丸、白鷗、むこ丸の運航実績及び予定について報告があった。

なお、クライナーベルクについては、次回委員会にてまとめて報告することとなった。

2. 保船関係報告・作業予定等

西山一航士及び和巻一機士から、次のとおり報告があった。

(甲板部)

・防災無線の設置作業が行われた。

(機関部)

・3 月 10 日、ピンホールが発生したため、取替を行った。

- ・ 3 月 11 日，研究航海のため，10 キロリットルの燃料補給を行った。
- ・ 研究航海後，13 キロリットルの燃料補給を行った。

3. 深江丸冷蔵庫・冷凍庫の代替について (資料 14)

委員長から，資料 1 4 に基づき説明があり，7 月の深江丸機関整備の日程にあわせて実施するため，4 月早々に調達手続きを開始できるよう会計係と具体的な打合せを行い，仕様書の準備を進めている旨の報告があった。

4. 神戸運輸監理部による深江丸の査察について (資料 15)

西山一航士から，資料 1 5 に基づき，神戸運輸監理部による深江丸の査察について報告があった。結果は，入渠時の定期検査関係で若干書類の準備が遅れている点について指導があったものの，「違反の事実を認めず」との記載が公用航海日誌になされた。

5. 平成 25 年度春季研究航海（H26. 3. 13～3. 20）実施報告（速報） (資料 16)

委員長から，資料 1 6 に基づき，平成 25 年度春季研究航海を 3 月 13 日から 20 日まで実施した旨の報告があった。なお，おって研究航海報告をまとめる予定である。

6. 練習船深江丸教育関係共同利用拠点の申請について

(資料 17)

委員長から，資料 1 7 に基づき，練習船深江丸教育関係共同利用拠点申請書を学内へ切である 2 月末までに企画部へ提出した旨の報告があった。5 月の本申請にむけて，4 月～5 月にかけて文科省との打合せが行われる旨の説明があった。

7. 自己点検報告書の原稿について

(資料 18)

委員長から，資料 1 8 に基づき，海事科学研究科自己点検報告書中の海技教育センターに該当する部分の原稿を提出した旨の報告があった。

8. 監事監査のフォローアップについて (資料 19)

委員長から，資料 1 9 に基づき，監事監査のフォローアップについて該当する部分の記載を提出した旨の報告があった。

9. 認証評価に係る自己評価書について (資料 20)

委員長から，資料 2 0 に基づき，認証評価に係る自己評価の深江丸に関する部分の記述について修正した原稿を提出した旨の報告があった。

10. 深江丸における波浪レーダー開発に係る共同研究について

(資料 21)

委員長から，資料 2 1 に基づき，深江丸における波浪レーダー開発に係る共同研究について，契約を締結した旨の報告があった。共同研究は海技教育センターとして受け入れ，費用は年間 10 万円である。また別に船舶使用料として年間 100 万円の納入が予定されている。研究は 3 年の予定である。

11. クライナーベルクの利用希望等について

(資料 22)

委員長から、資料 22 に基づき説明があり、神戸大学の卒業生からの手紙の文中で依頼されているクライナーベルクの使用については事前申請が必要であり、また、係留については管理上の問題で不可である旨を回答予定である旨の報告があった。

12. 寄港地における綱取りの手配について

(資料 23)

委員長から、資料 23 に基づき説明があり、綱取りの手配について検討予定である旨の報告があった。

13. 「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について

(資料 24)

委員長から、資料 24 に基づき説明があり、「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について、省令改正が予定されていることに対応して検討が必要である旨の報告があり、次回以降の委員会で審議予定であるとの説明があった。

14. 課外活動（端艇部）について

古荘委員から、男子端艇部が東京海洋大学との交流合宿を行う旨、また、5月31日に、全日本カッター大会が、神戸大学主幹で開催されるため、ポンドおよび練習船等の使用を予定している旨の報告があった。

15. 神戸港カッターレースについて

矢野委員から、神戸港カッターレースの公式練習が、4月12日、13日、19日、20日にポンドにて行われる旨の報告があった。

なお、神戸港カッターレースは、例年海事科学研究科の後援を受けて開催されている旨、あわせて説明があった。

【その他】

次回、運営委員会開催日はおって調整する。

以上

平成 26 年度 第 1 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 4 月 18 日（金） 10:40～12:50

場 所： 事務棟 4 階 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，井川准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，世良准教授，湊准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），山地准教授（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 古荘教授

陪席者： 企画係 小田係長（事務長補佐），坂本係員，杉本係員，
深江丸 青山二航士，土屋三機士

【資料】

平成 25 年度第 11 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26.3.26

- 1 附属練習船等使用申請等（一覽）
- 1-2 深江丸見学依頼（富士貿易株式会社）
- 1-3 夏休み子どもいろいろ体験スクール概要（案）
- 2-1 平成 26 年度深江丸等運航予定（案）
- 2-2 平成 26 年度クライナーベルク運航予定（案）
- 3-1 練習船深江丸教育関係共同利用予定一覽
- 3-2 附属練習船深江丸教育関係共同利用申請書（3 件）
- 3-3 5 月 16 日大阪大学および大阪国際大学の深江丸教育共同利用について
- 4-1 海技教育センター運営委員会委員
- 4-2 海技教育センター職員
- 4-3 海技教育センターおよび深江丸関係規則等
- 4-4 海技教育センター懸案事項
- 5 海技教育センター関係予算・平成 25 年度決算（案）
- 6-1 学内共同利用施設等の組織に係る自己点検・評価について（依頼）
- 6-2 平成 26 年度 学内共同利用施設等の組織に係る評価の評価対象施設等及び実施スケ ジュール等について
- 6-3 学内共同利用施設等の組織に係る自己点検・評価書作成要項
- 6-4 （メール）学内共同利用施設等の組織に係る自己点検・評価に係る外部評価につ
いて
- 7 （メール）「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について
- 8 寄港地での綱取りについて
- 9 運航記録・予定（9-1 ～ 9-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 10 平成 25 年度深江丸運航実績
- 11 深江丸利用実績概要
- 12 平成 25 年度春季研究航海報告書（案）

議事に先立ち，平成 25 年度第 11 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)を確認し，原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について (資料1)
委員長から、資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

2. 平成26年度練習船等運航予定について (資料2)
委員長から、資料2に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

なお、主な変更点は、次のとおりである。

- ・7月25日に夏休み子どもいろいろ体験スクールのための出動(白鷗)を追加
- ・9月5日に関西地区工学部長会議のための出動(深江丸)を追加
- ・上記に伴い、夏季研究航海の日程を8月26日から9月2日までに短縮

3. 平成26年度練習船深江丸教育関係共同利用について (資料3)
委員長から、資料3に基づき説明があり、共同利用運営協議会での審議が間に合わないため、以下の2日(3大学等)の共同利用について承認した。

- ・5月8日 兵庫県立大学
- ・5月16日 大阪大学大学院人間科学研究科、大阪国際大学

なお、共同利用運営協議会は6月1日づけで学外委員を委嘱する予定であるとの説明があった。

4. 平成26年度海技教育センター組織の確認と検討事項について (資料4)
委員長から、資料4に基づき説明があり、4月1日づけの委員の交代について確認、関係規則等の確認を行った。懸案事項については、昨年10月の委員会において示したものとほぼ同じであり、これまでに対応を行っている件も多いが、未だ手つかずの案件もあり、引き続き検討していくこととした。

5. 平成25年度海技教育センター関係決算について (資料5)
委員長から、資料5に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

6. 学内共同利用施設等の組織に係る自己点検・評価について (資料6)
委員長から、資料6に基づき説明があり、スケジュールに従い、検討・対応することとなった。なお、外部評価を行うかどうかを判断する必要がある、行う場合には2名の外部評価委員の依頼が必要である旨、説明があった。

7. 「救命／消火講習」の実技講習(実践的訓練)の実施について (資料7)
委員長から、資料7に基づき説明があり、平成28年1月1日付けで省令改正されとの情報があり、平成28年3月学部卒業予定の学生(新3年生)が履修する授業科目の講習内容について視聴覚機材で代替している科目があれば、早めに変更申請をする等、対応が必要となるため、引き続き検討を行うこととなった。

また、内田委員を通じて、他大学、高等専門学校の状況を確認したい旨の意見があった。

8. 寄港地および研究科ポンドにおける綱取りの手配について (資料8)

委員長から、資料 8 に基づき説明があり、引き続き検討を行うこととなった。

9. ポンドにおける安全の徹底について

委員長から、「安全の手引き」に基づき説明があり、ポンドの利用にあたっては、よりいっそう安全の徹底を図ることとなった。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（26 年 3 月～26 年 5 月）

（資料 9～11）

矢野委員、山下委員及び青山二航士から、資料 9 に基づき深江丸、白鷗、むこ丸、クライナーベルクの運航実績及び予定について報告があった。また、資料 10 及び資料 11 に基づき、平成 25 年度の運航実績および利用実績について報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

青山二航士及び土屋三機士から、次のとおり報告があった。

- ・タッチアップ塗装を行った。
- ・フェンダーの制作を行った
- ・船尾灯の交換を行った。
- ・サニタリーポンプの整備を行った。
- ・エンジンルームのペンキ塗りを行った。

3. 練習船深江丸教育関係共同利用拠点の申請について

委員長から、練習船深江丸教育関係共同利用拠点の申請について、教育関係共同利用拠点申請に係る事前相談が 4 月 22 日に文部科学省において行われた旨の報告があった。

4. 練習船深江丸の女性乗組員の雇用について

委員長から、練習船深江丸の女性乗組員の雇用について、保健学研究科と打合せを行い、看護師資格保有者の派遣の可能性について打診している旨の報告があった。

5. QSS マニュアルの改訂と STCW 現地調査について

内田委員から、5 月 9 日に行われる調査に向けて各種手順について確認作業を行っている旨の報告があった。

6. ECDIS 講習の登録申請について

委員長から、他大学、高等専門学校の申請状況について報告があった。

7. 深江丸を利用した波浪レーダー開発に係る共同研究について

委員長から、深江丸を利用した波浪レーダー開発に係る共同研究について、5 月 19 日に打合せを行い、7 月中にレーダーを取り付ける予定である旨の報告があった。

8. 単位互換「海と船入門」の履修申請状況について

委員長から、履修申請がいなかった旨の報告があった。

ただし、理学研究科が便乗する予定であるため、予定は変更せず出動をする旨の報告があった。

9. 平成 25 年度春季研究航海（H26. 3. 13～3. 20）研究活動報告について（資料 1 2）

委員長から資料 1 2 に基づいて説明があり、研究代表者に確認のうえ、発行することとする旨の報告があった。

10. ポンド北側のフェンダーの撤去について

委員長から、ポンドの北側のフェンダーについて、現在は使用されていないため、5 月中旬に撤去する予定である旨の報告があった。

11. 授業におけるポンドの利用について

廣野委員から、授業において、ポンドにて作成した船舶の走行実験を行っている旨の報告があった。

12. J24 ヨットの寄付について

山下委員から、J24 ヨットについて、大学へ寄付を行い、神戸大学所有のヨットとなった旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会開催日はおって調整する。

以上

平成 26 年度 第 2 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 6 月 25 日（水） 10:00～12:10

場 所： 事務棟 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，
淵准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講
師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），山地准教授（海洋安全システム科学），
三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 古莊教授，井川准教授，世良准教授

陪席者： 企画係 小田係長（事務長補佐），坂本係員，杉本係員，
深江丸 西山一航士，和巻一機士

【資料】

平成 26 年度第 1 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26. 4. 18

- 1-1 附属練習船等使用申請等（一覧）
- 1-2 附属練習船等使用申請書（日本郵船㈱）
- 2-1 平成 26 年度深江丸等運航予定（修正 2014. 6. 25）
- 2-2 （メール）JG 打ち合わせ
- 2-3 平成 26 年（度）臨時変更検査受検予定
- 3-1 附属練習船等使用申請書（近畿内航船員対策協議会）
- 3-2 神戸大学附属練習船「深江丸」体験航海 実施計画
- 3-3 神戸大学附属練習船“深江丸”体験航海への参加にあたって
- 4 貴学練習船深江丸を利用した洋上研修の件（依頼）
- 5-1 平成 26 年度夏季 深江丸研究航海のお知らせと参加相談についてのご案内
- 5-2 平成 26 年度夏季（26 年 8 月実施）深江丸研究航海 参加チーム・乗船者の募集に
ついて
- 6-1 平成 26 年度教育研究設備整備費等の配分について（ECDIS 訓練シミュレータ）
- 6-2 ECDIS 訓練シミュレータ（CBT システム）事業計画（設備分）
- 7 神戸大学海事科学部 資質基準システム運用マニュアル 新訂第 2 版
- 8 業務依頼お断りの件（技術部）
- 9 運航記録・予定（9-1 ～ 9-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 10 平成 26 年度公開講座の内容検討と応援航海士の手配のお願い
- 11-1 監査プログラム（案）
- 11-2 中間報告書（特記事項）
- 11-3 不適合事項報告書
- 11-4 監査報告書
- 12-1 第 4 回 ECDIS 訓練検討会議事次第
- 12-2 第 4 回 ECDIS 訓練検討会議事概要
- 12-3 登録電子海図情報表示装置講習訓練記録表
- 12-4 （メール）登録 ECDIS 講習申請書類の提出について
- 12-5 登録 ECDIS 講習の申請に関する経過と今後
- 13 [救命講習] 実技履修科目・[消火講習] 実技履修科目

- 14 教育関係共同利用拠点 申請書（最終版）
- 15 平成 26 年度 練習船深江丸 利用一覧・配乗予定表
- 16-1 平成 26 年度第 1 回神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸共同利用運営協議会
- 議事要旨（案）
- 16-2 練習船深江丸 教育関係共同利用予定一覧（2014. 6. 18）
- 16-3 2014 年度 中京大学 応用心理学実習 日課予定表
- 17 ニュースレター★人間健康 Vol. 8No. 2（大阪国際大学）
- 18-1 平成 27 年度 特別経費（教育関係共同実施分） 概算要求事項の概要
- 18-2 運営費交付金所要額積算内訳（教育関係共同実施分【新規事業】）
- 19 海洋底構造探査に係る人材育成プログラム（理学研究科・海事科学研究科）
- 20-1 神戸大学（深江）海事科学研究科練習船泊地浚渫その他 工事工程表（案）
- 20-2 神戸大学（深江）ポンド浚渫事業設計・管理業務 地盤調査特記仕様書
- 20-3 海上ボーリング概要
- 20-4 特記仕様書別紙設計参考資料（修正案）
- 20-5 特記仕様書別紙設計参考資料（追加案）
- 20-6 業務内容説明書
- 21 深江丸 陸電用配電盤（平面図）
- 22 海象・気象データの提供依頼について（海上保安庁海洋情報部環境調査課）
- 23 備讃瀬戸北航路（開発保全航路）浚渫工事のお知らせ（国土交通省四国地方整備局高松港 湾・空港整備事務所）
- 24 深江丸におけるソーラー水中グライダーTonai60 の潜航試験計画書
- 25-1 共同型協力研究申込書（古野電気）
- 25-2 附属練習船等使用申請書・深江丸での利用計画について（古野電気）
- 25-3 波浪レーダ仕様
- 25-4 委任状（無線申請）
- 26 2014 年リーダーシップ スケジュール（案）

議事に先立ち、平成 26 年度第 1 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）を確認し、原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について（資料 1）

委員長から、資料 1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議分：

（深江丸）深江祭実行委員会，5/25：可．

小林英一教授研究利用，7/22～24：可．

日本舶用工業会，6/25～27：可．

渦潮電機株式会社，7/4・7/15～16：可．

古野電気株式会社，7/14・8/21～22・9/18～19：可．

（白鷗）海技教育センター長，4/28：中止．

全日本カッター競技大会実行委員長，5/29～31：可．

（むこ丸）航海マネジメント系，5/2：可．

全日本カッター競技大会実行委員長，5/29～31：可。
(クライナーベルク) NPOセーリング神戸，5/10・6/15：可。
(小艇・カッター)

全日本カッター競技大会実行委員長，5/29～31：可。(青雲丸，ほくら，ろっこう)

(ポンド等) 内海域環境教育センター (おのころ係留)，5/21：可。中止。

大阪市港湾局 (大阪港カッターレース) の練習，7/12～13：可。

今回審議：

(深江丸) 資料 1-2. 日本郵船，7/18～21：

(ポンド等) 資料 1-3. オフショアセーリングクラブ，7/4～7/6，リンクワークス係留：

なお，深江丸の使用申請として提出されている近畿内航船員対策協議会 (8/6) については議題 3 にて審議する。

2. 平成 26 年度練習船等運航予定について・深江丸資格臨時変更検査について (資料 2)

委員長から，資料 2 に基づき説明があり，原案のとおり承認した。

なお，練習船から旅客船への資格臨時変更検査について，教育関係共同利用のための出動時は，一定の条件の下で臨時変更は不要であることを神戸運輸監理部に確認した旨の報告があった。

3. 乗船体験 (近畿内航船員対策協議会) について (資料 3)

委員長から，資料 3 に基づき説明があり，原案のとおり承認した。

8 月 6 日 09:45～16:30，日帰り，工業高校の生徒を対象とした航海を実施する。

4. 洋上研修 (ベニックソリューション㈱) について (資料 4)

委員長から，資料 4 に基づき説明があり，原案のとおり承認した。

深江丸を使用した洋上研修の依頼。11 月～12 月，1 泊 2 日の研修を希望。

5. 平成 26 年度夏季深江丸研究航海について (資料 5)

委員長から，資料 5 に基づき説明があり，寄港地は鹿児島港とし，原案のうち復航を九州西岸ではなく九州東岸から豊後水道を通して瀬戸内海へ入る航路に変更し，承認した。

おって，研究科運営委員会で報告後，学内外へ募集要項の通知を行う。

6. ECDIS 訓練シミュレータの予算措置 (事業計画) について (資料 6)

委員長から，資料 6 に基づき説明があり，ECDIS 訓練シミュレータの調達にかかる仕様策定委員として，若林センター長・矢野委員・廣野委員・藤本(昌)委員・村井委員・湊委員を推薦することを承認した。

7. QSS マニュアルの改訂について (資料 7)

内田委員から，資料 7 に基づき，監査で指摘された不適合事項 4 項目を中心に改訂

を行った旨の説明があり，原案のとおり承認した。

おって，研究科運営委員会で審議後，正式に改訂となる。

8. 寄港地および研究科ポンドにおける綱取りの手配について (資料 8)

委員長から，資料 8 に基づき説明があり，ポンドにおける綱取り作業が技術部から断られたことにともない，今後も引き続き検討することとなった。

9. 学内共同利用施設等の組織に係る自己点検・評価について

委員長から，自己点検・評価について説明があり，今後原稿内容を検討することとなった。

10. ECDIS 講習の登録申請について (資料 12)

内田委員から，資料 1 2 に基づき説明があり，神戸運輸監理部へ申請を行うことを承認した。

ただし，資料が不十分であるため，改めて内容についてメール審議を行うこととなった。

研究科運営委員会へ上程する。

【報告事項】

1. 運航実績および予定 (26 年 4 月～26 年 7 月)

(資料 9)

委員長，山下委員，西山一航士から，資料 9 に基づき報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

西山一航士及び和巻一機士から，次のとおり報告があった。

(甲板部)

- ・モーターサイレンが作動不良となり，修理を行った。
- ・コースレコーダーの配線修理を行った。
- ・バルブが作動不良となり，修理を行った。

(機関)

- ・新規購入ボート用の陸上用台車が完成した。
- ・5 月 16 日，サニタリーポンプにピンホール，5 月 22 日，2 号発電機にピンホールが生じたため修理を行った。
- ・7 月 2 日から，乗組員によって冷蔵庫換装のための作業を行う
- ・7 月 7 日から，乗組員によって機関整備を行う。またあわせて業者によって冷蔵庫換装・空調設備の整備を行う。

3. 見学の実施について

委員長から，5 月 12 日，吉井事務局長が深江丸を訪問し，見学を行った旨の報告があった。

河合機関長から，5 月 19 日，富士貿易株式会社の依頼により講義と見学を実施した

旨の報告があった。

4. 深江丸公開講座について (資料 10)
委員長から、資料 10 に基づき説明があり、広報社会連携推進委員会からの依頼に基づき、公開講座時の航海において応援航海士藤本(昌)次席一等航海士が対応する旨の報告があった。
5. QSS マニュアルの改訂と STCW 現地調査について (資料 11)
内田委員から、資料 11 に基づき説明があり、6 月 4 日付で監査が終了した旨の報告があった。
6. 「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について (資料 13)
内田委員及び渕委員から、資料 13 に基づき説明があり、「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について、現在関係機関が情報収集を行っている旨の報告があった。
8. 練習船深江丸教育関係共同利用拠点の申請について (資料 14)
委員長から、資料 14 に基づき説明があり、2 回にわたる文科省事前相談を経て、6 月 23 日までに文科省に対して本申請を行った旨の報告があった。
9. 練習船深江丸の女性乗組員の任用について (資料 15)
委員長から、資料 15 に基づき説明があり、共同利用時の出動については、保健学研究科の教員及び大学院生を任用することとして準備している旨の報告があった。
10. 練習船深江丸共同利用運営協議会について (資料 16)
委員長から、資料 16 に基づき説明があり、6 月 18 日、海事科学研究科にて共同利用運営協議会が開催され、これまでに申請のあった教育関係共同利用の 14 件について利用が承認された旨の報告があった。
11. 練習船深江丸共同利用の実施状況について (資料 17)
委員長から、資料 17 及び回覧資料（利用者アンケート）に基づき、共同利用の実施状況について報告があった。
12. 概算要求事前相談について（教育関係共同利用） (資料 18)
委員長から、資料 18 に基づき説明があり、近日中に文部科学省へ事前相談に赴く旨の報告があった。
なお、概算要求は、拠点化申請が認められなかった場合は取り下げることとなる。
13. 深江丸入渠工事の仕様策定について
委員長から、仕様策定委員会委員として、若林センター長、渕委員、尾下委員、山地委員、三輪委員を選出した旨の報告があった。

14. 理学研究科との研究利用プロジェクトの計画（海洋調査）について（資料 19）
委員長から、資料 19 に基づき、深江丸を利用した人材開発に関わる理学研究科との共同プロジェクトについて、5 月 23 日、文科省研究開発局海洋地球課に対して説明した旨、説明があった。文部科学省側は海洋地球課長、係長の 2 名。神戸大学側は巽教授、島准教授（理学研究科）、伊豆島財務部長他（財務部）、若林センター長（海事）が出席した。
15. ポンドの浚渫工事について（資料 20・21）
委員長から、資料 20・21 に基づき、施設係から連絡があった旨の報告があり、浚渫工事中の深江丸の係留場所については、様々な点を確認した上で慎重に検討する必要があるとの説明があった。
16. 気象海象データの提供（海上保安庁海洋情報部）について（資料 22）
委員長から、資料 22 に基づき説明があり、外洋航海の際は情報提供に協力する旨の報告があった。
17. 備讃瀬戸北航路における工事について（資料 23）
委員長から、資料 23 に基づき報告があった。
18. 深江丸におけるソーラー水中グライダー Tonai60 の潜航試験計画（小林英一教授）（資料 24）
委員長から、資料 24 に基づき説明があり、以前承認した深江丸の使用について追加事項の依頼があった旨の報告があった。
実験の実施については、小林教授が深江丸と事前の打ち合わせ・調整を行うことを確認した。
19. 深江丸における波浪レーダ開発に係る共同研究について（資料 25）
委員長から、資料 25 に基づき説明があった。7 月中に実験用の波浪レーダーを古野電気が設置し、夏季研究航海以降、実験を実施する予定である。
20. 平成 25 年度春季研究航海（H26.3.13～3.20）研究活動報告について
委員長から、春季研究航海研究活動報告について、代表者が内容を確認のうえ、研究科ウェブサイトで公開された旨の報告があった。
21. ポンド北側面の実験用フェンダ（船体離岸防止装置）を撤去工事の完了について
委員長から、5 月 14 日までに、このテーマで海事科学研究科教員が共同研究を行っていたシバタ工業により撤去工事が完了した旨の報告があった。
22. リーダーシップ研修について
藤本(昌)委員から、資料 26 に基づき、今年度のリーダーシップ研修の内容について報告があった。

23. テレビ取材への協力について

委員長から、韓国の旅客船事故に関連して取材協力を行い、4月28日に深江丸で撮影があり、その模様が4月30日に放映された旨の報告があった。

24. 乗船実習科の制服について

三輪委員から、乗船実習科の制服について、三輪委員、岡田准教授、教務係員で検討している報告があった。WGとしての位置付けが必要か確認し、次回以降にて報告する事になった。また、男子学生からも制服について意見があれば報せていただきたい旨の依頼があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成26年7月中に開催する予定で、あらためて日程調整することとなった。

以上

平成 26 年度 第 3 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 7 月 25 日（金） 09:00～11:20

場 所： 事務棟 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，古莊教授，山下准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，世良准教授，渕准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），山地准教授（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 井川准教授

陪席者： 企画係 岸上係長，仲谷係員
深江丸 青山二航士

【資料】

平成 26 年度第 2 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26. 6. 25

- 1 附属練習船等使用申請等（一覽）
- 1-6 附属練習船等使用申請書（広報室・村田紀子氏）
- 1-7 施設等使用申請書（浅岡助教）
- 2 平成 26 年度深江丸等運航予定（修正）
- 3-1 （メール）企画係報告（返信不要）船舶の使用について（小林教授・大阪大学水中ロボット）
- 3-2 附属練習船等使用届出書（小林教授，6 月 24 日改訂）
- 3-3 練習船・実習船及びその他の舟艇（練習船等）の使用に係る使用料の取り扱いについて
- 3-4 大阪大学との共同研究にかかる深江丸利用申請の件（小林教授）
- 4 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規
- 5 体験型海洋セミナー参加者募集
- 6 （メール）プレジャーボートについて
- 7 学内共同利用施設等の自己点検・評価書（原稿）
- 8 運航記録・予定（8-1 ～ 8-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 9 お見積書・むこ丸【H. 26 年度整備入渠工事】
- 10 （メール）【依頼】 入試広報に係る深江丸運航・見学予定について
- 11
- 12 海と船の体験教室時間表（2014/7/29・関西小型船安全協会）
- 13-1 「神戸大学海事科学研究科附属練習船深江丸整備入渠工事 一式」の調達に係る第 1 回仕様策定委員会議事要旨（案）
- 13-2 仕様書（第 2 回委員会審議版）
- 14-1 「電子海図情報表示装置（ECDIS）訓練シミュレータ 一式」の調達に係る第 1 回仕様策定委員会議事録（案）
- 14-2 ECDIS 訓練シミュレータ実行用 PC システム一式（仕様）
- 15 請求書（2013 膨張式救命いかだ投下実習）
- 16-1 （メール）EMS A（E C）への打ち返しについてのご相談・内田副研究科長から

- 国交省へ
- 16-2 (メール) EMSA (EC) への打ち返しについてのご相談・国交省担当者からの返信
 - 16-3 国交省担当課修正案
 - 16-4 QSS マニュアル抜粋翻訳
 - 16-5 救命実習実施報告_2013 年 8 月 6 日実施分
 - 17-1 附属練習船等使用届出書 (便乗)
 - 17-2 附属練習船等使用届出書 (便乗)
 - 18 近畿内航船員対策協議会体験航海 (平成 26 年 8 月 6 日・日帰り)
 - 19 (メール) 利用者アンケート (中京大学) 学生
 - 20-1 京都工芸繊維大学 共同利用 (平成 26 年 8 月 5 日・午後半日)
 - 20-2 2014 年度帝塚山大学大学院心理科学研究科心理科学基礎論Ⅱ 予定表
 - 21-1 2014 年度コンソーシアムひょうご神戸・理学研究科海洋調査人材育成 予定表
 - 21-2 附属練習船等使用届出書 (便乗)
 - 22-1 (HP) 練習船「深江丸」の教育関係共同利用
 - 22-2 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸共同利用公募要領
 - 22-3 練習船深江丸 教育関係共同利用案内送付一覧
 - 23-1 設計業務委託仕様書
 - 23-2 ポンド浚渫等設計その他業務における仕様書 (補足) について
 - 24-1 (メール) 神戸大学のミリオクシンポジウム：深江丸の取り組みの原稿、写真ご協力をお願い
 - 24-2 神戸大学のミリオク (原稿)
 - 25 自己操縦免除確認申請書

議事に先立ち、平成 26 年度第 2 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)を確認し、原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について (資料 1)

委員長から、資料 1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議分：

(深江丸) 関西小型船安全協会 7 月 29 日：可 (7 月 9 日)

実験便乗 (水総研・寺田) 7 月 15 日～16 日：可 (7 月 11 日)

海への誘い 9 月 8 日～9 日・9 月 11 日～12 日

便乗 (広報室・村田), 9 月 11 日～12 日：可 (7 月 15 日)

(白鷗) 海への誘い 9 月 9 日・12 日 (一日利用)

(クライナーベルク) NPO セーリング神戸 7 月 12 日：可 (7 月 11 日) →中止

海への誘い 9 月 8 日・9 日・11 日・12 日

(ポンド等) 浅岡助教 (ポンドで LED の実験)：可 (7 月 15 日)

(報告) 大阪市港湾局 (大阪港カッターレース) の練習 7 月 12 日～13 日：可

→ 台風のため中止となった。

今回審議：なし

2. 平成 26 年度練習船等運航予定について（資料 2）

委員長から、資料 2 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

(1) 深江丸等運航予定（案）

- ・ 11 月 10 日：神戸女学院大学（共同利用）
- ・ 11 月 17 日：神戸女学院大学（共同利用）
- ・ 11 月 18 日～19 日：ベニックソリューション（研修）

3. 練習船等の部局内利用における費用（燃料費相当分）の徴収について（資料 3）

委員長から、資料 3 に基づき説明があり、部局内の研究利用等の場合、取り扱いに基づき実費相当額である 3 日間で 4.4kL=39.6 万円を徴収することを研究科長に意見具申することについて承認した。

4. 練習船等使用料の改定について（資料 4）

委員長から、資料 4 に基づき説明があり、以下のとおり承認した。

- ・ 使用料引き上げとともに、使用した燃料に比例した実費を徴収する方法の導入について研究科長に練習船等使用内規の改正について検討を依頼する。
- ・ 「練習船・実習船及びその他の舟艇（練習船等）の使用に係る使用料の取り扱いについて」の改訂について、「7. 部局内の研究利用（便乗を除く）」は、有料（燃料費相当分）となっているが、いくらかは部局で負担することについて研究科長に報告する。なお、「5. 学生サークルが課外活動の一環として、カッター以外の練習船等を利用する。」が無料（燃料費相当分）となっているのは錯誤であり、有料（燃料費相当分）に修正することを確認した。

5. 体験型海洋セミナーについて（資料 5）

委員長から、資料 5 に基づき説明があり、8 月 23 日～24 日（土・日）に実施される本セミナーの主催から実費（食費、洗濯代）は徴収することとし、使用届の提出を依頼することについて承認した。

6. モーターボート寄贈の申し出について（資料 6）

委員長から、資料 6 に基づき説明があり、寄贈される艇の使い勝手、維持費用等の問題から丁重にお断りすることについて承認した。

7. 学内共同利用施設等の組織に係る自己点検・評価について（資料 7）

委員長から、資料 7 に基づき、8 月末を目処にセンター長を中心に加筆修正作業を行った上で、次回委員会において再度審議することについて承認した。

8. 寄港地および研究科ポンドにおける綱取りの手配について

委員長から、資料 8 に基づき説明があり、ポンドにおける綱取り作業が技術部から断られたことに伴い、今後も引き続き検討することとなった。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（26 年 6 月～26 年 8 月）

(資料 8)

委員長，山下委員，青山二航士から，資料 8 に基づき報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

委員長及び青山二航士から，次のとおり報告があった。

(甲板部)

- ・ 7 月 7 日：アトラスのドップラーログ，表示パネルの入れ替え。

(機関)

- ・ 7 月 2 日：冷蔵庫換装の準備。
- ・ 7 月 7 日～11 日：機関整備．冷蔵庫冷凍庫換装．空調整備工事
- ・ 乗組員による機関整備（燃料噴射弁），データロガー（テラテック）バグフィックス
- ・ 8 月 9 日～17 日：ブラックアウトの予定

3. むこ丸の整備工事について

(資料 9)

委員長から，資料 9 に基づき，7 月 9 日～18 日に入渠（新西宮）して工事を実施したこと，及び修理が必要であったため，費用が予定より高くなったことについて報告があった。

4. 施設見学の実施について

(資料 10)

委員長から，資料 10 に基づき説明があり，以下のとおり報告があった。

(1) 入試広報関係

- ・ 8 月 8 日午前：航海，午後：見学
- ・ 8 月 26 日午前：大阪女学院高校
- ・ 10 月 3 日：高校
- ・ 11 月 19 日：高校
- ・ 11 月 25 日：奈良学園高校
- ・ 12 月 15 日：千里高校

(2) 7 月 25 日：第 8 回大学原子力実験施設シンポジウム第 3 回「大学原子力実験施設連絡会」福島除染研究会

5. 東灘区との協定にもとづく事業の実施について

(資料 11)

委員長から，資料 11 に基づき説明があり，7 月 25 日午後から実施する旨の報告があった。

6. 関西小型船安全協会「海と船の体験教室」航海の実施について

(資料 12)

委員長から，資料 12 に基づき説明があり，7 月 29 日午後から実施する旨の報告があった。

7. 洋上研修（ベニックスソリューション（株））について

委員長から、担当者から 11 月 18 日～19 日に実施したい旨の連絡があったことについて報告があった。

8. 深江丸入渠工事仕様策定委員会の開催について

（資料 13）

委員長から、資料 1 3 に基づき説明があり、7 月 11 日に第 1 回仕様策定委員会を開催し、議論の結果を受けて、仕様書案を一部修正した上で審議中であること、及び現場説明会を 8 月 7 日（木）13:00 から深江丸学生ホールにて実施する旨の報告があった。

9. ECDIS 訓練シミュレータ仕様策定委員会の開催について

（資料 14）

委員長から、資料 1 4 に基づき説明があり、7 月 18 日に第 1 回仕様策定委員会を開催し、訓練を 1 回に 25 名で行える仕様としたこと、及び PC で約 480 万円となり、残りの額で ECDIS（CBT）を導入する予定である旨の報告があった。

10. リーダーシップ授業の実施状況について

（資料 15）

委員長から、資料 1 5 に基づき説明があり、ライフラフト投下実演の費用を海技教育センターにおける教育として支出する旨の報告があった。

11. QSS マニュアル改訂 2 版について

内田委員から、7 月 2 日開催の研究科運営委員会で審議し、承認された旨の報告があった。

12. EMSA 監査へのフォローアップについて

（資料 16）

内田委員から、資料 1 6 に基づき説明があり、本案にて国土交通省に回答する旨の報告があった。

13. 「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について

内田委員から、「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について、現在関係機関が情報収集を行っている旨の報告があった。

14. 平成 26 年度夏季深江丸研究航海の参加申込み状況について

委員長から、申込期限後に参加者決定のため、メール審議をする旨の報告があった。なお、資料 1 7 に基づき、研究航海のテーマ相談の一環として、深江丸体験乗船を行う予定であり、内山准教授（工学研究科）8 月 6 日、他の使用届（便乗）についての説明があった。

15. 近畿内航船員対策協議会他主催「深江丸」体験航海の実施について

（資料 18）

委員長から、資料 1 8 に基づき説明があり、8 月 6 日に実施する旨の報告があった。

16. 練習船深江丸教育関係共同利用の実施状況について

（資料 19）

委員長から、資料 19 及び回覧資料（利用者アンケート）に基づき、以下とおり共同利用が実施された旨の報告があった。

- ・ 6 月 29 日～7 月 1 日：中京大学心理学部（前泊，1 泊 2 日航海・高松）
- ・ 7 月 14 日：大阪大学工学部船舶海洋工学（日帰り・午前午後）

また、中京大学の利用において、アンケートに改善提案等が多くあり、可能なものについては対応を始めるとともに、大がかりなものについては、来年度の入渠工事での実施等にて対応を検討していく旨の報告があった。

17. 練習船深江丸教育関係共同利用の実施について (資料 20)

委員長から、資料 20 に基づき説明があり、以下のとおり報告があった。

- ・ 8 月 5 日（午後）：京都工芸繊維大学
- ・ 8 月 21 日～22 日（1 泊 2 日）：帝塚山大学（高松寄港予定）

18. 2014 年度コンソーシアムひょうご神戸（単位互換）・理学研究科海洋調査人材育成の実施について

（資料 21）

委員長から、資料 21 に基づき説明があり、9 月 16 日～17 日（1 泊 2 日）に海洋調査のため、夜航海を行うとともに、本事業は海事科学研究科と理学研究科の共同事業であるため、理学研究科学生及び教員が便乗に際しては実費（食費，洗濯代）を徴収するが、使用料は徴収しない旨の説明があった。

19. 練習船深江丸教育関係共同利用について

委員長から、練習船深江丸教育関係共同利用について、以下のとおり報告があった。

- ・ 11 月 10 日（午後），神戸女学院大学・・・木村ゼミ
- ・ 11 月 17 日（午後），神戸女学院大学・・・矢野ゼミ

なお、実施に当たり、淵准教授が事前学習のため出向く予定である。

20. 平成 27 年度教育関係共同利用の募集について (資料 22)

委員長から、資料 22 に基づき説明があり、募集要項の郵送先について報告があり、また、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸共同利用実施要項の改正について、平成 27 年度の募集では〆切を 11 月末日としたが、実施要項では 8 月末日となっているため、拠点認定を見据えた上で、11 月末日に改正する必要がある旨の報告があった。

21. 概算要求事前相談について

委員長から、6 月 30 日文部科学省高等教育局国立大学法人支援課において概算要求の事前相談を行い、特に大きな指摘事項はなかった旨の報告があった。

22. ポンドの浚渫工事について

（資料 23）

委員長から、資料 23 に基づき、本工事におけるコンサルタント業者が決定し、7 月

11 日（部局内関係者）及び 7 月 17 日（コンサルタント業者、本部施設部及び部局内関係者）に打合せを実施したこと、及び浚渫工事中の深江丸の係留場所について引き続き検討を要する旨の報告があった。

23. 深江丸における波浪レーダー開発に係る共同研究について

委員長から、7 月 17 日～18 日に設置工事を実施し、7 月 28 日・30 日に設置工事及び検査データの計測等を予定している旨の報告があった。

24. クライナーベルク体験帆走会の実施状況について

委員長から、クライナーベルク体験帆走会の実施状況について、以下のとおり報告があった。

- ・第 1 回 5 月 30 日 17:30～：8 名
- ・第 2 回 6 月 13 日 17:30～：6 名
- ・第 3 回 6 月 27 日 17:30～：13 名（大学教育推進機構，理学研究科，自然科学研究環，農学研究科，研究推進課）
- ・第 4 回 7 月 18 日 17:30～：10 名（国際交流推進機構，留学生課，医学部総務課，経済学研究科，人文学研究科，工学研究科）

25. 深江丸の巡視について

委員長から、昨年度受けた監事監査の指摘に基づき、7 月 25 日に深江丸の巡視を実施する予定であったが、産業医がすぐに対応できないため、来月以降に延期されることとなった旨の報告があった。

26. 神戸大学のミリョクへの情報提供について （資料 24）

委員長から、資料 2 4 に基づき説明があり、神戸大学のミリョクシンポジウム（9 月開催予定）において、深江丸の情報を広報室へ提供することについて報告があった。

27. 自己操縦免除確認の申請について （資料 25）

委員長から、資料 2 5 に基づき説明があり、小型舟艇類の自己操縦免除確認について申請書の添付資料が揃い次第、事務部総務係から申請する旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成 26 年 8 月中に開催する予定で、あらためて日程調整することとなった。

以上

平成 26 年度 第 4 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 8 月 25 日（月） 09:00～11:15

場 所： 事務棟 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，世良准教授，湊准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），山地准教授（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），小田事務長補佐（足立事務長代理出席）

欠席者： 古莊教授，井川准教授，足立事務長

陪席者： 企画係 岸上係長，仲谷係員

深江丸 西山一航士，青山二航士

【資料】

平成 26 年度第 3 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26.7.25

- 1-1 附属練習船等使用申請等（一覧）
- 1-2 （回覧）係船池一時入港の許可申請
- 1-3 （回覧）H240916-17_届出書（便乗）_理学研究科
- 1-4 （回覧）140905_施設使用願 [深江丸]
- 1-5 （回覧）140905_届出書_工学部長会議
- 1-6 （回覧）施設使用願 河口
- 2-1 平成 26 年度深江丸等運航予定（修正）
- 2-2 平成 26 年度深江丸利用一覧・練習船配乗予定表（20140807）
- 3 （メール）学生係依頼【ホームカミングデイ（10_25）キャンパスツアーにおける深江丸の見学について】
- 4 学内共同利用施設等の自己点検・評価書【海事科学研究科附属練習船深江丸】
平成 26 年 10 月
- 5-1 自己操縦免除申請書他
- 5-2 安全管理規程 名簿 他
- 5-3 （参考）保険加入者証
- 6-1 練習船・実習船及びその他の舟艇（練習船等）の使用に係る使用料の取り扱いについて／具体例と届・申請の別／航海日当の支出に関する基準
- 6-2 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規
- 7-1 深江丸使用依頼書
- 7-2 （メール）来年度の深江丸使用依頼
- 8 （メール）来年の予定【小林教授】
- 9 運航記録・予定（9-1 ～ 9-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 10-1 見積もり書（膨張式救命いかだ投下実習）
- 10-2 救命講習（救命いかだ（ライフ・ラフト）の投下展張、乗り込み等）実施報告
- 11-1 （メール）回答 Re: EMSA（EC）への打ち返しについてのご相談
- 11-2 Report of the services of the European Commission on the assessment of

compliance of the system of Maritime Education, Training and
Certification of Seafarers of Japan with the STCW Convention

- 11-3 Report on short course of life raft drill
- 11-4 Annex12
- 12-1 平成 26 年度深江丸夏季研究航海（鹿児島寄港） 乗船者名簿
- 12-2 平成 26 年度夏季深江丸研究航海研究打合せ資料
- 13-1 (HP) 東灘区こどもいろいろ体験スクール
- 13-2 平成 26 年度 東灘区体験スクール（H26.7.25 実施）の反省点
- 14-1 教育関係共同利用拠点の認定について(通知)
- 14-2 教育関係共同利用認定拠点一覧（平成 26 年 7 月 31 日現在）：文部科学省【抜粋】
- 15-1 甲南大学・神戸学院大学 共同利用航海 プログラム
- 15-2 【甲南大学・神戸学院大学】案内冊子
- 16-1 2014 年度 コンソーシアムひょうご神戸・理学研究科海洋調査人材育成 プログラム
- 16-2 【単位互換・理学研究科】案内冊子
- 17-1 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸整備入渠工事一式仕様書案
- 17-2 神戸大学海事科学研究科附属練習船深江丸整備入渠工事一式に係る第 2 回仕様策定委員会（メール会議）審議事項及び回答用紙
- 18-1 「電子海図情報表示装置（ECDIS）訓練シミュレータ 一式」の調達に係る第 2 回仕様策定委員会議事要旨（案）
- 18-2 「電子海図情報表示装置（ECDIS）訓練シミュレータ 一式」の調達に係る第 3 回仕様策定委員会議事要旨
- 18-3 「電子海図情報表示装置（ECDIS）訓練シミュレータ 一式」仕様書
- 19 現地調査計画書

議事に先立ち、平成 26 年度第 3 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）を確認し、原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について (資料 1)

委員長から、資料 1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議分：

（深江丸）施設利用 9 月 5 日午後：可（8 月 19 日）

便乗（理学研究科）9 月 16 日・17 日：可（7 月 29 日）

（白鷗）なし

（クライナーベルク）NPO セーリング神戸 8 月 24 日：可（8 月 12 日）

（ポンド等）河口教授 8 月 25 日又は 26 日：可（8 月 12 日）

（報告）便乗（事務部）8 月 5 日（報告）

関西地区工学部長会議 9 月 5 日午後（報告）

今回審議：なし

2. 平成 26 年度練習船等運航予定の一部変更について

（資料 2）

委員長から、資料2に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

(1) 深江丸等運航予定

- ・12月2日：工学部長会議理事会（仮予約）

(2) 配乗予定

今のところ、本年度は142日の運航、190日あまりの利用の予定となり、乗組員の労務管理等においてかなり厳しい状況であるとの説明があった。

3. ホームカミングデーにおける深江丸の見学対応について

（資料3）

委員長から、資料3に基づき説明があり、当日、深江丸船内見学の対応することについて承認した。

なお、対応に当たっては海技教育センターにおいて検討することとした。

4. 学内共同利用施設等の組織に係る自己点検・評価について

（資料4）

委員長から、資料4に基づき説明があり、本委員会で原案を検討、承認後（メール審議）、評価委員会において検討し、10月10日の〆切に間に合うよう手続きを進めるため、9月上旬までに意見や提案があれば、メールで企画係へ連絡するとともに、その結果を基に案を修正の上、メール審議を行い、その結果をもって、以後の手続きを進めることについて承認した。

5. 自己操縦免除確認の申請について

（資料5）

委員長から、資料5に基づき説明があり、世良准教授をインストラクター名簿に追加した上で承認した。

6. 練習船等の使用に係る使用申請および使用届の取扱いについて

（資料6）

委員長から、資料6に基づき説明があり、以前より運用していた使用に係る取扱いについて改めて確認するとともに、各種利用の分類に対する実例を挙げて説明できるよう文書化し、また、航海日当に係る支出財源の確認を行い、原案のとおり承認した。

なお、現在、事務部を中心に「神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規」中の別表（使用料）について検討を進めており、その結果で、本委員会での審議により改訂することになれば、この取扱いについても必要な変更について検討する可能性がある旨の説明があった。

7. 深江丸使用について（依頼）・女子中高生のための関西科学塾（資料7）

委員長から、資料7に基づき説明があり、以下の点を依頼元に確認の上、再審議することとした。

- ・関西科学塾がどのような団体であり、他にどのような活動をしているのか。
- ・その中で深江丸の運航がどのような位置付けであるのか。

8. 寄港地および研究科ポンドにおける綱取りの手配について

委員長から、実習寄港地（高松、松山、尾道）は安全確保の観点から外注することを執行部に対して求める旨の説明があり、原案のとおり承認した。

また、深江地区の係船池における綱取りについては以下の意見があった。

- ・部局内の様々な立場における深江丸に対する考え方に温度差があることが推察されるため、本研究科における深江丸の位置付けを議論する必要がある。
- ・綱取りの手配の対応案としては、大学院生等の雇い上げ（毎回1時間程度）が考えられる。
- ・将来的（恒久的）には、海技教育センターが技官1名を要求することも想定する。

9. 関西海事教育アライアンスにおける深江丸の運航について（資料8）

委員長から、資料8に基づき説明があり、平成27年1月29日は入渠中のため物理的に不可能であり、また、平成27年2月12日は気象海象も厳しい時期であることから、直ぐには対応するとの回答は難しいこと、及び現状では不確定な点も多いことから、状況次第で再度検討することとした。

10. メール審議の議決方法について

委員長から、メール審議は練習船等の利用申請で期日の迫っている案件等に限るが、それ以外で、早急な審議が必要な事項が生じて本委員会での審議を待つことができない場合には以下のとおり取り扱うことについて説明があり、原案のとおり承認した。

- ・メール審議には全委員からの回答を必須とし、可決の要件は委員数の過半数以上とすることとし、連絡しても回答がない場合は白票とみなすこととする。
- ・船舶の使用申請（届）等については、不都合等がないかの確認の意味が大きいので、これまでどおり、連絡がない場合は可とみなすこととする。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（26年7月～26年9月）

（資料9）

矢野船長（深江丸）、青山二航士（白鷗、むこ丸）、山下委員（クライナーベルク）から、資料9に基づき報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

河合機関長及び青山二航士から、次のとおり報告があった。

（甲板部）

- ・8月9日～10日：台風対策
- ・8月19日：マストトップに取付の複合気象センサーが不具合であったため修理していたが、再度取り付けた。
- ・8月19日～20日：推進器及び横移動装置整備のためダイバーによる潜水作業をおこなった

（機関部）

- ・8月4日：配管ピンホールを本船にて新替
- ・8月5日：ビルジ陸揚げ
- ・8月25日：補油12KL

- ・9月4日：補油の予定
(白鷗)
- ・GPSプロッタ故障,
- ・ジャイロリピータ(1つ)故障

3. リーダーシップ授業の実施状況について (資料10)

委員長から、資料10に基づき説明があり、今年度のライフラフト投下実演に係る請求書及び完了報告書(古荘教授作成)について報告があった。

4. EMSA 監査へのフォローアップについて (資料11)

内田委員から、資料11に基づき説明があり、先日の回答案について国土交通省からEMSAに報告したとの連絡があった旨の報告があった。

5. 平成26年度夏季深江丸研究航海の実施について (資料12)

委員長から、資料12に基づき説明があり、以下のとおり報告があった。

- ・7月31日：参加者を決定し、研究代表者に通知した。
- ・8月20日：研究打合せミーティングを実施した。

6. 東灘区との協定にもとづく事業の実施について (資料13)

委員長から、資料13に基づき説明があり、7月25日午後から実施された事業(東灘区・夏休み子どもいろいろ体験スクール)について反省点及び課題の報告があった。

7. 練習船深江丸教育関係共同利用拠点の認定について (資料14)

委員長から、資料14に基づき説明があり、26年7月31日付けで練習船深江丸教育関係共同利用拠点の認定があったことについて報告があった。

8. 練習船深江丸教育関係共同利用の実施状況について (資料14)

委員長から、資料14及び回覧資料(利用者アンケート)に基づき、以下とおり共同利用が実施された旨の報告があった。

- ・8月5日(午後)：京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科先端ファイブ科学専攻
修士1年 23名、准教授 1名(計24名) 13名欠席
- ・8月21日～22日：帝塚山大学(高松寄港)
大学院生 18名、引率教員4名(計22名) 1名欠席

9. 練習船深江丸教育関係共同利用の実施について (資料15)

委員長から、資料15に基づき説明があり、以下のとおり報告があった。

- ・9月18日～19日：甲南大学フロンティアサイエンス学部、科学と産業政策

・9月18日～19日：神戸学院大学人文学部人文学科，人間環境実習Ⅳ・人間環境演習Ⅲ

・9月22日：内海域環境教育研究センター（利用の可否は共同利用運営協議会にて審議予定）

10. 2014年度コンソーシアムひょうご神戸（単位互換）・理学研究科海洋調査人材育成の実施について
（資料16）

委員長から，資料16に基づき説明があり，9月16日～17日に海洋調査のため，夜航海を実施することについて報告があった。

11. 練習船深江丸入渠工事に係る仕様策定結果について（資料17）

委員長から，資料17に基づき説明があり，第2回仕様策定委員会を持ち回り（メール）で行ったこと，及び8月7日に深江丸教室において入札説明会を実施したことについて報告があった。

12. 電子海図情報表示装置（ECDIS）訓練シミュレータの調達に係る仕様策定結果について（資料18）

委員長から，資料18に基づき説明があり，7月27日に第2回仕様策定委員会，8月7日に第3回仕様策定委員会を開催したことについて報告があった。

13. 関西小型船安全協会「海と船の体験教室」航海の実施状況について

委員長から，7月29日に実施したことについて報告があった。

14. 近畿内航船員対策協議会・近畿運輸局・（公社）近畿海事広報協会主催 神戸大学附属練習船「深江丸」体験航海の実施状況について

委員長から，8月6日に実施したことについて報告があった。

15. ポンドの浚渫工事について

（資料19）

委員長から，資料19に基づき説明があり，ボーリング調査を実施したこと，及び8月25日（月）15:00から本部施設部担当者と打合せを行う予定であることについて報告があった。

16. 深江丸における波浪レーダー開発に係る共同研究について

委員長から，7月28日及び30日に設置工事及び検査データの計測等を実施したことについて報告があった。

【その他】

次回、運営委員会は、平成26年9月25日開催する予定で、あらためて日程調整することとなった。

以上

平成 26 年度 第 5 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 9 月 25 日（木） 09:00～11:30

場 所： 事務棟 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，古莊教授，山下准教授，井川准教授，藤本(昌)准教授，世良准教授，渕准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），山地准教授（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 廣野准教授

陪席者： 小田事務長補佐，企画係 岸上係長，仲谷係員
深江丸 和巻一機士，青山二航士

【資料】

平成 26 年度第 4 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26. 8. 25

- 1-1 附属練習船等使用申請等（一覧）
- 1-2 日本舶用工業会（26. 10. 6-8）
- 1-3 施設使用願（三村）
- 1-4 使用申請_NPO セーリング神戸(H260920)
- 1-5 ポンド利用申請 201409（林美鶴）
- 1-6 クレーン使用許可願
- 2-1 平成 26 年度深江丸等運航予定（修正）
- 2-2 平成 26 年度深江丸利用一覧・練習船配乗予定表（修正）
- 3-1 登録海技免許講習(救命講習(機関救命講習)及び消火講習)における実技講習(実践的訓練)の実施について 20140319
- 3-2 H16. 2. 26 免許講習内容告示国交省 1 6 3 号
- 3-3 海技免許講習の登録等の手続きについて（H 1 6）・海技免許講習の登録申請要領
- 3-4 施設及び設備の概要書（第 2 号様式）
- 3-5 （航海）必要履修科目に該当する教育科目の名称、履修の方法、教育時間等の教育の内容
- 3-6 （機関）必要履修科目に該当する教育科目の名称、履修の方法、教育時間等の教育の内容
- 3-7 20130116 三級海技士（航海）免許講習必要履修科目一覧（新旧対照）
- 4-1 深江丸使用依頼書（内田理事）
- 4-2 深江丸使用許可願 260918
- 4-3 第 9 回関西科学塾募集チラシ
- 4-4 関西科学塾__実験要旨集原本（第 9 回科学塾）
- 4-5 関西科学塾実 335MW_神戸大学
- 4-6 第 8 回関西科学塾 アンケート抜粋
- 5 運航記録・予定（5-1 ～ 5-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 6 深江丸機関部保船関係
- 7-1 浚渫等工事の打ち合わせ H26. 08. 25

- 7-2 【回覧】概略工程（Pr 案） H26.05.23
- 7-3 【回覧】
- 7-4 渚等工事に係る課題
- 8 自己操縦免除確認証
- 9 運営費交付金所要額積算内訳（教育関係共同実施分【新規事業】）
- 10 【回覧】（メール）「海への誘い」撮影のお礼
- 11-1 【回覧】140919_第9回学長会見資料【練習船深江丸】
- 11-2 【回覧】140919_学長定例会見プレゼンテーション【練習船深江丸】
- 12 H26【様式】自己点検・評価書 海事科学研究科 深江丸
- 13-1 【回覧】附属練習船深江丸教育関係共同利用申請書（神大理学部）
- 13-2 【回覧】神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸共同利用運営協議会（持ち回り審議）の審議結果について
- 14-1 【回覧】練習船深江丸教育関係共同利用 利用者アンケート(学生用)【甲南大学】
- 14-2 【回覧】練習船深江丸教育関係共同利用 利用者アンケート(学生用)【神戸学院大学】
- 15 【回覧】練習船深江丸 利用者アンケート(学生用)【理学部】
- 16 【回覧】（メール）カタマランコンペに関わるポンドの使用について
- 17 各部局等における部局年次計画の重点事項(ヒアリング資料)【施設・設備・環境】
深江丸関係
- 18 【回覧】（メール）深江丸 2 台目レーダ設置のお願い
- 19 【回覧】平成 26 年度練習船深江丸夏季研究航海研究活動報告

議事に先立ち、平成 26 年度第 4 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)を確認し、原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について (資料 1)

委員長から、資料 1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議分：

（深江丸）日本舶用工業会 10 月 7 日～8 日：可（9 月 3 日）

（白鷗） なし

（クライナーベルク）NP0 セーリング神戸 9 月 20 日：可（9 月 16 日）

（ポンド等）三村教授 9 月 7 日～30 日：可（9 月 10 日）

林 美鶴教授 10 月 1 日～30 日：可（9 月 16 日）

今回審議：

・クレーンの使用について（端艇部）

委員長から、資料 1－6 に基づき説明があり、審議の結果、申請者からクレーンの使用者の免許及び講習関係の写し並びに責任体制が分かる資料などの再提出を求めた上で改めて審議することとした。また、学生がクレーンの操作を直接行うということについては初めての事例であり、必要に応じて安全衛生委員会など他の委員会にも検討を依頼する必要があるとの認識で一致した。

2. 平成 26 年度練習船等運航予定の一部変更について (資料 2)

委員長から、資料2に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

(1) 配乗予定

今のところ、本年度は141日の運航、190日あまりの利用の予定となり、乗組員の労務管理等においてかなり厳しい状況であるとの説明があった。

3. 「救命／消火講習」の実技講習（実践的訓練）の実施について（資料3）

委員長から、この件について教務係から問い合わせのメールがあった旨の説明があり、内田委員から、資料3に基づき説明があり、実技講習に当たっては移行期間中に航海は古莊教授、機関は内田教授がそれぞれ実施に向けて調整しているが、ボートダビットなどのハード面の課題、航海訓練所及び2大学5高専の関係などの対外折衝に時間がかかるため、近々に内田委員から中間報告をまとめること、及び本件は本研究科の案件であることから、本センターとしては教務係に対して回答しないことについて承認した。

4. 深江丸使用について（依頼）・女子中高生のための関西科学塾（資料4）

委員長から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、以下の条件を付した上で承認した。

- ①利用できる期間は来年8月平日のみとする。（土日は不可）
- ②8月平日の都合がつけば、深江丸の航海を実施するが、本件は外部利用に当たるため、使用料を徴収する。
- ③関西科学塾（又は男女共同参画推進室）から使用申請書（深江丸航海）又は施設使用願（深江丸見学利用）の提出を求める。
- ④深江丸の航海に当たっては、関西科学塾の企画に参加される学生数（乗船者数）によって、航海時間を制約する。

これらに対して不都合があるということであれば、深江丸の運航は見送るものとする。

5. 寄港地および研究科ポンドにおける綱取りの手配について

委員長から、8月25日に開催された本センター運営委員会において実習寄港地での綱取りを外注にする件を9月12日（金）に開催された月曜懇談会にて審議された結果、綱取りの外注が認められたこと、及び綱取り外注に伴う費用については深江丸関係の当初予算配分にて足らずの金額を補填する旨の説明があり、綱取りの外注が可能なところから手配を進めていくことについて承認した。

深江地区の岸壁における深江丸帰港時の綱取りについては、継続審議とすることとした。

綱取りとは別の案件として、委員長から、本センターから技術部へ深江丸に搭載されている通信機器等の恒久的な施設維持管理その他深江丸に関連する業務を担当させるために、専任の技術職員（1～2名）を要求することについて（配置換え等も視野に入れて）を執行部へ要望する提案があり、審議の結果、承認した。

6. 関西海事教育アライアンスにおける深江丸の運航について

委員長から、平成27年1月29日は入渠中のため物理的に不可能であり、また、平成27年2月12日は気象海象も厳しい時期であることから、直ぐには対応するとの回

答は難しいこと、及び本件に関して前回から追加の情報がなかったことについて説明があり、状況次第では再度検討することとするものの、現状では深江丸の運航は行わないこととした。

7. センター長の辞任について

委員長から、深江丸が教育関係共同利用拠点の認定がなされたことにより当初の指示事項は遂げたこと、代替船新造の動きを速やかに始める必要があり、そのための新しい体制を早期にとる必要があることなどから、9月30日付けをもってセンター長を辞任したい旨の説明があった。審議の結果、本提案は否決され、現任期満了（平成27年3月末）までセンター長を留任させることとなった。

8. センター長（予定者）の選出について

委員長から、審議事項7に基づき現任期満了までセンター長を留任させることとなったが、任期満了までの間に、円滑に引継が行われるよう、次期センター長予定者の選任を進めた上で、必要な引継をおこなっていくことについて説明があり、審議の結果、当該方針について承認した。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（26年8月～26年10月）（資料5）

委員長から、資料5に基づき、深江丸、白鷗、むこ丸及びクライナーベルクの運航実績及び予定について報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等（資料6）

委員長から、資料6に基づき、機関部に係る保船関係及び作業予定について報告があった。なお、甲板部については次回に合わせて報告することとなった。

3. ポンド浚渫等設計その他業務の打ち合わせについて（8/25午後）（資料7）

委員長から、資料7に基づき説明があり、8月25日にポンド浚渫等設計その他業務の打ち合わせがあったこと、9月22日にポンドの底質調査を実施したことについて報告があった。また、ポンド浚渫に際する深江丸の外部係留について、近々に矢野船長から資料が提出される予定である旨の報告があった。

4. 小艇の自己操縦免除確認について（資料8）

委員長から、資料8に基づき説明があり、9月3日付けで神戸運輸監理部から確認証が発行されたことについて報告があった。

なお、確認証の有効期限は3年間であることから、次回更新手続きを怠らないよう注意喚起があった。

5. 平成27年度概算要求（教育関係共同利用）について（資料9）

委員長から、資料9に基づき説明があり、運営費交付金所要額を1,070万円で作成し直すよう財務部から連絡があり、作成の上、再提出したことについて報告があった。

6. 海への誘いにおける広報室による取材について

(資料 10)

委員長から、資料 10 に基づき説明があり、9 月 9 日（火）にクライナーベルク、9 月 11 日（木）～12 日（金）に深江丸を広報室が取材を実施したことについて報告があった。

なお、取材内容及び公表方法などが不明瞭なため、担当者から内容の提出について依頼があった。

7. 学長定例記者会見（第 9 回）について (資料 11)

委員長から、資料 11 に基づき説明があり、9 月 19 日（金）14:00 から 本部 6 階大会議室にて学長定例記者会見（第 9 回）があり、練習船深江丸教育関係共同利用拠点の認定についても言及があった旨の報告があった。

8. 学内共同利用施設等の自己点検・評価書について (資料 12)

委員長から、資料 12 に基づき説明があり、先日メール審議にて承認された附属練習船深江丸の自己点検・評価書が 9 月 22 日（月）開催の評価委員会に附議され一部修正したこと、及び後日開催予定の研究科運営委員会にて報告されることについて報告があった。

9. 教育関係共同利用運営協議会におけるメール審議結果について (資料 13)

委員長から、資料 13 に基づき説明があり、自然科学系先端融合研究環内海域環境教育研究センターの教育関係共同利用拠点が認定されたため、深江丸教育関係共同利用運営協議会（持ち回り審議）にて同センターから申請のあった練習船深江丸教育関係共同利用申請が承認され、9 月 22 日（月）に実施されたことについて報告があった。

10. 練習船深江丸教育関係共同利用の実施状況について (資料 14)

委員長から、資料 14 及び回覧資料（利用者アンケート）に基づき、次のとおり共同利用が実施された旨の報告があった。

- ・9 月 18 日～19 日：甲南大学フロンティアサイエンス学部，科学と産業政策
履修者 26 名，引率教員 5 名（計 31 名） 1 名欠席
- ・9 月 18 日～19 日：神戸学院大学人文学部人文学科，人間環境実習Ⅳ・人間環境演習Ⅲ
学生 4 名，引率教員 1 名（計 5 名）
- ・9 月 22 日：内海域環境教育研究センター
学生 3 名，引率教員 3 名（計 6 名）

なお、教員向けアンケートを事務部から別途依頼することとなった。

11. 2014 年度コンソーシアムひょうご神戸（単位互換）・理学研究科海洋調査人材育成の実施状況について (資料 15)

委員長から、資料 15 に基づき説明があり、9 月 16 日～17 日に海洋調査のため、夜航海を実施し、プロトン磁力計により磁場（曳航）により磁場の測定等を行ったことについて報告があった。

12. カタマランコンペに関わるポンドの使用について (資料 16)
委員長から、資料 1 6 に基づき説明があり、昨年来、大阪大学が艇庫及びポンドを使用して行ってきた作業が終了したことについて報告があった。
13. 各部局等における部局年次計画の重点事項(練習船深江丸)について (資料 17)
委員長から、資料 1 7 に基づき説明があり、各部局等における部局年次計画の重点事項(練習船深江丸)について報告があった。
14. 深江丸における波浪レーダー開発に係る共同研究について (資料 18)
委員長から、資料 1 8 に基づき説明があり、Miros 社製レーダー及び WAVEX (波浪解析装置) の設置工事について、10 月 1 日 (水) ～3 日 (金) に作業するとともに、10 月 28 日 (火) 深江停泊中に設置し、10 月 29 日 (水) 深江から和歌山シフト時に便乗して調整 (古野電気, Miros の技術者が便乗予定) する旨の報告があった。
なお、事務部から古野電気の担当者へ上記日程にて実施しても差し支えないことを連絡することとなった。
15. 日本船用工業会研修航海の実施について
委員長から、10 月 7 日 (火) ～8 日 (水) に日本船用工業会研修航海を実施することについて報告があった。
なお、受入担当である河合機関長が当該実施プログラムを入手次第、メール報告することとなった。
16. 平成 2 6 年度深江丸夏季研究航海研究活動報告について (資料 19)
委員長から、資料 1 9 に基づき説明があり、現在編集中である案が出来次第、各チーム代表者に確認を求めた後、本センター運営委員会でメール報告の上、研究科運営委員会に報告する予定であることについて報告があった。
17. 二等機関士の雇い止め、雇い入れについて
委員長から、黒木二機士が永年勤続休暇制度により 10 月第 3 週に休暇取得することについて報告があった。なお、神戸運輸監理部への雇い止め、雇い入れについては不要であることを確認した。
18. 深江丸船員の休暇取得について
委員長から、本年度の深江丸出動状況のため、乗組員の休暇取得が困難な状況について、本船からの意向として深江丸船長から検討依頼があったため、深江丸船員の休暇取得について研究科長へ検討を依頼した旨の報告があった。来年度以降も、状況が特に変化する見込みはないため、特命助教等により航海士、機関士を増員するなどの本質的な対応も必要である旨の説明があった。
19. 「海への誘い」の実施状況について
古荘委員から、9 月 8 日 (月) ～9 日 (火) 及び 9 月 11 日 (木) ～12 日 (金) に実施された全学共通教育科目「海への誘い」の実施状況について報告があり、謝辞があった。

20. 深江丸の食料費について

矢野船長から、昨今の食材の物価高騰及び消費税増税により、深江丸の食料費の値上げ等を検討することについて報告があった。

21. クライナーベルクの試乗会について

山下委員から、10月24日（金）にクライナーベルクの試乗会を実施することについては報告があり、周知依頼があった。

22. 年報の発行について

河合機関長から、隔年にて発行している年報について、平成25年度及び平成26年度の年報を発行する旨の報告があり、協力依頼があった。

【その他】

次回、運営委員会の開催は、11月～12月を目処に改めて日程調整する。

以上

平成 26 年度 第 6 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 26 年 12 月 19 日（金） 10:40～12:20

場 所： 事務棟 4 階 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，古莊教授，山下准教授，井川准教授，藤本(昌)准教授，湊准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），山地准教授（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 世良准教授，廣野准教授

陪席者： 小田事務長補佐，企画係 岸上係長，仲谷係員
深江丸 西山一航士，和巻一機士，青山二航士

【資料】

平成 26 年度第 5 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26.9.25

- 1-1 附属練習船等使用申請等（一覧）
- 1-2 届出書_クライナーベルク体験帆走会_141024・1114
- 1-3 届出書_工学部長会議・総会運営委員会_141202
- 1-4 施設使用願〔深江丸〕_141202
- 1-5 使用申請書(便乗)_古野電気(H261029)修正版
- 1-6 使用申請書_NP0 セーリング神戸(H261026)
- 1-7 使用届出書_ろっこう(H261101-02)
- 1-8 使用申請書_NP0 セーリング神戸(H261108)
- 1-9 深江丸便乗_国際海事研究 C (H261110・17)
- 1-10 使用申請書_ベニックソリューション(H261118-19)
- 1-11 使用申請書 GHR 鈴木 20141105
- 1-12 6 mカッター用台車借用申請
- 1-13 使用申請書_古野電気(H261204-05)
- 1-14 深江丸使用申請書_20150115
- 1-15 深江丸使用申請書_20150212
- 1-16 使用申請書_NP0 セーリング神戸(H261213)
- 2 平成 26 年度深江丸等運航予定（修正）
- 3 平成 27 年度深江丸等運航予定（案）
- 4 運航実績・予定（4-1 ～ 4-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 5 深江丸機関部保船関係
- 6 取材実施報告
- 7 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸共同利用運営協議会（持ち回り審議）の審議結果について
- 8 深江丸に搭載している ECDIS で使用している電子海図データの更新について
- 9 ECDIS 訓練シミュレータ入札結果について
- 10 深江丸日程確保依頼_2015 短期サマースクール

議事に先立ち，平成 26 年度第 5 回海技教育センター運営委員会議事要旨(案)を確認

し、原案審議事項「7. 委員会の運営について」の記載内容について、委員長と内田委員とで別途協議することとなった。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について (資料1)

委員長から、資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議分：

(深江丸) 古野電気 10月29日：可(10月21日)

ベニックソリューション 11月18日～19日：可(11月6日)

便乗(グローバル人材育成推進機構) 11月10日：可(11月7日)

便乗(古野電気) 12月4日～5日：可(12月1日)

渦潮電機 1月15日、2月12日：可(12月2日)

(白鷗) なし

(むこ丸) なし

(クライナーベルク)

NP0セーリング神戸 10月26日：可(10月23日)

同上 11月8日：可(11月6日)

同上 12月13日：可(12月4日)

(小艇・カッター)

富洋海運 11月15日：不可(9mカッター)

廣野康平准教授基礎ゼミ：可(6mカッター用台車、ポンド)

(ポンド等) なし

(報告) 国立大学工学部長会議 12月2日(深江丸)

便乗(国際海事研究センター) 11月10日、11月17日(深江丸)

教職員向け体験帆走会 10月24日、11月14日(クライナーベルク)

山下和雄准教授課外活動指導 11月1日～2日(ろっこう)

今回審議：なし

2. 平成26年度練習船等運航予定について (資料2)

委員長から、資料2に基づき、12月22日に予定していた大阪大学の共同利用が平成27年2月24日、3月2日、6日のいずれかに変更になること、平成27年1月15日及び2月12日の試運転が外部利用に変更になることについて説明があり、原案のとおり承認した。

また、矢野委員から、3月27日の関西小型船舶安全協会の利用について、ポンド浚渫工事等により中止としたとの報告があった。

3. 平成26年度深江丸春季研究航海について

委員長から、平成27年3月11日から19日に春季研究航海を行うこと、今回は事前案内をせず、12月中又は1月初旬に募集要項をメール審議し、研究科運営委員会に報告した後、募集を開始すること、寄港地は博多を検討していることについて説明があり、原案のとおり承認した。

4. 平成27年度練習船等運航予定について (資料3)

委員長から、資料 3 に基づき、以下の優先順位により平成 27 年度練習船等運航予定を策定したことについて説明があった。

1. 海事科学部（研究科）の授業（実験を含む）として実施する船舶実習等
2. 深江丸教育関係共同利用
3. その他、海事科学研究科が主催する事業に係る航海
4. 学内他部局との共同プロジェクト
5. 上記 1～4 を予定した後、3 月頃から他の使用申請を受け付け、順次当委員会にて審議する。

上記の説明に基づき、審議の結果、以下のとおり修正等の上、承認した。

- ・10 月 19 日の 3N 実験 2(係留) は平成 26 年度のデータであり、平成 27 年度には実施しないので表から削除する。
- ・申請書が提出されている神戸女学院の共同利用の予定を反映させる。
- ・外部利用については、3 月以降使用申請が出てきたら本委員会で審議し決定する。
- ・系主任に依頼している授業等の予定について回答があり次第反映させる。
- ・今回の本委員会で提示した運航予定を第 1 次案とし、今後随時予定を更新していき、3 月に開催する本委員会で最終案を決定する。

5. 海技教育センター年報の発行について

委員長から、年報の発行について、編集担当者を河合委員に委任するとともに、各委員に原稿の執筆を依頼する旨の説明があり、原案のとおり承認した。

なお、年報案については、来年 3 月又は 4 月の本委員会にて審議・承認後、発行することとなった。

6. 次期海技教育センター長候補者の人選について

委員長から、次期海技教育センター長候補者の人選について、本センターは船舶職員の養成教育を旨とするため、航海マネジメント系あるいはマリンエンジニアリング学科から次期センター長を選出することが妥当であると判断し、航海マネジメント系主任及びマリンエンジニアリング学科長へ候補者の推薦を依頼し、候補者の提案があった。しかし、今後、理学研究科等との大型プロジェクト及び深江丸の代替新造計画があるため、研究科長から現センター長に対し平成 27 年 4 月以降も更に継続するように指示があり、引き受ける予定である旨の説明があった。

7. 関西海事教育アライアンスにおける深江丸の運航について

委員長から、以前に打診のあった関西海事教育アライアンスにおける深江丸の運航について、平成 27 年 1 月 29 日は入渠中のため不可能であり、平成 27 年 2 月 12 日は外部利用が決定したため不可能であるため、今年度の運航は実施できないとの説明があり、本年度はこの目的での運航は行わない旨の原案を承認した。

なお、本件について、来年度の実施を希望する場合は早めに依頼をしてもらうこととした。

8. 青雲丸の取扱いについて

渚委員から、今年度末までに小型船舶の検査を受検しなければならない青雲丸について、当該船舶は近年使用実績が低いことから受検しないこととしてはどうかとの提

案があり、審議の結果、今回は受検しないこととした。今後、青雲丸の廃棄も視野に入れた取扱いについて、手続き等を事務部で確認することとなった。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（26 年 9 月～27 年 1 月）

（資料 4）

委員長から、資料 4 に基づき、深江丸、白鷗、むこ丸及びクライナーベルクの運航実績及び予定について報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

（資料 5）

委員長から、資料 5 に基づき、甲板部及び機関部に係る保船関係について報告があった。

3. 寄港地および海事科学研究科岸壁における深江丸の綱取りの手配について

委員長から、尾道及び高松入港時の綱取り業者が決定したことについて報告があった。

なお、深江地区の岸壁における深江丸帰港時の綱取りについては、引き続き検討中である旨報告があった。

4. 海への誘いにおける広報室による取材について

（資料 6）

委員長から、資料 6 に基づき、海への誘いにおける広報室による取材について報告があった。

なお、本委員会での情報共有を図るため、今後は受入担当者から実施報告するよう依頼があった。

5. 教育関係共同利用運営協議会におけるメール審議結果について

（資料 7）

委員長から、資料 7 に基づき説明があり、平成 26 年度中の利用 4 件の深江丸教育関係共同利用が承認された上で実施したことについて報告があった。

6. 深江丸に搭載している ECDIS で使用している電子海図データの契約更新について

（資料 8）

委員長から、資料 8 に基づき説明があり、深江丸搭載の ECDIS で使用する電子海図データを契約更新したことについて報告があった。

7. ECDIS 訓練シミュレータ入札結果について

（資料 9）

委員長から、資料 9 に基づき、ECDIS 訓練シミュレータ入札結果について説明があり、平成 27 年 1 月から業者による納品および設定作業が始まる予定である旨報告があった。なお、当該システムを実行するための PC（計 27 台）および示範用大型ディスプレイ（4 台）等の機器については既に海図室に納入設置されており、年末にかけ

て電源及び LAN 工事が実施される旨の説明があった。

8. 2015 年度 深江丸運航計画 日程確保のお願い STAMNS 短期サマースクールの実施
(資料 10)

内田委員から、STAMNS 短期サマースクールの実施に当たり、深江丸出動日程を最優先で確定させた後、他部局の日程が確定していくことから、公式な決定は平成 27 年 3 月の本委員会で構わないが、暫定的に日程を決めてほしいとの依頼があり、審議の結果、7 月 14 日に予定として平成 27 年度練習船等運航予定に反映することとした。

また、内田委員から以下の点について報告があった。

- ・海事科学研究科として提供するプログラムは 1 日であり、そのうち少なくとも半日は深江丸を利用する予定である。
- ・STAMNS として平成 27 年度予算要求する際、深江丸運航に係る費用を含めて申請する予定である。

なお、委員長から、短期サマースクールの実施に関し、以下の点について依頼があった。

- ・練習船等使用申請書を提出すること。
- ・船内でのプログラムを準備し、担当者が乗船して実施すること。

9. 平成 26 年度深江丸夏季研究航海 研究活動報告について

委員長から、前回委員会において審議し承認された平成 26 年度深江丸夏季研究航海研究活動報告について研究科運営委員会に報告した後、海事科学研究科ホームページに掲載している旨報告があった。

10. 平成 27 年度神戸港カッターレースにおける舟艇出動協力依頼について

古莊委員から、神戸港カッターレースの来年度開催が平成 27 年 5 月 10 日に決定し、舟艇の出動について協力依頼があり、例年どおり申請の上で審議していくこととした。

11. ホームページ「深江丸へようこそ」の維持について

矢野委員から、外部のサーバーと契約して運用しているホームページ「深江丸へようこそ」について、昨年度は矢野委員の研究費にてサーバー使用料を支払ったが、今年度の支払を海技教育センターの予算で検討してもらいたいとの依頼があった。来年度以降の存続については、運航予定の公開等を Web タスク等へ業務依頼する可能性を含めて次回以降委員会にて検討することとした。

12. ECDIS 登録講習について

内田委員から、航海訓練所、2 大学 5 高専及び海技大学校との実施内容について検討した結果、大学においては 4 年次の 1～3 月期に演習を 4 時間、乗船実習科に入学年次の 4 月～6 月期に演習を 4 時間、評価を 1 時間、合計 9 時間を実施することとなり、高専及び海技大学校にも 9 時間提供することとなった旨報告があった。これにより、本学においては ECDIS 登録講習の必要時間について、社船実習を選択する者の残り 5 時間分が未定であるとの説明があった。

13. 第 2 回海技教育機構及び航海訓練所の統合に関する懇談会について

内田委員から、11月26日に東京で開催された第2回海技教育機構及び航海訓練所の統合に関する懇談会において、航海訓練所が自己収入拡大のため、停泊中の練習船等を活用した免状取得に必要な免許講習の実施といった施設設備の活用を検討しているとの説明があった。本学部では以前から免許講習のうち実習が実用な内容として検討している消火/救命講習について、外部委託も含め今後、調整の可能性がある旨報告があった。

14. ECDIS 訓練シミュレータの維持費について

古荘委員から、今回海図室に納入設置され来年度から稼働する ECDIS 訓練シミュレータ維持費の負担先について質問があった。委員長から当該 ECDIS 訓練シミュレータは、海技教育センターで予算申請を行い調達手続きも行ったが、稼働後の管理主体は未定であり、これについては研究科長へ検討依頼する必要がある旨回答があった。なお、大型設備としての維持経費がこの ECDIS 訓練シミュレータ一式に対しても措置される可能性が高い旨、事務長から説明があった。

15. 深江丸の合入渠工事について

矢野委員から、深江丸の合入渠工事について、入札の結果、広島県尾道市生口島の業者（内海造船瀬戸田工場）に決定したこと、平成 27 年 1 月 22 日に出港して、1 月 23 日～2 月 4 日に工事を行い、2 月 5 日に帰港予定である旨報告があった。

16. ポンド浚渫工事及び係留ドルフィンの新設について

委員長から、ポンド浚渫工事及び係留ドルフィンの新設について、現時点では、平成 27 年 1 月～6 月に実施すること以外、工程等の情報は来ていないこと、工事期間中の深江丸の待避係留場所は未定である旨報告があった。なお、小型舟艇類については、現在、白鷗、むこ丸、クライナーベルク等が係留している部分は浚渫の対象外であるが、一文字防波堤の出入り口が通航不可となる期間もあることが予想されるとの説明があった。

工事内容は、現在使用している係留用チェーンの撤去、係船池東側の岸壁の軽量化改修、係船池内（東側）の浚渫（4.5m を保証）、係留ドルフィンの新設、防潮扉の改修等であるとの説明があった。

また、本工事予算が数百万円不足していることから、センター予算の更なる節減に努めること、本件については施設係が窓口となっていることから、問い合わせはそちらにすることとなるが、海技教育センターとして調整が必要な検討・依頼事項については、センター長に都度、早急に連絡してほしい旨の依頼があった。

なお、今回の工事では対象外となった老朽化した浮き栈橋（浮体本体）について、来年度以降に更新の可能性を検討することとした。

【その他】

次回、運営委員会の開催は、内規の改正を検討することが想定されており、その場合は 2 月前半を目処に改めて日程調整する。

以上

平成 26 年度 第 7 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 27 年 2 月 20 日（金） 13:20～16:00

場 所： 事務棟 4 階 第二会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，山下准教授，井川准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，渕准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），山地准教授（海洋安全システム科学），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 古莊教授，世良准教授

陪席者： 小田事務長補佐，企画係 岸上係長
深江丸 西山一航士，和巻一機士，青山二航士

【資料】

平成 26 年度第 5 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26. 9. 25

平成 26 年度第 6 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H26. 12. 19

- 1-1 附属練習船等使用申請等（一覧）
- 1-2 H27. 1. 21 男子端艇部・借用書
- 1-3 神戸港振興協会依頼 270116
- 1-4 使用申請_NPO セーリング神戸(H270201)
- 1-5 戦略的シンポジウム「原子力災害時における船舶の活用」270310
- 1-6 深江丸便乗_塩谷研究室学生（H270217-19）
- 1-7 附属練習船等使用申請書（便乗）[日本郵船] 270217-19
- 1-8 使用申請_NPO セーリング神戸(H270214)
- 1-9 施設使用願_岡村教授_ポンド
- 1-10 FAX 送信票
- 1-11 270331 使用届出書_藤本_白鷗
- 2-1 平成 26 年度練習船等運航予定（修正）
- 2-2 平成 26 年度練習船深江丸利用一覧・配乗予定表（修正）
- 3 平成 27 年度練習船等運航予定（案）
- 3-1 来年度予定（瀬戸内海学入門・公開臨海実習）
- 3-2 2015 関西科学塾 8 月 3 日
- 4-1 使用届出書 20141222・海洋セミナー
- 4-2 海洋セミナー 2015 日程案
- 5 青雲丸移管のお願い
- 6-1 学内共同利用施設等の組織に係る評価結果（案）について
- 6-2 評価結果（案）に対する連絡票
- 7-1 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規の一部改正案
- 7-2 練習船・実習船及びその他の舟艇（練習船等）の使用に係る使用料の取り扱いについて新旧対照表（案）
- 8-1 平成 26 年度海技教育センター関係予算・平成 25 年度決算
- 8-2 平成 27 年度予定額 特別経費事項一覧
- 8-3 運営日交付金所要額積算内訳（教育関係共同利用実施分【新規事業】）

- 9 アンテナ移動設置に関する依頼
- 10 深江丸を利用した実証実験について
- 11 運航記録・予定（11-1～11-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク
- 12-1 深江丸甲板部保船関係
- 12-2 深江丸機関部保船関係
- 13-1 270116 H26 第 2 回 共同利用協議会 議事要旨案
- 13-2 H27 共同利用一覧_270116
- 13-3 150216_H27 共同利用一覧
- 14-1 H26 春季研究航海乗船者募集案内
- 14-2 平成 26 年度春季 深江丸研究航海
- 15 神戸大学（深江）ポンド係留施設改良その他工事について（メモ）
- 16-1 平成 27 年度 深江丸乗船研修の件
- 16-2 依頼状（ダイハツ，研修）
- 17 武田理事説明資料「海洋国を牽引する「智の拠点」の形成」
- 18 H26 年次計画重点事項実績報告
- 19 平成 26 年度自己点検報告書原稿（7.2 節）
- 20 附属練習船内施設の借用について（AIS 受信データ取得）
- 追加 深江祭における繫船池および船舶使用のお願い

議事に先立ち、平成 26 年度第 5 回及び第 6 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）を確認した

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について （資料 1）

委員長から、資料 1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議分：

（深江丸） 便乗（塩谷研究室学生） 2 月 17 日～19：可（2 月 3 日）

 便乗（日本郵船） 2 月 17 日～19 日：可（2 月 4 日）

（白鷗） なし

（むこ丸） なし

（クライナーベルク）

 NPO セーリング神戸 2 月 1 日：可（1 月 30 日）

 同上 2 月 14 日：可（2 月 6 日）

（小艇・カッター）なし

（ポンド等）なし

（報告） 見学（戦略的シンポジウム） 3 月 10 日（深江丸）

 神戸港振興協会カッター艇の練習 4 月 11 日～12 日，18 日～19 日，25 日～26 日：不可（ポンド）

今回審議：

（白鷗） 藤本（昌）准教授阪神港神戸区視察 3 月 31 日：条件付き可（浚渫工
 事の影響で出入港に支障がないか確認する）

（ポンド等） 岡村教授 承認時～平成 28 年 3 月までの毎月 1 回：可

2. 平成 26 年度練習船等運航予定について （資料 2）

委員長から、資料2に基づき、2月24日、3月2日、6日のいずれかに予定していた大阪大学の共同利用が中止となったこと、3月9日に明石高専の共同利用が実施される予定であることについて説明があり、原案のとおり承認した。

3. 平成27年度練習船等運航予定について (資料3)

委員長から、資料3に基づき、前回審議承認された第1次案を基に、以下の優先順位により平成27年度練習船等運航予定を策定したことについて説明があった。

1. 海事科学部（研究科）の授業（実験を含む）として実施する船舶実習等
2. 深江丸教育関係共同利用
3. その他、海事科学研究科が主催する事業に係る航海
4. 学内他部局との共同プロジェクト

上記の説明に基づき、審議の結果、以下の事項に留意の上、承認した。

- ・兵庫県立大学の共同利用について、7月23日から7月6日に変更の打診があったが、毎週月曜日は海技実習があることから、実施に当たり関係各位と協議することとなった。
- ・外部利用については、本日以降、平成27年度の申請を受け付けることとし、申請され次第、本委員会にて審議の上、運航の可否を決定することとした。
- ・3月開催予定の本委員会にて最終案を決定することとした。
- ・11月14日～29日の深江丸整備にて入渠整備工事（第一種中間検査工事）が実施できるよう調整を進めること

4. 体験型海洋セミナーについて (資料4)

委員長から、資料4に基づき、本セミナーは本研究科が主催する事業に係る航海とすることを執行部が承認したこと、本センターとしては第一候補日を8月4日～5日、第二候補日を22日～23日に実施することについて説明があり、原案のとおり承認した。

なお、本決定を申請者に伝達し、検討を依頼することとした。

5. 青雲丸の取扱いについて (資料5)

委員長から、資料5に基づき、青雲丸の取扱いについて、今後の使用見込みが芳しくないことから、本センターが管理する舟艇としての青雲丸は用途廃止する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

本研究科としての青雲丸の取扱いについては、当該舟艇の利用希望者である山下准教授がしかるべき手続きをすることとした。

6. 学内共同利用施設等の組織に係る評価結果(案)について (資料6)

委員長から、資料6に基づき、平成26年10月に提出した学内共同利用施設等の自己点検・評価書について、平成27年2月に本学評価委員会から評価結果(案)の提示あり、意見の申立てはしないこと、字句修正連絡票を提出する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

なお、他に意見がある場合は2月23日までに事務部に連絡することとし、とりまとめの上、2月24日開催予定の本研究科評価委員会に附議することとした。

7. 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規の一部改正について

(資料7)

委員長から、資料7に基づき、本内規及び取り扱いの一部改正について説明があり、審議の結果、以下の意見を反映した上、承認した。

1. 別表「注2」の「本学の用務（教育・研究）等で運航時に同乗する場合」の表現では、本学教職員の同乗の場合でも使用料金を徴収するように読み取れることから、「他の目的の航海に本学の教職員学生以外が同乗する場合」という表現に改めること
2. 使用料金の値上げ理由を明確にすること
3. 学外の港湾において着岸に必要な費用（岸壁使用料、係留作業料等）が発生する場合には、実費を徴収するようにすること
4. 審議事項5にて青雲丸を用途廃止とすることが審議承認されたことから、青雲丸の記載を削除すること

8. 深江丸ホームページの継続について

委員長から、現在、外部サーバーに委託している深江丸ホームページの維持管理を広報・社会交流推進委員会（ウェブタスク）へ依頼し、その回答をもって当該ホームページの次年度継続の可否を本委員会にて検討することについて説明があり、審議の結果、広報・社会交流推進委員会に対して対応の可否を打診し、可能であることを確認したのち、外部委託は中止することを承認した。

9. 次期海技教育センター長候補者の人選について

委員長から、平成27年3月31日をもってセンター長任期が満了となるため、後任人事について説明があり、審議の結果、次のとおり推薦することを承認した。

- ・センター長若林伸和教授（任期：平成27年4月1日～平成29年3月31日）

10. 平成27年度海技教育センター関係予算要求について

(資料8)

委員長から、資料8に基づき、平成26年度のセンター関係予算執行状況を踏まえ、平成27年度センター関係予算（案）を編成したこと、教育関係共同利用の実施に係る予算については、別途概算要求中であり、燃油は左記予算から優先的に執行すること、センター関係の事務処理量が膨大になっていることから、4月1日付けでセンター長付きの事務補佐員を雇用することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

11. アンテナ移動移設の関する依頼について

(資料9)

委員長から、資料9に基づき、塩谷教授から深江丸遠隔支援に関する研究におけるアンテナ移設設置の依頼があったことについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

なお、資料9の依頼状について、発信者名がなかったため、今後の依頼状には発信者名を入れるよう塩谷教授に伝達することとした。

12. 深江丸を利用した実証実験について

(資料10)

委員長から、資料 10 に基づき、若林教授から DP（船舶位置保持）システム開発のための実船による実証実験に深江丸を利用したい旨の依頼があったことについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

13. 深江丸での AIS 受信データの取得について (資料 20)

委員長から、資料 20 に基づき、タマヤ計測システム(株)から試作双眼鏡の性能評価にて深江丸での AIS 受信データを取得したい旨の依頼があったことについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

14. 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学向け単位互換授業の実施について

委員長から、平成 26 年度大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学向け単位互換授業の履修者がなかったことから、平成 27 年度はロジスティクスなどの要素を取り入れつつ、深江丸教育関係共同利用にも資するよう工夫した単位互換授業を実施する方針について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

なお、授業の詳細について、林研究科長及び実施担当者とともに内容を詰めることとし、後日報告することとした。

15. 深江祭における繫船池及び船舶使用について

委員長から、追加資料に基づき、深江祭実行委員会から 5 月 24 日に深江祭においてクライナーベルク等の体験乗船を実施したい旨の依頼があったことについて説明があり、審議の結果、深江祭実行委員会に実施当日の安全対策案を提出させた上、本委員会にて実施の可否を再審議することとした。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（26 年 12 月～27 年 3 月）

(資料 11)

委員長から、資料 11 に基づき、深江丸、白鷗、むこ丸及びクライナーベルクの運航実績及び予定について報告があった。

なお、白鷗及びむこ丸の稼働率が低迷していることから、稼働率向上に向け協力依頼があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

(資料 12)

委員長から、資料 12 に基づき、甲板部及び機関部に係る保船関係について報告があった。

3. 深江丸の合入渠工事について

委員長から、1 月 23 日～2 月 4 日に内海造船（株）瀬戸田工場にて深江丸の合入渠工事を実施したことについて報告があった。

4. 平成 27 年度深江丸共同利用について (資料 13)

委員長から、資料 13 に基づき、1 月 16 日開催の第 2 回深江丸共同利用運営協議会にて、平成 27 年度深江丸共同利用が審議承認されたことについて報告があった。

なお、教育関係共同利用航海日数が 25 日の目標を下回っていることから、目標達成に向け協力依頼があった。

5. 平成 26 年度深江丸春季研究航海について (資料 14)

委員長から、資料 1 4 に基づき、3 月 11 日～19 日に平成 26 年度深江丸春季研究航海を実施すること、参加者名簿の決定について後日メール審議する旨の報告があった。

6. ポンド浚渫工事について (資料 15)

委員長から、資料 1 5 に基づき、ポンド浚渫工事に伴い、2 月 28 日から一文字堤防南側海域に深江丸をとも付けすること、工事期間中の授業等での舟艇入出港について影響が出ないように施設係及び施工者に依頼していること、必要な情報は関係各位に送付していることなど現状について報告があった。

7. 平成 27 年度 深江丸乗船研修について (資料 16)

委員長から、資料 1 6 に基づき、平成 27 年度深江丸乗船研修の問い合わせが複数件寄せられていることについて報告があった。

8. 理学研究科との連携プロジェクトについて次期学長へ説明した件
(資料 17)

委員長から、資料 1 7 に基づき、2 月 5 日に林研究科長及び齋藤理学研究科長等とともに次期学長である武田理事へ本研究科と理学研究科との連携プロジェクトを説明したことについて報告があった。

9. 寄港地および研究科ポンドにおける綱取りの手配について

委員長から、寄港地（尾道港及び高松港）における綱取りの手配済みであるが、本研究科ポンドにおける綱取りは手配できておらず、今後、学生雇い上げなど具体案を検討し、本委員会にて提示する予定であることについて報告があった。

10. 年次計画重点事項について (資料 18)

委員長から、資料 1 8 に基づき、平成 26 年度深江丸教育関係共同利用に係る年次計画重点 事項の実績報告について説明があり、また、平成 27 年度の年次計画重点事項として、10 月を目途に深江丸の代替新造船検討WGを立ち上げるよう検討を進め、WG 立ち上げ後は予算要求関係資料の作成に向けて検討していくこと、教育関係共同利用に向けたプログラムの実施を目指すことについて報告があった

11. 平成 26 年度自己点検報告書(海事科学研究科)について (資料 19)

委員長から、資料 1 9 に基づき、本研究科の平成 26 年度自己点検報告書のドラフトについて説明があり、最終案を後日メール審議する旨の報告があった。

【その他】

次回、運営委員会の開催は、3 月後半を目処に改めて日程調整する。

以上

26 年度 第 8 回 海技教育センター運営委員会 議事要旨

日 時： 平成 27 年 3 月 30 日（月） 09:00～11:30

場 所： 総合学術交流棟 5 階 会議室

出席者： 若林(伸)委員長，内田副研究科長，古莊教授，山下准教授，井川准教授，廣野准教授，藤本(昌)准教授，世良准教授，湊准教授（兼航海マネジメント）（以上センター教員），矢野教授（船長），河合講師（機関長），尾下助教（ロジスティクス），三輪講師（マリンエンジニアリング），足立事務長

欠席者： 山地准教授（海洋安全システム科学）

陪席者： 小田事務長補佐，企画係 岸上係長
深江丸 和巻一機士，青山二航士

【資料】

平成 26 年度第 7 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）H27. 2. 20

1-1 附属練習船等使用申請等（一覧）

1-2 深江丸_使用申請書_近江戸（H270803） **【回覧】**

1-3 150309_深江丸_海洋・気象研究室学生便乗

【回覧】

1-4 使用申請_NP0 セーリング神戸（H270315） **【回覧】**

1-5 附属練習船等使用申請書「瀬戸内海学入門」 **【回覧】**

1-6 H27 年度深江祭・体験乗船要望（安全対策）

【回覧】

2 平成 26 年度練習船深江丸利用一覧・配乗予定表（修正）

3 平成 27 年度練習船等運航予定（案）

4 平成 27 年度クライナーベルク運航予定

5 救助艇「青雲丸」の係留のお願い

6 むこ丸船長（臨時）の発令について（依頼）

7 深江丸を利用した実験計画書

8 運航記録・予定（8-1～8-4）深江丸・白鷗・むこ丸・クライナーベルク

9-1 深江丸甲板部保船関係

9-2 深江丸機関部保船関係

10-1 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規

10-2 練習船・実習船及びその他の舟艇（練習船等）並びに停泊中の練習船等及び係船池（施設等）の使用に係る使用料の取り扱いについて

11 平成 26 年度自己点検報告書原稿

12 平成 27 年度海技教育センター関係予算当初配算額一覧

12-2 （関西小型船安全協会）深江丸をお借りしての「海と船の体験教室」の開催について

12-3 （近畿内航船員対策協議会）深江丸での体験航海（シップスクール）について

13 マリンエンジニアリング学科海技実習実施案

14 2015 年度 大学コンソーシアムひょうご神戸 シラバス（神戸港と瀬戸内の産業と物流）

- 13 平成 26 年度自己点検報告書原稿（7.2 節）
- 14-1 学内共同利用施設等の組織に係る評価結果について
- 14-2 学内共同利用施設等の組織に係る評価結果（附属練習船深江丸）
- 15 企画係報告（返信不要）【商船三井】 平成 27 年度深江丸乗船研修の件
- 16-1 ポンド浚渫工事工程表
- 16-2 立入禁止区域
- 17 オフショアセーリング部・新入生歓迎行事（ポンド使用）届
- 18 学内共同利用施設等の組織に係る評価結果 【回覧】
- 19 ウインチ（JMSTEC より移管予定）の概要
- 追加 クレーン操作手順書

議事に先立ち、平成 26 年度第 7 回海技教育センター運営委員会議事要旨（案）（平成 27 年 2 月 20 日）を確認し、原案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 附属練習船等使用申請等について（資料 1）

委員長から、資料 1 に基づき説明があり、原案のとおり承認した。

メール審議分：

（深江丸） 人間発達環境学研究科（関西科学塾） 8 月 3 日：可（2 月 27 日）

大学教育推進機構（瀬戸内海学入門） 7 月 4 日：可（3 月 13 日）

（白鷗） なし

（むこ丸） なし

（クライナーベルク）

NPO セーリング神戸 3 月 15 日：可（3 月 6 日）

（小艇・カッター） なし

（ポンド等）深江祭実行委員会（体験乗船） 5 月 24 日：可（3 月 20 日）

（報告） 便乗（研究航海準備） 3 月 9 日（深江丸）

今回審議： なし

2. 平成 26 年度練習船等運航予定について（資料 2）

委員長から、資料 2 に基づき、平成 26 年度練習船等運航予定及び実績について説明があり、原案のとおり承認した。

3. 平成 27 年度練習船等運航予定について（資料 3）

委員長から、資料 3 に基づき、平成 27 年度練習船等運航予定案について説明があり、審議の結果、次のとおり原案を一部修正の上、承認した。

1. 7 月 14 日 STAMNS （未定）→（予定）

2. 8 月 4 日～6 日コンソーシアムひょうご神戸（単位互換）（未定）を削除→実施

3. 平成 27 年 1 月 25 日～29 日 深江丸機関整備 →削除

4. 平成 27 年 3 月 29 日 依頼出動 → 実験試運転に変更

また、矢野委員から、ベニックソリューションから深江丸乗船研修の打診があったことについて報告があった。

4. 平成 27 年度クライナーベルク運航予定について (資料 4)

山下委員から、資料 4 に基づき、平成 27 年度クライナーベルク運航予定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

5. 青雲丸の更新について

委員長から、青雲丸の更新の有無及び廃止の是非について説明があり、審議の結果、海技教育センターとして当該舟艇を廃止することについて承認した。結果を研究科長に答申する。

6. 青雲丸（現）のポンド係留について

(資料 5)

委員長から、資料 5 に基づき、先の審議事項における廃止を前提として青雲丸を課外活動の救助艇としてポンドに係留したい旨の依頼があったことについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

7. むこ丸船長（臨時）の発令について

(資料 6)

委員長から、資料 6 に基づき、塩谷教授から研究活動のためにむこ丸船長（臨時）の発令の依頼があったことについて説明があり、審議の結果、次の条件を付した上、承認した。

1. 運航業務の共通認識を図ること

2. 依頼状「4 その他」の「関係者」を「海技教育センター」とし、むこ丸の使用に係る打合せの対象者を明確化すること

なお、本センターとして白鷗及びむこ丸の運航依頼があった場合、可能な限り正規の船長が対応するよう努力することを確認した。

8. 深江丸を利用した実験計画について

(資料 7)

委員長から、資料 7 に基づき、塩谷教授から深江丸を利用した実験の実施依頼があったことについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

なお、深江丸の代替新造に向けた予算要求のため、本センターとして深江丸における実験などの研究利用の更なる促進に向け、協力依頼があった。

9. 深江丸ホームページのサーバー外部委託について

委員長から、2 月 20 日開催の本委員会での審議を受け、現在、外部サーバーに委託している深江丸ホームページの維持管理を広報・社会交流推進委員会（ウェブタスク）へ依頼し、前向きな回答があったことから、サーバーの外部委託を中止することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

10. 端艇部のクレーン使用について (追加資料)

古荘委員（端艇部顧問）から、追加資料に基づき、端艇部が艇庫のクレーンを使用することについて説明があり、審議の結果、次の条件を付した上、承認した。

1. クレーンの使用に当たっては、指導教員の協力を受けること

2. 本件について、本センターの役割はクレーンの使用に係る技術的な審査であることから、実際のクレーンの使用に当たっては、課外活動を所掌する部署が実施責任を負うこと

なお、艇庫のクレーン及びシャッターの定期検査などについて質問があったため、事務部にて確認することとなった。

【報告事項】

1. 運航実績および予定（27年2月～27年3月）

（資料8）

委員長から、資料8に基づき、深江丸、白鷗、むこ丸及びクライナーベルクの運航実績及び予定について報告があった。

2. 保船関係報告・作業予定等

（資料9）

委員長から、資料9に基づき、甲板部及び機関部に係る保船関係について報告があった。

3. 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規の一部改正について
（資料10）

委員長から、資料10に基づき、3月19日開催の教授会において、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規の一部改正が承認されたこと、4月1日から施行されることについて報告があった。

4. 平成26年度自己点検報告書（海事科学研究科）について（資料11）

委員長から、資料11に基づき、平成26年度自己点検報告書（海事科学研究科）の海技教育センター及び深江丸並びに教育関係共同利用に係る原稿を提出したことについて報告があった。

5. 学内共同利用施設等の組織に係る評価結果について（資料18）

委員長から、資料18に基づき、深江丸に係る学内共同利用施設等の組織に係る評価結果について報告があった。

6. 平成26年度深江丸春季研究航海について

委員長から、3月11日～19日に平成26年度深江丸春季研究航海を実施したことについて報告があった。

7. 平成27年度海技教育センター関係予算について（資料12）

委員長から、資料12に基づき、平成27年度海技教育センター関係予算について、当初配算があり、当初配分で減額等となっている予算区分は、教育関係共同利用に係る特別経費及び外部利用等自己収入にて補填する予定であるため、目標額を目処に執行するよう説明があった。

8. マリンエンジニアリング学科海技実習実施案について

(資料 13)

委員長から、資料 1 3 に基づき、マリンエンジニアリング学科海技実習実施案について報告があり、また、三輪委員から本案の補足説明及び協力依頼があった。

9. 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学向け単位互換授業について (資料 14)

委員長から、資料 1 4 に基づき、8 月 3 日～8 月 6 日に実施予定の深江丸を利用した大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学向け単位互換授業の概要について報告があり、また、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学の履修者確保に向けた協力依頼があった。

10. 平成 27 年度 深江丸乗船研修の件 (資料 15)

委員長から、資料 1 5 に基づき、平成 27 年度深江丸乗船研修について、次のとおり報告があった

1. 商船三井の深江丸乗船研修について、先方のスケジュールの都合上、見合わせる旨の連絡があった。
2. 関西小型船安全協会の深江丸乗船研修について、7 月 30 日にて打診することとなった。
3. 近畿運輸局の深江丸乗船研修について、7 月 29 日にて打診することとなった。
4. 関西交通経済研究センターの深江丸乗船研修について、運航スケジュールの都合上、お断りすることとなった。
5. ダイハツディーゼルの深江丸乗船研修について、10 月にて打診することとなった。

11. ポンド浚渫工事について (資料 16)

委員長から、資料 1 6 に基づき、ポンド浚渫工事に係る週間工程表を事務部から各委員あてに送付することについて報告があった。

なお、海技実習の授業計画を立てるため、ポンド浚渫工事時期の詳細なスケジュールについて質問があり、事務部にて確認することとなった。

12. 新歓行事におけるポンド使用について (オフショアセーリング部) (資料 17)

委員長から、資料 1 7 に基づき、オフショアセーリング部が新歓行事のためにポンドを使用することについて報告があった。

13. 深江丸乗組員の今後の人事について

委員長から、3 月 19 日開催の教授会において技術部の技術職員定員 1 名を深江丸の乗組員に流用することが承認された旨の報告があった。なお、河合機関長の在職任期が平成 28 年 3 月 31 日までであることから、機関長を含めた後任人事を検討することとした。

14. 観測用ウインチの深江丸への装備について (資料 19)

委員長から、資料 1 9 に基づき、JAMSTEC から観測用ウインチが移管される可能性がある旨説明があり、深江丸への装備について検討していることについて報告があった。なお、観測用ウインチに必要な電源が深江丸の船内電源と異なるため、対応について依頼があった。

15. 深江丸の安全衛生について

委員長から、監事の指摘に基づき、深江丸の安全衛生に係る規則の整備、1 ヶ月ごとのミーティングの体制構築などを今後検討することについて報告があった。

16. ECDIS 訓練シミュレーターについて

委員長から、ECDIS 訓練シミュレーターが3月20日に納品完了・完工となり検収が終了したこと、3月25日～27日にトレーニングを実施されたことについて報告があった。ECDIS 訓練シミュレーターの予算要求と調達手続きについては本センターにおいて実施したが、今後の管理については執行部での検討を依頼する案件であることについて説明があった。

17. 深江丸の代替船建造について

委員長から、深江丸の代替船建造について、10月を目途に代替建造委員会を立ち上げ、新船建造に向けた検討を予算要求の準備から開始する予定である旨の報告があった。

18. 年報の刊行について

河合委員から、隔年で刊行されている本センターの年報について報告があり、年報に掲載する原稿について未提出の場合は早急に提出するよう依頼があった。

【その他】

次回、運営委員会の開催は、4月後半を目処に改めて日程調整する。

以上

平成26年度第1回神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会議事要旨

日 時 平成26年 6月18日(水) 16時30分～18時15分
場 所 第二会議室
出席者 林委員長、若林委員、長谷川委員、深沢委員、西方委員
欠席者 内田委員
陪席者 足立事務長、小田事務長補佐、坂本係員、杉本係員

議事に入る前に委員長から資料1に基づき共同利用運営協議会委員の紹介があった。

議 事

【審議事項】

1. 平成26年度深江丸教育関係共同利用について

委員長及び若林委員から、資料2～6に基づき深江丸の教育関係共同利用について説明があった。

次に、共同利用申請のうち、4月から5月までの間に実施希望のあった資料7～10の共同利用については、海技教育センター運営委員会において審議のうえ、実施した旨説明が行われ、本協議会において追認することについて提案があり、審議の結果、承認した。併せて、今月末から実施希望のある資料11～18の共同利用について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

また、今後共同利用の申請があった場合は、本研究科から委員にメールで審議を依頼することについて提案があり、審議の結果、承認した。

なお、深沢委員から、申請書の記載事項を統一することについて提案があり、今後改善していく旨説明があった。

2. 平成27年度深江丸教育関係共同利用の公募について

委員長及び若林委員から、資料19に基づき平成27年度深江丸共同利用の公募について説明があり、審議の結果、申込み資格については、大学院前期課程と明記するほか、公募内容については、乗船実習・実験・演習等に原案を一部修正することとして承認した。

なお、本公募要領と実施要項の申込み期限が異なっているため、審議の結果、実施要項の申込み期限を11月末日と改正することにした。

【報告事項】

1. 教育関係共同利用拠点申請の状況について

委員長及び若林委員から、共同利用の申請を行うため、資料20のとおり申請書類を作成した旨報告があった。申請書類については、6月23日までに事務局を通じて提出し、審議を経て7月下旬に審査結果が判明する旨併せて説明があった。

以 上

平成26年度第2回神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会議事要旨（案）

日 時 平成27年1月16日（金）15時10分～16時30分
場 所 第二会議室
出席者 林委員長、内田委員、若林委員、深沢委員、西方委員
欠席者 長谷川委員
陪席者 足立事務長、小田事務長補佐、岸上企画係長

議事に先立ち、林委員長から、大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 長谷川委員が都合により欠席される旨の説明があった。

また、林委員長から資料1に基づき、平成26年6月18日開催の第1回神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸共同利用運営協議会議事要旨（案）を確認し、承認した。

議 事

【審議事項】

1. 平成27年度深江丸教育関係共同利用について

林委員長から、資料2～10に基づき、平成27年度深江丸教育関係共同利用の申請状況及び各大学より申請のあった深江丸教育関係共同利用について説明があり、若林委員から、資料11に基づき、各大学より申請のあった深江丸教育関係共同利用の航海について運航予定上問題ない旨の説明があった。

各大学の申請について審議した結果、共同利用を承認した。なお、シラバスが未提出の大学については、シラバスの提出を許可の条件とし、通知することとした。

また、今後、申請があった場合は、今年度同様にメールを用いて審議することを了承した。

2. 神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸共同利用実施要項の一部改正について

林委員長から、資料12に基づき説明があった。実施要領第2条の申し込み期限について、「8月末日」とあるのを、実情に合わせ、「11月末日頃」とし、かつ、弾力的な運用を行うため、「本運営協議会が定める日」に改正すること及び文言の修正について説明があり、審議の結果、改正案第2条の改正箇所の前に「原則として」の文言を入れ、原案を一部修正の上、承認した。

【報告事項】

1. 平成26年度深江丸教育関係共同利用実施状況について

林委員長から、資料13に基づき、平成26年4月～12月に実施された平成26年度深江丸教育関係共同利用の実施状況について報告があり、若林委員から、資料14～26に基づき、平成26年4月～12月に深江丸教育関係共同利用を実施した大学の利用者アンケートによる成果・課題点・改善点・希望等の概要について報告があった。

林委員長から、今回の運営協議会では、教員用アンケート及び学生用アンケートを基に、平成26年度深江丸教育関係共同利用の成果・課題点・改善点・希望等を分析して

自己点検することについて報告説明があった。

なお、資料13について、利用機関名称及び数字の誤りがあったことから、現時点において未実施分を含めた平成26年度深江丸教育関係共同利用実施状況（確定版）を整理し、各委員に送付することとなった。

2. ボンド浚渫工事について

委員長から、本年2月～6月にかけて、本研究科所有のボンド浚渫工事を実施することに伴い、一文字堤防南側水域に練習船深江丸の係留場所が変更なる予定であり、深江丸教育関係共同利用に係る乗下船に影響があることについて報告説明があった。

3. その他

今回は平成28年度公募要領を審議するため、本年6月とし、各委員へ前々に日程調整することとなった。

以 上

平成26年9月17日

神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会委員各位

神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会委員長
林 祐 司

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸
共同利用運営協議会（持ち回り審議）の審議結果
について（通知）

平成26年9月8日付けで承認の可否についてお伺いしました審議事項について、本会
メールによる持ち回り審議の結果、下記のとおり承認されましたのでお知らせいたします。

記

【審議事項】

（1）平成26年度深江丸教育関係共同利用について

（申請書内容）

所属機関 神戸大学自然科学系先端融合研究環内海城環境教育研究センター

職 名 教授

氏 名 兵頭 政幸

利用目的 全国公開臨海実習Cを実施するため

共同利用期間 平成26年9月22日 ～ 平成26年9月22日 （0泊 1日）

審議結果：全会一致にて承認

承認日：平成26年9月12日 （メールによる持ち回り審議）

平成26年10月29日

神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会委員各位

神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会委員長
林 祐 司

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸
共同利用運営協議会（持ち回り審議）の審議結果
について（通知）

平成26年10月16日付けで承認の可否についてお伺いしました審議事項について、
本会メールによる持ち回り審議の結果、下記のとおり承認されましたのでお知らせいた
します。

記

【審議事項】

（1）平成26年度深江丸教育関係共同利用について

①(申請書内容:神戸女学院大学・平成26年11月10日 ～ 平成26年11月10日 (0泊 1日))

審議結果：承認

承認日：平成26年10月24日

②(申請書内容:神戸女学院大学・平成26年11月17日 ～ 平成26年11月17日 (0泊 1日))

審議結果：承認

承認日：平成26年10月24日

③(申請書内容:関西大学・平成26年11月20日 ～ 平成26年11月20日 (0泊 1日))

審議結果：承認

承認日：平成26年10月24日

④(申請書内容:関西大学・平成26年12月1日 ～ 平成26年12月1日 (0泊 1日))

審議結果：承認

承認日：平成26年10月24日

平成27年3月6日

神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会委員各位

神戸大学大学院海事科学研究科
附属練習船深江丸共同利用運営協議会委員長
林 祐 司

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸
共同利用運営協議会（持ち回り審議）の審議結果
について（通知）

平成27年3月3日付けで承認の可否についてお伺いしました審議事項について、本会
メールによる持ち回り審議の結果、下記のとおり承認されましたのでお知らせいたします。

記

【審議事項】

（1）平成26年度深江丸教育関係共同利用について

（申請書内容）

所属機関 明石工業高等専門学校

職 名 教授

氏 名 神田 佳一

利用目的 航海実習

共同利用期間 平成27年3月9日 ～ 平成27年3月9日 （0泊 1日）

審議結果：承認

承認日：平成27年3月6日 （メールによる持ち回り審議）

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船等使用内規

（趣旨）

第1条 この内規は、神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船、実習船及びその他の舟艇（以下「練習船等」という。）並びに停泊中の練習船等及び係船池（以下「施設等」という。）を使用する場合に必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 練習船等及び施設等は、教育、学術研究及び海事に関する教育・学術研究・社会貢献等の普及活動を図るために使用することを目的とする。

（管理責任者）

第3条 管理責任者は、神戸大学大学院海事科学研究科長（以下「研究科長」という。）とする。

（使用者の範囲）

第4条 練習船等を使用できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本学教職員
- (2) 本学学生
- (3) その他研究科長が適当と認めた者

（使用の申請）

第5条 練習船等及び施設等を使用しようとするときは、運航等の調整のために担当部署と事前の協議を行い、次の各号に定める区分により、原則として10日前までに使用申請書又は使用願を管理責任者に提出しなければならない。

- (1) 神戸大学大学院海事科学研究科（以下「研究科」という。）及び神戸大学海事科学部（以下「学部」という。）の事業以外として練習船等を使用するとき 練習船等使用申請書（学外用）（別紙様式1）
- (2) 研究科及び学部の事業として練習船等を使用するとき 練習船等使用願（学内用）（別紙様式2）
- (3) 施設等を使用するとき 施設等使用願（別紙様式3）

（使用の許可）

第6条 管理責任者は、使用申請書又は使用願を受理したときは、神戸大学大学院海事科学研究科海技教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の意見を聴いた上で、差し支えないと認めたときは許可書（別紙様式4、5）を交付する。

- 2 使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）が、使用の内容を変更するときは、管理責任者に直ちにその旨を申し出て、承認を受けなければならない。
- 3 前項の申出及び承認については、第1項を準用する。

（使用料）

第7条 使用者は、別表に定める使用料を財務担当役の発する請求書により指定期日までに納入しなければならない。

- 2 使用者は、前項に定める使用料のほか、次の各号に定める場合は、当該各号に定める経費を

負担しなければならない。

- (1) 宿泊を伴う場合 食事代, リネン代, その他の諸経費
- (2) 寄港地で係留する場合 岸壁使用料, 係留作業料等
- (3) 上記以外で実費負担が必要な場合 実費

3 第1項の使用料は、いかなる場合でも返還しない。ただし、天災・天候等により実施できないと管理責任者が判断した場合は、返還するものとする。

4 前3項のほか、使用料の取扱いに関し必要な事項は別に定める。

(使用者の義務)

第8条 使用者は、この内規を遵守するほか、練習船等及び施設等の利用に際しては、管理責任者の指示に従わなければならない。

(損害賠償)

第9条 使用者は、故意又は重大な過失により施設、設備及び備品を滅失又は毀損したときは、その損害を弁償しなければならない。

(事務)

第10条 練習船等及び施設等の使用に関する事務は、事務部において行う。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、練習船等及び施設等の使用に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て研究科長が定める。

附 則

この内規は、平成16年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

平成 年 月 日

国立大学法人神戸大学 大学院海事科学研究科長 殿

申請者 住所
代表者氏名
担当者氏名
連絡先

附属練習船等使用申請書

下記のとおり練習船等を使用したく、関係資料を添付して申請します。

記

1 使用する練習船等

（1）練習船等の種類（いずれかを○で囲むこと）

練習船：深江丸

実習船：むこ丸 白鷗

その他の舟艇：クライナーベルク

カッター（艇）

（2）乗船者 人

氏名・所属等（多数の場合は別に乗船者リストを提出してください）

2 使用理由

3 使用計画（船内等にて実施するプログラム又は利用概要を提出してください）

4 使用期間

5 その他参考となるべき事項

【確認】乗船中、自己の責に帰する事故や損害については、神戸大学に一切の責任を問いません。

平成 年 月 日 氏名

印

平成 年 月 日

国立大学法人神戸大学 大学院海事科学研究科長 殿

申請者 所属部局等
職 名 等
氏 名
連 絡 先

附属練習船等使用願

下記のとおり練習船等を使用したく、関係資料を添付して願い出ます。

記

1 使用する練習船等

（1）練習船等の種類 （いずれかを○で囲むこと）

練習船： 深江丸

実習船： むこ丸 白鷗

その他の舟艇： クライナーベルク
カッター（艇）

（2）乗船者 _____人

氏名・所属等 （多数の場合は別に乗船者リストを提出してください）

2 使用理由

3 使用計画（船内等にて実施するプログラム又は利用概要を提出してください）

4 使用期間

5 その他参考となるべき事項

【確認】乗船中、自己の責に帰する事故や損害については、神戸大学に一切の責任を問いません。

平成 年 月 日 氏名

印

平成 年 月 日

国立大学法人神戸大学 大学院海事科学研究科長 殿

申請者 所属部局等
職 名 等
氏 名
連 絡 先

施設等使用願

下記のとおり施設等を使用したく、関係書類を添付して願ひ出ます。

記

1 使用する施設等

（1）停泊中の練習船等の種類（いずれかを○で囲むこと）

練習船： 深江丸

実習船： むこ丸 白鷗

その他の舟艇： クライナーベルク
カッター（艇）

係船池（必要に応じて図等を提出してください）

（2）使用者 _____人

氏名・所属等（多数の場合は別に使用者リストを提出してください）

2 使用理由

3 使用計画（施設等にて実施するプログラム又は利用概要を提出してください）

4 使用期間

5 その他参考となるべき事項

（緊急時連絡先・その他）

平成 年 月 日

附属練習船等使用許可書

使用者住所

氏 名 殿

許可者 国立大学法人神戸大学
部局財産管理担当役
大学院海事科学研究科長 ㊞

平成 年 月 日付をもって申請に係る神戸大学管理の施設を使用することについては、下記の条件を付して許可する。

記

1. 使用船舶名称

2. 使用期間

平成 年 月 日（ ）～平成 年 月 日（ ）

3. 使用目的

4. 使用料

金 円（消費税等含む）

5. その他の経費

金 円（消費税等含む）

但し、本使用料及びその他の経費については最低基準額であり、運航形態により追加費用を負担すること。

なお、上記に定める使用料及びその他の経費を財務担当役の発する請求書により、指定期日までに納入しなければならない。

また、使用料及びその他の経費は、いかなる場合でも返還しない。ただし、天災・天候等により実施できないと管理責任者が判断した場合は、使用料は返還するものとする。

※本学の用務（教育・研究）等で運航する練習船等への同乗において、当該運航が取り止めとなった場合は同乗を取り消すものとする。

6. 遵守事項

イ 使用を許可された施設を管理する部局の指示に従うこと。

ロ 施設又は物品を滅失し、若しくは損傷したときは、速やかに弁償又は修復すること。

ハ 光熱水料その他施設の使用に付帯する必要な経費を負担しなければならない。

平成 年 月 日

施設等使用許可書

使用者住所

氏 名 殿

許可者 国立大学法人神戸大学

部局財産管理担当役

大学院海事科学研究科長 ㊞

平成 年 月 日付をもって申請に係る神戸大学管理の施設を使用することについては、下記の条件を付して許可する。

記

1. 使用施設名称

2. 使用期間

平成 年 月 日（ ）～平成 年 月 日（ ）

3. 使用目的

4. 使用料

金 円（消費税等含む）

5. その他の経費

金 円（消費税等含む）

但し、本使用料及びその他の経費については最低基準額であり、利用形態により追加費用を負担すること。

なお、上記に定める使用料及びその他の経費を財務担当役の発する請求書により、指定期日までに納入しなければならない。

また、使用料及びその他の経費は、いかなる場合でも返還しない。ただし、天災・天候等により実施できないと管理責任者が判断した場合は、使用料は返還するものとする。

6. 遵守事項

イ 使用を許可された施設を管理する部局の指示に従うこと。

ロ 施設又は物品を滅失し、若しくは損傷したときは、速やかに弁償又は修復すること。

ハ 光熱水料その他施設の使用に付帯する必要な経費を負担しなければならない。

別表

1 練習船（深江丸）

区 分	基 本 額	備 考
半 日 利 用 （ 4 時 間 程 度 ）	1 5 0 , 0 0 0 円	・午前，午後通しの場合は，1 日利用とする。 ・運航補助学生の雇用を必要とする場合にあっては，1 人1 日につき 3,800 円（半日利用（4 時間程度））又は 7,600 円（日帰り1 日利用（8 時間程度））を基本額に加算する。 ・司厨員を必要とする場合にあっては，1 人1 日につき 17,000 円を基本額に加算する。 ・使用日前に運航を伴わず宿泊する場合にあっては，1 泊につき 80,000 円 を基本額に加算する。
日 帰 り 1 日 利 用 （ 8 時 間 程 度 ）	3 0 0 , 0 0 0 円	
宿 泊 を 伴 う 利 用 （ 1 泊 2 日 ）	6 0 0 , 0 0 0 円	
1 泊 増 す ご と に 追 加	3 0 0 , 0 0 0 円	

※注1 宿泊を伴う場合は，上記以外に食事代，リネン代，その他諸経費を別途徴収する。

また，運航形態によっては，別途追加費用の負担を必要とする場合がある。

※注2 学外の港湾において着岸に必要な費用（岸壁使用料，係留作業料等）が発生する場合には，実費を徴収する。

※注3 他の目的の航海に本学の教職員学生以外が同乗する場合は，1 日当たり 6,000 円/人を徴収する。

なお，予定していた運航が取り止めとなった場合は同乗を取り消すものとする。

※注4 停泊中の練習船を用いて，宿泊のみを行う場合は，別表に準じて徴収することができる。

2 実習船（むこ丸，白鷗）

区 分	基本額	備 考
半 日 利 用 （ 4 時 間 程 度 ）	2 5 , 0 0 0 円	午前，午後通しの場合は，1 日利用
1 日 利 用 （ 8 時 間 程 度 ）	4 0 , 0 0 0 円	

3 その他の舟艇

（1）クライナーベルク

区 分	基本額	備 考
半 日 利 用 （ 4 時 間 程 度 ）	2 0 , 0 0 0 円	午前，午後通しの場合は，1 日利用
1 日 利 用 （ 8 時 間 程 度 ）	3 0 , 0 0 0 円	

（2）カッター（1 艇あたり）

区 分	基本額	備 考
半 日 利 用 （ 4 時 間 程 度 ）	5 , 0 0 0 円	
1 日 利 用 （ 8 時 間 程 度 ）	1 0 , 0 0 0 円	